

目次

川崎市立川崎病院基本理念	1	皮膚科	53
病院長あいさつ	2	泌尿器科	54
位置及び案内	3	産科・婦人科	54
		眼科	55
		耳鼻咽喉科	56
		歯科口腔外科	57
		放射線診断科・放射線治療科	58
		麻酔科及びMEセンター	68
		病理診断科	71
		救命救急センター	72
		ロボット手術センター	73
		病態栄養治療部	74
		健康診査室	74
I 概要			
1 病院概要	6		
2 施設基準一覧	7		
3 沿革	12		
4 機構	20		
5 人事の変遷	21		
6 診療科名簿	24		
7 病院案内図	30		
8 定例院内会議	32		
II 診療科概要		III 部門概要	
1 内科	36	1 看護部	77
2 小児科	41	2 医療安全管理室	81
3 新生児内科	42	3 感染対策室	83
4 精神科	43	4 臨床研究支援室	87
5 外科	44	5 薬剤部	88
6 乳腺外科	44	6 検査科	96
7 血管外科	45	7 食養科	104
8 内視鏡センター	46	8 患者総合サポートセンター	107
9 呼吸器外科	47	9 認知症疾患医療センター	116
10 心臓血管外科	48	10 医療情報システム管理室	117
11 脳神経外科	48		
12 整形外科	49		
13 リハビリテーション科	51		
14 形成外科	53		

IV チーム医療概要

- 1 緩和ケアチーム …………… 121
- 2 褥瘡対策チーム …………… 123
- 3 認知症ケアチーム …………… 125
- 4 栄養サポートチーム/摂食嚥下支援チーム… 127
- 5 排尿ケアチーム …………… 129

V 事務部門概要

- 1 医事課 …………… 133
- 2 診療統計 …………… 134
- 3 手術統計 …………… 141
- 4 分娩統計 …………… 153
- 5 クリニカルパス使用件数 …… 154
- 6 外来治療センター利用状況 … 154
- 7 主要医療機器・備品 …………… 155
- 8 主な委託業務 …………… 173
- 9 図書室 …………… 174

VI 経理概要

- 1 年度別経営収支状況 …………… 179
- 2 収入・支出状況 …………… 180
- 3 年度別一般会計繰入金及び出資金 …… 182
- 4 比較貸借対照表 …………… 182
- 5 主な経営分析 …………… 184

VII 研究・研修及び実習・講師派遣

- 1 診療関係研究 …………… 188
- 2 研究交流会 …………… 190
- 3 看護研究発表会 …………… 195
- 4 研 修 …………… 199
- 5 各科別実習状況報告 …………… 202
- 6 講師派遣 …………… 204

VIII 臨床研修概要

- 1 経 緯 …………… 207
- 2 初期臨床研修医プログラム …… 212

IX 業績目録

- 科別業績統計 …………… 218
- 1 当院における学位取得者 …… 220
- 2 賞 …………… 220
- 3 研究助成及び共同研究 …… 220
- 4 書 籍 …………… 220
- 5 書籍の章 …………… 220
- 6 論 文 …………… 222
- 7 学会・研究会 …………… 228
- 8 講演会等 …………… 237
- 9 市民対象イベント(当院開催)・242
- 10 その他 …………… 242

川崎市立川崎病院基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- 1 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- 3 救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- 4 地域の医療機関との連携を大切にします。
- 5 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- 6 安全管理の向上に努めます。
- 7 健全な経営基盤の確立に努めます。
- 8 職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- 1 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- 2 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- 3 ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 4 ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 5 ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 6 診療上の個人情報 は 厳重に保護され、その秘密は守られます。

病院長のあいさつ



川崎市立川崎病院
第18代 病院長
野崎 博之

令和3年度版の川崎市立川崎病院年報を刊行するにあたり、関係職員に感謝と祝意をお示ししたいと存じます。令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、パンデミックとして日本が翻弄された1年となりました。当院も金井病院事業管理者の指導のもと、本感染症への対応にあたった1年となりました。病院職員一丸となり救急医療などの日々の診療を止めることなく病院機能を可能な限り維持し、この感染症診療と両立をはかれたことも誇らしいことと感じております。

過去の年報を振り返りますと、諸先輩方が川崎病院発展のために残された数多くの足跡が、当院の歴史とともに記録されております。ドイツ国の初代宰相オットー・フォン・ビスマルク (Otto Eduard Leopold von Bismarck-Schönhausen) は「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」 (Nur ein Idiot glaubt, aus den eigenen Erfahrungen zu lernen. Ich ziehe es vor, aus den Erfahrungen anderer zu lernen, um von vorneherein eigene Fehler zu vermeiden.) と述べております。先人たちは多くの失敗と成功を繰り返し、その経験の中から歴史という形で我々後世の者に貴重な経験談を残してくれております。過去の事実を掘り起こし、過去を読み取り、歴史を学ぶことによって、今後の社会を生きぬく「智慧」を見つけることが重要です。そのために真実がゆがまないように、本年報ではできる限り事実を幅広く記載し、後日の評価のための資料としての意味のあるものにしたいと考えております。

この年報は、職員一人一人が頑張った1年の集大成です。過去の歴史に学び、更に質の高い医療の提供を目指すとともに、より地域に密着した病院運営に努めたいものです。引き続き、川崎病院へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

位置及び案内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ7分の距離にあります。

川崎市は、令和4年4月現在で人口が153万人を超え、全国的に人口減少が続く中、特に若い世代に選ばれる都市として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、市の基幹病院として、高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。



【交通機関】

JR川崎駅東口下車

バス

直通ワンコインバス (市バス・臨港バス)

②番のりば 川崎病院行き

市バス

⑪番のりば 市営埠頭行き

⑮番のりば 扇町行き

⑭番のりば 水江町行き

⑯番のりば 浮島バスターミナル行き

臨港バス

⑤番のりば 鋼管循環

⑦番のりば 大師行き

⑧番のりば 三井埠頭行き

①番のりば 水江町・日立造船行き

②番のりば 塩浜営業所行き

教育文化会館前下車
(徒歩5分)

さつき橋下車
(徒歩3分)



I 概要



川崎市立川崎病院全景

1 病院概要

(令和4年3月31日 現在)

開設年月日	昭和2年4月30日																																													
病院長名	野崎 博之																																													
所在地	神奈川県川崎市川崎区新川通12-1																																													
電話番号・FAX番号	TEL 044-233-5521 FAX 044-245-9600																																													
診療科 (43科)	<table border="0"> <tr> <td>内科</td> <td>呼吸器内科</td> <td>循環器内科</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>血液内科</td> <td>腫瘍内科</td> </tr> <tr> <td>糖尿病内科</td> <td>内分泌内科</td> <td>腎臓内科</td> </tr> <tr> <td>神経内科</td> <td>感染症内科</td> <td>新生児内科</td> </tr> <tr> <td>ペインクリニック内科</td> <td>肝臓内科</td> <td>緩和ケア内科</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>呼吸器外科</td> <td>心臓血管外科</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>乳腺外科</td> <td>小児外科</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>脳神経外科</td> <td>形成外科</td> </tr> <tr> <td>血管外科</td> <td>精神科</td> <td>アレルギー科</td> </tr> <tr> <td>リウマチ科</td> <td>小児科</td> <td>皮膚科</td> </tr> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>産科</td> <td>婦人科</td> </tr> <tr> <td>眼科</td> <td>耳鼻咽喉科</td> <td>リハビリテーション科</td> </tr> <tr> <td>放射線診断科</td> <td>放射線治療科</td> <td>病理診断科</td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>麻酔科</td> <td>歯科</td> </tr> <tr> <td>歯科口腔外科</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科	血液内科	腫瘍内科	糖尿病内科	内分泌内科	腎臓内科	神経内科	感染症内科	新生児内科	ペインクリニック内科	肝臓内科	緩和ケア内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科	消化器外科	乳腺外科	小児外科	整形外科	脳神経外科	形成外科	血管外科	精神科	アレルギー科	リウマチ科	小児科	皮膚科	泌尿器科	産科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科	救急科	麻酔科	歯科	歯科口腔外科		
内科	呼吸器内科	循環器内科																																												
消化器内科	血液内科	腫瘍内科																																												
糖尿病内科	内分泌内科	腎臓内科																																												
神経内科	感染症内科	新生児内科																																												
ペインクリニック内科	肝臓内科	緩和ケア内科																																												
外科	呼吸器外科	心臓血管外科																																												
消化器外科	乳腺外科	小児外科																																												
整形外科	脳神経外科	形成外科																																												
血管外科	精神科	アレルギー科																																												
リウマチ科	小児科	皮膚科																																												
泌尿器科	産科	婦人科																																												
眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科																																												
放射線診断科	放射線治療科	病理診断科																																												
救急科	麻酔科	歯科																																												
歯科口腔外科																																														
病床数	一般 663床 精神 38床 感染 12床																																													
面積	敷地面積 19,813.32㎡ 建物面積 6,325.94㎡ 延床面積 49,890.18㎡																																													
医療機関コード番号	医科 5000054 歯科 5060058																																													
病院指定等	地域医療支援病院 神奈川県がん診療連携指定病院 神奈川県難病医療支援病院 災害拠点病院 三次救急医療機関 神奈川DMAT指定病院 第二種感染症指定医療機関 エイズ治療拠点病院 地域周産期母子医療センター 認知症疾患医療センター																																													
主な医療設備	PETCT リニアック SPECT CT MRI X線テレビ装置 血管造影撮影装置 マンモグラフィー ダヴィンチ																																													

2 施設基準一覧
施設基準一覧 (基本)

(令和4年3月31日 現在)

届出項目	受理番号	認定日
1 地域歯科診療支援病院歯科初診料	(病初診) 第50号	平成30年10月 1日
2 歯科外来診療環境体制加算2	(外来環2) 第314号	平成30年 6月 1日
3 歯科診療特別対応連携加算	(歯特連) 第28号	平成22年 4月 1日
4 一般病棟入院基本料(急性期一般1)	(一般入院) 第1478号	令和 3年 3月 1日
5 精神病棟入院基本料(10対1)	(精神入院) 第2170号	平成26年 1月 1日
6 総合入院体制加算2	(総合2) 第19号	令和 2年 6月 1日
7 救急医療管理加算	(救急医療) 第135号	令和 2年 4月 1日
8 超急性期脳卒中加算	(超急性期) 第31号	平成20年 4月 1日
9 診療録管理体制加算	(診療録2) 第87号	平成16年 4月 1日
10 医師事務作業補助体制加算1(25対1)	(事補1) 第109号	令和 3年 7月 1日
11 急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算	(急性看補) 第75号	令和 2年 8月 1日
12 看護職員夜間配置加算	(看夜配) 第81号	平成29年 4月 1日
13 療養環境加算	(療) 第32号	平成30年 8月 1日
14 重症者等療養環境特別加算	(重) 第119号	平成27年 3月 1日
15 緩和ケア診療加算	(緩診) 第59号	令和 3年 1月 1日
16 精神病棟入院時医学管理加算	(精入学) 第4号	平成13年 8月 1日
17 精神科身体合併症管理加算	(精合併加算) 第60号	平成26年 6月 1日
18 栄養サポートチーム加算	(栄養チ) 第31号	平成23年 3月 1日
19 医療安全対策加算	(医療安全1) 第43号	平成30年12月 1日
20 感染防止対策加算1 感染防止対策地域連携加算 抗菌薬適正使用支援加算	(感染防止1) 第9号	平成30年 5月 1日
21 患者サポート体制充実加算	(患サポ) 第28号	平成24年 4月 1日
22 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア) 第73号	令和 2年 4月 1日
23 ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠) 第53号	平成21年 4月 1日
24 ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩) 第31号	平成21年 4月 1日
25 精神科救急搬送患者地域連携受入加算	(精救急受入) 第6号	平成24年 4月 1日
26 呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ) 第37号	平成30年 6月 1日
27 後発医薬品使用体制加算	(後発使1) 第114号	平成30年 9月 1日
28 データ提出加算	(データ提) 第17号	平成24年10月 1日
29 入退院支援加算	(入退支) 第76号	令和 2年 4月 1日
30 認知症ケア加算	(認ケア) 第181号	平成30年 9月 1日
31 せん妄ハイリスク患者ケア加算	(せん妄ケア) 第2号	令和 2年 4月 1日
32 精神疾患診療体制加算	(精疾診) 第43号	令和元年10月 1日
33 排尿自立支援加算	(排自支) 第25号	令和 2年 7月 1日
34 地域医療体制確保加算	(地医確保) 第1号	令和 2年 4月 1日
35 地域歯科診療支援病院入院加算	(地歯入院) 第3号	平成20年 4月 1日
36 救命救急入院料1	(救1) 第9号	平成31年 4月 1日
37 救命救急入院料4	(救4) 第8号	平成31年 4月 1日
38 特定集中治療室管理料3	(集3) 第30号	平成30年10月 1日
39 新生児特定集中治療室管理料1	(新1) 第40号	令和 2年 5月 1日
40 新生児治療回復室入院医療管理料	(新回復) 第11号	平成26年 3月 1日
41 小児入院医療管理料2	(小入2) 第13号	平成26年 3月 1日

施設基準一覧(特掲)

(令和4年3月31日 現在)

届出項目	受理番号	認定日
1 ウイルス疾患指導料	(ウ指) 第13号	令和 2年10月 1日
2 糖尿病合併症管理料	(糖管) 第51号	平成20年 4月 1日
3 がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼) 第42号	平成22年 4月 1日
4 がん患者指導管理料(イ)	(がん指イ) 第112号	令和元年12月 1日
5 がん患者指導管理料(ロ)	(がん指ロ) 第93号	令和元年12月 1日
6 がん患者指導管理料(ニ)	(がん指ニ) 第35号	令和 2年 7月 1日
7 糖尿病透析予防指導管理料	(糖防管) 第17号	平成24年 4月 1日
8 小児運動器疾患指導管理料	(小運指管) 第40号	令和 2年 4月 1日
9 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア) 第34号	平成30年 4月 1日
10 婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管) 第205号	令和 2年10月 1日
11 地域連携小児夜間・休日診療料 2	(小夜2) 第10号	平成25年 3月 1日
12 院内トリアージ実施料	(トリ) 第6号	平成24年 4月 1日
13 外来放射線照射診療料	(放射診) 第35号	平成28年 5月 1日
14 開放型病院共同指導料	(開) 第58号	平成28年 4月 1日
15 がん治療連携計画策定料	(がん計) 第26号	平成30年 2月 1日
16 排尿自立指導料	(外排自) 第25号	令和 2年 7月 1日
17 ハイリスク妊産婦連携指導料 1	(ハイ妊連1) 第29号	平成30年10月 1日
18 ハイリスク妊産婦連携指導料 2	(ハイ妊連2) 第22号	平成30年10月 1日
19 肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎) 第126号	平成27年 3月 1日
20 薬剤管理指導料	(薬) 第244号	平成22年 4月 1日
21 医療機器安全管理料 1	(機安1) 第91号	平成20年 4月 1日
22 精神科退院時共同指導料 1・2	(精退共) 第28号	令和 2年 7月 1日
23 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	(在電場) 第2号	平成30年 4月 1日
24 持続血糖測定器加算	(持血測1) 第38号	平成28年12月 1日
25 骨髄微小残存病変量測定	(骨残測) 第17号	令和 3年 2月 1日
26 B R C A 1 / 2 遺伝子検査	(B R C A) 第47号	令和 2年 7月 1日
27 H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	(H P V) 第107号	平成26年 4月 1日
28 検体検査管理加算 (I)	(検I) 第195号	平成20年 7月 1日
29 検体検査管理加算 (II)	(検II) 第112号	平成23年 2月 1日
30 時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト	(歩行) 第101号	平成31年 2月 1日
31 長期継続頭蓋内脳波検査	(長) 第21号	平成27年 3月 1日
32 脳波検査判断料 1	(脳判) 第15号	令和元年10月 1日
33 神経学的検査	(神経) 第82号	平成20年 4月 1日
34 ロービジョン検査判断料	(ロー検) 第52号	平成30年 9月 1日
35 小児食物アレルギー負荷検査	(小検) 第124号	平成31年 4月 1日
36 画像診断管理加算 1	(画1) 第8号	平成14年 4月 1日
37 ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コン ピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁 気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用 ポジトロン断層撮影	(ポ断コ複) 第37号	平成30年 4月 1日
38 C T 撮影及びM R I 撮影	(C・M) 第513号	平成24年 4月 1日
39 冠動脈C T 撮影加算	(冠動C) 第26号	平成20年 9月 1日
40 心臓M R I 撮影加算	(心臓M) 第40号	平成20年 9月 1日
41 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方) 第88号	令和 3年 9月 1日
42 外来化学療法加算 1	(外化1) 第154号	平成29年 8月 1日
43 外来化学療法加算 2	(外化2) 第14号	平成22年 9月 1日
44 無菌製剤処理料	(菌) 第45号	平成20年 4月 1日
45 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	(心I) 第64号	平成29年 4月 1日
46 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	(脳I) 第217号	令和 2年 4月 1日
47 運動器リハビリテーション料 (I)	(運I) 第61号	平成24年 4月 1日
48 呼吸器リハビリテーション料 (I)	(呼I) 第82号	平成24年 4月 1日
49 摂食機能療法 (摂食嚥下支援加算)	(摂嚥支) 第4号	令和 2年 8月 1日
50 がん患者リハビリテーション料	(がんリハ) 第49号	平成26年11月 1日

51 歯科口腔リハビリテーション料 2	(歯リハ2) 第129号	平成26年 4月 1日
52 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性 統合失調症治療指導管理料に限る。)	(抗治療) 第23号	令和元年10月 1日
53 医療保護入院等診療料	(医療保護) 第49号	平成16年10月 1日
54 硬膜外自家血注入	(血入) 第4号	平成28年 4月 1日
55 エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの)	(エタ甲) 第74号	平成27年 3月 1日
56 エタノールの局所注入 (副甲状腺に対するもの)	(エタ副甲) 第41号	令和元年12月 1日
57 人工腎臓	(人工腎臓) 第297号	令和 3年 8月 1日
58 導入期加算	(導入1) 第212号	令和 2年12月 1日
59 手術用顕微鏡加算	(手顕微加) 第80号	平成28年 4月 1日
60 う蝕歯無痛の窩洞形成加算	(う蝕無痛) 第117号	平成26年 4月 1日
61 C A D / C A M 冠	(歯C A D) 第2512号	平成28年 4月 1日
62 センチネルリンパ節加算	(セ節) 第19号	令和 3年 6月 1日
63 手術時歯根面レーザー応用加算	(手術歯根) 第60号	平成26年 4月 1日
64 骨移植術 (軟骨移植術を含む。) (自家培養軟骨移植術に限る。)	(自家) 第7号	平成27年 4月 1日
65 椎間板内酵素注入療法	(椎酵注) 第1号	令和 2年 4月 1日
66 脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含 む。) 及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植 込術及び脊髄刺激装置交換術	(脳刺) 第45号 (脊刺) 第61号	平成27年 3月 1日
67 上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。) (歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成 術 (骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に 係るものに限る。)	(歯顎移) 第8号	平成24年 4月 1日
68 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネ ルリンパ節生検 (併用)	(乳セ1) 第53号	平成25年 5月 1日
69 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネ ルリンパ節生検 (単独)	(乳セ2) 第53号	平成25年 5月 1日
70 食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるも の)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、 胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖 術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術 (内視 鏡によるもの)、腎 (腎盂) 腸瘻閉鎖術 (内視 鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術 (内視鏡によ るもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるも の) 及び膈腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)	(穿瘻閉) 第34号	令和元年12月 1日
71 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)	(経特) 第62号	令和 2年 4月 1日
72 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ) 第70号	平成10年 4月 1日
73 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)	(ペリ) 第26号	平成30年10月 1日
74 大動脈バルーンパンピング法 (I A B P 法)	(大) 第38号	平成10年 4月 1日
75 腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (内視鏡処置を併施するもの)	(腹十二局) 第15号	令和 3年 4月 1日
76 バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	(バ経静脈) 第20号	平成30年12月 1日
77 胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切 除 (葉以上) を伴うものに限る。)	(胆腫) 第21号	平成29年 4月 1日
78 体外衝撃波胆石破砕術	(胆) 第16号	平成11年 3月 1日
79 腹腔鏡下肝切除術	(腹肝) 第22号	平成29年 4月 1日
80 体外衝撃波膵石破砕術	(膵石破) 第7号	平成26年 4月 1日
81 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫 瘍切除術	(腹膵切) 第35号	平成29年 3月 1日
82 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸) 第29号	平成24年 5月 1日
83 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	(腎) 第31号	平成10年12月 1日
84 腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎形支) 第10号	令和 3年10月 1日
85 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎支器) 第12号	令和元年 9月 1日

86	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	(腹膀) 第18号	平成29年 8月 1日
87	人工尿道括約筋植込・置換術	(人工尿) 第11号	平成29年 9月 1日
88	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	(腹前) 第7号	平成26年 4月 1日
89	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹前支器) 第15号	平成28年 7月 1日
90	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)	(腹子) 第2号	平成26年 4月 1日
91	輸血管管理料 I	(輸血 I) 第68号	令和 2年 4月 1日
92	輸血適正使用加算	(輸適) 第148号	令和 2年 4月 1日
93	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前) 第10号	平成24年 4月 1日
94	歯周組織再生誘導手術	(GTR) 第215号	平成20年 4月 1日
95	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	(人工歯根) 第7号	平成24年 4月 1日
96	歯根端切除手術の注 3	(根切頭微) 第64号	平成28年 4月 1日
97	麻酔管理料 (I)	(麻管 I) 第2号	平成 8年 4月 1日
98	麻酔管理料 (II)	(麻管 II) 第9号	平成22年 4月 1日
99	歯科麻酔管理料	(歯麻管) 第6号	令和 2年 7月 1日
100	放射線治療専任加算	(放専) 第10号	平成12年 4月 1日
101	外来放射線治療加算	(外放) 第26号	平成20年 7月 1日
102	高エネルギー放射線治療	(高放) 第109号	平成18年 4月 1日
103	1回線量増加加算	(増線) 第27号	平成28年 2月 1日
104	強度変調放射線治療 (IMRT)	(強度) 第2号	平成22年 5月 1日
105	画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	(画誘) 第6号	平成30年10月 1日
106	体外照射呼吸性移動対策加算	(体外策) 第37号	令和 3年10月 1日
107	定位放射線治療	(直放) 第14号	平成21年 6月 1日
108	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	(定対策) 第35号	令和 3年10月 1日
109	病理診断管理加算 2	(病理診 2) 第24号	平成29年 3月 1日
110	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組) 第44号	平成30年 9月 1日
111	クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管) 第2937号	平成 8年 4月 1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる施設基準に係る届出
(対象期間 令和3年1月から令和3年12月まで)

区分		手術名	件数
【区分Ⅰ】	1	頭蓋内腫瘤摘出術等	54件
	2	黄斑下手術等	92件
	3	鼓膜形成手術等	2件
	4	肺悪性腫瘍手術等	101件
	5	経皮的カテーテル心筋焼灼術	43件
【区分Ⅱ】	1	靭帯断裂形成手術等	41件
	2	水頭症手術等	39件
	3	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0件
	4	尿道形成手術等	10件
	5	肝切除術等	54件
	6	子宮付属器悪性腫瘍手術等	20件
【区分Ⅲ】	1	上顎骨形成術等	4件
	2	上顎骨悪政腫瘍手術等	9件
		バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0件
		母指化手術等	0件
		内反足手術等	0件
		食道切除再建術等	2件
	3	同種死体腎移植術等	0件
【区分Ⅳ】	1		754件
【その他】	1	人工関節置換術	132件
	2	ペースメーカー移植術及び交換術	37件
	3	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)及び体外循環を要する手術	12件
	4	経皮的冠動脈形成術	76件
		・急性心筋梗塞に対するもの	2件
		・不安定狭心症に対するもの	8件
		・その他のもの	66件
	5	経皮的冠動脈ステント留置術	100件
		・急性心筋梗塞に対するもの	15件
		・不安定狭心症に対するもの	20件
・その他のもの		65件	

3 沿革

大正13年 7月 1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和 2年 4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年 3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年 6月 1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年 4月 1日	理学診療科の設置
昭和24年 1月 1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年 7月 1日	小児科の設置
昭和26年11月 1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年 3月 1日	伝染病棟改築落成（昭和48年 5月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年 3月 1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年 5月 1日	整形外科の設置
昭和32年 8月 1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月 1日	厨房及び寄宿舍（第4号館）落成
昭和33年 4月 1日	神経科の設置
昭和33年10月 1日	基準看護（1類）の取得
昭和34年 6月 1日	本館の完成
昭和37年 5月 1日	厚生年金病棟（3号館）の完成
昭和39年 3月 1日	看護婦宿舎が完成
昭和39年 4月 1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年 8月15日	救急病院に指定
昭和42年 4月 1日	研修医制度（3年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下1階地上6階建及び旧2号館）が完成
昭和42年12月 2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年 2月 8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年 7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年 3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年 5月15日	児童福祉施設第1種助産施設として認可
昭和45年 1月 1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年 6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年 4月 1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月 1日	特殊医療部及び教育指導部の設置
昭和47年 2月 1日	基準看護（特類）の実施

昭和48年 4月 1日	経理課の設置
昭和49年 4月 1日	食養科の設置
昭和49年10月 1日	基準看護（特2類）の実施
昭和50年10月14日	東病棟（旧1号館）の完成
昭和51年 4月 1日	精神科の設置 永年カルテ制度（1患者1病歴制度）の採用
昭和51年 5月 1日	血液センターの設置
昭和51年 6月 1日	中央採血室の設置 施設の名称を本館（旧本館）、1号館（旧東病棟）、2号館（旧北病棟）、3号館（旧厚生年金病棟）及び4号館（旧教育指導棟）に変更
昭和52年 4月 1日	臨床研修医制度（2年制）の発足 医事課に入院用コンピュータの導入
昭和52年 5月 1日	1号館5階感染症病棟の開設
昭和52年10月 5日	I C U開設準備室の開設
昭和52年10月31日	腎センターの開設
昭和53年 4月 1日	病院事業部の設置に伴い経理課を廃止 看護師を初めて採用 病院群輪番制運営事業参加
昭和53年 6月28日	1号館3階総合病棟の開設
昭和53年 9月11日	I C U準備室をI C U病棟として開設
昭和53年11月 1日	医事課に外来用コンピュータの導入
昭和54年 3月31日	日本病理学会の認定病院
昭和54年 5月 2日	本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更 3号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転
昭和54年 5月15日	1号館4階総合病棟の開設
昭和54年10月 2日	日本外科学会の認定医修練施設
昭和55年 1月 1日	日本麻酔学会の認定指導病院
昭和55年 4月 1日	看護科病棟部門の週44時間体制
昭和56年 6月 1日	病床数を733床（一般683、伝染50）に変更
昭和58年 4月11日	日本整形外科学会の認定医制度研修施設
昭和58年10月 1日	日本眼科学会の専門医研修施設
昭和59年 4月 1日	食養科調理部門の週48時間体制
昭和60年 1月 1日	日本消化器外科学会の専門医修練施設
昭和60年 1月 1日	副院長2人制の導入
昭和60年 1月19日	日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設
昭和61年 4月 1日	日本泌尿器科学会の専門医教育施設
昭和62年 4月 1日	日本皮膚科学会の認定医研修施設
昭和63年 3月29日	外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院
昭和63年 4月 1日	日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設
昭和63年 6月 1日	基準看護（特3類）を小児科病棟で取得

昭和63年 9月 1日	基準看護（特3類）を産科及び分娩病棟で取得	平成10年 4月 1日	食養科（特食以外）業務の委託
平成元年 4月 1日	看護部制の実施 臨床クラーク業務の委託		中央器材室滅菌消毒業務の委託 補修室縫製等業務の委託
平成 2年12月 1日	基準看護（特3類）を取得 本館総合病棟、1号館4階小児病棟、1号館4階未熟室、1号館4階総合病棟、2号館4階外科病棟、2号館5階病棟及び3号館婦人科病棟で取得	平成10年 7月15日	日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設
平成 3年 4月 1日	在宅ねたきり患者処置指導管理の取得 看護の日・看護週間の制定	平成10年10月21日	新病院病棟・中央診療棟完成
平成 3年 5月 1日	在宅酸素療法指導管理の取得	平成10年11月 1日	物流管理（SPD）・滅菌消毒・ME（医療器械中央管理）業務の委託 管理系施設管理業務の委託 ハウスキーパー業務の委託
平成 4年10月 1日	電動ギャッチベッド100台導入。その後順次導入	平成10年11月10日	検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託
平成 5年 3月21日	完全週休2日制に伴い第2土曜日及び第4土曜日外来診療全科の休診	平成10年11月24日	病棟・中央診療棟竣工式 病棟・中央診療棟開設 新棟にて病棟及び一部外来の運用開始 病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更 医療情報システム（HUMAN）稼動 9階北病棟に精神科病棟（20床、新看護3対1（A）・6対1看護補助）の開設
平成 5年 4月 1日	理学診療科を放射線科に変更	平成10年12月25日	インターネット上に川崎病院ホームページ開設 （ http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html ）
平成 6年 3月27日	完全週休2日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診	平成11年 1月 1日	N I C U（新生児特定集中治療室）開設（平成13年1月辞退）
平成 6年 4月 1日	心臓血管外科の設置	平成11年 2月 1日	川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置
平成 6年10月 1日	新看護2対1（A）看護の取得（全病棟） 医事業務の全面委託	平成11年 4月 1日	副院長2人制に変更 標榜科目から神経科を削除 電話交換業務の委託
平成 6年11月 1日	夜間勤務看護（加算）の取得	平成11年 5月 1日	リハビリテーション科で作業療法を開始
平成 7年 3月 1日	新設された看護短大へ看護専門学校を移転	平成11年 6月 1日	9階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更
平成 7年 4月 1日	在宅医療部の設置 管理当直業務の委託	平成11年 7月 1日	リハビリテーション科で言語療法を開始
平成 7年 6月 1日	適時適温給食の開始	平成11年10月26日	薬剤科で無菌製剤処理の実施
平成 7年 7月 1日	看護専門学校及び看護宿舎の解体開始	平成11年12月 1日	日本消化器内視鏡学会の認定指導施設
平成 7年 7月19日	新病院建設着工	平成11年12月21日	遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表
平成 7年10月11日	自走式二階建駐車場の設置（収容62台）	平成12年 3月30日	川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式
平成 7年12月14日	新病院建設起工式	平成12年 3月31日	井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる
平成 8年 4月 1日	事務室から事務局に改変 助産師職認定	平成12年 4月 1日	病院移転担当（庶務課主幹）の廃止 看護助手業務の委託 9階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定病院（4床設置）
平成 9年 1月10日	新病院立柱式	平成12年 4月24日	外来診療部門の全面オープン
平成 9年 3月 1日	リハビリテーション科の設置	平成12年 5月 1日	8階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更
平成 9年 3月31日	看護専門学校の閉校	平成12年 5月 7日	14階南（内科）病棟のオープン
平成 9年 4月 1日	リウマチ科及び歯科口腔外科の設置 副院長3人制に変更 移転準備担当の設置 衛生局から健康福祉局へ機構改革	平成12年 6月 1日	神奈川県精神救急医療事業の基幹病院
平成 9年12月18日	新病院の上棟式		
平成10年 3月20日	神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定		
平成10年 4月 1日	呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置 在宅医療部から地域医療部へ名称変更 特殊医療部が発展的解消		

平成13年 1月21日	脳死判定による臓器摘出手術の実施	集中治療部新設	
平成13年 3月30日	外構工事完了	診療部長制度新設	
平成13年 3月30日	川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式	平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる救急患者搬送等訓練
平成13年 4月 1日	新病院完成	平成19年 2月 5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成13年 4月 1日	有料駐車場（駐車台数202台）のオープン	平成19年 4月 1日	副院長4人制に変更
平成13年 4月 2日	川崎駅－川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始		消化器外科新設
平成14年 3月 1日	産婦人科で体外受精による治療の開始		脳血管外科新設
平成14年 4月 1日	川崎病院組織改革 内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設 地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管 地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管		血管外科新設
平成14年 4月 9日	精神科救急24時間体制の開始		救急科新設
平成14年 4月15日	川崎病院内に小児急病センターの開設	平成19年11月 1日	アドボカシー相談員配置
平成14年12月 1日	院内駐車場保守業務の委託	平成20年 4月 1日	CRC事務室設置
平成15年 4月 1日	川崎病院の機構改革 院外処方の開始 食養科調理業務の全面委託 看護助手業務の全面委託 ナースキャップの廃止		院内感染対策担当新設
平成15年 4月 6日	薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更		肝臓内科新設
平成15年 7月 1日	「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定		冠疾患集中治療室新設
平成15年 8月 1日	受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙		婦人内視鏡科新設
平成15年10月20日	川崎病院通信「くすの木」創刊号発行	平成20年 6月 2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成15年12月 2日	重症急性呼吸器症候群（SARS）搬送訓練	平成20年10月 1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成16年 2月17日	医療安全管理室の設置	平成21年 1月 1日	新総合医療情報システム（HOPE/EGMAIN-GX）稼働
平成16年 4月 1日	副院長3人制に変更	平成21年 4月 1日	新生児集中治療管理室（NICU）再開
平成16年 9月 1日	1階外来飲食コーナーの設置	平成21年 4月 1日	新生児科新設
平成16年10月17日	病院機能評価受審 ～19日	平成21年 7月 1日	DPC導入
平成17年 3月23日	外来治療センターの開設	平成21年 7月 7日	川崎DMAT（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成17年 4月 1日	病院局の設置 地方公営企業法の全部適用	平成21年11月12日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催 ～19日 学会長 市立川崎病院長 長 秀男
平成17年 7月 1日	救急センターの開設	平成22年 4月 1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成17年10月 3日	当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出	平成22年 4月 1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成17年11月26日	川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施	平成22年 4月 1日	臨床研究支援室の設置
平成18年 1月23日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定	平成22年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成18年 4月 1日	川崎病院組織改革 救命救急センターの開設	平成23年 3月23日	神奈川DMAT指定病院として指定
平成18年 4月 1日	放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更 薬剤科から薬剤部へ組織変更	平成24年 4月 1日	事務局担当部長配置
		平成24年 4月 1日	医療相談室が地域医療部へ移管
		平成24年 5月 1日	糖尿病内科新設
			内分泌内科新設
			腎臓内科新設
			小児外科新設
			乳腺外科新設
		平成24年 5月 1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
		平成24年 8月 7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更

平成24年10月20日	川崎市立3病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練	令和2年2月25日	川病キャッチコピー「チームでつなぐ地域の未来」決定
平成24年11月1日	7:1看護配置の取得	令和2年2月	ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染患者対応及び市中感染患者対応
平成24年11月26日	ER初療ベッドを10床に増設	令和2年4月	新型コロナ対策として面会制限及び電話再診を開始
平成24年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける(H24.12.1~H30.11.30)	令和2年4月	つつじ外来(発熱者専用外来)の設置
平成25年3月1日	助産外来開設	令和2年5月	LAMP法(遺伝子検査)の導入
平成25年4月1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設	令和2年5月	神奈川モデルにおける高度医療機関及び重点医療機関の認定
平成26年4月1日	血液内科新設	令和2年7月	総合入院体制加算2の取得
平成27年4月1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正	令和2年8月	くすのきボックス(検体採取専用スペース)の設置
平成27年9月11日	神奈川DMAT(川崎病院隊)茨城県常総市へ派遣	令和2年9月	大都市感染症指定医療機関会議を開催
平成27年12月15日	病院機能評価受診	令和2年12月14日	病院機能評価受審
~16日		~15日	
平成28年1月1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎病院基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定	令和3年2月	エネルギー棟建設工事着手
平成28年1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定	令和3年4月	無菌治療室(5床)の開設
平成28年2月3日	救命救急センター10周年記念講演会開催	令和3年4月	もの忘れ外来の開始
平成28年3月30日	地域医療支援病院の名称承認	令和3年6月	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定(3rdG:Ver.2.0)
平成28年4月18日	神奈川DMAT(川崎病院隊)熊本県阿蘇市へ派遣	令和3年7月	ロボット手術センターの開設
平成28年7月	ダ・ヴィンチ(da Vinci)の本格稼働	令和3年8月	認知症疾患医療センター(地域型)を開設
平成28年8月	緩和ケア内科外来の設置 がん相談支援センターの開設	令和3年11月	全国公立病院連盟総会・事務長会・看護部長会合同会議を開催
平成29年3月23日	神奈川県がん診療連携指定病院の指定	令和4年3月	川崎市応急入院指定病院に指定
平成29年4月1日	高度脳神経治療センターの設置	令和4年3月	ひまわりビレッジの設置(つつじ外来の拡充・移設)
平成30年3月	川崎病院医療機能再編整備基本計画の策定		
平成30年4月1日	患者総合サポートセンターの設置 PET-CTの本格稼働		
平成30年9月6日	神奈川DMAT隊員北海道胆振東部地震対応のため派遣		
平成30年10月30日	卒後臨床研修評価機構による認定更新		
平成31年4月1日	神奈川県難病医療支援病院の指定		
平成31年4月	2階喫茶店跡地に休憩室(飲食コーナー)を設置		
平成31年4月	駐車場の民営化・駐輪場再整備		
令和元年6月	川崎市包括外部監査受審		
令和元年8月	院内投書掲示板の設置		
令和2年2月1日	災害医療企画室の設置		

13代	松岡康夫	平成9年4月1日	～	平成15年3月31日
14代	武内可尚	平成11年4月1日	～	平成12年3月31日
15代	納賀克彦	平成12年4月1日	～	平成17年3月31日
16代	堀内行雄	平成15年4月1日	～	平成21年3月31日
17代	篠原弘子	平成16年4月1日	～	平成20年3月31日
18代	関賢一	平成17年4月1日	～	平成21年3月31日
19代	長秀男	平成19年4月1日	～	平成20年3月31日
20代	成松芳明	平成20年4月1日	～	平成28年3月31日
21代	齊田和子	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日
22代	久場川哲二	平成21年4月1日	～	平成22年3月31日
23代	竹中信夫	平成21年4月1日	～	平成30年3月31日
24代	増田純一(兼)	平成22年4月1日	～	平成25年3月31日
25代	番場正博	平成25年4月1日	～	平成27年3月31日
26代	綱嶋たかえ	平成25年4月1日	～	平成30年3月31日
27代	宮川俊一	平成27年4月1日	～	令和2年3月31日
28代	大曾根康夫	平成28年4月1日	～	令和3年3月31日
29代	小柳貴裕	平成30年4月1日	～	令和2年3月31日
30代	千島美奈子	平成30年4月1日	～	現在に至る。
31代	野崎博之	令和2年4月1日	～	令和3年8月31日
32代	上田誠司	令和2年4月1日	～	現在に至る。
33代	澤藤誠	令和3年4月1日	～	現在に至る。
事務長	初代 海野才知	昭和20年6月1日	～	昭和21年8月23日
	2代 白倉謙一	昭和21年8月24日	～	昭和27年7月24日
	3代 宇田川政之	昭和27年7月25日	～	昭和29年8月27日
	4代 石井一郎	昭和29年8月28日	～	昭和30年7月31日
	5代 石井英夫	昭和30年8月1日	～	昭和37年4月30日
	6代 竹山忠雄	昭和37年5月1日	～	昭和40年3月31日
	7代 森己之松	昭和40年4月1日	～	昭和42年10月31日
	8代 塚原重年	昭和42年11月1日	～	昭和44年3月31日
	9代 小熊栄次	昭和44年4月1日	～	昭和47年10月4日
	10代 遠藤文郎	昭和47年10月5日	～	昭和47年12月13日
	11代 田代穆彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年4月30日
	12代 重岡賢治	昭和54年5月1日	～	昭和57年1月31日
	13代 上野松治	昭和57年2月1日	～	昭和62年3月31日
	14代 岡庭英昭	昭和62年5月1日	～	平成元年3月31日
	15代 白鳥房夫	平成元年4月1日	～	平成3年3月31日
	16代 藤井健司	平成3年4月1日	～	平成5年3月31日
	17代 鈴木嗣明	平成5年4月1日	～	平成6年3月31日
	18代 斎藤至旦(経営担当理事)	平成6年4月1日	～	平成8年3月31日

事務局長	19代 蟹江徹也(経営担当理事)	平成8年4月1日	～	平成10年3月31日
	20代 菊池敏彦(経営担当理事)	平成10年4月1日	～	平成11年3月31日
	21代 山本栄一(経営担当理事)	平成11年4月1日	～	平成13年3月31日
	22代 石井洋二郎(経営担当理事)	平成13年4月1日	～	平成14年3月31日
	23代 佐藤猛(経営担当理事)	平成14年4月1日	～	平成15年3月31日
	24代 添田真郷	平成15年4月1日	～	平成17年3月31日
	25代 鈴木康夫	平成17年4月1日	～	平成20年3月31日
	26代 佐々木元行	平成20年4月1日	～	平成21年3月31日
	27代 高井敏雄	平成21年4月1日	～	平成26年3月31日
	28代 柄崎智	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
	29代 田邊雅史	平成28年4月1日	～	平成29年3月31日
	30代 林徳厚	平成29年4月1日	～	令和3年3月31日
	31代 岡正	令和3年4月1日	～	現在に至る。
総婦長	初代 植田まき子	昭和20年6月1日	～	昭和39年9月30日
	2代 船場宮子	昭和39年10月1日	～	昭和53年6月30日
	3代 久保田好實	昭和53年7月1日	～	昭和58年9月30日
	4代 加治木ユリ	昭和58年10月1日	～	昭和61年3月31日
	5代 高木昌子	昭和61年4月1日	～	昭和62年4月30日
看護部長	6代 久保田好實	昭和62年5月1日	～	平成2年3月31日
	7代 庄崎雅子	平成2年4月1日	～	平成7年3月31日
	8代 高木サカエ	平成7年4月1日	～	平成10年3月31日
	9代 強矢智恵子	平成10年4月1日	～	平成13年3月31日
	10代 釣巻慈子	平成13年4月1日	～	平成15年3月31日
	11代 篠原弘子(兼)	平成15年4月1日	～	平成20年3月31日
	12代 齊田和子(兼)	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日
	13代 綱嶋たかえ(兼)	平成25年4月1日	～	平成30年3月31日
	14代 千島美奈子(兼)	平成30年4月1日	～	現在に至る。
救命センター長	初代 石井誠一郎	平成17年7月1日	～	平成18年3月31日
救命救急センター所長	初代 石井誠一郎	平成18年4月1日	～	平成21年3月31日
	2代 堀内行雄(兼)	平成21年4月1日	～	平成22年3月31日
	3代 竹中信夫(兼)	平成22年4月1日	～	平成27年3月31日
	4代 田熊清継	平成27年4月1日	～	現在に至る。
高度脳神経治療センター所長	初代 今西智之	平成29年4月1日	～	現在に至る。
患者総合サポートセンター所長	初代 大曾根康夫(兼)	平成30年4月1日	～	令和3年3月31日
	2代 澤藤誠(兼)	令和3年4月1日	～	現在に至る。

6 診療科名簿

(令和4年3月31日 現在)

病院長 野崎 博之
副院長 上田 誠司
副院長 澤藤 誠
副院長兼看護部長
千島 美奈子

【内科】

部長 安藤 孝
医長 井上 健太郎
医長 北菌 久雄
副医長 布施 彰久
副医長 花田 亮太

【総合内科】

部長 高木 英恵
医長 深江 智明
副医長 相馬 裕樹
上園 志穂
安部 恭嗣
石野 すみれ
伊藤 守
永江 真也
遠藤 洵之介
下手 公介
原田 修平
船曳 隼大
小野里 隆太
川井 雅敏
塩澤 優花
寺山 千夏
林 浩一
林 泰儀

【腫瘍内科】

部長(兼) 定平 健

【呼吸器内科】

部長 佐山 宏一
医長 大森 奈緒
医長 大塚 健悟
医長 扇野 圭子
副医長 杉原 快

【循環器内科】

部長 末吉 浩一郎
担当部長 李 慧崇
担当部長 伯野 大彦

【冠動脈集中治療室】

室長 西澤 健也
担当部長 滝口 俊一

【消化器内科】

部長 玉井 博修
担当部長 有泉 健
副医長 山根 剛
副医長 鈴木 健

【血液内科】

部長 定平 健
副医長 岡山 幹夫

【糖尿病内科】

部長(兼) 野崎 博之
副医長 大嶋 洋佑
副医長 渡辺 雄祐

【内分泌内科】

部長(兼) 野崎 博之

【腎臓内科】

部長(兼) 安藤 孝

【血液透析室】

室長 有馬 功一郎

【神経内科】

部長(兼) 野崎 博之

【感染症内科】

部長 坂本 光男
医長 細田 智弘

【リウマチ膠原病・痛風センター】

所長 田口 博章
副医長 梶尾 暢彦

【ペインクリニック内科】

部長(兼) 森田 慶久

【肝臓内科】

部長(兼) 玉井 博修

【緩和ケア内科】

部長(兼) 安藤 孝
(兼) 三島 牧

【アレルギー科】

部長 吉川 賢忠

【外科】

部長 市東 昌也
医長 三原 規奨

医長 小倉 正治
医長 中村 哲也
医長 近藤 崇之
副医長 雨宮 隆介
木戸 美織
横塚 慧
鳴瀬 祥
海ヶ倉 紀文

【呼吸器外科】

部長(兼) 澤藤 誠
担当部長 岩丸 有史
担当部長 井澤 菜緒子
医長 奥井 将之

【心臓血管外科】

部長 井上 慎也
(兼) 森 厚夫
中間 麻矢子

【消化器外科】

部長(兼) 市東 昌也

【乳腺外科】

部長 萬谷 京子

【小児外科】

部長(兼) 市東 昌也

【血管外科】

部長 和多田 晋
副医長 細川 恭佑

【整形外科】

部長 中道 憲明
担当部長 小宮 浩一郎

担当部長 山口 健治
部長(兼) 西脇 正夫
医長 西村 空也
副医長 寺坂 幸倫
副医長 谷 英明
副医長 美馬 雄一郎
医員 石倉 佳代子
田邊 優
歌島 敦
福島 啓太

【形成外科】

部長 西脇 正夫
副医長 北畑 怜奈
片山 陸

【脳神経外科】

部長 片山 真
担当部長 三島 牧
副医長 蔵成 勇紀

【高度脳神経治療センター】

所長 今西 智之
担当部長 小野塚 聡

【内視鏡センター】

所長 相浦 浩一

【精神科】

部長 齋藤 寿昭
副医長 三浦 孝政
副医長 久保 馨彦
副医長 倉持 信
格谷 雅徳
米澤 賢吾

【小児科】

部長 土橋 隆俊
担当部長 有安 大典
担当部長 檜林 敦
医長 柴田 浩憲
医長 松尾 基視
医長 外山 陽子
医長 吉田 祐
副医長 案納 あつこ
副医長 山田 剛
小林 寛太郎
古山 和佳奈
嶋 晃歩
諸川 明洋
梅垣 侑佳

【新生児内科】

部長 森 和広
担当部長 古川 律子
医長 坂井 みのり
副医長 宮武 瑛里
副医長 長田 朝美

【皮膚科】

医長 西本 周平
副医長 小林 研太
宮川 明大
新川 紗由香

【泌尿器科】

部長 原 智
医長 福本 桂資郎
副医長 勝井 政博
副医長 茂田 啓介
北岡 壮太郎
竹内 玲衣

渡邊 佳太郎

【産科・婦人科】

部長 中田 さくら
専任部長 林 保良
担当部長 染谷 健一
担当部長 金 善恵
医長 大谷 利光
副医長 石垣 順子
副医長 大橋 千恵
副医長 大石 真希
秋田 啓介
渦川 真優子

【眼科】

副医長 園部 秀樹
副医長 小澤 紘子
安里 輝
宮下 翔平

【耳鼻咽喉科】

部長 重富 征爾
医長 猪狩 雄一
副医長 中山 梨絵
笠原 健
高原 美希

【リハビリテーション科】

部長 阿部 玲音
医員 梶本 かさね
宮澤 森太郎

【放射線診断科】

部長 倉田 忠宜
担当部長 長谷川 市郎
担当部長 緒方 雄史
小川 遼

山本 洋輔

【放射線治療科】

部長 栗林 徹
医長 元村 祐介

【麻酔科・集中治療部】

部長 森田 慶久
担当部長 逢坂 佳宗
医長 梶谷 美砂
医長 菅 規久子
医長 細井 卓司
医長 奥田 淳
副医長 出野 智史
副医長 北嶋 宏輝
藤田 夏樹
鶴澤 侑子
大倉 早紀子
伊藤 孝哉
岡部 久美子

【病理診断科】

部長 杉浦 仁
担当部長 折笠 英紀
堀井 千裕

【検査科】

部長 津村 和大

【歯科口腔外科】

部長 鬼澤 勝弘
担当部長 安居 孝純
長嶺 宏樹

【救命救急センター・救急科】

所長 田熊 清継
医長 齋藤 豊

退職者及び院外異動者

*印は院外異動者

医 長 進藤 健
 医 長 金尾 邦生
 医 長 石田 正高
 副医長 三吉 貴大
 副医長 白川 和宏
 副医長 土屋 光正
 副医長 金子 翔太郎
 副医長 鳥海 聡
 藤田 野々香
 島谷 直孝
 堀越 雄一郎
 曾 充人
 天笠 愛子
 杉 真恵

医 師

田中 希宇人 平成25年4月1日 ～ 令和3年5月31日
 佐藤 宏朗 平成18年9月1日 ～ 令和3年6月30日
 小林 研太 令和2年4月1日 ～ 令和3年6月30日
 藤岡 俊平 平成30年10月1日 ～ 令和3年6月30日
 鈴木 毅 平成26年4月1日 ～ 令和3年7月31日
 長谷川 哲雄 令和2年5月1日 ～ 令和3年9月30日
 北岡 壮太郎 令和2年10月1日 ～ 令和3年9月30日
 田村 亮太 令和2年10月1日 ～ 令和3年9月30日
 高橋 賢至 平成24年8月1日 ～ 令和3年10月31日
 井上 慎也 平成31年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 今西 智之 平成2年5月1日 ～ 令和4年3月31日
 逢坂 佳宗 平成27年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 坂井 みのり 平成27年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 北畑 伶奈 平成31年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 久保 馨彦 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 渡邊 佳太郎 令和3年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 笠原 健 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 梶本 かさね 令和1年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 北嶋 宏輝 令和3年1月1日 ～ 令和4年3月31日

伊藤 孝哉 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 大倉 早紀子 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 長嶺 宏樹 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 島谷 直孝 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 曾 充人 令和3年9月1日 ～ 令和4年3月31日

臨床研修医

浅田 健吾 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 内川 理紗 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 笠原 美沙 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 嶋貫 佳奈子 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 鈴木 麻耶 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 田中 祥子 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 垂石 七星 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 出澤 舞乙 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 原田 優香 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 古川 貴子 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 酒井 美晴 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 祖田 真奈 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 中嶋 慧悟 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 本宮 寛人 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日

会計年度任用職員医師・歯科医師

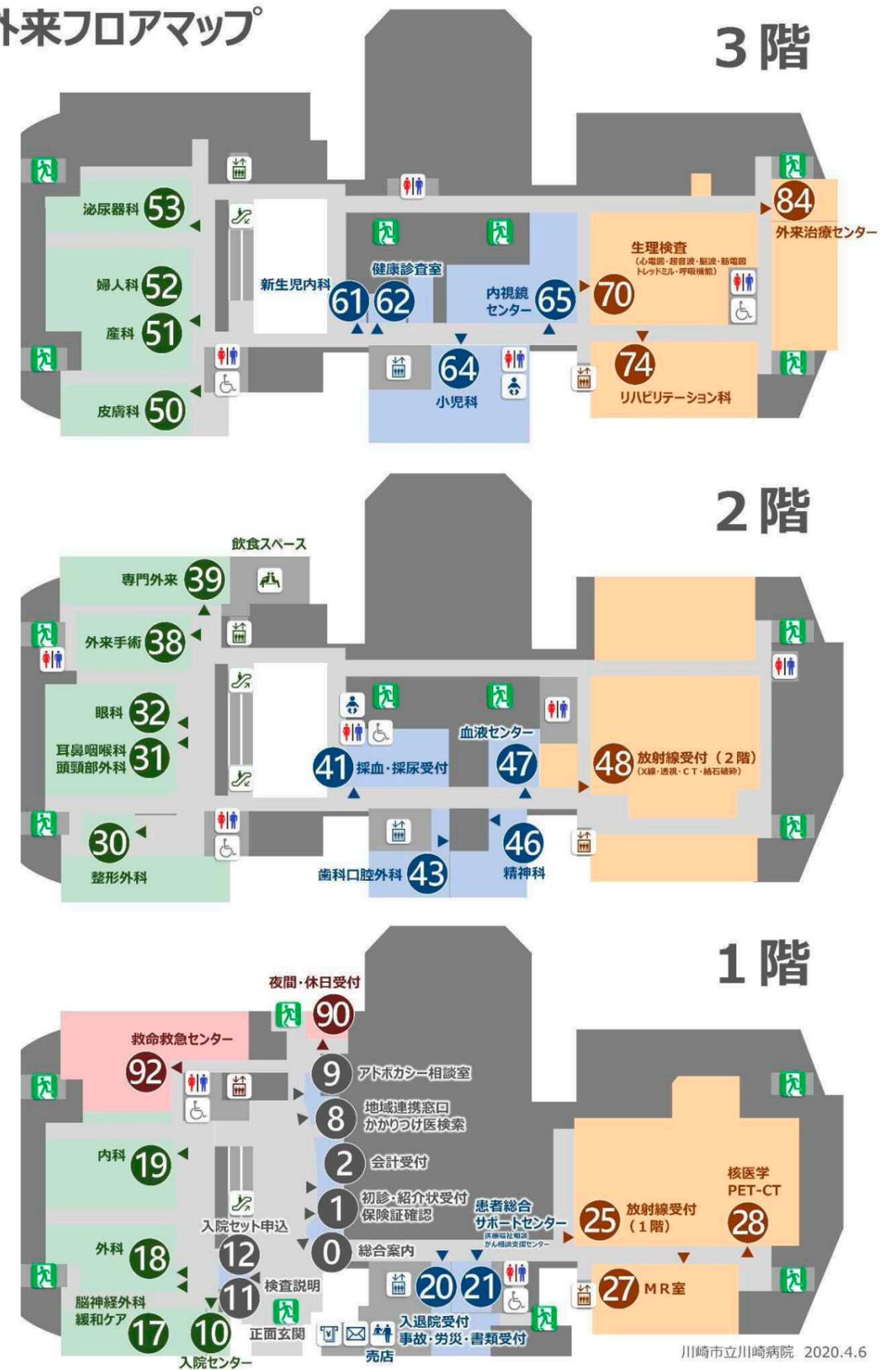
原田 修平 令和2年4月1日 ～ 令和3年6月30日
 福島 啓太 令和2年10月1日 ～ 令和3年9月30日
 平野 翔大 令和3年4月1日 ～ 令和3年9月30日
 安達 薫 令和2年4月1日 ～ 令和3年9月30日
 酒井 志穂 平成31年1月1日 ～ 令和4年3月31日
 石野 すみれ 令和3年1月1日 ～ 令和4年3月31日
 伊藤 守 平成31年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 遠藤 洵之介 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 下手 公介 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 永江 真也 令和2年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 小野里 隆太 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 川井 雅敏 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 塩澤 優花 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 寺山 千夏 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 林 康儀 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 横塚 慧 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 鳴瀬 祥 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 海ヶ倉 紀文 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 美馬 佳代子 令和2年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 田邊 優 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 片山 陸 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 米澤 賢吾 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 小林 寛太郎 令和2年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 佐藤 和佳奈 令和2年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 嶋 晃歩 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 諸川 明洋 令和2年7月1日 ～ 令和4年3月31日
 大崎 侑佳 令和2年10月1日 ～ 令和4年3月31日
 秋田 啓介 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 渦川 真優子 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
 宮澤 森太郎 令和3年4月1日 ～ 令和4年3月

7 病院案内図

院内案内図



外来フロアマップ



8 定例院内会議

(1) 三役会議

病院長、事務局長、副院長④、担当部長、庶務課長、医事課長 週1回

(2) 運営会議

病院長、事務局長、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長 月2回

(3) 各種委員会

(令和4年3月1日現在)

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
1	倫理委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	(脳死判定委員会)	(片山 真)	(脳神経外科部長)	(上田副院長)
	(臨床倫理コンサルテーションチーム)	(井上 健太郎)	(内科医長)	(上田副院長)
	*医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。			必要に応じて開催
2	病院機能再編推進委員会 *病院内の各部署の再編について調査及び検討する。	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長 必要に応じて開催
3	医療安全管理委員会 (医療安全管理部会)	相浦 浩 一 (萬谷 京子)	医療安全管理室長 (乳腺外科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	*医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。			月1回
4	職員衛生委員会 *職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。	坂本 光 男	感染症内科部長	上田副院長
				月1回
5	院内感染対策委員会 (感染対策部会)	坂本 光 男 (細田 智弘)	感染症内科部長 (感染症内科医長)	上田副院長 (上田副院長)
	*院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。			月1回
6	医療ガス安全管理委員会 *高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。	佐山 宏 一	呼吸器内科部長	病 院 長
				年2回
7	放射線安全委員会 *放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。	野崎 博 之	病 院 長	病 院 長
				年1回
8	診療録管理委員会 *診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。	土橋 隆 俊	小児科部長	上田副院長
				隔月
9	給食委員会 *栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。	津村 和 大	病態栄養治療部長	澤藤副院長
				月1回
10	治験審査・臨床研究倫理審査委員会 *治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。	津村 和 大	臨床研究支援室長	澤藤副院長
				月1回
11	輸血療法委員会 *輸血関連業務等の必要事項を検討する。	定平 健	血液内科部長	上田副院長
				隔月
12	臨床検査業務検討委員会 *臨床検査の精度管理を行う。	津村 和 大	検査科部長	澤藤副院長
				必要に応じて開催
13	業務改善委員会 *職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。	千島 美奈子	副院長・看護部長	千島副院長
				年9回
14	機種選定委員会 *購入する医療用器機の仕様決定又は機種の選定を行う。	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
				必要に応じて開催
15	クリニカルパス検討委員会 *チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。	津村 和 大	検査科部長	澤藤副院長
				隔月
16	薬事委員会 *薬事全般に関する事項について審議する。	小林 加寿夫	薬剤部長	澤藤副院長
				年9回
17	保険委員会 (DPCコーディング部会)	野崎 博 之 (野崎 博之)	病 院 長 (病院長)	病 院 長 (病院長)
	*診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。			月1回
18	情報システム管理委員会 (システム運用検討部会)	澤藤 誠 (楡林 敦)	副 院 長 (小児科担当部長)	澤藤副院長 (澤藤副院長)
	*医療情報システムの管理及び運用について検討する。			必要に応じて開催
19	手術部委員会 (外来手術室部会)	上田 誠 司 (和多田 晋)	副 院 長 (血管外科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	*手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。			月1回
20	ICU・CCU運営委員会 *ICU・CCUの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。	逢坂 佳 宗	集中治療部長	上田副院長
				年2回
21	医療材料等委員会 *医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。	市東 昌 也	外科部長	病 院 長
				月1回

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
22	地域医療連携推進・強化委員会 (地域連携部会)	澤藤 誠 (中田 さくら)	副 院 長 (産科部長・婦人科部長)	澤藤副院長 (澤藤副院長)
	*病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。			年4回
23	がん診療推進委員会 (がん患者会サポート部会)	市東 昌 也 (山内 秀行)	外科部長 (患者総合サポートセンター副所長)	病 院 長 (澤藤副院長)
	*がん診療の充実と推進のための検討を行う。			年4回
24	褥瘡対策委員会 *褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。	原 智	皮膚科部長	上田副院長
				月1回
25	救急医療運営委員会 (院内救急部会)	田熊 清 継 (齋藤 豊)	救命救急センター所長 (救命救急センター室長)	田熊所長 (田熊所長)
	*救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。			月1回
26	化学療法委員会 *外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。	定平 健	血液内科部長	澤藤副院長
				月1回
27	広報委員会 (広報部会)	野崎 博 之 津村 和 大	病 院 長 検査科部長	病 院 長 病 院 長
	*広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。			年4回
28	ボランティア推進委員会 *ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。	千島 美奈子	副院長・看護部長	千島副院長
				隔月
29	精神科救急医療検討委員会 *精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。	齋藤 寿 昭	精神科部長	田熊所長
				必要に応じて開催
30	病院機能評価検討委員会 *病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
				年8回
31	医療機器安全管理委員会 *医療機器の安全使用のための情報収集、医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施、医療機器の保守点検の計画の策定。	森田 慶 久	麻酔科部長	病 院 長
				年4回
32	チーム医療推進委員会 (NST・摂食嚥下支援チーム部会)	阿部 玲 音 (阿部 玲音)	リハビリテーション科部長 (リハビリテーション科部長)	上田副院長 (上田副院長)
	(早期離床推進部会)	(阿部 玲音)	(リハビリテーション科部長)	(上田副院長)
	*チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。			必要に応じて開催
33	緩和ケア委員会 *緩和ケアについて検討する。	澤藤 誠	副 院 長	澤藤副院長
				月1回
34	外来診療委員会 *外来診療について検討する。	相浦 浩 一	内視鏡センター所長	上田副院長
				隔月
35	虐待対策委員会 *児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。	土橋 隆 俊	小児科部長	田熊所長
				必要に応じて開催
36	行動制限最小化委員会 *精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。	齋藤 寿 昭	精神科部長	澤藤副院長
				月1回
37	内視鏡委員会 *医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。	相浦 浩 一	内視鏡センター所長	病 院 長
				隔月
38	教育研究委員会 (研修管理委員会)	野崎 博 之 (小宮 浩一郎)	病 院 長 (整形内視鏡科部長)	病 院 長 (病 院 長)
	(研究部会)	(津村 和 大)	(臨床研究支援室長)	(病 院 長)
	(図書部会)	(玉井 博修)	(消化器内科部長)	(病 院 長)
	(看護教育研修委員会)	(千島 美奈子)	(副院長・看護部長)	(千島副院長)
	(内科専門研修プログラム管理委員会)	(高木 英恵)	(総合内科部長)	(上田副院長)
	(内科専攻医研修管理委員会)	(高木 英恵)	(総合内科部長)	(上田副院長)
	*研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。			年2回
39	精神科身体合併症管理委員会 *精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。	齋藤 寿 昭	精神科部長	澤藤副院長
				月1回
40	働き方改革推進委員会 (医師事務作業補助者調整委員会)	野崎 博 之 (野崎 博之)	病 院 長 (病 院 長)	病 院 長 (病 院 長)
	*医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。			年2回
41	難病医療支援病院運営委員会 *神奈川県新事業の実施に伴う院内体制の整備を行う。	澤藤 誠	副 院 長	澤藤副院長
				必要に応じて開催
42	認知症ケア委員会 *認知症ケアについて討議、検討し、認知症の症状緩和、悪化予防の推進を図る。	北 蘭 久 雄	内科医長	病 院 長
				月1回
43	医療放射線管理委員会 *放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく等、放射線診療に関する対応、業務を行う。	池本 孝 司	放射線診断科担当課長	澤藤副院長
				年1回
44	透析機器安全管理委員会 *透析機器の安全使用のための情報収集、研修計画の策定及び実施、保守点検計画の策定を行う。	安藤 孝	腎臓内科部長	病 院 長
				月1回

Ⅱ 診 療 科 概 要

1 内科

統括部長 安藤 孝

【診療科紹介】

本院の基本理念は「私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。」であり、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、病に苦しむ人に向き合い、その人そのものを診ることを目指しています。そのため臓器別の内科ではなく一内科制をひき、全身をみるようにしております。現在、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・肝臓内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、感染症内科、血液内科、緩和ケア内科、リウマチ膠原病・痛風センターの専門部門を擁しておりますが、内科統括部長のもと一内科として運用しております。

(1) 総合内科

部長 高木 英恵

【診療科紹介】

当院では、内科専攻医は総合内科に所属し、内科各専門分野のスタッフの指導のもとで入院、外来、救急外来患者さんを診療しています。「総合診療科」の名称で専攻医教育を行っていた伝統を引き継ぎ、内科総合診療医 (general physician) の育成を目指しています。また、知識や技能だけでなく、病気でなく病人をみる心を大切に、安全・安心で質の高い医療を実践し、地域社会の発展に貢献することを目標にしています。

【令和3年度の取組】

令和3年度には合計15名の内科専攻医(卒後3年目6名、4年目2名、5年目5名、6年目1名、7年目1名)が総合内科に在籍し、COVID-19を含む、多分野にわたる多くの患者さんの診療に取り組みました。また当院の内科専門研修プログラムに所属する専攻医に対し、新専門医制度に基づく研修修了認定を行いました(修了2名、暫定修了3名)。

(2) 呼吸器内科

部長 佐山 宏一

【診療科紹介】

呼吸器内科では、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの閉塞性肺疾患で難治性で専門的な検査・治療が必要な症例、肺癌などの悪性腫瘍、間質性肺炎などのびまん性肺疾患の専門診療に対応しています。

【令和3年度の取組】

地域の医療機関からご紹介して頂いた患者様を中心に、1115人の入院患者様の診療、278件の気管支鏡検査、1516件の肺癌、悪性胸膜中皮腫などの悪性腫瘍の化学療法を行いました。

(3) 循環器内科

部長 末吉 浩一郎

【診療科紹介】

循環器疾患(狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、不整脈など)の診療を担当しています。急性心筋梗塞に対する緊急PCIは24時間対応します。

【令和3年度の取組】

令和2年10月から開始した不整脈に対するカテーテルアブレーションは順調に症例を重ね、令和3年度は1年間で43件行いました。今後は検査・治療の環境を整えて症例を増やしていきたいと思っております。

(4) 消化器内科

部長 玉井 博修

【診療科紹介】

消化器・肝臓内科では消化器疾患全般に対応いたします。

当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっております。

(5) 血液内科

部長 定平 健

【診療科紹介】

入院診療では主に、急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群など造血器腫瘍に対する化学療法を行っております。診療には、日本血液学会認定血液専門医の指導のもと、内科・総合内科所属医師があたります。外来診療では主に、貧血・血小板減少・白血球減少など血液異常や出血傾向の原因精査と、造血器腫瘍に対する通院治療を行っております。慢性貧血や血小板減少に対する外来定期輸血にも対応しております。

【令和3年度の取組】

令和3年4月1日に14階南病棟に血液疾患センターを開設し、無菌室個室5床の稼働を開始しました。同日から当院は日本血液学会認定専門研修認定施設に認定されました。令和3年4月に定平健医長が部長に昇任し、岡山幹夫副医長が慶應義塾大学血液内科から赴任しました。井田病院血液内科外山高朗医長は、7月に国家公務員共済組合連合会立川病院に異動するまで当院の診療を兼務しました。令和3年度の他院から直接血液内科へ御紹介いただいた患者数は199名です。新規症例数は急性白血病21名、悪性リンパ腫84名、多発性骨髄腫17名、骨髄異形成症候群34名です。

（6）糖尿病内科・内分泌内科

部長 安藤 孝
副医長 大嶋 洋佑
副医長 渡辺 雄祐

【診療科紹介】

当院の糖尿病内科・内分泌内科では、糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームなどの代謝・栄養疾患、下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患の専門診療に対応しています。

糖尿病の診療では、各診療科にご入院となった患者さんの血糖管理に関するニーズがとても大きく、毎月100名超の新規相談を応需しています。これらに加えて、かかりつけ医様で血糖管理に難渋した症例の教育入院やインスリン導入等の相談、妊娠糖尿病の周産期管理などを多数行っています。

内分泌疾患の診療では、脳神経外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・産婦人科・放射線診断科等と協力しながら、適切な診断と治療に努めています。

【チーム医療の実践】

糖尿病診療では、医師・看護師・管理栄養士のチーム医療を実践した患者教育を重視しています。糖尿病専門医・糖尿病看護認定看護師に加え、30余名の糖尿病療養指導士が中心になり療養指導の質向上に努めています。また当院では1型糖尿病に対するインスリンポンプ治療（CSII）にも対応しています。糖尿病フットケアを目的として、かかりつけ医様との循環型の連携受診にも応じています。

【糖尿病教室】

管理栄養士による食事療法の基礎と応用の紹介、リハビリテーション科医師による運動療法の講義、看護師による糖尿病療養指導、薬剤師による糖尿病関連薬の概説など、各回テーマ・内容を変えて糖尿病教室を開催しています。

【糖尿病教育入院】

教育入院の期間や入院日については、1人ひとりの病態やご事情を勘案して、オーダーメイドで設定します。糖毒性解除と至適薬物選択、2回の個別栄養指導、服薬指導等を含めた一連の教育と治療を完遂する場合には、概ね2週間を要します。

【その他の入院対応例】

- 妊娠糖尿病の初期指導：6分食体験学習とSMBG導入を併行して行います（7日間程度）
- 下垂体機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）
- 副腎機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）

【糖尿病・内分泌疾患の救急対応】

高血糖緊急症（糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群）、下垂体卒中、甲状腺クリーゼ、粘液水腫性昏睡、副腎クリーゼ、褐色細胞腫クリーゼ、高度カルシウム代謝障害などの内分泌緊急症の治療では、救急科・救命救急センターおよび総合内科等と協力・連携しながら対応しています。

（7）腎臓内科

部長 安藤 孝

【診療科紹介】

腎臓内科では、さまざまな腎疾患の精査および膠原病や糖尿病等に起因する慢性腎臓病の治療・指導に対応しています。限られたスタッフの中で血液透析の導入治療を優先した診療体制としておりますので、血液透析の導入になる直前まではかかりつけ医のもとで定期受診処方をお受け頂き、患者さんの病状に合わせた頻度で併行して当院の腎臓内科外来を受診頂く体制となっております。

（8）神経内科

部長 野崎 博之

【診療科紹介】

2017年4月より高度脳神経治療センター開設に伴い、積極的に脳血管障害の治療に努めております。頭痛・めまい・しびれなどの神経系の症状や、パーキンソン病、重症筋無力症などの神経疾患の診療も行っております。

また内科の一部門として、各種内科疾患に伴う神経合併症を含め、総合的な診療を行っております。

【令和3年度の取組】

川崎市立病院は令和3年8月、川崎市の認定を受け、認知症患者医療センター（地域型）を開設しました。また脳神経外科と協力し、パーキンソン病のDAT（device aided therapy）の一つであるDBS（脳深部刺激療法；Deep Brain Stimulation）を令和3年6月に開始しました。今後は、新たな治療薬が開発された頭痛診療にも力を入れていきたいと考えています。

（9）感染症内科

部長 坂本 光男

【診療科紹介】

当院は感染症病床を有する第2種感染症医療機関、HIV/エイズ診療拠点病院に指定されています。ただし、結核病床は有していないので、結核診療には対応しておりません。結核および非結核性抗酸菌症につきましては、疑い例も含めて指定の医療機関にご紹介下さい。

結核を除く2類感染症、新型インフルエンザ、中東呼吸器症候群（MERS）等の新感染症、3～5類感染症を中心に診療しています。特に感染性腸炎（食中毒・旅行者下痢症を含む）、輸入感染症、HIV感染症/AIDS、性感染症、成人における小児流行性ウイルス感染症などの診療に力を入れています。ただし麻疹につきましては、厳重な空気感染予防策が必要となります。時間帯によっては対応が困難なこともあります。受診希望の際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

各種ワクチン接種（本邦未承認薬および黄熱ワクチンは除く）や海外渡航前の事前相談も可能です。診断にあたっては川崎市健康安全研究所や国立感染症研究所とも連携し、正確な病原診断を心がけております。

(10) リウマチ膠原病・痛風センター

所長 田口 博章

【診療科紹介】

当センターの診療は、初診の方は、はじめにリウマチ内科の医師が担当し、病状に応じて、整形外科、リハビリテーション科の外来担当医に診察して頂きます。内科では、最新の薬物治療を中心とした病気全体の管理を行います。整形外科では、関節リウマチによる関節機能障害に対する手術療法を行います。リハビリテーション科では、装具治療、手術療法後のリハビリテーションなどを中心に行います。

【令和3年度の取組】

関節リウマチや膠原病など、いわゆるリウマチ性疾患全般の疾患の診療に当たります。

代表的な疾患は、関節リウマチ、悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス(SLE)、混合性結合組織病(MCTD)、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、強皮症(SSc)、多発性筋炎・皮膚筋炎(PM/DM)、血管炎症候群、強直性脊椎炎、反応性関節炎、乾癬性関節炎、成人スチル病、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群、再発性多発軟骨炎、難治性痛風関節炎となります。

当センターは、内科系と整形外科系の専門医師、さらにリハビリテーション科の医師や理学療法士、日本リウマチ財団認定看護師らが互いに得意な部分を受け持ち、協力して診断、治療を総合的に行います。比較的病期の短い患者に対しては、薬物治療が主となりますが、病期が長く、関節の修復が必要な場合には手術治療も同じ施設で行います。関節リウマチの薬物治療にはメトトレキサートや生物学的製剤(バイオ抗リウマチ薬)も積極的に使用しています。それに伴う副作用を最小限に留めるよう細心の注意を払っています。膠原病や関節リウマチに併発した合併症や薬剤による副作用への対応は、入院して頂き行っています。

2 小児科

部長 土橋 隆俊

【診療科の紹介】

川崎市南部の小児科医療を担う基幹病院として、スタッフ9名、専攻医3名の計12名で診療を行っております。市中病院ではありますが、15歳未満の小児患者の専門病棟があり、外科系疾患の小児患者も入院しております。外科系各科との連携もスムーズです。病棟の診療体制はチーム制で、スタッフと専攻医が組み丁寧な診療を心がけております。そこに研修医や学生実習も組み込まれ、専攻医が学びながら教育もできるような体制を構築しております。

小児科では、感染症や痙攣性疾患を中心とした急性疾患全般と、小児内科系の各専門分野について、診療を行っております。川崎南部の『最後の砦』の基幹病院として、可能な限り近隣の先生方からのご紹介を受けられるように頑張っております。消化器外科疾患や悪性腫瘍等は、診断確定の上速やかに専門病院に紹介するようにしております。

スタッフ9名はそれぞれが専門分野を持ち診療にあたっております。循環器、内分泌代謝、感染症、呼吸器、アレルギー、腎臓とそれぞれの専門性を生かしつつ、午後の専門外来や紹介患者に対応しております。予約制で循環器・内分泌代謝・腎臓・アレルギー・神経・精神保健・血液についての専門外来を非常勤医師も含め行っています。専門医をご希望でご紹介頂く場合は、曜日の指定がございますので、患者総合サポートセンターまでお問い合わせください。

夜間休日は川崎市南部小児急病センターとして、院内外の医師で1次・2次救急に対応しています。

3 新生児内科

部長 森 和広

【診療科の紹介】

新生児内科では、以下の状況の院内出生児および他院からの搬送児の入院診療に対応しています。

- 早産・低出生体重児（在胎 26 週以降を目安に受入れています）
- 呼吸状態の不安定な児
- 仮死状態で出生した児
- 発熱を伴う児
- 嘔吐や哺乳不良、血便など、消化器症状のある児
- 先天的な特徴のある児
- 黄疸の強い児
- けいれんをきたした児
- 高次周産期施設から、逆搬送を要請された場合
- 屋外など分娩施設外で出生した直後の児

周産期救急に対応することを重視しています。搬送依頼に、24 時間体制で対応します。

こども病院・大学病院とも連携し、医療レベルの向上に努めています。当院での対応に困難が予想される一部の外科系疾患の場合、適切な医療機関への紹介・搬送転院を行います。

【令和 3 年度の取組】

- ①神奈川県周産期救急医療事業への参画による、周産期医療機関との連携の継続的取組
- ②早産児(35 週未満)に適応のある、予防接種への対応
- ③周産期に関連したこころのケアのための、相談室を含めた継続的取組

4 精神科

部長 齋藤 寿昭

【診療科紹介】

川崎市基幹病院かつ総合病院有床精神科であり、県・市の精神科救急体制の一環として、また精神疾患を有する患者の身体合併症の治療も担うべきと考えております。さらに一般的な薬物療法での効果が認められない患者さんにつき、麻酔科などと連携し、修正型通電療法(m-ECT)を施行しております。また治療抵抗性統合失調症に対して適応を吟味したうえ、適正使用委員会に登録を有するクロザピンの使用を入院および外来でおこなっております。

【令和 3 年度の取組】

令和 3 年度の当科入院件数は 194 人（前年 219 人）平均在院日数は 28.5 日（前年 30.1 日）でした。地域連携による入院患者の増加、診療の効率化による在院日数の短縮に努めています。外来新患数は 368 人（前年 307 人）再来数は 14,442 人（前年 14,310 人）と縮小傾向にはあります。

当科は 4 区市協調精神科救急の基幹病院として 2 次、3 次精神科救急を担っています。令和 3 年度 4 区市精神科救急患者は 24 件で前年 28 件に比し減じていますが、この数値は当番日の精神科救急症例の有無のみでなく、救急受け入れ病床確保のための後方移送の進捗度にも関係しています。そのためコロナ禍ではありますが、市健康福祉局、県との協議を続けています。また単科精神病院からの通電療法の依頼も続いており、令和 3 年度の通電施行回数は 296 回で前年の 254 回を上まっています。

その他の身体合併症、治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピン使用などでの単科精神病院からの転院、また精神症状の急性増悪などによる入院は令和 3 年度 76 人（前年 67 人）でした。今後も患者サポートセンター、精神保健福祉士との迅速な協力体制を進め病病連携、病診連携をすすめて参ります。

5 外科

部長 市東 昌也

【診療科紹介】

(1) 食道・胃外科

上部消化管グループは担当医師2名体制で胃・食道領域疾患の診療を行っております。週1回の内科との合同カンファレンスで患者情報を共有し、検査および治療を可及的速やかに行います。症例によって所属医局である慶應義塾大学外科学（一般・消化器）の上部消化管班スタッフとの連携のもと、最適な低侵襲治療を提供できるシステムを取り入れております。当科の特徴は患者さんに優しい治療を提供することにあり、病気に対する治療の根治性と患者さんに対する低侵襲性をより高いレベルで提供出来るように日々追求しています。

(2) 大腸・肛門外科

大腸癌に対する治療は、大腸肛門外科グループが内視鏡診断・内視鏡治療から手術までを担当しております。

「根治性を損なわず、より低侵襲な治療」を選択し、患者さんの体への負担が少しでも少なく済むよう、心がけております。ご紹介いただいた患者さん、先生方にご納得いただけるような治療を目指し全力を注いで治療に取り組んでおります。

(3) 肝胆膵外科

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設として肝胆膵領域の専門診療に対応しています。より専門性の高い高度な医療を重視する診療体制です。当科では日本肝胆膵外科学会名誉指導医・高度技能指導医・専門医が4人常勤し、肝胆膵医療チームを結成し低侵襲手術から拡大手術まで柔軟かつ有機的に治療に専念致します。

6 乳腺外科

部長 萬谷 京子

【診療科の紹介】

乳腺外科では、乳腺専門医を責任者として、乳房や腋窩に発生する疾患の診療を行っております。診断のため、マンモグラフィ検査、乳房超音波検査、乳房造影MRI検査、超音波ガイド下針生検・吸引式乳腺組織生検などの検査を可及的速やかに行います。検査結果に応じて、標準的と考えられる治療方針をご提案し、患者さんのご希望を尊重しながら、患者さんおひとりおひとりに一番適切な治療を行うことを目指しています。当科では、乳腺・腋窩の悪性病変（乳癌、悪性葉状腫瘍、他臓器癌の転移など）・良性病変（線維腺腫、乳管内乳頭腫、良性葉状腫瘍、乳腺症、急性乳腺炎、乳輪下膿瘍、Mondor病など）の専門診療に対応しています。小児の乳癌の患者さんの検査・治療の経験もありますので、乳腺腫瘍が疑われる小児の方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけたらと思います。

7 血管外科

部長 和多田 晋

【診療科紹介】

●「末梢動脈疾患」の診療

閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤など動脈瘤疾患に対しては、低侵襲である血管内治療を積極的に導入しておりますが、当科の強みである外科的治療や薬物療法も併用したハイブリッド治療を行っております。

●「静脈、リンパ管疾患」の診療

深部静脈血栓症、リンパ浮腫、下肢静脈瘤などを精査加療いたします。

静脈瘤に対する治療においては、レーザー機器を導入し、ストリッピング術、硬化療法を含め患者さんのニーズに合わせた治療を行っております。

8 内視鏡センター

所長 相浦 浩一

【診療科の紹介】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、消化器内科・外科、呼吸器内科・外科の医師たちが横断的に密接に連携し合って患者さんにとって最良の治療法を決定し実施しています。当内視鏡センターは、早くから電子ファイリングシステムを導入し、高画質ハイビジョン対応内視鏡による白色光観察をはじめNBI観察、拡大観察に取り組み、さらに経鼻用細径内視鏡、超音波内視鏡、小腸カプセル内視鏡も揃え、消化器、呼吸器それぞれの分野で専門的知識と高度技術を持った専門医が精度の高い内視鏡診断と治療を提供しています。また、消化器・呼吸器疾患の内視鏡診断・治療に対する高度専門医療を常時提供する検査体制を敷き、消化管出血、化膿性胆管炎等の急性期疾患に対しても24時間体制で対応しています。

【令和3年度の取組】

医療連携を大切に、直接上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を患者総合サポートセンター経由で予約することができるようにしています。また、術後再建腸管に対する膵・胆道内視鏡検査にも積極的に取り組み、さらに超音波内視鏡検査にも力を入れ益々の充実を図ってきています。

9 呼吸器外科

部長 澤藤 誠

【診療科の紹介】

呼吸器外科では、肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの腫瘍性疾患や、気胸、肺真菌症などの呼吸器・縦隔の良性疾患に対する外科治療、および気管・気管支ステントなどの内視鏡的治療を担当しています。診断や治療方針に関しては、毎週行われる呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスでも検討を行い、正確な診断、最適な治療法の選択を行うように心がけています。

手術に際しては、胸腔鏡の使用や、気管支・血管形成手技を応用した肺を温存する術式の適応など、手術手技の工夫をできるかぎり行って、侵襲を少なくするように努めています。

【令和3年度の取組】

令和3年4月に、部長の澤藤が副院長（呼吸器外科部長兼務）に就任しました。また国家公務員共済組合連合会立川病院より、岩丸有史（1995年卒）が担当部長として赴任し、井澤担当部長、奥井医長との4名による診療体制となりました。

昨年度は、手術数が前年度に比べ2割以上の減少をみました。手術数の減少は全国的な傾向で、新型コロナウイルス感染の影響と考えられています。今年度（令和3年度）の手術数は、前年度に比べ17%増で、当院での昨年度の手術数の減少も、やはり感染症の蔓延による受診控え、検診控えの影響があったと考えられます。年間の手術数は、コロナ禍の前の水準には戻っておらず、質の高い診療を日々続けることで、手術患者の受け入れを進めたいと思います。

重症コロナ肺炎診療を行うため、循環器科、救急科でECMO（extracorporeal membrane oxygenation）を行う体制が作られています。今年度は、その2科の協力を得て、ECMO下での気道ステント留置を2例に行い、良好な結果を得ました。当院のコロナウイルス感染症に対する取り組みが、他の領域の診療に活かされた例と考えます。

10 心臓血管外科

部長 井上 慎也

【診療科紹介】

平成元年に開設されて以来、当院は川崎市南部地域の中核病院としての役割を担ってまいりました。現在、心臓血管外科専門医2名が在席する当科では、弁膜症、冠動脈疾患、大動脈解離、胸部大動脈瘤などに対する手術治療を担当しています。関係各科との医療チームで綿密に打ち合わせを行い、個々の患者さんに対して最適かつ安全な治療を提供することを考えながら、患者さんご家族が納得・安心して治療を受けていただけるよう、常に模索しています。

【令和3年度の取組】

高齢化に伴い、慢性疾患や併存疾患の増加が顕著です。当院は各科が充実している総合病院の強みを活かして対応いたします。また、院内の様々な科の先生方からのコンサルトに対応します。

11 脳神経外科

部長 片山 真

【診療科紹介】

約150万人が居住する川崎市の拠点病院脳神経外科として高度な専門性医療を行うことが求められていると考えております。一般脳神経外科疾患や地域医療にも貢献することを目指しております。病院の基本理念である「病氣」ではなく「病人」を診ることを貫徹し、患者様に寄り添ったプロフェッショナルな治療を施すべく努力をしております。

【令和2年度の取組】

従前より多くの悪性脳腫瘍患者を拝見させていただいておりましたが、化学療法・免疫療法の発展、普及に伴って延長する患者様予後に注目しながらより一層集学的治療に注力して参ります。

高難易度である頭蓋底手術に積極的に取り組んでおります。

脳卒中・外傷といった急性期疾患にも積極的に取り組んでおります。

来年度よりパーキンソン病に対する深部脳刺激療法（DBS: deep brain stimulation）を導入する予定としており準備を進めております。

12 整形外科

部長 中道 憲明

【診療科の紹介】

骨折を主とした外傷、脊椎脊髄疾患、上下肢の関節外科、手外科、骨軟部腫瘍の治療を行っています。救急科を窓口として3次救急を積極的に受けているため、多発外傷、重症例も多く、他科との連携を円滑に行うことが重要です。他科との協力、コメディカルとの協力を行いながら、チーム医療を推進しています。高齢化に伴う骨粗鬆症の治療も積極的に行っています。医療の進歩とともに専門性の高い手術が増えているため、脊椎脊髄チーム、肩関節外科センター、関節機能再建・人工関節センター、手肘外科センター、骨軟部腫瘍チームによる高度な手術を行っています。

令和4年3月には、大腿骨近位部骨折治療の標準化、2次性骨折予防を目的として、院内大腿骨近位部骨折ガイドラインの作成、骨折リエゾンサービスチームの結成をした。

【令和3年度の取組】

（1）脊椎脊髄外科

安全で正確な手術は言うまでもなく大事なことですが、まず多岐にわたる鑑別診断を念頭に置いた正確な診断を心がけています。また、手術の即断はなるべく避け、保存療法を重視しています。椎間板ヘルニアには内視鏡手術または顕微鏡手術を行っていますが、可能な限り保存療法を選択しています。椎間板ヘルニアに対する椎間板内薬物注入療法（ヘルニコア）による治療も行っています。高齢化社会を迎えた近年、患者数が増えている骨粗鬆症、脆弱性脊椎骨折、成人脊柱変形に対する手術にも取り組んでいます。またリウマチ関連脊椎疾患も当院リウマチ膠原病・痛風センターと連携して治療しています。

（2）肩関節外科センター

肩関節、肩鎖関節に関連した疾患を治療致します。腱板断裂に対する関節鏡を使った腱板修復術、変形性肩関節症、関節リウマチが原因の関節症に対する人工肩関節置換術、肩の脱臼に対し関節鏡視下関節唇修復術、肩鎖関節脱臼に対する靭帯再建術などを行っています。また、複雑な肩甲骨骨折、鎖骨骨折に対する骨接合術を行います。上腕骨頸部骨折には重症度に応じて骨接合術、人工骨頭置換術、リバーズ型人工関節を行います。

（3）関節機能再建・人工関節センター

「関節機能再建・人工関節センター」には膝関節および股関節を専門とし、人工関節置換術や関節鏡視下手術に習熟した医師が在籍しており、様々な下肢疾患に対応しています。変形性関節症、関節リウマチや骨壊死に対する人工関節置換術（膝・股）や骨切り術を得意としております。半月板損傷、十字靭帯損傷、軟骨損傷、滑膜炎や膝蓋骨不安定症に対する低侵襲な関節鏡視下手術も積極的に行っています。

（4）手肘外科センター

当院は日本手外科学会研修施設に認定されており、当センターでは慶應義塾大学整形外科学教室およびその関連病院で手肘外科の豊富な経験を積んだ医師が手術を行っています。手肘のほとんどの疾患に対して豊富な経験があり、これらの疾患に対して常に最高レベル

の専門的な治療を提供できるよう取り組んでいます。特に橈骨遠位端骨折の変形治癒や最少侵襲手術法、TFCC 損傷の手術法に関して多くの研究業績があります。

(5) 骨軟部腫瘍外科

井田病院から専門医の西本医師、保坂医師を招聘しています。整形外科領域、すなわち頸部より下の骨や、軟部組織（おもに筋肉、脂肪組織、皮下、結合組織、末梢神経など）に発生する原発性の骨軟部腫瘍の治療を行っています。

13 リハビリテーション科

部長 阿部 玲音

【診療科紹介】

当院のような急性期病院では、さまざまな疾病や外傷、またその治療に伴う安静・臥床によって、障害が残存し、入院前の身体機能を維持できず、自宅退院が困難となる可能性がある。当科では、そのような患者に対し、できるだけ障害を軽減し、早期の自宅復帰ができるように、主治医や病棟を始め、多職種と連携して、理学療法・作業療法・言語療法・嚥下療法等の様々なリハビリテーション医療を提供している。

【令和3年度の取組】

リハビリテーション科において、令和2年度より新規に取り組みを行ったものについては、以下の通りである。

- (1) リハビリテーション科内の組織再編を行い、効率良く、自主性・自律性に富んだ組織作りを行った。
- (2) 年代別・役割別の行動指針である「行動の手引き」を作成・導入し、それぞれの立場での目標設定を明確にした。
- (3) 医師が専修医を含め3人体制となり、より安定した診療体制を構築した。

また新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度同様、下記の対策を継続した。

- (1) 新型コロナウイルス感染症患者に対し、疾病改善・後遺症軽減のために発症早期から積極的なリハビリテーションを行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染症蔓延に対し、スタッフの配置を病棟担当制に変更し、併せて入院患者へのリハビリテーションの実施場所を病棟で行うように設定した。
- (3) 新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う高齢者の運動量減少に対し、健康増進に関わる動画を作成し、youtubeにて配信した。

川崎市立病院経営計画に基づく取り組みについては、昨年度と同様、以下の事項を継続中である。

- (1) 効率の良いリハビリテーション医療の提供のため、病棟でのリハビリテーションを行うのとともに、病棟リハ室の設置準備を継続している。
- (2) ICU や救急病棟を中心とした早期リハビリテーションの積極的な導入・拡大を進めている。
- (3) 平成31年度以降の療法士増員に伴う管理・指導体制を充実させている。

上記以外としては、栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・脳卒中ユニット・呼吸器回診・認知症ケア回診などの院内の他職種連携チームでの積極的な活動を継続するとともに、糖尿病教室・がんサロン・市民公開講座等での市民への啓蒙活動などを、現地およびオンラインにて継続している。

【令和3年度業務実績】

(1) リハビリテーション科新規患者数および実施単位数

	患者数	単位数
脳血管疾患	605	31,198
運動器疾患	887	21,033
呼吸器疾患	705	16,369
心大血管疾患	354	5,462
廃用症候群	733	19,888
がん	580	11,977
合計	3864	105,927

(2) リハビリテーション科での検査等の件数

- ア 筋電図（リハビリテーション科担当分）：116件
- イ 嚥下造影：548件
- ウ 嚥下内視鏡：3件
- エ ボツリヌス療法：46件（患者数15名）

14 形成外科

部長 西脇 正夫
副医長 北畑 侖奈

【診療科の紹介】

形成外科は、先天性の身体表面の変形や色の変化、外傷や手術後の欠損や変形を出来るだけ正常な状態に近づけるように修復し、QOLの改善を図り、早期の社会復帰を助ける外科の一分野です。

皮膚や軟部組織を対象としていますが、顔面に関しては骨の病気や外傷も治療しています。また、がん治療後や外傷後の変形を修復する再建医療も、形成外科の扱う分野の一つです。

【令和3年度の取組】

顔面外傷などの形成外科一般手術を中心に、小児の先天異常や悪性腫瘍切除後の再建といった高難度の手術まで幅広く取り扱ってきた。他科手術における創傷トラブルについても積極的に依頼を受けるようになりました。

また、若手医師への教育活動の一環として研修医向けの縫合練習会を開催し、適切な外科手技の普及にも力を入れてきました。

15 皮膚科

部長 原 智
医長 西本 周平

【診療科の紹介】

皮膚科は3人体制で診療しております。当院の皮膚科は「皮膚疾患全般」に対応しますが、病院皮膚科としてクリニックなどで対応困難な疾患により注力しています。特に皮膚腫瘍（良性・悪性）の診断・治療（手術・化学療法など）や難治な乾癬・アトピー・蕁麻疹などへの生物学的製剤導入などには高い専門性をもって取り組んでいます。その他、内服・外用など通常の治療で効果不十分な難治な皮膚疾患への精査・加療、川崎南部医療圏では数少ない皮膚科入院病床を有する病院として、皮膚感染症（蜂巣炎や帯状疱疹など）や重症な中毒疹など入院を要する疾患の入院治療を行っています。

【令和3年度の取組】

乾癬外来・アトピー外来・皮膚腫瘍外来といった専門外来を継続し、これらの疾患に専門的な取り組みを行っている。乾癬やアトピーにおいて全身療法の導入や安定後の逆紹介を推進。また、皮膚悪性腫瘍にも積極的に取り組み、診断から速やかな治療への移行に取り組みました。化学療法のレジメンの整備を行い、5種類のがん種に対して6種類のレジメンが稼働しています。

16 泌尿器科

部長 原 智

【診療科の紹介】

泌尿器科では、尿路悪性腫瘍（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍）、副腎腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症などに対して、負担の少ない腹腔鏡手術や経尿道的手術を積極的に取り入れ、生活の質（QOL）を重視した、患者さんに優しい医療を提供しております。

【令和3年度の取組】

12月に腎盂尿管移行部狭窄症に対して、ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術を開始しました。da Vinciを用いたロボット手術を合計で61例（前立腺癌；43例，腎癌；17例，腎盂形成術：1例）に施行しました。また、da Vinci以外での腹腔鏡下手術を合計53例（腎摘，膀胱全摘など）施行しました。

17 産科・婦人科

部長 中田 さくら

【診療科の紹介】当科は地域周産期母子医療センターとして、新生児内科/NICUと連携して、川崎市南部地域の周産期救急の中核病院としての役割を担っています。周産期ハイリスク妊婦の管理、母体搬送の受け入れだけではなく、社会的支援が必要な妊産婦の管理も地域と連携して行っています。

また、婦人科手術も数多く行い、良性疾患から悪性腫瘍手術に至るまで幅広く対応しております。とりわけ伝統的に内視鏡手術症例が豊富であり、安全性を重視した低侵襲な手術を心掛けております。1985年に当科で開発された子宮鏡手術については、県内県外問わず多数の患者さんの御紹介を頂いております。

【令和3年度の取組】

産婦人科医局員は8名、産婦人科専攻医2名（D3D5）の診療体制でした。令和3年度の分娩件数は767件でした。前年に引き続き感染症内科とともにCovid-19感染妊婦の分娩受け入れも行いました。

18 眼科

部長 上田 誠司

副医長 園部 秀樹

【診療科紹介】

外来は月曜日から金曜日の毎日、手術は火曜日、木曜日の2日間で行っております。

外来検査は、広角眼底カメラ(OPTOS California)、ゴールドマン視野計、ハンフリー視野計(Zeiss ハンフリー840)、swept-source OCT(TOPCON Triton)、IOL master 700、蛍光眼底造影検査(FA、ICGA)、エコー(TOMEY UD-8000AB)、網膜電位図(TOMEY LE-4000)、等揃えており、一通りの検査が可能です。また、眼底レーザー、YAGレーザーも揃えており、各種疾患にも対応しております。

手術は、硝子体手術、白内障手術をメインに行っております。白内障手術は患者さんの希望、および全身状態に応じて日帰り手術、入院手術が選択できます。硝子体手術におきましては、広角観察システムとコンステレーションを用い、25G、27Gの小切開硝子体手術を施行しております。硝子体手術は全例、経テノン嚢下球後麻酔を用いており、より低侵襲の手術を心がけております。また、フレンジ法による強膜内固定術も行っております。白内障手術、硝子体手術ともに局所麻酔での手術が難しい患者さんに対しては全身麻酔での手術も行っております。

滲出性加齢黄斑変性に対し、光線力学療法療法(PDT)も導入しております。新規の患者さんへの適応はもちろん、抗VEGF薬に抵抗性のある患者さんにおいても注射回数を減らすことができる等のメリットがございます。

【令和3年度の取組】

新型コロナウイルス感染流行に対して、在籍医師・スタッフはワクチン3回接種を終えております。病院全体として患者さんは病院エントランスで体温測定し、LAMP法や抗原検査も即日対応可能です。眼科外来は透明なシャワーカーテンで障壁を設置しております。手術時には患者様はマスクを装着したまま施行しております。手術や外来対応は平時とほぼ変わらない稼働になっております。

また、眼科内では各医師の専門性を高める取り組みを行っており、網膜硝子体疾患に対する手術や非観血的治療、斜視手術を含めた小児診療にも対応してまいりました。難治性の神経眼科領域やぶどう膜炎に対しても当院内科や各種診療科と密に連携して治療にあたっております。

令和4年4月から角膜専門の三田村浩人医師が赴任し、角膜移植を保険診療で行えるように環境整備をしております。10月からは角膜移植件数日本一の東京歯科大学市川総合病院から長谷川岳史医師が赴任します。

19 耳鼻咽喉科

部長 重富 征爾

【診療科紹介】

当科では耳・鼻・咽頭喉頭にとどまらず、鎖骨から上の範囲で頭蓋・脳脊髄・眼球・歯を除いた、いわゆる「頭頸部」の広い範囲を担当しています。すなわちQOL (quality of life: 生活の質) に直接影響する聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚などの感覚機能、口腔・咽頭・喉頭が担う咀嚼・嚥下・呼吸・発声・構音などの運動機能に関わる診療を行っています。これらの機能を改善する診療を通して QOL の向上に貢献する役割を使命とし、近接する境界領域の専門の各診療科との連携を重視しながら、安全で且つ質の高い医療の実践に努めています。

当院ではもちろん耳鼻咽喉科疾患全般を診療していることに加え、さらに頭頸部領域の腫瘍性疾患にも広く対応しています。頭頸部悪性腫瘍（口腔癌・上咽頭癌・中咽頭癌・下咽頭癌・喉頭癌・鼻副鼻腔癌・唾液腺癌・甲状腺癌など）の治療においては根治性の向上だけでなく、身体的侵襲をできるだけ少なくすると同時に、治療後の機能を可能な限り良くすることを考慮しています。専門的な知識と豊富な経験に基づいて、進行癌に対しても手術・放射線治療・化学療法を適確に組み合わせ、個々の患者さんに最適な治療法を選択するようにしています。関連各領域の専門診療科との良好な診療連携を築くことにより、きめ細かい高度なチーム医療の推進を心掛けています。

【令和3年度の取組】

早期の下咽頭癌・声門上癌に対しては、根治性と喉頭機能温存を両立する低侵襲な手術治療として、鏡視下咽頭喉頭悪性腫瘍手術を積極的に行っております。また2021年より鼻茸を伴う難治性好酸球性副鼻腔炎に対して、指定難病医療費助成制度を利用したデュピルマブ治療を外来にて施行しております。

20 歯科口腔外科

部長 鬼澤 勝弘

【診療科の紹介】

当科は川崎市南部地域における口腔外科の基幹病院で、口腔顎顔面領域に現れるすべての疾患、特に埋伏歯抜歯、歯根端切除術、外科矯正治療（下顎前突症など）、口腔腫瘍、顎関節症、顎顔面骨折、歯科インプラント治療などを対象としている。治療においてはコーンビームCTによる詳細な診断と3Dプリンター顎骨模型による術前計画を積極的に行い、安全で正確な手術を施行している。専門外来は保存補綴顎関節症（佐藤）、歯科インプラント（安居、鬼澤、河奈）、顎変形症（鬼澤、安居、柴）、歯根端切除術（軽部）、歯科矯正相談（鬼澤）を開設している。

当科における顎骨歯槽手術の方針としては末梢神経障害の防止、腫瘍摘出術時の抜歯本数の最小化、歯根端切除術の積極的応用による歯の保存、歯科インプラント体埋入の安定した高い成功率、患者ニーズに基づいた顎矯正手術を常に心掛けている。また、かかりつけ医院の先生方と緊密に連携をとり、患者さんに疾患や治療について丁寧に説明し、十分にご理解とご納得をして頂いた上で治療を行うことに努めている。治療後は、かかりつけ医院へお戻しすることを原則としている。

【令和3年度の取組】

人事では、長嶺が令和2年度に引き続き専攻医（5年目）として働いて頂いた。外来手術においてはFull PPEで、嚴重な感染予防対策のもとで施行した。幸い当科からの院内感染は認められなかった。外来手術は2列で列数を減らして抑制的に施行したが、埋伏歯抜歯1,127例、抜歯1,079例と難抜歯手術はコロナ前に回復した。全身麻酔下手術は年度当初より、ほぼ問題なく施行され、顎矯正手術が増加した（12例）。

研究については、抜歯、顎骨壊死、インプラント関連、骨再生を中心に展開しているが、上顎正中過剰埋伏歯のCT画像評価による臨床的検討はJOMSMPに採択されまもなく掲載の予定である。インプラントと膿原性肉芽腫の症例報告はJOMSMPに掲載された。顎骨壊死の画像所見の観察的研究およびアミロイドーシスの症例報告はそれぞれ投稿中である。また、科学研究費（基盤研究C）の助成を受け、慶應義塾大学および東京医科歯科大学との共同研究により、歯髄幹細胞を用いた顎骨壊死予防に関する基礎研究は継続している。

社会的貢献として、第32回川崎病院症例検討会を歯科医師会館で対面で、また、歯科診療における感染防止対策の講演会を川崎市歯科医師会会員に対して行った。

21 放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科

部長 倉田 忠宜

【診療科の紹介】

放射線診断科では主に CT、MRI について整形外科領域など一部を除き原則として当日中に診断レポートを作成し、オンラインで院内に配信しています。腹部・表在の超音波診断を含め、総合的に画像診断を行っています。IVR 治療（画像診断技術を応用したより侵襲の少ない治療）も専門医のもとで各科と協力して施行しており、肝がんに対する肝動脈化学塞栓療法やラジオ波焼灼療法、閉塞性動脈硬化症やシャント不全に対する血管拡張術、外傷や消化管出血に対する緊急塞栓術、画像ガイド下のドレナージ術や生検なども担当しています。

2018 年 4 月より、がん診療の充実を図るため、川崎市南部地域では初めて PET-CT 装置を導入しました。がんの広がり、転移、再発病巣検出など、精度の高い画像を得ることができる装置で、がん診療に貢献しています。

【令和 3 年度の取組】

令和 3 年 7 月佐藤医師の退職により人員減となりました。医師による超音波検査業務を一部縮小することになりましたが、非常勤医師の若干の増員で CT、MRI、IVR 等の業務については概ね従来通り遂行することができました。PET-CT は稼働開始から 4 年目となりました。検査数は順調に伸び、1,030 件/年と 1,000 件の大台に達しました。

放射線治療科

部長 栗林 徹

【診療科の紹介】

放射線治療科では、御依頼元の先生と連絡を密にとり、院内では各診療科と連携のもとで悪性腫瘍の放射線治療やケロイドの手術後照射を行っています。現場では、医師、放射線治療専任技師、看護師でのチーム医療を行っています。また、通常の放射線治療に加えて、脳及び肺の定位放射線治療（ピンポイントの放射線治療）や、前立腺癌を中心に脳腫瘍及びより複雑な頭頸部癌の強度変調放射線治療（IMRT）等の高精度放射線治療を施行しています。

【令和 3 年度の取組】

放射線治療科では、令和 3 年 8 月から新しい放射線治療装置が稼働を開始し、従来よりもさらに高精度な低侵襲、時間短縮、全身への影響が少ない治療が可能になりました。

放射線診断科・放射線治療科業務状況

令和 3 年度は、8 月より高エネルギー放射線発生装置が 7 ヶ月間の装置入替え及び調整作業を終えて稼働を開始しました。従来よりも高精度な治療が短時間で実現可能になり、治療件数増加と患者さんの負担をより軽減出来る様になりました。

X 線撮影部門では、前年度比 1.04 と微増でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、ひまわり外来での胸部 X 線撮影や感染病棟でのポータブル X 線撮影については非常に繁忙な業務量でした。

カテーテル治療・IVR 部門では、前年度比 1.07 と増加し、特に脳神経外科については、検査、治療共に増加傾向です。

CT 検査部門では、新型コロナウイルスの感染拡大などの影響もありましたが、前年度比 0.99 とほぼ同等の検査数でした。画像処理件数は、前年度比 1.16 と増加し、特にデンタル解析では前年度比 1.23 と大幅に増加しました。画像処理件数の増加は、各診療科での画像処理の必要性が高まっていることが推察されます。

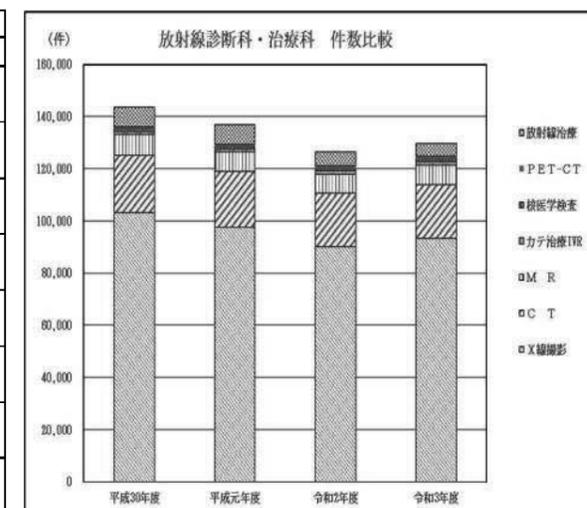
MRI 検査部門では、前年度比 1.05 と増加し、緊急検査の即時対応や、当日依頼の対応を継続して実施しています。一昨年度更新した MRI 装置による心臓 MRI 検査も定着し、約 40 件実施しました。

核医学検査部門では、一般核医学の検査件数が前年度比 1.26 と大幅に増加しました。特に認知症関連の検査が前年度比 1.60 と増加傾向です。

PET-CT の件数も、前年度比 1.24 と年々増加しています。引き続き患者総合サポートセンターと連携して件数増加を目指していきます。また、新規病院からの依頼も増えており、今まで以上に PET-CT 検査の情報発信と依頼しやすい環境作りに努力をしていきます。

今年度の全体の件数については、昨年度に比べ増加傾向であり、新型コロナウイルス感染症の患者数減少に伴ってさらに増加が期待出来ると考察出来ます。

	件数				
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
X線撮影	103,105	97,428	89,975	93,250	1.04
C T	21,932	21,458	20,772	20,579	0.99
M R	8,098	7,554	7,245	7,592	1.05
カテーテル治療・IVR	1,205	1,051	1,126	1,202	1.07
核医学検査	1,215	1,109	1,038	1,308	1.26
P E T - C T	590	814	832	1,030	1.24
放射線治療	7,468	7,440	5,349	4,578	0.86
合 計	143,613	136,854	126,337	129,539	1.03



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科
一般 単純撮影	頭部・頸部系	単純	34	0	169	1	0	257	4	25
	胸部系	単純	16,201	162	1,013	5,658	914	357	1,099	86
	腹部系	単純	1,783	102	209	3,065	3	71	7	0
	椎体系	単純	371	2	71	10	0	28	5,741	0
	胸郭系	単純	234	1	0	16	0	5	1,768	0
	骨盤系	単純	96	4	5	2	0	0	3,795	0
	上肢系	単純	787	3	146	7	0	1	5,468	3
	下肢系	単純	977	8	7	12	0	0	4,358	26
	歯科	単純	2	0	0	0	0	1	0	0
	その他	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
一般単純撮影合計			20,485	282	1,620	8,771	917	720	22,240	140
ポータブル	頭・頸部系(P)	単純	0	0	0	0	0	11	0	0
	胸部系(P)	単純	6,736	91	639	1,598	25	224	82	6
	腹部系(P)	単純	824	17	6	1,031	0	14	5	3
	椎体系(P)	単純	3	1	0	0	0	1	28	0
	胸郭系(P)	単純	2	0	0	0	0	0	9	0
	骨盤系(P)	単純	11	0	0	0	0	0	17	0
	上肢系(P)	単純	1	0	0	0	0	0	10	0
	下肢系(P)	単純	6	0	0	0	0	0	48	0
	その他(P)	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
	ポータブル合計			7,583	109	645	2,629	25	250	199
手術室 ポータブル	頭部・頸部系(O)	単純	0	0	0	0	0	1	0	0
	胸部系(O)	単純	6	0	0	204	4	6	13	4
	腹部系(O)	単純	3	0	0	388	0	1	0	0
	椎体系(整形)	単純	0	0	0	0	0	0	513	0
	躯幹系(整形)	単純	0	0	0	0	0	0	394	0
	上肢系(整形)	単純	0	0	0	0	0	0	238	0
	下肢系(整形)	単純	0	0	0	0	0	0	222	2
手術室ポータブル合計			9	0	0	592	4	8	1,380	6
乳房撮影			0	0	0	1,142	0	0	2	0
一般造影	婦人科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	外科系	造影	1	0	0	2	0	0	0	0
	耳鼻科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
一般造影合計			1	0	0	2	0	0	0	0
透視検査	上部消化管	造影	2	0	1	86	0	0	0	0
	下部消化管	造影	9	0	0	23	0	0	0	0
	消化管その他	造影	48	0	0	142	0	0	0	0
	肝・胆道・膵臓	造影	31	0	0	26	0	0	0	0
	腎臓	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿管	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	膀胱、尿道、その他	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊椎、椎体	造影	0	0	0	0	0	0	294	0
	整形系その他	造影	0	0	0	0	0	0	9	0
	小児科	造影	0	0	38	0	0	0	0	0
	その他	造影	8	0	0	41	0	0	0	0
	透視検査合計			98	0	39	318	0	0	303
透視下 内視鏡	呼吸器系	単純	189	0	0	5	0	0	0	0
	上部消化管系	単純	10	0	0	0	0	0	0	0
	下部消化管系	単純	16	0	0	5	0	0	0	0
	肝臓・胆嚢・膵臓	造影	177	0	0	30	0	0	0	0
透視下内視鏡合計			392	0	0	40	0	0	0	0
骨塩定量			125	1	10	167	0	0	583	0
結石破碎			3	0	0	0	0	0	0	0
救急室 単純撮影	頭部・頸部系(E)	単純	13	0	9	0	0	4	2	6
	胸部系(ER)	単純	1,845	1	377	200	0	4	50	2
	腹部系(ER)	単純	607	0	120	144	0	1	2	0
	椎体系(ER)	単純	11	0	3	2	0	0	86	0
	胸郭系(ER)	単純	16	0	0	0	0	0	84	0
	骨盤系(ER)	単純	4	0	2	4	0	0	50	0
	上肢系(ER)	単純	5	0	2	2	0	3	389	1
	下肢系(ER)	単純	22	0	0	0	0	0	250	4
救急室単純撮影合計			2,523	1	513	352	0	12	913	13
合計			31,219	393	2,827	14,013	946	990	25,620	168

皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
1	0	0	0	77	0	69	0	0	0	0	637
199	964	799	9	522	5	123	0	66	0	1,082	29,259
2	1,759	62	0	10	1	3	0	15	0	0	7,092
2	2	0	0	2	0	0	0	5	0	0	6,234
4	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	2,037
2	0	61	0	0	0	0	0	3	0	0	3,968
38	0	1	0	0	2	0	0	20	0	0	6,476
30	2	0	0	0	0	0	0	9	0	0	5,429
0	0	0	0	0	0	3,319	0	0	0	0	3,322
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
278	2,727	923	9	611	8	3,514	0	127	0	1,082	64,454
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
10	141	149	1	75	3	14	0	392	99	0	10,285
2	110	24	0	10	1	0	0	17	3	0	2,067
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	13
0	1	0	0	4	0	0	0	3	0	0	36
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	13
1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	59
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	253	173	1	90	4	14	0	419	102	0	12,518
0	0	0	0	0	0	12	0	0	1	0	14
0	10	5	0	18	2	1	0	5	17	0	295
0	301	371	0	2	0	0	0	3	3	0	1,072
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	514
0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	398
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	239
0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	226
0	311	376	0	20	3	13	0	15	21	0	2,758
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	888	2,032
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	16	0	0	548	0	0	111	764
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57
0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150
0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	294
0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
0	213	16	0	16	0	0	548	7	0	111	1,669
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	194
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	208
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	433
3	0	80	0	0	14	0	0	0	0	5	988
0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	49
12	10	23	1	9	5	0	0	2,136	0	0	4,675
0	12	8	0	0	1	0	0	207	0	0	1,102
0	0	0	0	0	0	0	0	177	0	0	279
0	0	0	0	0	0	0	0	163	0	0	263
0	0	0	0	3	0	0	0	258	0	0	321
1	1	0	0	2	0	0	0	430	0	0	836
0	0	0	0	0	0	2	0	571	0	0	849
13	23	31	1	14	6	2	0	3,957	0	0	8,374
307	3,545	1,599	11	751	35	3,543	548	4,526	123	2,086	93,250

(2) CT部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	992	90	14	20	1	1,114	13	27	1
	造影	2	0	0	1	0	0	0	0	0
頸部系CT	単純	9	0	0	6	0	1	0	0	0
	造影	7	0	0	0	0	5	0	0	0
胸部系CT	単純	2,106	0	8	772	94	14	27	5	41
	造影	1,119	4	1	822	13	7	6	0	19
腹部系CT	単純	650	0	0	771	3	3	7	0	2
	造影	222	1	2	149	0	7	2	0	2
骨盤系CT	単純	85	0	4	40	0	0	2	0	0
	造影	581	2	0	94	0	1	11	0	0
四肢系CT	単純	2	0	0	0	0	0	116	0	1
	造影	1	0	0	1	0	0	0	0	0
脊椎系CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	2	0	0	2	0	0	540	1	6
血管系CT	単純	13	0	0	27	1	0	0	0	0
	造影	91	5	0	279	16	4	7	1	0
その他のCT	単純	199	0	0	23	5	141	5	0	0
	造影	1	0	0	0	0	0	0	0	0
術前胸部CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	3,348	91	24	970	96	1,142	1,050	33	51
	造影	1,308	9	7	1,146	29	11	15	1	21
合計		6,100	102	31	3,010	133	1,299	1,089	34	75

救急室CT

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	532	4	60	6	0	53	17	12	1
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸部系CT	単純	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	2	0	1	1	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	321	0	1	19	0	1	5	1	1
	造影	15	0	1	3	0	0	0	0	1
腹部系CT	単純	95	0	0	45	0	0	0	0	0
	造影	240	1	9	12	0	0	3	0	0
骨盤系CT	単純	45	0	12	9	0	0	0	0	0
	造影	286	0	6	42	0	0	2	0	1
四肢系CT	単純	0	0	0	2	0	0	4	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	36	0	0	6	0	2	6	0	0
全身系CT	単純	31	0	1	4	0	2	0	0	0
	造影	54	0	0	2	0	4	1	0	0
小計	単純	7	0	0	1	0	0	0	0	0
	造影	41	0	0	1	0	0	0	0	1
合計		1,716	5	93	153	0	62	93	13	8

CT+救急室CT	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
合計	7,816	107	124	3,163	133	1,361	1,182	47	83

(3) MRI部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系	単純	1,393	111	194	15	5	350	1	2	9
	造影	521	1	2	110	1	436	0	0	0
顔面・頸部系	単純	11	0	0	0	0	0	2	4	13
	造影	8	0	0	0	0	0	0	1	5
胸部系	単純	13	0	2	13	1	5	2	2	3
	造影	42	0	0	54	0	0	0	1	2
腹部系	単純	662	0	4	84	0	0	1	2	2
	造影	58	0	1	32	0	0	0	0	0
骨盤系	単純	13	0	0	12	0	7	3	3	12
	造影	3	0	0	16	0	0	1	0	1
上肢系	単純	15	0	2	0	0	0	264	7	11
	造影	11	0	0	0	0	0	1	1	1
下肢系	単純	28	0	3	6	1	0	307	7	16
	造影	5	0	0	1	0	0	4	1	0
脊椎系	単純	415	1	21	7	0	0	875	0	2
	造影	15	0	1	1	0	7	21	0	0
血管系	単純	2	0	0	20	0	17	1	0	0
	造影	2	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	2,552	112	226	157	7	367	1,463	27	68
	造影	665	1	4	214	1	443	27	4	9
合計		3,217	113	230	371	8	810	1,490	31	77

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
10	3	6	152	10	1	0	109	0	62	2,625
0	0	0	5	0	0	0	7	0	0	15
2	1	0	3	0	0	0	3	0	0	25
0	0	0	34	2	0	0	7	0	0	55
1	0	0	26	1	0	0	7	0	0	48
0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	12
287	48	0	98	74	0	0	1	0	8	3,583
464	274	0	317	3	0	0	5	0	0	3,054
213	29	0	34	14	0	0	1	0	5	1,732
179	1	0	0	22	0	0	0	0	2	589
46	17	0	0	4	0	0	0	0	5	203
134	4	0	0	16	0	0	0	0	6	849
2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	123
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	552
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	361
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	11	0	0	2	0	0	0	0	0	421
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	377
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
478	53	6	284	113	1	0	117	0	73	7,930
517	303	0	348	10	0	0	19	0	5	3,749
351	36	0	44	30	0	0	6	0	12	3,000
1,346	392	6	676	153	1	0	142	0	90	14,679

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
3	1	2	5	2	0	1	1845	4	0	2548
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	3	0	0	0	12	0	0	19
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	11
5	0	0	5	1	0	0	727	0	0	1087
0	1	0	0	0	0	0	13	0	0	34
1	5	0	0	0	0	0	60	0	0	206
11	1	0	0	1	0	0	184	0	0	462
0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	87
3	3	0	0	1	0	0	136	0	0	480
0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	24
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	108	0	0	169
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	1	0	0	0	35	0	0	87
0	0	0	0	0	0	0	74	0	0	112
1	0	0	0	1	0	0	343	0	0	406
0	0	0	1	1	0	0	68	0	0	78
0	0	0	0	0	0	0	38	0	0	81
20	2	2	13	5	0	1	3237	4	0	4715
0	2	0	3	1	0	0	138	0	0	292
4	8	0	5	1	0	0	311	0	0	893
24	12	2	21	7	0	1	3686	4	0	5900

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
1,370	404	8	697	160	1	1	3,828	4	90	20,579

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
3	0	8	65	28	0	0	75	0	0	2,259
0	2	2	2							

(4) 核医学部門

	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
脳	248	28	0	0	0	51	0	0	0
唾液腺	1	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	7	0	0	0	0	0	0	0	0
副甲状腺	6	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	3	0	0	2	0	0	0	0	0
肝・胆道	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器	74	0	0	0	1	0	0	0	0
血流動態	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎	0	0	14	0	0	0	0	0	0
副腎	4	0	0	0	0	0	0	0	0
消化管	2	0	1	0	0	0	0	0	0
骨	353	0	0	289	0	0	0	0	0
腫瘍	8	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リンパ	0	0	0	38	0	0	0	0	4
神経内分泌腫瘍	6	0	0	0	0	0	0	0	0
RI内用療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	712	28	15	329	1	51	0	0	4

PET-CT

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部-骨盤	214	0	0	142	0	3	0	1	9
全身	146	0	0	3	0	0	0	0	11
血管炎	7	0	0	0	0	0	0	0	0
心サルコイドーシ	10	0	0	0	0	0	0	0	1
自費検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0
井田病院人間ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	377	0	0	145	0	3	0	1	21

(5) カテーテル治療・IVR部門

	内科	外科	心外科	脳外科	放射線科	その他	合計
心臓系							
心臓カテーテル検査	256	0	0	0	0	0	256
経皮的冠動脈形成術 (PCI)	182	0	0	0	0	0	182
ペースメーカー	5	0	37	0	0	0	42
経皮的カテーテル心筋焼灼術	43						43
その他	3	0	3	0	0	0	6
心臓系 小計	489	0	40	0	0	0	529
頭頸部血管診断				123			123
頭頸部血管IVR				56			56
頭頸部血管 小計	0	0	0	179	0	0	179
胸腹部診断			0	0	20		20
四肢・血管系診断			0	0	19		19
一般血管診断 小計	0	0	0	0	39	0	39
胸腹部IVR			45	3	60		108
四肢・血管系IVR			238	1	3		242
一般血管IVR 小計	0	283	4	0	63	0	350
血管以外の検査・治療					44	0	44
その他			0		19	42	61
血管造影室 合計	489	283	44	198	188	0	1,202

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入力デバイス名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
入 力	フィルム	142	90	54	0.60
	CD(医事課)	5,008	4,574	5,533	1.21
	入力合計	5,150	4,664	5,587	1.20
出 力	フィルム	269	111	107	0.96
	CD-R	2,685	2,737	3,144	1.15
	DVD	626	792	812	1.03
	出力合計	3,580	3,640	4,063	1.12
	総合計	8,730	8,304	9,650	1.16

(7) CT画像処理件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
3D画像	1,455	1,191	1,371	1.15
心臓解析	166	140	170	1.21
デンタル解析	275	70	86	1.23
合計	1,896	1,401	1,627	1.16

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	327
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
125	1	0	0	8	2	0	0	0	0	778
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
156	1	0	1	8	2	0	0	0	0	1,308

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
5	16	0	100	199	0	0	0	0	0	689
1	1	0	1	152	0	0	0	0	0	314
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	13
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
6	17	0	101	353	0	0	0	0	0	1,030

(8) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	301
眼窩	0
副鼻腔	33
口腔・舌	109
頭部	637
その他	208
肺	613
食道	224
乳房	363
鎖骨部	126
腋窩・胸壁	198
その他	63
縦隔	197
腹部	182
その他	11
全骨盤	302
小骨盤	595
鼠径・臀・外陰部	13
その他	55
上肢(軟部)	4
下肢(軟部)	4
その他	0
頭部骨	5
胸部骨	64
腹部・骨盤部骨	56
脊椎	175
上肢骨	30
下肢骨	10
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	0
全身	0
リハビリ	0
その他	0
合計	4,578

治療計画CT件数

	単純	外来	入院	合計
頭部				
単純	32	27	59	
単+造	5	6	11	
頭部集計	37	33	70	
副鼻腔	単純	0	2	2
副鼻腔集計	0	2	2	
頭部	単純	24	7	31
造影	0	0	0	
単+造	6	1	7	
頭部集計	30	8	38	
肺・縦隔	単純	44	17	61
単+造	4	2	6	
肺・縦隔集計	48	19	67	
乳房	単純	26	0	26
乳房集計	26	0	26	
上腹部	単純	7	2	9
上腹部集計	7	2	9	
下腹部	単純	0	1	1
下腹部集計	0	1	1	
骨盤腔	単純	39	7	46
骨盤腔集計	39	7	46	
股関節	単純	0	0	0
股関節集計	0	0	0	
胸椎	単純	0	1	1
胸椎集計	0	1	1	
腰椎	単純	0	6	6
腰椎集計	0	6	6	
下肢	単純	1	0	1
下肢集計	1	0	1	
その他	単純	0	1	1
その他集計	0	1	1	
小計	単純	173	71	244
造影	0	0	0	
単+造	15	9	24	
総合計	188	80	268	

リニアック特殊放射線治療件数

区 分	件数
強度変調放射線治療 (IMRT)	598
頭頸部 前立腺	552
画像誘導放射線治療 (IGRT)	1,150
脳定位放射線治療	48
肺定位放射線治療	5
合計	2,353

放射線治療管理料件数

区 分	件数
1門照射・対向2門照射	38
非対向2門・3門照射	18
4門照射以上	125
強度変調放射線治療 (IMRT)	43
放射線治療専任加算	196
合計	420

(9) 使用造影剤

造影剤	規格	令和2年度	令和3年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	232	243	1.05
バリテスターA240散	350g	120	210	1.75
ボースデル	250ml	710	695	0.98
EOB・プリモピスト注シリンジ	10ml	85	75	0.88
イオパミロン注300	50ml	95	85	0.89
	100ml	65	71	1.09
イオパミロン注300シリンジ	50ml	35	20	0.57
	100ml	1,400	1,565	1.12
イオパミロン注370	20ml	70	0	0.00
	50ml	60	35	0.58
	100ml	540	500	0.93
イオパミロン注370シリンジ	100ml	735	915	1.24
イオパミドール注300シリンジ	100ml	215	1,995	9.28
イオパミドール注370シリンジ	100ml	50	450	9.00
イオパミドール注370	20ml	211	269	1.27
	50ml	80	45	0.56
	100ml	50	305	6.10
イオメロン300注	50ml	340	400	1.18
	100ml	190	370	1.95
オイパロミン300注シリンジ	100ml	1,735	0	
オイパロミン370注シリンジ	100ml	350	0	
オムニパーク140注	50ml	25	20	0.80
オムニパーク300注	10ml	315	259	0.82
オムニパーク300注シリンジ	80ml	860	775	0.90
	100ml	2,120	2,510	1.18
	150ml	185	185	1.00
ウログラフィン注	20ml	787	871	1.11
ガドピスト静注1.0ml/Lシリンジ	7.5ml	500	380	0.76
プロハンス静注シリンジ	13ml	381	558	1.46
マグネスコープ静注33%シリンジ	15ml	305	395	1.30
リピオドール480注	10ml	50	57	1.14
リゾピスト注 44.6mg Fe	1.6ml	1	2	2.00
ガドテリドール静注シリンジ	13ml	285	300	1.05
エネマスター注腸散	98.1%	0	20	
ビジパーク270注	20ml	130	100	0.77

(10) 放射性医薬品

	令和2年度	令和3年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
^{99m} Tc-pertechnetate	28,120	25,530	0.91
^{99m} Tc-HSA-D	2,960	1,480	0.50
^{99m} Tc-ECD	47,000	96,000	2.04
^{99m} Tc-MAG ₃	1,776	2,886	1.63
^{99m} Tc-MDP	475,080	482,480	1.02
^{99m} Tc-HMDP	0	93,980	
^{99m} Tc-MIBI	5,180	2,590	0.50
^{99m} Tc-tetrofosmin	53,872	67,340	1.25
^{99m} Tc-テクネツール	740	3,700	5.00
²⁰¹ TlCl	1,184	740	0.63
⁶⁷ Ga-citrate	666	888	1.33
¹²³ I-MIBG	999	888	0.89
¹²³ I-BMIPP	0	0	
¹²³ I-capsule	0	0	
¹²³ I-IMP	0	0	
¹²³ I-ioflupane	20,541	27,054	1.32
¹³¹ I-adosterol	0	37	
¹¹¹ InCl	0	0	
¹¹¹ In-DTPA	37	0	0.00
¹¹¹ In-Pentetoreotide	732	732	1.00
²²³ Ra-xofigo	68	117	1.73
¹⁸ F-FDG	130,092	156,584	1.20

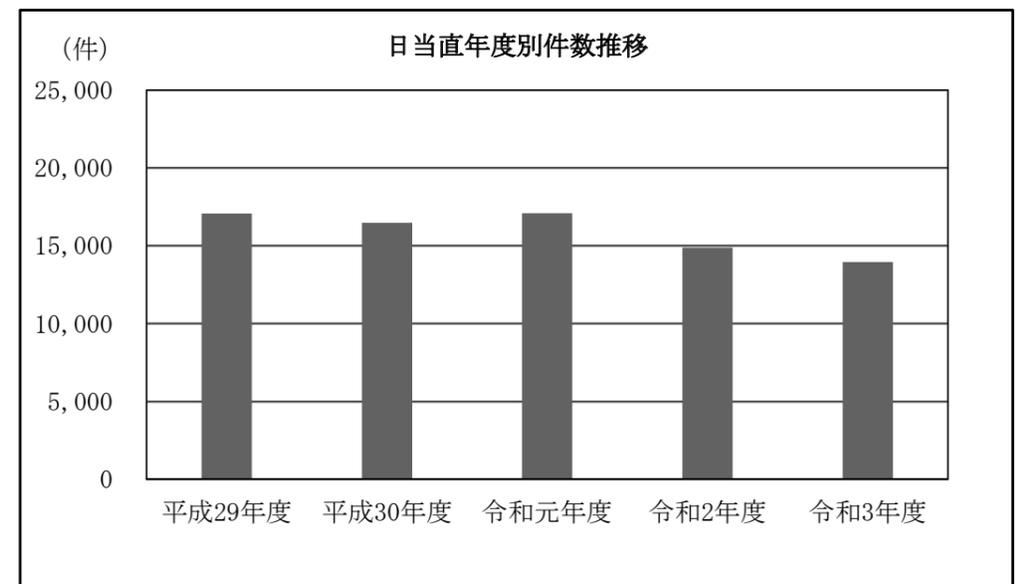
(11) 日当直状況

ア 月別日当直件数

	令和3年度 (件)		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	当直	土日祝日勤	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
4月	849	375	1,290	1,341	1,347	963	1,224	1.27
5月	765	605	1,624	1,440	1,656	1,291	1,370	1.06
6月	783	309	1,255	1,248	1,311	1,014	1,092	1.08
7月	804	482	1,602	1,491	1,413	1,244	1,286	1.03
8月	749	425	1,407	1,296	1,359	1,408	1,174	0.83
9月	627	371	1,449	1,364	1,381	1,331	998	0.75
10月	846	338	1,384	1,298	1,365	1,151	1,184	1.03
11月	832	337	1,359	1,250	1,375	1,262	1,169	0.93
12月	877	331	1,552	1,437	1,612	1,469	1,208	0.82
1月	782	491	1,715	1,775	1,678	1,431	1,273	0.89
2月	699	287	1,199	1,288	1,362	1,232	986	0.80
3月	712	283	1,220	1,235	1,233	10,778	995	0.09
合計	9,325	4,634	17,056	16,463	17,092	14,865	13,959	0.94
月平均	777.1	386.2	1,421.3	1,371.9	1,424.3	1,238.8	1,163	0.94
一日平均	25.5	36.8						

イ 日当直業務内容別件数

業務項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年度比
	合計件数	合計件数	合計件数	合計件数	合計件数	
1) 単純撮影	8,334	7,604	7,771	5,701	5,439	0.95
2) 回診撮影	3,286	3,780	3,855	3,888	3,583	0.92
3) 透視撮影	131	124	192	108	106	0.98
4) カテ治療・IVR	200	177	145	163	146	0.90
5) CT検査	5,050	4,721	5,054	4,938	4,595	0.93
5) MR検査	55	57	75	67	90	1.34
	17,056	16,463	17,092	14,865	13,959	0.94



22 麻酔科及びMEセンター

部長 森田 慶久

(1) 麻酔科

【診療科の紹介】

当院麻酔科は安全で質の高い医療と地域への貢献を目指して診療に励んでいます。

当院では年間 6,802 例の多様な入院手術、放射線検査・治療を中央手術室で行っており、うち 4,377 例が麻酔科管理です。(2021 年度)

【令和 3 年度の取組】

各部署との連携を密にとり、通常診療と新型コロナウイルス感染症対策の両立を図りつつ、手術室運営ならびに集中治療室管理を行うことができた。不要不急の手術の延期要請により令和 2 年度には一時的に手術件数が減少したが、令和 3 年度には回復傾向を示した。

診療科 分類・年度	診療科																	計
	一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科		
麻酔科	30	943	1	68	29	227	85	1,124	9	607	993	3	286	49	8	6	6	4,444
管理	1	1,094	80	96	38	202	87	1,126	10	588	953	4	287	70	1	0	0	4,636
	2	1,083	4	71	2	266	124	1,089	37	535	801	5	207	68	0	0	0	4,292
	3	1,011	5	81	7	296	152	1,079	37	583	782	2	228	64	0	0	0	4,377

(2) MEセンター

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和 63 年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」（臨床工学技士法第 2 条）とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME 機器部門など多岐に分かれます。

ア 臨床業務実績

業務内容	項目	令和 2 年度	令和 3 年度
血液浄化	CHDF	124	110
	PMX-DHP	2	0
	PE	30	44
	ビリルビン吸着	18	26
	出張 HD	968	963
	LCAP	354	417
透析室	透析室	50	62
人工呼吸器	人工呼吸器ラウンド	2,230	2452
	RST 総合ラウンド	417	406
	回路交換	3	12
カテーテル業務	CAG	273	239
	PCI	216	183
	緊急カテ	83	71
	IVUS	205	175
	FFR	44	28
	Rotabrator	19	7
	テンポラリーPM 挿入	8	6
	IABP	3	3
ペースメーカー業務	新規植込	27	21
	電池交換	23	15
	植込 1 週間後チェック	13	12
	緊急チェック	23	14
	術中管理	17	26
	外来	411	379
体外循環	人工心肺	3	2
	PCPS (管理日数)	15 (39)	7 (19)
	V-V ECMO	0	2
オペ室業務	セルセーバー	67	93
	オペ室対応	501	395
	da vinci 業務	79	65
	脳神経外科ナビゲーション	37	42
	術中神経モニタリング	0	0
病棟	病棟対応	49	17

イ 機器管理業務実績

	項目	令和2年度	令和3年度
点検	輸液ポンプ	1,100	870
	シリンジポンプ	752	559
	除細動器	216	104
	自動体外式除細動器	108	71
	閉鎖式保育器	239	174
	PCAポンプ	158	68
	人工呼吸器	691	755
	人工心肺	3	2
	PCPS	14	10
	テンポラリーPM	397	284
	麻酔器	2,492	2,450
	血液ガス装置	496	484
	電気メス	2,224	2,229
	ハーモニック	163	181
	サンダービート	147	189
	高周波メス	13	46
	内視鏡	1,034	1,248
	ソノサージ	2	5
	医療用レーザー	79	101
	手術支援システム	79	65
	離床センサー	26	0
	経腸栄養ポンプ	6	0
	反復圧迫治療器	228	167
	パルスオキシメーター	272	181
	超音波ネブライザ	30	20
	ベッドサイドモニタ	651	495
送信機	47	61	
血圧計	121	169	
修理	輸液ポンプ	15	16
	シリンジポンプ	9	16
	血圧計	6	3
	反復圧迫治療器	40	37
	送信機	5	15
	ベッドサイドモニタ	7	16
	低圧持続吸引器	2	2
	経腸栄養ポンプ	0	0

23 病理診断科

部長 杉浦 仁

【診療科紹介】

病理診断科は、令和元年度より正式な診療科組織として発足いたしました。業務内容は検査科病理の時代と同様で、病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断、および病理解剖です。免疫組織化学的解析も積極的に取り入れており、常に迅速かつ精度の高い病理診断を心がけています。病理診断難解症例は、関連大学やその道の専門家の病理医等にコンサルトしています。

【令和3年度の取組】

基本的な人員構成は前年度と変わっておりません（常勤病理専門医2名、後期研修医1名）が、杉浦の定年延長終了・常勤嘱託（会計年度職員）就任に伴い、折笠が部長に就任致しました。非常勤医の構成は前年度と変わっておりません（4名、慶應義塾大学、順天堂大学、けいゆう病院、済生会宇都宮病院）

昨今のゲノム診療の進歩に伴い、病理検体の遺伝子検査等の件数が急増しておりますが、当院では同規模の他施設同様、現在はブランチラボへの外注で対応しております。微小な検体の事が多い事もあり、標本作成に細心の注意を払い検査の精度向上に取り組んでいるところです。

診療実績の推移

令和2年度では診断件数が落ち込みましたが、令和3年度にはある程度は回復しました。

病理診断件数（検査科に掲載されている内容とは算出方法が異なります）

項目	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度
組織診	6361	6311	5358	6032
うち術中迅速	269	278	238	206
細胞診	7308	6625	5997	6268
うち術中迅速	25	46	19	4
病理解剖	13	19	18	15

24 救命救急センター

所長 田熊 清継

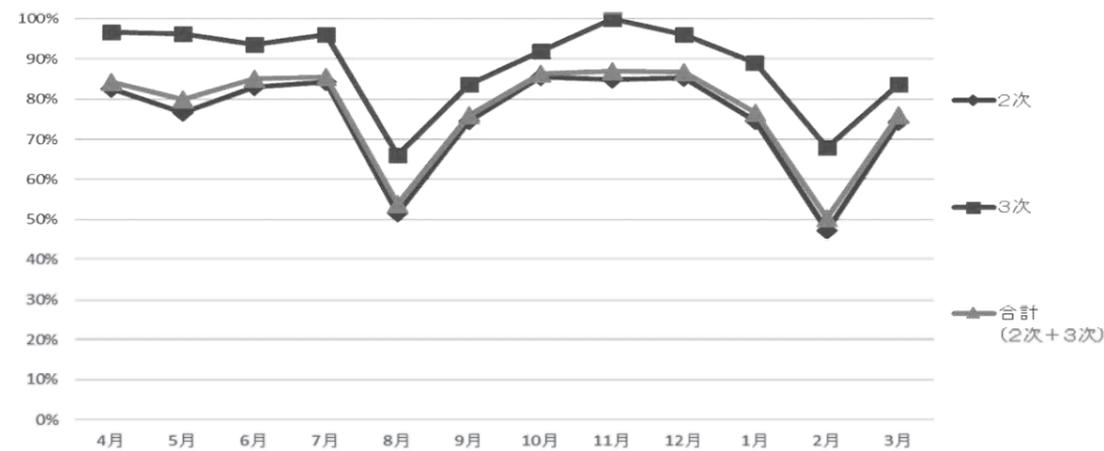
(1) 体制・施設規模 (令和3年4月1日現在)

- ア 体制 医師 (常勤9人、非常勤5人) / 看護師 (常勤53人、臨時職員11人)
- イ 施設規模 20床 (ICU 4床、救急病床 16床)

(2) 受入状況

ア 当院で救急車を受入れた救急車総数 (5,834台) のうち、ホットライン経由で救急車を受入れた件数は、4,468台で、応需率は2次73.5%、3次86.0%、2次・3次合わせて75.4%になります。なお、8月と2月は新型コロナウイルス感染症患者診療の影響を受けた。(令和3年度)

令和3年度月別救急車応需率



イ 令和3年度救命救急センター受入状況

総数	救急隊											傷病分類										トリアージ区分										転帰																																																											
	時間											内因性										外傷										1次										2次										3次										救急からの入院										転送										死亡									
	深夜	日勤	準夜	川崎南部	川崎中部	川崎北部	横浜	東京	その他	うち入院	うち入院	CPA	1次軽傷	2次中等症	3次重症	3次死亡	帰宅	計	救命救急	内科	外科	整形外科	脳外	小児	その他	転送	死亡																																																																
合計	4468	1633	1716	1119	3992	190	14	182	47	43	3088	1260	1380	279	0	2361	1116	968	23	2541	1537	401	845	74	71	41	2	103	47	343																																																													
1月平均	372.3	136.1	143.0	93.3	332.7	15.8	1.2	15.2	3.9	3.6	257.3	105.0	115.0	23.3	0.0	196.8	93.0	80.7	1.9	211.8	128.1	33.4	70.4	6.2	5.9	3.4	0.2	8.6	3.9	28.6																																																													
1日平均	12.2	4.5	4.7	3.1	10.9	0.5	0.0	0.5	0.1	0.1	8.5	3.5	3.8	0.8	0.0	6.5	3.1	2.7	0.1	7.0	4.2	1.1	2.3	0.2	0.2	0.1	0.0	0.3	0.1	0.9																																																													

ウ 令和3年度三次救急の内訳

(単位:人)

	計	重症急性冠症候群	重症大動脈疾患	重症脳血管障害	重症外傷	重症熱傷	急性中毒	重症消化管出血	重症敗血症	重症体温異常	特殊感染症	重症呼吸不全	重症急性心不全	重症出血性ショック	重症意識障害	肝不全	急性腎不全	その他	CPA ※心臓停止	CPAのうち蘇生成功数
合計	991	12	10	105	60	8	45	42	11	9	21	53	43	20	33	4	7	157	351	34
1日平均	82.6	1.0	0.8	8.8	5.0	0.7	3.8	3.5	0.9	0.8	1.8	4.4	3.6	1.7	2.8	0.3	0.6	13.1	29.3	2.8
罹病割合	100.00%	1.21%	1.01%	10.60%	6.05%	0.81%	4.54%	4.24%	1.11%	0.91%	2.12%	5.35%	4.34%	2.02%	3.33%	0.40%	0.71%	15.84%	35.42%	—

※受入全体中の亡者数317人 (救命救急センター受入全体の31.99%)

エ 令和3年救命救急センター患者受入状況 (件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (人)
388	335	335	392	361	294	395	371	450	405	343	399	4468

25 ロボット手術センター

センター長 原 智

(1) センター概要

当院では、2016年7月から、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ (da Vinci)」を用いた手術を開始し、これまでに前立腺癌、腎癌、胃癌などに対して、合計で300件以上のロボット支援手術を行ってきました。保険適応が拡大される中で、当センターは、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科を中心とした複数の診療科と臨床工学士が一つの部門として集約することで、万全の機器管理のもと、機能的に手術できる体制を構築し、よりハイレベルな「技術」「治療環境」「サポート体制」を提供してまいります。

【令和3年度の取組】

令和3年12月に腎盂尿管移行部狭窄症に対して、ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術を開始しました。

Ⅲ 部門概要

26 病態栄養治療部

部長 津村 和大

【診療科の紹介】

臓器にとらわれることなく系統的かつ全身的に疾患・病態を理解して、栄養管理をさまざまな疾患の予防と治療の基盤とする考え方が「病態栄養治療学」です。これを実践するためには、診療科・職種・施設横断的に連携しながら、正しい病態診断と栄養管理を進める必要があります。令和3年4月に新設された病態栄養治療部では、このような考え方を基盤として患者さんへの最適な治療提案を目指しています。

病態栄養治療学の考え方が求められる疾患は多岐にわたります。栄養代謝・内分泌・消化器・循環器・腎臓・呼吸器など臨床各科にまたがる幅広い疾患が重複する場合も、病態栄養の総合的な判断が求められます。近年では、高齢者におけるサルコペニア・フレイルの頻度かとみに高まりました。現在は、栄養代謝疾患・内分泌疾患に対する指導や治療に重点を置いて診療を行っています。

【令和3年度の取組】

開設初年度にあたる令和3年度は、適切な栄養管理を実践するための患者支援の質向上に努めました。公益社団法人日本糖尿病協会が提供する啓発・学習資材を積極的に活用することで、従来よりも手厚い栄養管理の実現に繋がりました。

人材育成面では、日本病態栄養学会の専門職育成事業や日本糖尿病協会が提供するe-ラーニングと連携した生涯学習を院内外の医療者に提供することで、地域医療への貢献にも努めました。

27 健康診査室

室長 津村 和大

【診療科の紹介】

健康診査室は、がんを含めた生活習慣病・慢性疾患の増加に対応して、健康寿命の延伸に貢献するための予防医療の実践と生活習慣改善指導に対応しています。健診関連の主な業務は、特定健康診査・後期高齢者健康診査・入学時入社時健康診断で、検診関連の主な業務には、川崎市がん検診（肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮がん検診）・川崎市骨粗しょう症検診・川崎市肝炎ウイルス無料検査（B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査）・川崎市国民健康保険PSA検査などがあります。

【令和3年度の取組】

令和3年4月に室長が交代となり、新体制のもと、糖尿病・脂質異常症・高血圧などの発症予防・進展抑制に役立つ生活習慣改善の情報提供体制を拡充しました。さまざまな教育支援資材を活用することで、特定健康診査における1人ひとりのリスク評価の結果に照らして必要と判断された支援の質向上を図っています。また、検査結果を予め確認して教育支援資材を手配する仕組みに見直すことで、待ち時間の大幅な短縮を実現しました。

1 看護部

令和3年度 看護部概況

令和3年4月、新規採用職員64名を迎え、看護職員635名（正規職員）で新年度がスタートしました。昨年、令和2年度を振り返り『COVID-19との闘い』と表現した記憶があります。あれから1年・・・状況は好転するどころか、感染は更に拡大傾向となっています。しかし、この1年を表現するならば『職員の団結力と対応力向上』と言えるのではないのでしょうか。

思い起こせば、COVID-19の第4波（4月）・第5波（8月）に襲われ、4月11日に3回目、8月1日に4回目となる救命病棟全フロアのCOVID-19専用化が余儀なくされました。その度に繰り返される病棟閉鎖・縮小、職員の突然の異動、これまでに20回以上にも渡り病床編成を行ってきました。もちろん、職員の負担は計り知れませんが、繰り返される度に職員が少しずつ強くなってきたように感じます。これまで、難関を乗り越えるため、より効果的・効率的な方法を試行錯誤しながら取り入れ、さまざまな経験を積み重ねてきました。その結果、対処法の引き出しの数が、確実に増えてきたと実感しています。全ての職種が協働し、状況を把握し、予測と準備をスピーディーに実施したことで、混乱を生じさせることなく対応し続けることができたのではないのでしょうか。COVID-19と一般診療の両立、そしてワクチン接種への協力等、この2年間の経験があつてこそその対応力ではないかと感じています。

そして、感染拡大第5波の中、年度途中での病院長交代。驚きと共に、少しでも新病院長をサポートしていきたいという身の引き締まる思いがいたしました。

このような状況の中、今年度も様々な取り組みを行ってきました。

まずは、14階南病棟のクリーンルーム開設です。運用にあたっては部署内で課題を抽出し、診療部と協働し効率的に病床運営を行ってきました。また、同部署による外来治療センターの運営、また外来患者さんの輸血・マルクの実施は、継続看護の上でも効果的であり、患者さんが安心して治療を受けられる環境を提供できたのではないかと思います。

二つ目は、認知症医療疾患センターおよび地域がん診療連携拠点病院の認定です。これまで念願であったこの施設認定は職員の士気を高め、更に質の高い医療・看護を提供していくための礎となりました。認定にあたっては、専従看護師たちの熱い思いと尽力があり、また、新たな取り組みに対し、学びを深め知識・技術を習得しようとする職員の学習意欲がありました。新たな取り組みは、学びと成長のチャンスであると感じています。

三つ目は、11月18日に開催された全国公立病院連盟総会、事務長会・看護部長会です。川崎病院が開催病院を務め、慣れない準備に追われました。コロナ禍において、開催も危ぶまれる中、感染対策を厳重に行い、ハイブリッド形式で開催することができました。看護部長会は、看護補助者の育成をテーマに事前アンケートを行い、当日の情報交換会では他施設の取り組みを共有する貴重な機会となりました。今回、開催病院として役割を果たすことができたのも、事務職の素晴らしいサポート力のおかげであり、心強い職員に支えられていることを改めて実感しました。

この1年の取り組みは、全てにおいて川崎病院らしい底力の賜であり、『職員の団結力と対応力向上』は、川崎病院の誇りとも言えます。常に走り続けている職員に感謝すると共に、私自身が川崎病院の一員でいられることに、ただただ感謝するばかりです。

副院長兼看護部長 千島 美奈子

(1) 看護職員配置数

(令和4年4月1日現在)

項目 看護単位	許可 病床数	稼働 病床数	助産師 看護師	会任 職員	夜勤人員		看護 助手
					準夜	深夜	
	713	596					
看護部配置数			627				
看護部 4月現在現在数			649				
14階北病棟 (内科・透析室)	47	36	32	0	3	3	5
14階南病棟・治療センター (内科)	51	36	36	2	3	3	5
13階北病棟 (心外・循環器内科)	51	46	33	3	4	4	5
13階南病棟 (内科)	53	36	33	1	4	4	6
12階北病棟 (泌・耳・眼・口腔)	51	46	33	0	3	3	2
12階南病棟 (脳・皮・放・リハ・耳)	53	48	32	1	4	4	5
11階北病棟・内視鏡センター (外科・消化器内科)	53	38	38	3	3	3	7
11階南病棟 (外科・肺外科・整形外科)	53	38	31	0	3	3	4
10階北病棟 (整形外科・形成外科)	53	48	31	2	3	3	6
10階南・感染症病棟 (婦人科・整形外科・泌尿器・乳腺外科・感 染症)	64	59	30	1	3	3	6
9階北病棟 (精神科)	38	36	15	5	3	2	1
9階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)	20	20	62	6	15	13	3
8階北病棟 (産科・新生児)	44	42	31	3	4	4	2
8階南病棟・小児科外来	41	41	25	2	3	3	3
NICU	6	6	11	2	2	2	0
GCU・新生児外来	18	12	12	1	2	2	0
5階ICU・CCU	12	8	26	1	4	4	1
5階 手術室			40	0	2	2	0
外来			23	17	0	0	6
副院長(看護部長)室			1				
看護部管理室			7	1			1
担当課長・看護師長			1(再掲)				
看護師長			19(再掲)				
外部配置			12				
産休・育休・病休・休職・派遣研修			55				

(2) 職員の出身校別内訳・年齢分布・平均年齢

ア 出身校別内訳

(令和4年3月31日現在)

種別	学校					
	人数	看護大学	助産師校	看護短期 大学	看護専門 学校	准看学校
総数	616人	134人	24人	149人	307人	2人
構成比(%)	100%	22%	4%	24%	50%	0%
助産師	29人	5人	24人	0人	0人	0人
構成比(%)	5%	1%	4%	0%	0%	0%
看護師	585人	129人	0人	149人	307人	0人
構成比(%)	95%	21%	0%	24%	50%	0%
准看護師	2人	0人	0人	0人	0人	2人
構成比(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%

イ 年齢分布

(令和4年3月31日現在) (単位:人)

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	1	1
22	1	26	27
23	0	45	45
24	2	40	42
25	4	30	34
26	1	31	32
27	2	8	10
28	1	22	23
29	0	21	21
30~34	4	77	81
35~39	4	67	71
40~44	3	55	58
45~49	0	65	65
50~54	5	61	66
55~59	2	32	34
60~	0	6	6
合計	29	587	616

ウ 平均年齢

(令和4年3月31日現在) (単位:歳)

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
34.9	36.2	36.2

2 医療安全管理室

室長 相浦 浩一

課長 榎原 弘成

(3) 勤続年数

【助産師:9.1年 看護師(准看護師含む): 10.5年 平均: 10.5年】
(令和4年3月31日現在)

年数	助産師	看護師 (准看護師含む)
1年未満	4人	53人
1年	2人	53人
2年	3人	44人
3年	3人	37人
4年～5年	4人	40人
6年～9年	3人	99人
10年～14年	3人	96人
15年～19年	2人	25人
20年～24年	3人	38人
25年～29年	4人	62人
30年以上	1人	30人

(4) 令和3年度看護職員採用・退職状況

採用者数	68人	助産師5名	看護師59名
退職者数	53人	助産師6名	看護師47名

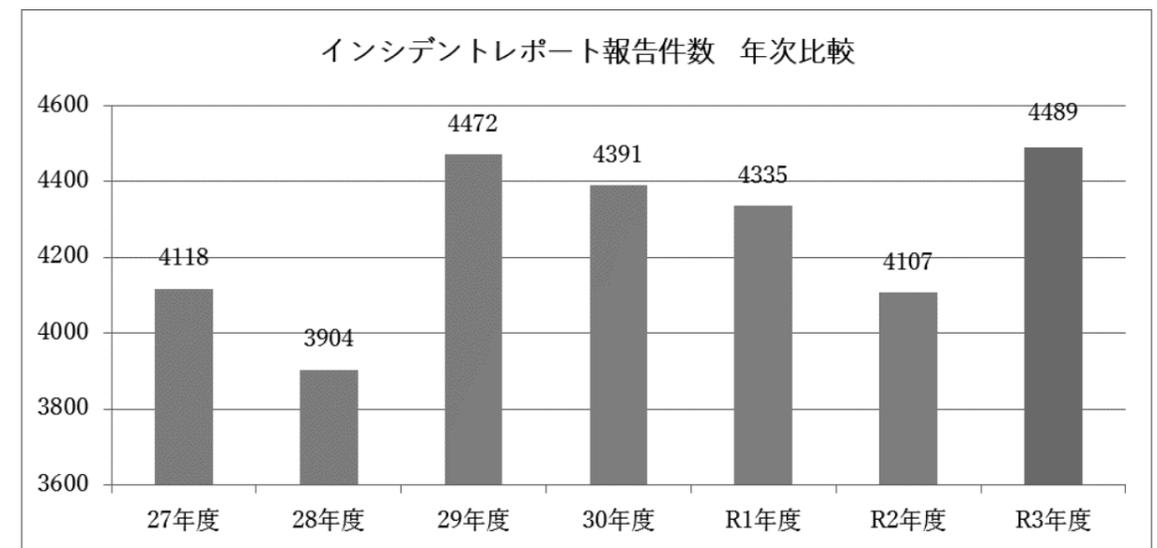
医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、当院における医療安全管理体制の構築と維持ならびに組織的な医療事故防止の取り組みを推進しています。

各部署から報告されるインシデントレポートの数は、年間4,000件を超えます。報告されたレポートは医療安全管理室で集計・集約し、医療安全対策に係るカンファレンスならびに医療安全関連の委員会等で検討しています。さらに、インシデント教訓事例については診療部、看護部、薬剤部、放射線診断科、検査科、食養科、リハビリテーション科、麻酔科（MEセンター）、事務局等、各部門・各職種と連携し、改善策を検討しています。また、週に1回、医療安全ラウンドを実施し、環境を含めた部署の医療安全管理の取り組み状況をもとに、改善策の検討を部署とともに進め、医療安全活動の中心となる医療安全部会を支援しています。組織的な課題については医療安全管理委員会との連携を基盤にし、医療安全管理に不可欠なシステム改善についてはシステム運用検討部会と連携するといったように、関係委員会との連携のもと、改善に取り組んでいます。

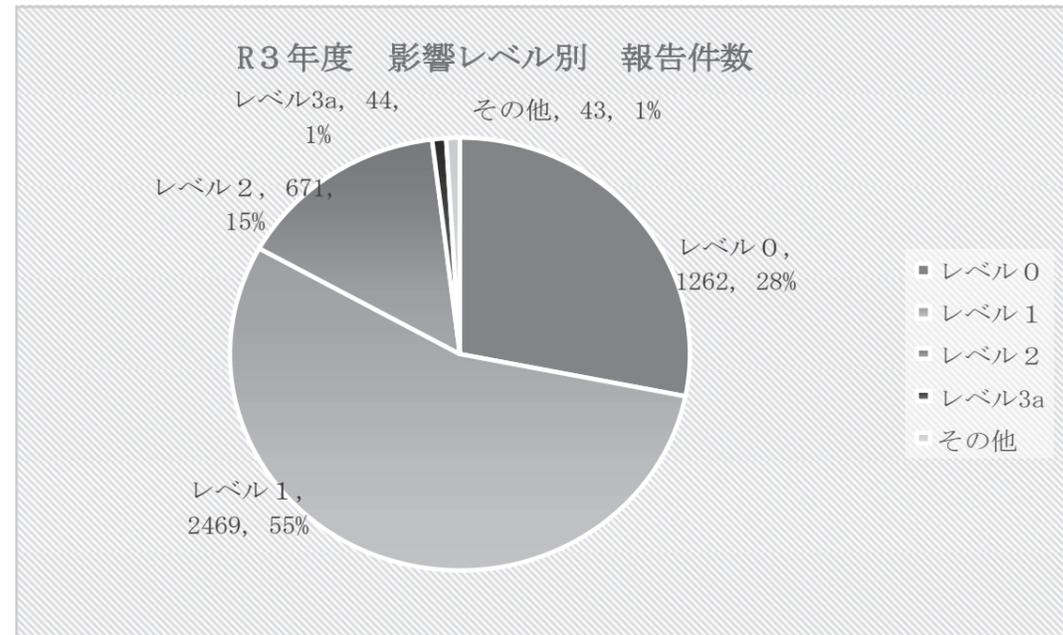
医療安全に係る職員教育について、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策と職員教育の両立をめざし、従来の集合研修中心の研修方法を見直し、＜薬剤＞＜医療機器＞＜診療用放射線＞＜輸血＞＜移動介助＞＜胸腔穿刺に関する提言＞＜医療安全文化＞の7テーマで電子カルテ掲示板を活用した研修を企画、実施しました。その結果、延べ1095名（受講率89.9%）の職員が受講しました。今後も、効果的で受講しやすく興味を持てる研修をめざして取り組みます。

質の高い医療提供にあたっては、患者・家族に十分な説明を行い、その意思を尊重することが不可欠であり、患者・家族の理解を確かめながら、プロセスを大切に丁寧なサービス提供に努める必要があります。この点について、当院の医療に対する疑問や不安を抱えている患者・家族に寄り添い、患者総合サポートセンターとの連携のもと、アドボカシー相談員による対応を行い、患者・家族の権利を擁護し、必要な場合、患者・家族と医療者との対話を推進する支援を行っています。

(1) 令和3年度インシデントレポート報告件数ならびに年次比較



(2) 令和3年度インシデントレポート影響レベル別報告件数



(3) 主な改善項目

項目	目的 改善内容
医療安全管理マニュアルの改訂	患者誤認防止の規定を強化し、注射・内服については確認行動を具体化し、身体抑制の実施基準については三原則を明示した。
医療法第6条に基づく医療事故調査の流れ	医療法第6条に基づく医療事故調査制度に基づく対応、院内死亡事例発生時の対応、AiCT手順を改訂した。
医療機器の安全管理に関する院内規定の改訂	医療機器管理マニュアルの改廃を明らかにし、現状で管理上必要な規定を策定し、職員に周知した。
暴言・暴力対応マニュアルの改訂	暴言・暴力マニュアルを改訂し、ハラスメントの視点を規定し、電子カルテに掲載、職員に周知した。
診療録管理委員会と連携した「説明と同意に関する指針」の改訂	診療録委員会と医療安全管理委員会で連携し、「説明と同意に関する指針」について院内で統一すべき内容、形式と診療科・医師による裁量を認める点を明確化した。

3 感染対策室

室長 坂本 光男
課長 井原 正人

感染対策室は平成20年に設立され、感染症内科医師、感染管理認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、庶務課職員5名で構成されている。

各部門から選出された構成員が一丸となり医療関連感染の発生状況を把握し感染率低減に向け取り組んでいる。感染制御チーム(ICT)、抗菌薬使用適正チーム(AST)は週1回の院内ラウンド及びカンファレンスを行い感染対策や各種検査、抗菌薬に関して指導・助言を行っている。

また川崎市内で唯一の第2種感染症指定医療機関であり、2020年2月6日よりダイヤモンドプリンセス号からの受け入れを早々に実施。コロナ診療における適切な療養環境の整備、関わる医療従事者への教育に取り組んでいる。

(1) 院内研修

月	実施対象	テーマ	参加人数
4月	新採用者(医師・専修医)	医師採用時オリエンテーション 感染対策について	39名
4月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 感染管理について	65名
4月	新採用者(研修医)	初期研修医オリエンテーション 感染対策について・感染対策の基本	15名
4月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 個人防護具の着脱について	66名
4月	新採用者(検査科)	検査科 個人防護具の着用について	4名
5月	川崎市看護協会(会員)	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	20名
6月	院外	新型コロナウイルス感染症から身を守るために できること(WEB研修)	30名
6月	新採用者(看護師)	新規入職者研修 医療関連感染を防止するために	70名
6月	安全・感染管理委員会の看護師	標準予防策 手指衛生と個人防護具	24名
6月	藤崎保育園(保育士・看護師・用務員)	新型コロナ(COVID-19) 感染対策の基本	22名

6月	検査科職員	検査部門 検体採取	5名
6月	大島保育園 (保育士・看護師・用務員)	新型コロナ(COVID-19) 感染対策の基本	15名
7月	高齢者福祉協会	新型コロナ(COVID-19) 感染対策の基本	50名
7月	新採用者 (医師事務作業補助者)	医師事務作業補助研修 感染対策の基本について	6名
7月	川崎市看護協会(会員)	新型コロナ(COVID-19)	21名
7月	介護施設葵の園(職員)	N95マスクとフィットテスト	30名
8月	コロナ病棟看護師	新型コロナウイルス感染症エリアで勤務される方へ	96名
8月	市内福祉施設職員	令和3年度 福祉職員向け現任研修「感染対策」 新型コロナウイルスの感染対策	60名
8月	市内福祉施設職員	令和3年度福祉職員向け現任教育 新型コロナウイルスの感染対策	20名
9月	川崎市看護協会(会員)	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	23名
10月 から 3月	全職員 (委託除く)	個別学習研修会 テーマ1「医療従事者に推奨されるワクチン」 178名 テーマ2「カテーテル関連血流感染症」 183名 テーマ3「環境整備」 684名 テーマ4「抗菌薬の副作用について」 122名 テーマ5「インフルエンザ治療薬」 182名 テーマ6「どの抗菌薬がいい？アンチバイオグラ ムを確認しよう！」 83名 テーマ7「微生物検査の検体採取について」 97名 テーマ8「細菌とウイルスの違い」 274名 テーマ9「グラム染色の利点と欠点について」 35名 テーマ10「食中毒について」 322名 テーマ11「MRSAについて」 267名	

10月	特別養護老人ホーム南幸	新型コロナウイルスの感染対策	36名
10月	川崎市看護協会(会員)	復帰支援研修会 感染対策の基礎、新型コロナ(COVID-19)	24名
11月	市内福祉施設職員	感染対策の基本について	20名
11月	宮前消防署職員	川崎市立川崎病院 出前講座 新型コロナの感染対策の基本	35名
11月	食養科職員	衛生研修会 今重要な感染対策って？	27名
12月	市内福祉施設職員	老人福祉センター看護職等職員研修会 新型コロナ(COVID-19) 新型コロナの感染対策～これからの備えて～	18名
1月	市内医療従事者	認定看護師による勉強会 知っとくナース 感染症と共存する人類	33名

(2) 予防接種

予防接種の種類/件数

ワクチン種類	人数
水痘ワクチン	15
風疹ワクチン	17
ムンプスワクチン	26
麻疹ワクチン	75
MR ワクチン	47
HBs ワクチン	51
インフルエンザワクチン	1643

新型コロナワクチン接種

対象	人数
院内職員 (正規及び委託職員含む)	2796

(3) 地域との連携
感染カンファレンス

	開催日	開催場所	参加医療機関
第1回感染防止対策加算	令和3年7月8日	WEB会議	臨港病院
第2回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和3年9月17日	WEB会議	協議会 会員施設 35
第3回感染防止対策加算	令和3年12月16日	WEB会議	臨港病院
第4回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和4年3月11日	WEB会議	協議会 会員施設 32
第1回地域連携加算 相互ラウンド	令和3年11月19日	井田病院	井田病院
第2回地域連携加算 相互ラウンド	令和3年12月21日	当院	宮川病院

(4) 新型コロナウイルス感染症患者受入状況

令和3年度は新型コロナウイルス感染症患者を398名受入れし、入院加療を行いました。(令和2年2月から令和3年度までは延べ731名)

また、病院内で自施設・近隣医療機関の医療従事者に向けてワクチン接種を行い26,824名に新型コロナワクチン接種を行いました。また、川崎市が主催の集団ワクチン接種会場へ医師、看護師、薬剤師を派遣しました。

専従看護師が高齢者施設や消防、保育園に出向き、出張出前講義を行い、施設内ラウンドや、きめ細かな感染対策の指導を行いました。

4 臨床研究支援室

室長 津村 和大

臨床研究支援室は、質の高い臨床研究の推進と臨床現場への迅速な成果還元を目的として、平成22年4月に開設されました。さらに、当院で実施される臨床研究の急増に対応しながら、個人情報の適正管理をはじめとした各種支援を展開してきました。また、治験事務局の機能も担い、治験および製造販売後調査の依頼者への対応や治験必須文書の管理・保管を行っています。そのほか、治験審査・臨床研究倫理審査委員会、臨床研究支援委員会(旧研究部会)並びに研究交流会の運営にも携わっています。

令和3年4月に室長が交代し、新体制のもと、川崎病院の全職種に対して幅広い支援を展開しています。その成果は研究交流会の発展に結実し、令和3年度開催の第14回研究交流会には過去最多の31演題が報告されました。この中で特に優秀な演題に対しては、一層充実した研究とするための支援を継続し、第60回全国自治体病院学会における質の高い発表に繋げています(第60回全国自治体病院学会では、当院からの報告のうち2演題が優秀演題に推薦されました)。

(1) 組織

室長 1名(医師:国立研究開発法人日本医療研究開発機構プログラムオフィサー兼務)
 担当部長 1名(薬剤師:薬剤部長)
 担当課長 1名(事務職:庶務課長)
 担当係長 3名(庶務課・医療安全管理室・薬剤部)
 他兼務 2名(看護部・検査科)
 臨床研究コーディネーター(CRC) 3名

(2) 令和3年度 臨床研究審査状況

審査申請総数は31件。うち川崎病院の実施施設とする単施設研究が10件、多機関共同研究が21件。

(3) 令和3年度 治験審査状況

新規紹介となった治験総数は37件。継続中の治験は5件。

(4) 令和3年度 職員教育

計画立案から成果を得るまでのあらゆる段階において多角的に職員を支援しました。コロナ禍に即応して、Web情報の配信・教育資料の提供等を活用した情報提供に切り替えることで、現地集合型研修の実施が困難な状況においても充実した職員教育を継続することができました。また、人を対象とする医学系研究及び治験に係る各種相談に専門家が応じることによって、臨床研究や治験に参加する職員の負担を軽減しました。

5 薬剤部

部長 小林 加寿夫

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、病棟薬剤関係業務、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。令和3年度はコロナ感染症の流行に伴う入院及び外来患者数の変動により調剤関係業務、入院患者の持参薬鑑別業務等において、前年度を大幅に上回りほぼ例年並みの実績となりました。また、泌尿器科を対象にした薬剤師外来業務については、639件/年と前年度より約90件増加しました。

病棟薬剤業務部門においては、コロナ感染症の影響がありましたが、10南病棟が前年度より大幅に増加しましたので、薬剤管理指導件数は昨年度より344件増加しました。抗がん剤を主とする化学療法調製業務についても、各領域において顕著に増加し、全体では2219件増加しました。

薬品管理部門では、がん化学療法の件数増加に伴う抗がん剤の購入数の増加等の影響により、薬品購入金額は前年度より約7億4千万円の増加となりました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が増加したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約7,000枚増加し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約3,100枚増加しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は発熱症状を有する外来患者に対する院内処方数が増加したため昨年度よりやや減少しました。ウに持参薬確認件数を示しましたが、昨年度より約450件増加しました。エに月別、病棟別TPN調製件数を示しました。TPNの調製については、昨年度より一般病棟における調製件数は262件増加し、NICUの調製件数は115件減少しました。オに化学療法調製件数を示しました。昨年度より外来は1057件、入院は1163件増加しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度から、約23,000枚増加しました。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	53,006	218.1	8,255	34.0	8N	4,364	12.0
精神・神経科	14,484	59.6	484	2.0	8S	2,782	7.6
小児科	9,286	38.2	2,215	9.1	8W	729	2.0
外科	6,005	24.7	565	2.3	9N	4,153	11.4
心臓血管外科	757	3.1	2	0.0	9S	4,501	12.3
脳神経外科	1,223	5.0	82	0.3	9W	1,704	4.7
整形外科	10,593	43.6	1,064	4.4	10N	8,896	24.4
形成外科	732	3.0	123	0.5	10S	10,179	27.9
皮膚科	7,768	32.0	208	0.9	11N	10,214	28.0
泌尿器科	7,938	32.7	146	0.6	11S	5,479	15.0
産婦人科	5,196	21.4	58	0.2	12N	9,704	26.6
眼科	3,387	13.9	41	0.0	12S	10,548	28.9
耳鼻咽喉科	3,061	12.6	77	0.2	13N	11,542	31.6
放射線科	216	0.9	8	0.3	13S	9,768	26.8
リハビリテーション科	20	0.1	2	0.0	14N	9,878	27.1
口腔外科	3,879	16.0	20	0.1	14S	10,473	28.7
救命救急センター	639	2.6	697	2.9	ICU	1,698	4.7
計	128,190	528	14,047	39	計	116,612	319

稼働日数 外来院外 243日 外来院内 365日 入院 365日

イ 令和3年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	院外処方箋枚数	外来処方箋枚数				計	院外処方箋発行率(注2)		
		院内処方箋枚数(注1)			計		(I)	(II)	(III)
		(A)	(B)	(C)					
令和3年 4月	11,073	344	304	433	1,081	12,154	91.1%	94.5%	97.0%
5月	9,578	335	374	348	1,057	10,635	90.1%	93.1%	96.6%
6月	11,180	322	336	377	1,035	12,215	91.5%	94.4%	97.2%
7月	10,790	347	483	406	1,236	12,026	89.7%	92.9%	96.9%
8月	10,586	543	387	363	1,293	11,879	89.1%	91.9%	95.1%
9月	10,687	388	244	424	1,056	11,743	91.0%	94.4%	96.5%
10月	10,762	336	275	457	1,068	11,830	91.0%	94.6%	97.0%
11月	10,444	386	244	422	1,052	11,496	90.8%	94.3%	96.4%
12月	11,440	330	333	411	1,074	12,514	91.4%	94.5%	97.2%
令和4年 1月	10,381	524	402	400	1,326	11,707	88.7%	91.8%	95.2%
2月	9,414	755	336	397	1,488	10,902	86.4%	89.6%	92.6%
3月	11,855	518	305	469	1,289	13,144	90.2%	93.5%	95.8%
計	128,190	5,128	4,023	4,907	14,055	142,245	90.1%	93.3%	96.2%

(注1) (A)：労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

(B)：救急外来処方（主に夜間）

(C)：検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

(注2) (I)：院内処方せん枚数に(A)、(B)、(C)を含む

(II)：院内処方せん枚数に(A)、(B)を含む

(III)：院内処方せん枚数に(A)を含む

ウ 持参薬確認件数

月別病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	1	1	1	1	1		1	2	2	2	3	4	19
14S	2	2	3					2	2			1	12
13N	41	27	35	33	42	17	35	33	30	33	24	33	383
13S	23	14	16	17	10	3	29	29	24	16	2	9	192
12N	106	119	130	120	101	97	116	104	95	109	92	98	1,287
12S	23	21	30	27	30	37	34	32	23	33	29	23	342
11N	51	67	83	37	78	61	69	45	47	43	37	56	674
11S	56	2		34				57	48	44	46	49	336
10N	52	74	86	51	76	26	67	67	58	78	45	52	732
10S	84	70	83	73	81	71	98	91	77	68	61	68	925
9N	20	3	7	11	8	3	8	2	4	2	4	6	78
9S							1						1
8N	11	4	14	11	5	8	6	10	11	13	12	9	114
8S	1	1	5	3	3	2	1	1	4	1	2	6	30
ICU	1		1	1	2		1			1	2		9
合計	472	405	494	419	437	325	466	475	425	443	359	414	5,134

エ 令和3年度月別、病棟別TPN調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8S													
9N							15	1				12	28
10N						6				4	2	8	20
10S													
11N	13	34	63	35	55	37	6	2		2	8	31	286
11S	15	5		28	2						40	5	95
12N									29	1			30
12S				22	16	8			8	3	2		59
13N	2						15	12				13	42
13S	1		35	8	11		1		1				57
14N		5	26	40	40		16	49	10	18	13	10	227
14S	24	12	3		5	40	56	60	33	39	31		303
ICU		4	8	12	1	6	1		5	7	3	4	51
TPN計	55	60	135	145	130	97	110	124	86	74	99	83	1,198
NICU	52	19	46	34	39	12	9	33	8	31	124	26	433

オ 令和3年度月別、外来（診療科・臓器別）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

診療科 ・入院（臓器別）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
造血器	107	102	129	86	85	97	116	112	89	123	121	184	1,351
肺	67	61	67	58	67	66	69	72	88	80	75	107	877
食道	4	1	2	1	2	2	2	1	1	2	3	2	23
胃	12	12	23	14	17	13	15	9	12	14	15	17	173
肝・胆・膵	31	34	39	40	31	46	46	41	41	41	31	36	457
乳腺	32	28	33	22	26	25	31	35	26	26	27	21	332
大腸	45	39	46	42	46	52	49	56	55	53	61	64	608
脳神経外科	6	7	5	8	9	4	7	7	5	6	6	5	75
産婦人科	10	7	7	8	6	6	9	8	8	11	11	21	112
泌尿器科	16	14	12	14	15	11	14	16	25	19	15	23	194
耳鼻咽喉科	19	14	24	17	22	24	27	24	30	34	21	26	282
皮膚科	4	6	4	4	4	5	8	8	12	9	10	12	86
エンドキサンパルス	5	3	2	2	2	4	4	5	1	1	3	4	36
がん以外	38	37	39	43	38	47	45	47	50	56	41	61	542
外来合計	396	365	432	359	370	402	442	441	443	475	440	583	5,148
造血器	109	115	88	116	118	115	125	103	109	104	117	133	1,352
肺	74	56	71	97	102	127	108	92	96	114	108	124	1,169
食道	22	8	11	7	2	11	33	36	28	33	23	48	262
胃	6	7	0	1	2	1	0	4	10	12	2	7	32
肝・胆・膵	2	5	7	0	2	2	2	4	10	12	2	7	55

乳腺	0	1	1	0	1	0	0	2	1	1	2	3	12
大腸	8	12	6	10	6	8	6	6	3	6	5	9	85
脳神経外科	0	3	3	4	2	0	0	1	5	2	1	5	26
産婦人科	3	6	4	6	7	7	11	8	11	10	9	11	93
泌尿器科	15	20	14	11	15	9	12	12	27	25	25	18	203
耳鼻科	4	3	7	26	22	36	35	14	12	9	17	11	93
エンドキサンパルス	1	2	5	4	4	4	1	4	2	6	6	6	45
がん以外	4	4	0	2	1	4	8	7	5	4	1	1	41
入院合計	250	246	220	288	286	328	344	295	312	331	320	381	3,601
総合計	646	611	652	647	656	730	786	736	755	806	760	964	8,749

カ 令和3年度月別注射箋枚数（入院）

月別	注射箋枚数
4月	12,255
5月	13,324
6月	12,786
7月	13,408
8月	14,843
9月	13,337
10月	13,838
11月	13,264
12月	13,945
1月	14,381
2月	14,140
3月	14,272
合計	163,793

(2) 薬剤管理指導業務

令和3年度は、コロナ感染症による入院患者動向の影響を受けましたが、年間としては指導患者数6,508人（前年比7.8%増）、算定件数9,208件（前年比3.8%増）となりました。診療科では整形外科が前年比17.9%、病棟では10階病棟が前年比75.0%と大幅な増加となりました。

診療科別・病棟別年間指導対象患者数及び薬剤管理指導件数

診療科	患者数	薬剤管理指導件数	病棟	患者数	薬剤管理指導件数
内科	2,040	2,756	8N	12	15
精神・神経科	6	6	8S	7	7
小児科	2	2	9N	6	6
外科	806	1,092	9S	17	20
心臓血管外科	12	13	9W	6	7
脳神経外科	9	10	10N	1,372	2,166
整形外科	1,406	2,348	10S	1,513	2,404
形成外科	82	119	11N	720	925
皮膚科	101	146	11S	83	103
泌尿器科	892	1,071	12N	1,613	2,046
産婦人科	429	637	12S	204	247
眼科	167	176	13N	493	576
耳鼻咽喉科	351	519	13S	177	232
歯科口腔外科	95	126	14N	164	223
救急科	110	187	14S	161	222
			ICU	8	9
計	6,508	9,208	計	6,508	9,208

薬剤総合評価調整加算件数 36件

(3) 薬剤師外来業務

泌尿器科及び整形外科において、手術及び検査のため入院予定の外来患者を対象に、常用薬の確認や術前中止薬剤の中止指示などを、薬剤師外来で行っています。

コロナ禍による手術件数減少があった昨年度に比べ、手術件数が増加したため泌尿器科で126件/年増加しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
泌尿器科	52	45	56	57	59	43	63	49	54	47	57	57	639

(4) 薬品管理業務

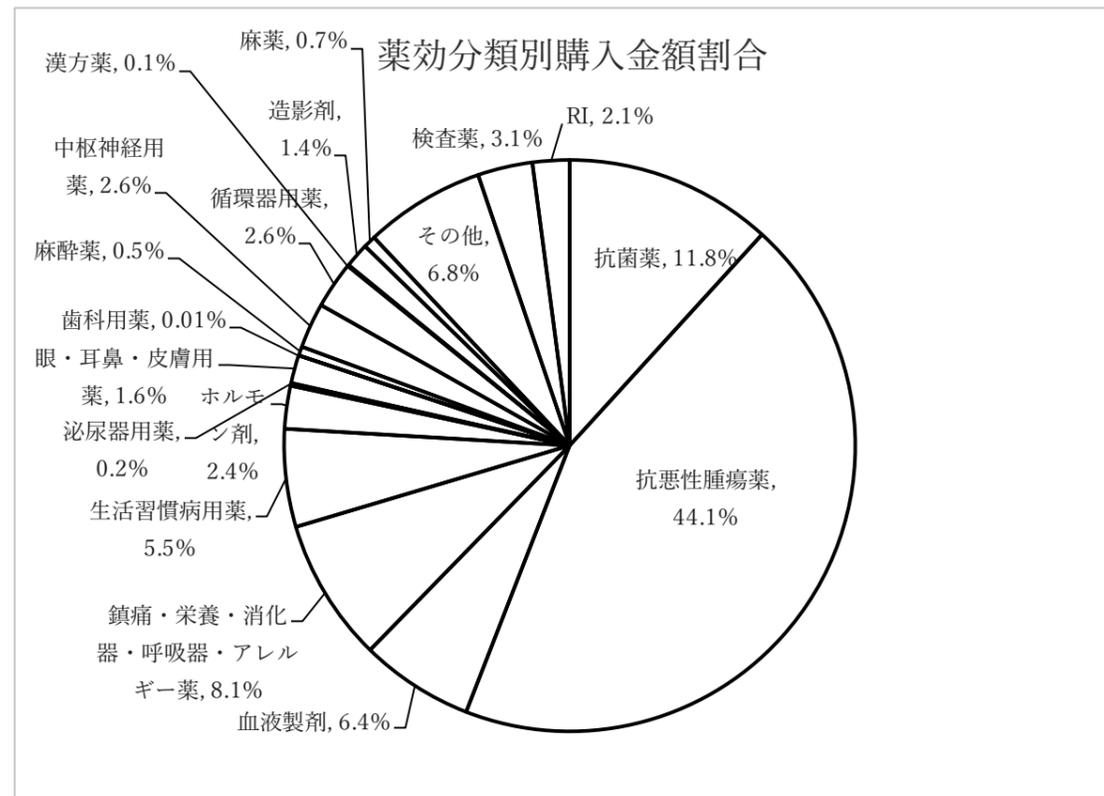
薬品購入金額は昨年度に比べ約129.7%、金額にして約7億4千万円の増加となりました。先発医薬品から後発医薬品への変更による減額効果以上に、がん化学療法の件数増加に伴う抗がん剤の購入数の増加、相次ぐ出荷調整等への対応として在庫を例年よりも多く保有したこと等の影響により前年度よりも増加しました。

〔薬品使用状況〕

ア 区分別使用割合

区分	比率 (%)	区分	比率 (%)
内服用薬品	15.44	その他薬品	0.69
注射用薬品	73.37	麻薬	0.69
外用薬品	1.43	血液	3.18
検査薬品	3.11	放射性薬品	2.09

イ 薬効分類別購入金額割合



ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

令和4年3月における後発医薬品採用率及び使用率は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品採用率 (品目シェア)
	921	497	1,418	35.05%
入院使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品使用率 (数量シェア)
	223,664	202,076	367,663	90.3%
外来使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品使用率 (数量シェア)
	30,778	27,613	64,809	89.7%

(5) 医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度より105件増加しました。

令和3年度月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレアボイド報告 (様式1)				2									2
プレアボイド報告 (様式2)	10	12	23	10	12	10	14	12	10	18	14	12	157
プレアボイド報告 (様式3)	3	8	14	6	6	7	9	6	6	13	4	12	94

様式1：重篤化等回避報告
 様式2：未然回避報告
 様式3：薬物治療効果の向上

(6) 製剤業務

当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進し、院内製剤品目は必要最小限としています。製剤総量は昨年度と同程度でした。

主な製剤総量(令和3年4月～令和4年3月)

薬品名	規格	数量	薬品名	規格	数量
3%亜硝酸ナトリウム注射剤	10mL	0	ZENTEL	30mL	3
5%フェノール注射液	5mL	7	2.5%酢酸	100mL	35
6倍PAヨード洗顔液	50mL	411	2.5%酢酸	500mL	71
塩酸エピネフリン0.03%	50mL	672	3%硝酸銀液	10mL	0
滅菌エピネ・キシロ1:1	50mL	64	20%硝酸銀液	20mL	4
滅菌グリセリン	30mL	15	精製水	10000mL	13
脱気水	1000mL	91	生理食塩水	10000mL	124
滅菌ピオクタニン2%	10mL	338	液状フェノール	10mL	2
0.1%プリリアントブルーG染色液	5mL	60	1%外用ピオクタニン	500mL	0
滅菌テカイン液0.3%	50mL	40	皮膚インキ	120mL	1
滅菌テカ・エピネ1:1	50mL	64	ポドフィリンチンキ	50mL	0
リファンピシン液0.2%	500mL	2	2%ホルマリンアルコール	500mL	1
1.2%口腔外科用ルゴール	100mL	38	5%内服用ルゴール	500mL	5
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5mL	10	1%内服用ルゴール	100mL	6
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5mL	12	1.2%ルゴール液	500mL	12
1%塩酸点眼液	5mL	0	0.8%ルゴール液	500mL	6
4%キシロカイン点眼液 分注	5mL	220	0.03M水酸化ナトリウム液	300mL	5
20%血清点眼液	5mL	18	5%イオウクリーム	100g	0
2%セフトジジム点眼	5mL	15	水性ゲル	450mL	4
1%バンコマイシン点眼	5mL	15	5%チンクレスタミンクリーム	100g	10
プリピナ点鼻液 分注	10mL	28	2%ハイドロキノン	10g	60
ローズベンガル点眼1%	50mL	0	5%ハイドロキノン	10g	48
γ-BHC ローション	500mL	0	パッチテスト	5g	11
2%SADBE アセトン	50mL	6	プリック(SPT)テスト	10mL	2
1%SADBE アセトン	50mL	3	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	3
0.1%SADBE アセトン	50mL	3	モース氏ペースト	100g	0
0.01%SADBE アセトン	50mL	5	0.1%レチノイン酸	10g	70
0.001%SADBE アセトン	50mL	2	0.2%レチノイン酸	10g	25
0.0005%SADBE アセトン	50mL	0	チラーヂンS坐薬	個	88

令和3年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注射剤	0本	内・外用液剤	1,421L
点眼薬・点鼻薬等	318本	軟膏剤	6kg
その他	161L	坐薬	88個

(7) 薬学生実務実習受入状況

令和3年度の受入人数は、慶應義塾大学2名、帝京大学1名、星薬科大学2名、横浜薬科大学1名の計6名でした。

6 検査科

部長 津村 和夫

課長 安部 さやか

検査科は、39名の医師・臨床検査技師・看護師と5名の兼務医師（病理診断科・放射線診断科・内科）が検査業務を支えています。令和3年4月に部長および担当課長が交代し、新体制のもと、検査科の全職員が関連医学会・技師会・各種認定機構等が定める多彩な専門資格の取得を目指し、質の高い臨床検査業務を実践しています。

検査科の組織と業務内容

検査科は、(1) 生理検査部門、(2) 病理検査部門、(3) 細菌検査部門、(4) 血液センター（輸血部門）、(5) 検体検査部門（委託）、(6) 採血室 の6部門で構成されます。

生理検査部門は、心電図検査・血圧脈波検査・呼吸機能検査・筋電図検査・誘発電位検査・脳波検査・各種超音波検査（心臓・腹部・体表・血管等）・超音波ガイド下の生検等を担います。病理検査部門は、組織診断・細胞診断・手術中の迅速診断・病理解剖を主な業務としています。細菌検査部門では、提出された検体（喀痰・咽頭粘液・尿・便・膿・血液など）から感染症の原因となる細菌の分離・同定・薬剤感受性検査を行っています。さらに、感染対策チーム（ICT）の一員として薬剤耐性菌の発生状況調査や院内ラウンドに参画します。休日を含めて、新型コロナウイルス遺伝子検査（変異株の確認を含む）に対応することで、病院全体の感染症対策に貢献してきました。血液センター（輸血部門）は、輸血に関連する検査のほか、血液製剤管理を24時間体制で行っています。検体検査部門（委託）では、検体の受け付けと検査結果報告を一括管理しています。尿・末梢血・生化学・免疫等の各種検査を1カ所に集約することで、効率性・機能性の向上に努めています。採血室では、血液採血を主な業務としていますが、患者さんが自宅で採られた尿・便・痰などの検体受け取りも担います。

新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症の対応では、令和2年度比287.5%に及ぶ9,637件のウイルス遺伝子検査（LAMP法）を実施しました。そのうち31.9%にあたる3,072件は夜間休日の検体抽出によるもので、救急医療の提供や緊急手術対応と適切な感染管理の両立を、検査業務の面から支えました。

業務の精度管理と学術活動

質の高い臨床検査業務の遂行の基盤となる精度管理については、技師会・関連団体等のサーベイに参画することで、質の高い内部精度管理及び外部精度管理を継続しています。また、令和3年度は従来以上に学術活動へ積極的に参画することで、生涯学習と研鑽の質向上に努めました。第14回川崎病院研究交流会では、検査科として過去最多の4演題を発表しました。

(1) 生理検査部門

項目	令和2年度			令和3年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
心電図	13,117	2,841	15,958	13,783	2,860	16,643
CVRR	17	45	62	29	82	111
心室遅延電位	0	0	0	1	9	10
運動負荷	193	3	196	244	6	250
起立負荷	126	53	179	272	84	356
ホルター	250	9	259	316	5	321
トレッドミル	62	1	63	60	6	66
負荷心肺機能検査	2	3	5	5	5	10
ABI	834	137	971	1,025	211	1,236
SPP	16	6	22	15	32	47
TBI	27	1	28	21	3	24
一般肺機能（SVC）	1,056	179	1,235	1,231	189	1,420
一般肺機能（FVC）	1,056	179	1,235	1,231	189	1,420
機能的残気量	50	12	62	72	10	82
肺拡散能力	50	12	62	71	10	81
C・ボリューム	7	2	9	1	1	2
薬剤吸入試験	3	3	6	2	1	3
呼気NO測定	183	25	208	165	11	176
筋電図	193	18	211	275	15	290
神経伝導検査	1,559	480	2,039	1,773	482	2,255
脳波	668	353	1,021	761	248	1,009
脳波(眠剤使用)	5	82	87	6	79	85
ABR	8	34	42	17	31	48
VEP						
SEP						
VEMP						
新生児聴覚スクリーニング	3	647	650	8	715	723
心エコー	1,919	1,087	3,006	2,240	1,117	3,357
経食道心エコー	4	11	15	4	13	17
腹部エコー	3,126	623	3,749	3,307	582	3,889
体表エコー	2,245	140	2,385	2,314	149	2,463
血管エコー	454	447	901	671	500	1,171
エコー下生検・穿刺	220	43	263	289	38	327
モニタリング	0	11	11	0	34	34
合計	27,453	7,487	34,940	30,209	7,717	37,926

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項目	令和2年度			令和3年度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病理組織検査	2,678	4,393	7,071	2,939	4,871	7,810
病理術中迅速検査	4	233	237	9	198	207
免疫染色	338	791	1,129	412	872	1,284
特殊染色	89	592	681	117	697	814
電子顕微鏡検査	0	0	0	0	0	0
細胞診検査	5,825	1,362	7,187	6,320	1,500	7,820
細胞診術中迅速検査	0	20	20	0	4	4
病理解剖	2	16	18	2	13	15
合計	8,936	7,407	16,343	9,799	8,155	17,954

イ 剖検状況

科別剖検状況	令和2年度				令和3年度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内科	4,476	257	18	7.00	4,879	242	11	4.55
神経科								
小児科	963	0			1,162	0		
外科	1,568	28			1,565	17	1	5.88
脳神経外科	242	12			273	16	1	6.25
整形外科	1,110	8			1,140	4		
形成外科	64	0			97	0		
心臓血管外科	48	0			40	1		
皮膚科	137	1			137	1		
泌尿器科	786	8			871	9	1	11.11
産科・婦人科（死産児）	1,456	2			1,544	3		
眼科	186	0			175	0		
耳鼻咽喉科	286	1			330	3		
リハビリテーション科	0	0			0	0		
放射線科	0	0			0	0		
歯科口腔外科	82	0			87	0		
救命救急センター	758	298			671	314	1	0.32
感染内科	13	1			0	0		
感染小児科	0	0			0	0		
精神科	200	0			194	0		
合計	12,375	616	18	2.92	13,165	610	15	2.46

ウ 臨床支援業務

項目	令和2年度			令和3年度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2,034		2,034	2,013		2,013

(3) 細菌検査

項目	年度	令和2年度			令和3年度		
		外来	入院	合計	外来	入院	合計
塗抹鏡検		2,715	3,164	5,879	2,671	3,233	5,904
培養 同定	口腔・呼吸器	1,022	1,581	2,603	1,051	1,539	2,590
	消化器	221	818	1,039	207	779	986
	泌尿器・生殖器	2,186	1,044	3,230	2,183	1,164	3,347
	血液・穿刺液	3,448	3,788	7,236	3,047	4,023	7,070
	その他	306	395	701	295	445	740
嫌気性培養		3,994	4,867	8,861	3,936	5,094	9,030
薬剤 感受 性	1 菌種	1,334	1,034	2,368	1,359	1,055	2,414
	2 菌種	253	290	543	261	296	557
	3 菌種以上	87	110	197	115	116	231
薬剤耐性菌		65	82	147	56	76	132
酵母様真菌薬剤感受性		-	-	-	0	1	1
大腸菌抗原		122	118	240	10	10	20
大腸菌ベロトキシン		2	0	2	14	16	30
肺炎球菌抗原		0	0	0	0	0	0
ヘモフィルス抗原		0	0	0	0	0	0
カンジダ		0	0	0	0	0	0
トリコモナス		0	0	0	1	0	1
クラミジア		0	1	1	1	0	1
結核菌LAMP法		26	67	93	18	66	84
コロナLAMP法		6,588	924	7,512	13,943	2,282	16,225
合計		22,304	18,201	40,505	20,155	29,125	49,280

※令和2年5月よりコロナLAMP法検査を開始しました。

※令和3年4月より酵母様真菌薬剤感受性検査を開始しました。

(4) 血液センター

ア 検査件数

	令和2年度			令和3年度		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計
血液型ABO式及びRh式	5,467	835	6,302	5,106	742	5,848
抗体スクリーニング 含む抗Dia抗体検査	4,190	672	4,862	4,114	872	4,986
ABO式亜型の同定	7	0	7	5	1	6
その他の血液型検査	1	0	1	0	0	0
抗体価	19	7	26	10	4	14
交差試験	503	1,994	2,497	717	2,502	3,219
直接クームス	130	273	403	210	253	463
間接クームス	32	38	70	74	42	116
出血時間	1	3	4	2	2	4
合計	10,350	3,822	14,172	10,238	4,418	14,656

イ 血液使用数量

	単位	令和2年度			令和3年度				
		外来	入院	合計	外来	入院	合計		
製剤									
自己血	1	0	4	4	0	8	8		
	2	0	66	66	0	72	72		
成分製剤	赤血球製剤	日赤照射 RBC-LR	1	0	3	3	21	48	69
			2	501	1,285	1,786	587	1,761	2,348
	新鮮凍結血漿	FFP-LR	120ml	0	0	0	0	0	0
			240ml	114	392	506	93	419	512
			480ml	119	128	247	0	142	142
	濃厚血小板	日赤照射 PC-LR	1	0	0	0	0	0	0
			5	2	8	10	2	19	21
			10	83	179	262	68	404	472
			15	0	6	6	0	4	4
			20	1	19	20	2	9	11
		日赤照射 PC-HLA-LR	10	0	0	0	37	13	50
			15	0	0	0	0	0	0
			20	0	0	0	0	0	0

ウ 自己血貯血

	単位	令和2年度			令和3年度		
		外来	入院	合計	外来	入院	合計
液状保存	1	6	0	6	10	0	10
	2	111	0	111	130	2	132
合計		117	0	117	140	2	142

※単位1は200ml、単位2は400ml

(5) 検体検査部門（委託）

検査項目	令和2年度			令和3年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿検査)						
尿定性	31,393	16,376	47,769	50,251	1,414	51,665
尿沈渣	22,994	4,622	27,616	31,184	60	31,244
尿定量検査	3,294	1,574	4,868	4,963	667	5,630
髄液検査	301	395	696	153	466	619
穿刺液検査	141	186	327	37	257	294
小計	58,123	23,153	81,276	86,588	2,864	89,452
(血液検査)						
血算	84,898	26,415	111,313	109,994	7,791	117,785
血液像	58,796	29,467	88,263	89,065	5,905	94,970
網状赤血球	10,133	5,027	15,160	17,065	950	18,015
浸透圧	180	1,224	1,404	285	311	596
血液ガス	2,168	1,957	4,125	3,160	1,076	4,236
赤沈	6,746	713	7,459	7,352	10	7,362
HbA1c	22,274	0	22,274	25,278	242	25,520
凝固関連検査	40,763	48,651	89,414	86,593	11,256	97,849
その他	19	5	24	67	12	79
小計	225,977	113,459	339,436	338,859	27,553	366,412
(血清検査)						
感染症関連検査	44,720	7,588	52,308	53,806	3,837	57,643
薬物関連検査	1,638	466	2,104	1,478	524	2,002
腫瘍関連検査	15,720	9,995	25,715	28,319	344	28,663
自己抗体検査	5,008	0	5,008	5,193	8	5,201
血漿蛋白免疫学的検査	72,347	35,531	107,878	109,754	7,371	117,125
小計	139,433	53,580	193,013	198,550	12,084	210,634
(生化学検査)						
血液化学検査	997,673	867,467	1,865,140	1,866,558	139,331	2,005,889
内分泌学的検査	25,811	8,032	33,843	37,748	954	38,702
小計	1,023,484	875,499	1,898,983	1,904,306	140,285	2,044,591
合計	1,447,017	1,065,691	2,512,708	2,528,303	182,786	2,711,089

(6) 外注検査

検査項目	令和2年度			令和3年度		
	外来	入院	総件数	外来	入院	総件数
(尿・糞便等検査)						
尿検査・他	243	237	480	792	365	1,157
糞便検査	215	2,191	2,406	1,822	930	2,752
穿刺液・採取液検査	43	96	139	71	155	226
悪性腫瘍組織検査	161	145	306	207	60	267
小計	662	2,669	3,331	2,892	1,510	4,402
(血液学的検査)						
血液形態・機能検査	16	0	16	12	0	12
骨髄像	127	81	208	239	210	449
造血器腫瘍抗原検査	103	103	206	189	202	391
出血・凝固検査	242	770	1,012	227	929	1,156
造血器腫瘍遺伝子・染色体検査	456	190	646	890	459	1,349
遺伝学的検査	5	0	5	8	1	9
先天異常染色体検査	30	5	35	32	10	42
遺伝学的検査 (PGx)	39	22	61	88	48	136
悪性腫瘍遺伝子検査	7	0	7	3	0	3
小計	1,025	1,171	2,196	1,688	1,859	3,547
(生化学的検査)						
血液化学検査	11,417	5,277	16,694	17,937	2,056	19,993
内分泌学的検査	6,880	3,085	9,965	9,957	2,394	12,351
腫瘍マーカー	12,962	1,419	14,381	12,769	334	13,103
特殊分析	1,155	264	1,419	1,564	296	1,860
小計	32,414	10,045	42,459	42,227	5,080	47,307
(免疫学的検査)						
免疫血液学的検査	56	30	86	64	40	104
感染症・ウイルス検査	7,496	2,744	10,240	8,222	2,421	10,643
自己抗体検査	16,300	2,978	19,278	19,979	3,090	23,069
血漿蛋白免疫学的検査	9,689	3,616	13,305	14,775	2,033	16,808
細胞機能検査	1,385	67	1,452	1,460	97	1,557
小計	34,926	9,435	44,361	44,500	7,681	52,181
(微生物学的検査)						
塗抹・培養・感受性検査	1,960	3,232	5,192	2,297	3,635	5,932
核酸同定・定量検査	3,673	1,039	4,712	4,338	1,076	5,414
その他微生物学的検査	268	0	268	269	0	269
小計	5,901	4,271	10,172	6,904	4,711	11,615
(病理診断)						
悪性腫瘍免疫染色・FISH法検査	265	252	517	339	162	501
小計	265	252	517	339	162	501

(保険収載外検査)						
血中薬物濃度	1,929	479	2,408	2,496	267	2,763
腫瘍マーカー	136	0	136	128	0	128
その他検査	35	47	82	87	38	125
小計	2,100	526	2,626	2,711	305	3,016
(負荷試験等)						
機能テスト	26	18	44	30	5	35
小計	26	18	44	30	5	35
合計	77,319	28,387	105,706	101,291	21,313	122,604

(7) 採血件数

	令和2年度		令和3年度	
	件数	日平均	件数	日平均
採血件数	59,866	246.4	70,493	288.9

(8) 宿日直検査

項目	令和2年度		令和3年度	
	件数	月平均	件数	月平均
血液型検査	1,529	127.4	1,313	109.4
交差適合試験	909	75.8	897	74.8
血液製剤払い出し	759	63.3	873	72.8
心電図検査	3,570	297.5	3,390	282.5
コロナ検体抽出	2,203	—	3,072	256
合計	8,970	—	9,545	795.4

※令和2年8月よりコロナ検体抽出業務を開始しました。

(9) コロナ検体採取

	令和2年度	令和3年度
件数	3,352	9,637

※令和2年度8月より開始しました。

【各種認定資格取得状況】

日本超音波医学会認定超音波検査士：循環器3名、消化器5名、体表臓器4名

日本リウマチ学会登録ソノグラファー：2名、血管診療技師認定機構認定技師：2名

日本糖尿病療養指導士：3名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：5名（国際細胞検査士2名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師1名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：2名

7 食養科

科長 太田 博子

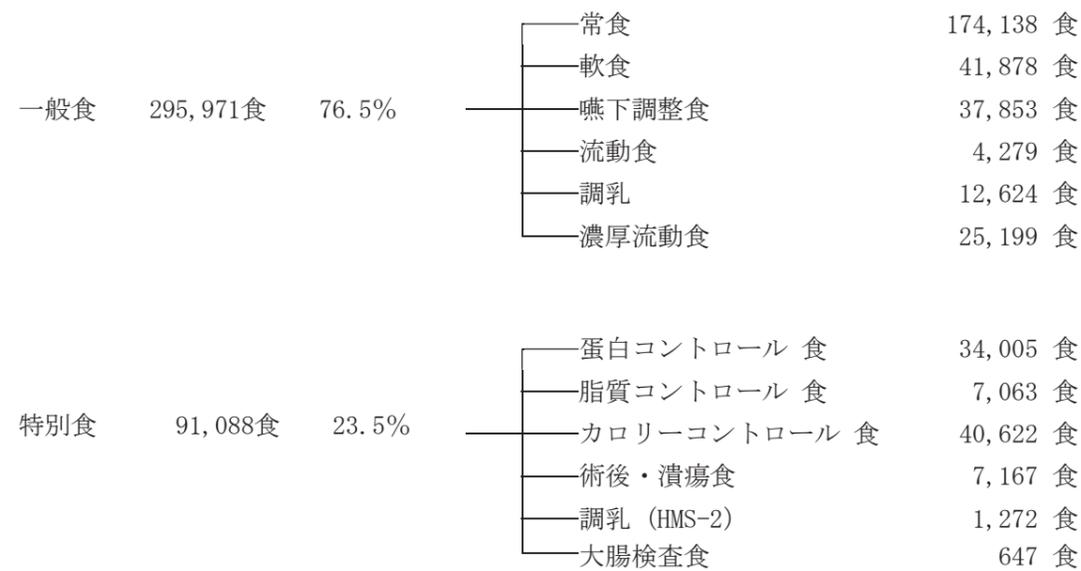
令和3年度は、電子カルテ更新に伴い給食管理システムの変更があり、禁止食品がある患者に対する指示方法のシステム化及び、食札へのメニュー表示を実施しました。この変更により、より安全な食事の提供と、患者サービスの向上が図れました。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数	特別食 比率%
	常 食	軟 食	流動食	計				
平成29年度	186,206	103,025	49,378	338,609	131,189	469,798	429	27.9
平成30年度	189,330	86,774	45,347	321,597	127,594	449,045	410	28.4
令和元年度	184,698	81,839	46,178	312,715	110,888	423,603	387	26.2
令和2年度	166,945	74,464	39,789	281,198	94,324	375,522	343	25.1
令和3年度	174,138	79,731	42,102	295,971	91,088	387,059	353	23.5

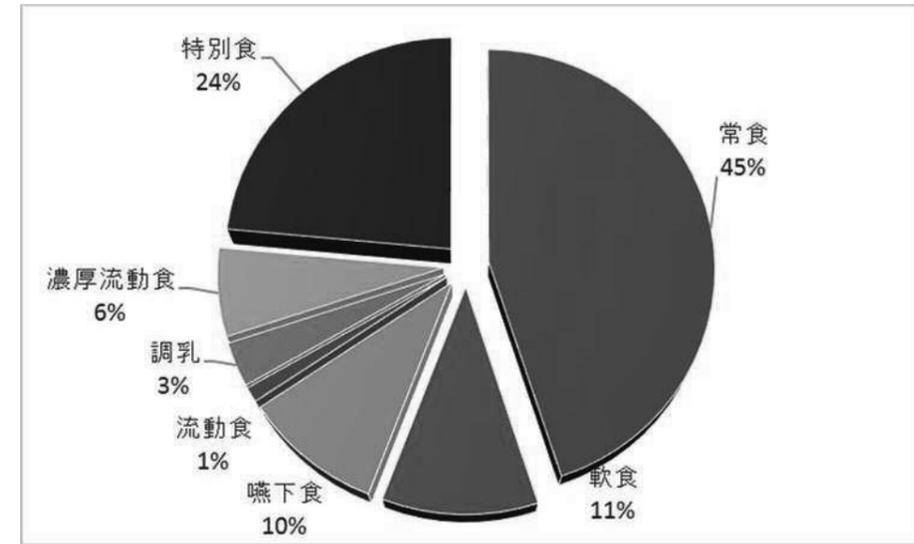
(2) 食種別給食数

総 数 387,059 食 100 %



なごみ食 5,876食 (常食として計上)
 フリーオーダー食 3,321食 (常食として計上)
 定型除去食 88食 (軟食として計上)
 検食 4,380食 (常食として計上)

(3) 食種別比率



(4) 月別給食数 (令和3年度)

月別	一般食				特別食	計	1 回 の 食 数
	常食	軟食	流動食	計			
4月	14,182	6,899	3,601	24,682	6,469	31,151	346
5月	13,943	6,927	4,090	24,960	7,488	32,448	349
6月	13,427	7,149	3,636	24,212	7,861	32,073	356
7月	14,161	6,846	3,234	24,241	8,764	33,005	355
8月	14,546	6,186	3,772	24,504	8,153	32,657	351
9月	14,048	5,853	3,381	23,282	6,298	29,580	329
10月	14,914	6,714	3,228	24,856	7,959	32,815	353
11月	15,651	6,083	3,909	25,643	7,576	33,219	369
12月	15,705	6,989	3,188	25,882	8,086	33,968	365
1月	15,096	6,940	3,305	25,341	8,273	33,614	361
2月	14,050	6,699	3,371	24,120	6,542	30,662	365
3月	14,415	6,446	3,387	24,248	7,619	31,867	343
計	166,945	79,731	42,102	295,971	91,088	387,059	353

(5) 嚥下調整食数

嚥下調整食は、全食数の10%を占め、年々増加傾向にあります。摂食嚥下支援チーム、栄養サポートチームと共に、経口摂取をめざし、早期介入を行っています。

年 度	30年度2月以前	ゼリー 開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
	30年度2月以降		とろみ ペースト	とろみきざみ		とろみ やわらか	やわらか	
平成29年度		981	9,831	9,649	7,455	7,460	2,629	38,005
平成30年度2月以前		685	8,571	4,368	4,721	5,302	1,457	30,940
平成30年度2月以降			1,072		1,488	1,002	2,301	
令和元年度		686	8,333		9,264	5,543	11,726	35,552

令和2年度	133	9,084	11,649	5,996	9,711	36,573
令和3年度	363	9,153	8,892	7,878	11,567	37,853

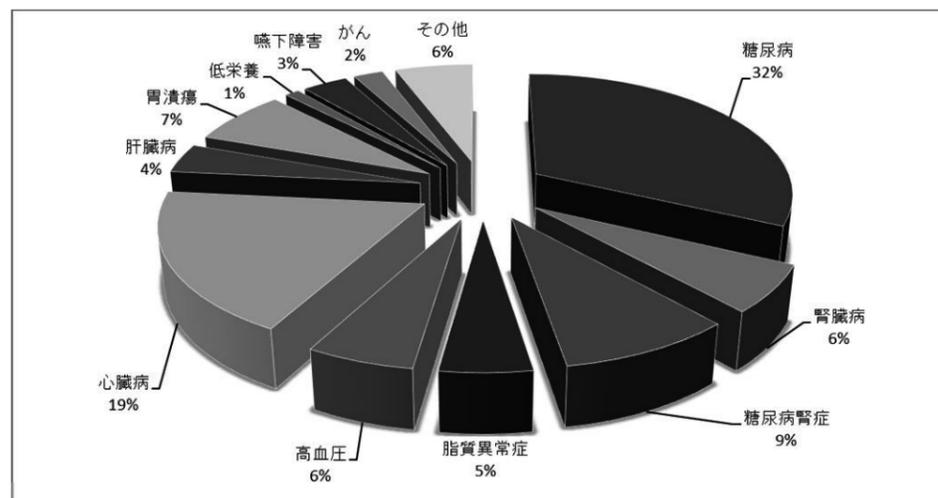
(6) 栄養指導

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、集団指導の糖尿病教室の実施は0回、母親教室の実施は3回のみとなりました。個別指導件数に占める外来個別指導の割合が増えています。一方透析予防指導件数はやや減っています。疾患別では糖尿病、糖尿病腎症合わせて41%と糖尿病関連の指導が4割となっています。その他の栄養指導件数の増加は、微量元素欠乏症の栄養指導件数の増加が主な理由となっています。

	個別指導		集団指導			
	個別指導	透析予防指導	糖尿病教室		母親教室	イベント
			基礎	応用		
回数	2,219	224	0	0	3	0
人数			0	0	33	0
内訳	外来	889	224	0	0	33
	入院	1,330		0	0	0
	家族他	576	46	0	0	0
時間	総時間	1,109.5	112.0	0	0	3
	1回	30分	30分	1時間	1時間	1時間

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	心臓病	肝臓病	消化管術後胃潰瘍	低栄養	嚥下障害	がん	その他
783	152	224	118	138	456	95	177	26	81	53	140



8 患者総合サポートセンター

所長 澤藤 誠
副所長 山内 秀行

(1) 地域医療連携

地域の医療機関の皆様からの受付や相談窓口として、また、顔の見える密接な地域連携を目指し、以下の業務を行い連携強化に努めています。

- ア 外来診療の事前予約受付
- イ 地域の医療機関からの緊急受診受付と病床確保
- ウ 医療機器共同利用の予約受付
- エ かかりつけ医の相談、ご案内
- オ 診療情報提供書の管理
- カ 転院調整
- キ 連携登録医事務手続き
- ク 医療機関訪問の実施
- ケ 「診療のご案内」「地域医療連携便り」の発行
- コ 地域医療連携の会・研修会・市民公開講座の開催等

令和3年度 各種統計

紹介率・逆紹介率(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率	73.8	72.5	71.6	71.8	64.8	71.1	78.6	76.8	77.2	63.0	54.2	69.7	70.2
逆紹介率	108.9	123.9	108.5	106.1	101.6	99.5	113.7	103.2	126.1	99.6	88.7	100.5	106.1

地域医療連携業務(件)

	紹介予約	緊急受診	転院(転入)	転院(転出)	かかりつけ医ご紹介	診療情報依頼	診療情報照会
件数	1,197	1,303	173	148	459	812	405

医療機器共同利用(件)

	CT	PET-CT	MRI	骨塩	骨シンチ	上部内視鏡	心エコー	腹部エコー	X-P	栄養相談
件数	147	347	219	12	7	62	33	104	0	5

広報活動等

地域連携便り発行	4月、7月、10月、1月発行
外来診療担当表	連携登録医療機関を中心に、毎月約650か所に発送

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（医師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	令和3年 5月28日（金）	第29回川崎リ ウマチ・膠原病 診療懇話会	川崎リウマ チ・膠原病診 療懇話会 川崎市立川 崎病院 旭化成ファ ーマ	座長 上田副院長 「股関節周囲の手術療法について ー骨粗鬆症の話題を含めてー」 演者 整形外科 山口担当部長
2	6月11日（金）	第8回川崎泌尿 器科病診連携会	川崎市立川 崎病院 キッセイ薬 品工業株式 会社 フェイリン グ・ファーマ	座長 まつやまクリニック 院長 松山 恭輔 1 「夜間頻尿ガイドライン改訂について」 演者 泌尿器科 原部長 2 「排尿自立支援について」 演者 泌尿器科 福本医長
3	令和4年 2月9日（水）	第11回幸・川崎 病診NET	川崎病院 幸区・川崎区 医師会	講演1 座長：川崎病院・内科部長 安藤 孝 演題：「経口投与できる腎性貧血治療薬」 演者：川崎病院腎臓内科 副医長 川口 隆 久 講演2 座長：川崎病院病院長 野崎 博之 演題：「心房細動治療を再考する」 演者：川崎病院冠疾患集中治療室 室長 西澤 健也 川崎病院より 演題：「認知症疾患医療センターの役割」 演者：川崎病院病院長 野崎 博之

地域の医療従事者を対象とした研修の実施状況（看護師）

	開催月日	名称	主催	内容
1	6月2日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	プロローグ ポストコロナ医療現場の声
2	7月1日（木）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	COVID-19 患者の受け入れから ～現場で起きたこと～
3	8月4日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	COVID-19 誰でも起こる重症化 コロナ禍における親子の愛着形成に向けた 取り組み
4	9月1日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	リロケーションショック ～住み慣れた環境からの変化～
5	9月17日 （金）	地域ケア懇談会	地域連携部会	ありのままのあなたを受け入れ支えるため に
6	10月6日 （水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	会えないつらさ、みえない辛さ ～死別と悲嘆ケア～
7	11月4日 （木）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	コロナストレスとメンタルヘルス ～ストレスマネジメント～
8	12月1日 （水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	命が脅かされる時への備え ～人生会議への誘い～
9	令和4年1月 5日（水）	知っとくナース	看護部 認定看護師会	エピローグ 感染症と人類の共生
10	2月18日 （金）	地域ケア懇談会	地域連携部会	高齢者の皮膚を守ろう ～スキンケアからおむつかぶれまで～

(2) 相談・調整

相談・調整課は、入院センター、入退院支援係、医療福祉相談係、がん相談係で構成されています。

地域の保険医療機関や訪問看護ステーション等との連携を強化し、患者さんへの質の高い、きめ細やかな相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となれるように努めています。

ア 入退院支援係

入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、多職種と協働し、退院支援や調整を行っています。また、外来通院中の患者さんの在宅療養支援も行っています。

(ア) 入院患者さんの入退院支援・調整

(イ) 外来通院患者さんの在宅療養支援

(ウ) 訪問診療、訪問看護導入等の相談・調整

(エ) 医療機器、在宅酸素導入時の調整・支援

(オ) あんしん見守り一時入院事業受入調整

(カ) 在宅医療を支える地域のスタッフ向け「地域ケア懇談会」の企画・運営

イ 入院センター

入院を予定している患者さんやご家族に入院中の生活や、検査・治療・手術に必要な事項の説明を行います。さらに、常用薬や病歴、日常生活の問題点や入院に関する不安等を聞き取り、安心して入院し不安なく退院できるようにサポートします。

(ア) 身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握

(イ) 入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握

(ウ) 褥瘡に関する危険因子の評価

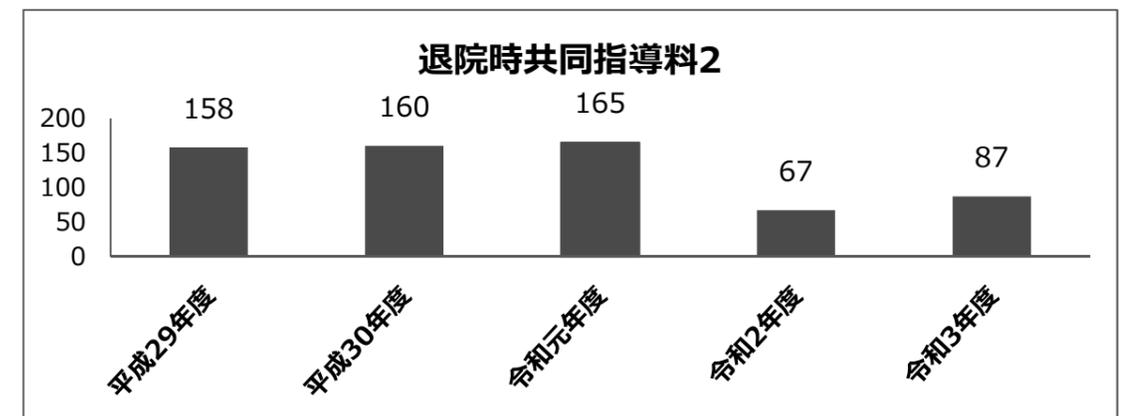
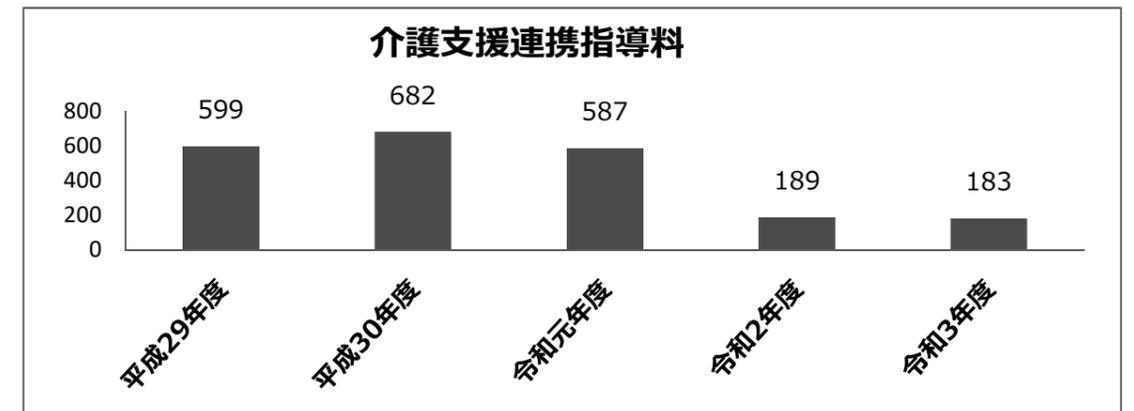
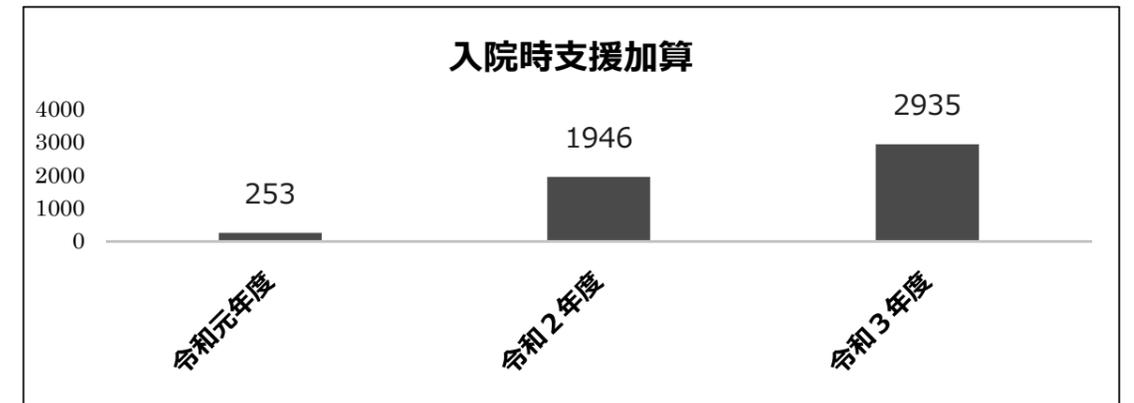
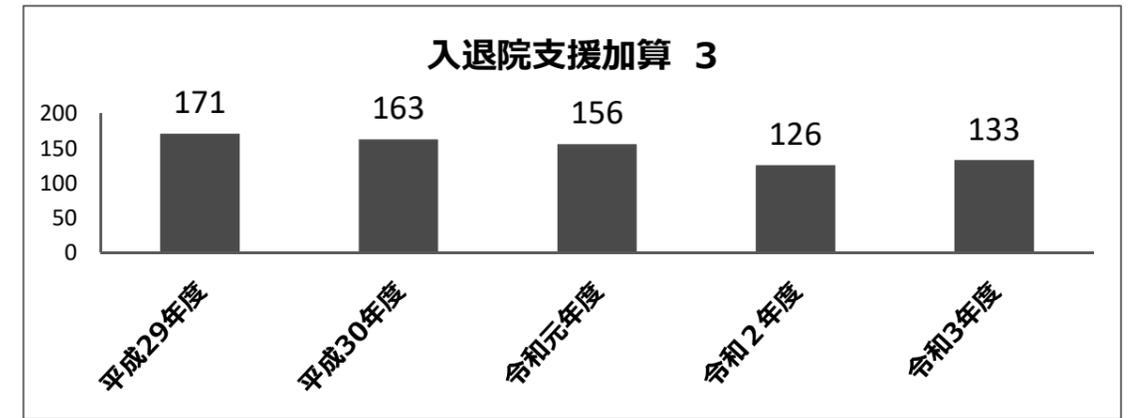
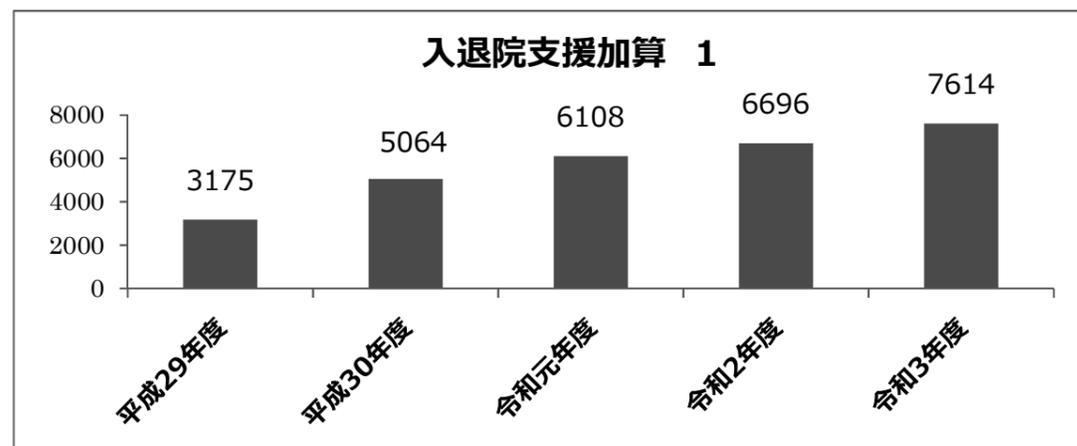
(エ) 栄養状態の評価

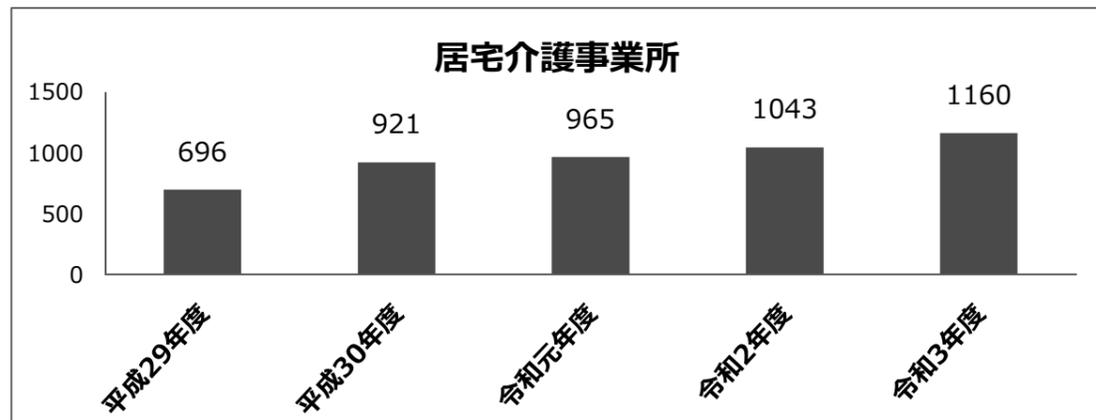
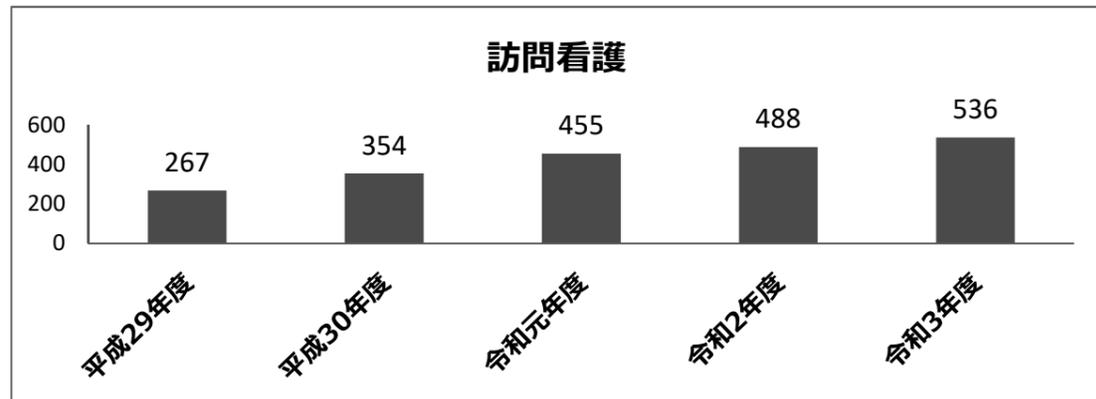
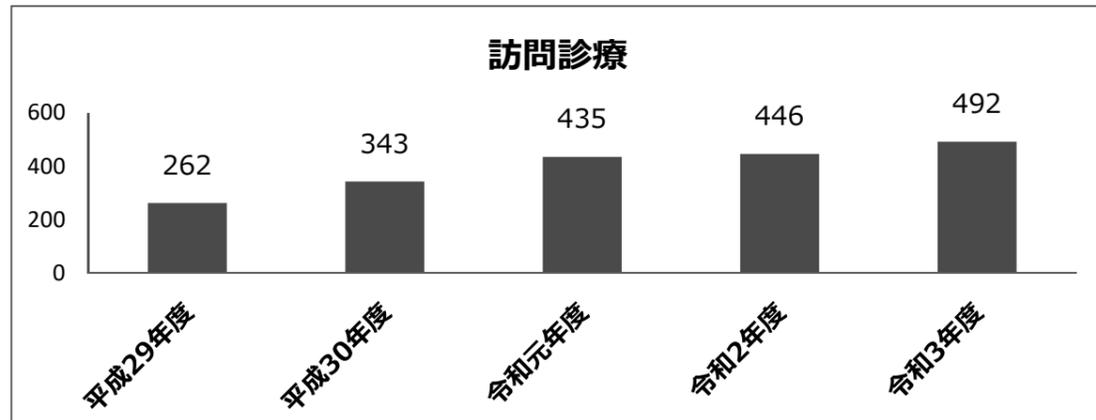
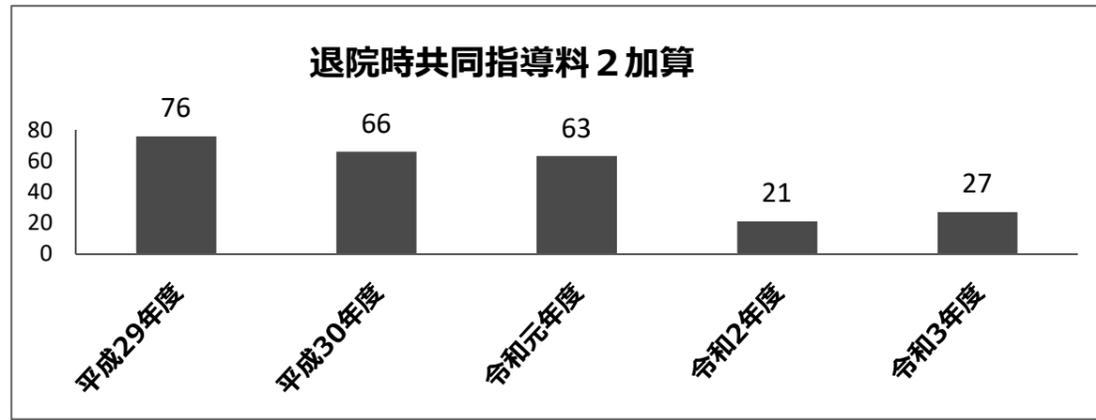
(オ) 服薬中の薬剤の確認

(カ) 退院困難な要因の有無の確認

(キ) 入院中に行われる治療・検査の説明

(ク) 入院生活の説明





安心見守り一時入院事業実績

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
1	1	2	0	2

ウ 医療福祉相談

病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが患者さんやご家族と一緒に考え、社会福祉の立場からご相談・問題解決の支援を行っています。また、転院調整や施設入所への調整も行っております。(資料2)

- (ア) 医療費や生活費などの経済的不安
- (イ) 介護保険や障害者手帳などの医療・福祉制度の利用についての相談
- (ウ) 退院支援（転院・施設入所他）
- (エ) 医療通訳派遣依頼
- (オ) 重症心身障害児者短期入所事業の受入調整

医療福祉相談実績（件）

内容	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
受診相談	189	147	180
障害者総合支援法による医療型短期入所	31	13	18
虐待関係(高齢者・DV・虐待)	13	21	25
産科・小児科関連の相談	70	60	69
経済的相談(医療費・生活費)	806	808	755
福祉サービス活用に関する相談	831	855	824
生活保護・緊急患者に対する医療費・福祉的援助	215	208	197
生保入院患者の保護費配布	49	61	55
退院調整定例カンファレンス	828	833	764
合計	3,032	3,006	3,483

患者総合サポートセンター窓口業務

内容	令和 2 年度	令和 3 年度
各相談受付	1,551	1,569
医療福祉相談	1,134	1,025
在宅療養相談	93	155
アドボカシー相談	64	115
がん相談	260	274
通訳派遣受付	1,229	2,749
その他・窓口対応職員が対応（面談室予約、院内他部署へ引継）	1,680	1,675
合計	4,460	5,993

地域連携クリニカルパス運用実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
神奈川県脳卒中地域連携パス	26	13	25
大腿骨頸部骨折地域連携パス	31	21	3

退院支援

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
回復期リハビリ病棟	186	277	178
医療療養型病棟	71	87	58
一般病棟	78	67	64
緩和ケア病棟	43	47	52
地域包括ケア病棟	73	62	57
介護療養型医療施設等	15	10	4
その他病棟(精神科病棟, 障害病棟)	14	21	20
介護老人保健施設・介護老人福祉施設	24	16	28
民間介護施設	70	73	91
(転院支援を行なったが、在宅退院となった件数)	174	202	209
合計	748	862	761

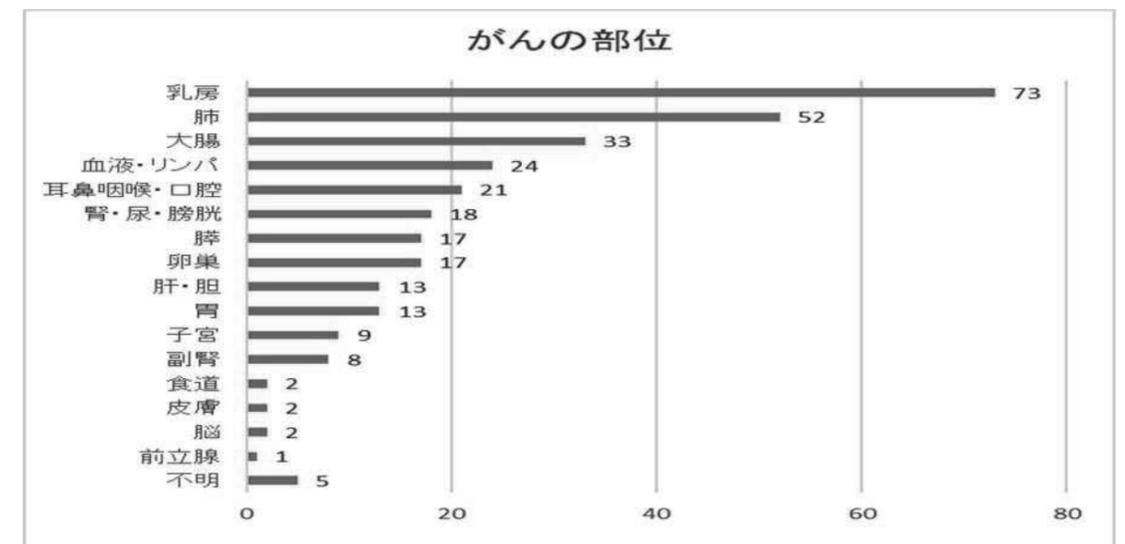
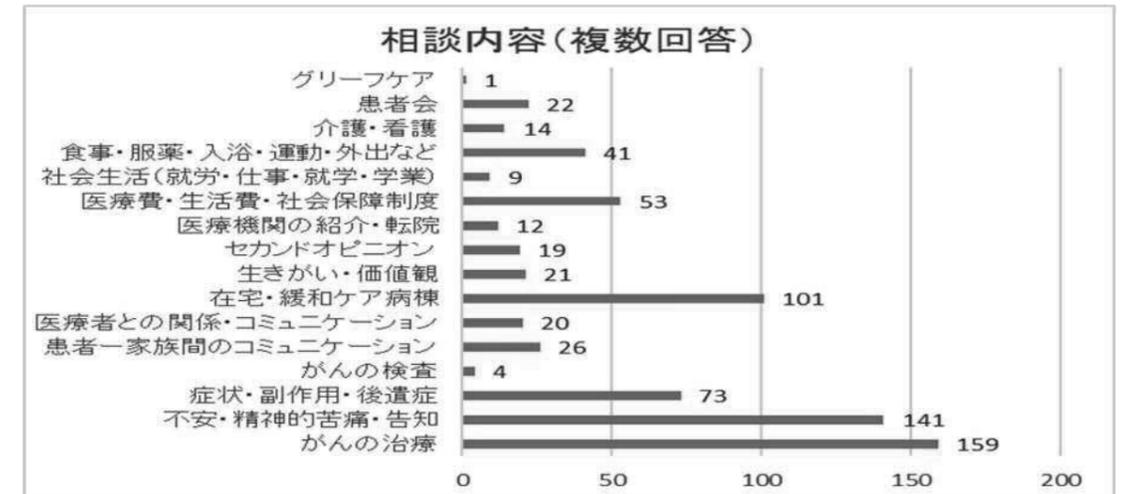
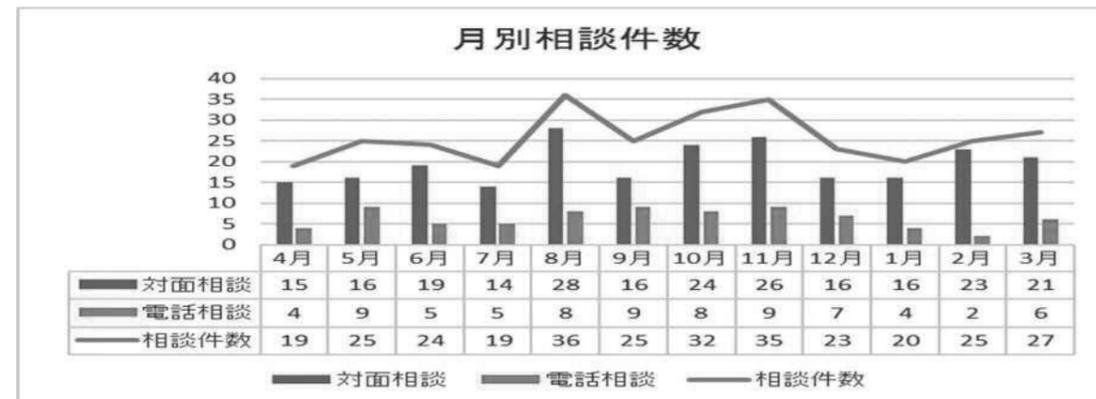
エ がん相談係

患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。

がんと診断されたときから、治療・症状の副作用・仕事・療養生活のことなどどのようなことでも相談を受付けております。

- (ア) がん相談の実施(対面相談・電話相談)
- (イ) がんに関する情報提供
- (ウ) がん患者サロンの開催

令和3年度 各種統計



9 認知症疾患医療センター

室長 北 蘭 久 雄

1 認知症疾患医療センターについて

当院の認知症疾患医療センターは令和3年8月に設立しました。当センターは、「もの忘れ相談室」と「もの忘れ外来」で構成されており、認知症の速やかな鑑別判断や、行動・心理症状（BPSD）と身体合併症に対する急性期医療、専門医療相談、関係機関との連携、研修会などを行うとともに、地域での認知症診断や治療、診断後のサポートにおける中核的な役割を果たすことを目的としています。

(1) もの忘れ相談室

平日の8時30分から17時まで受け付けており、精神保健福祉士や公認心理士が相談業務を行っています。また、もの忘れ外来の初回診察前に精神保健福祉士が患者さんから生活の様子等を伺っています。

なお、受診時以外でも認知症に関する福祉制度の相談や経済的な相談、その他生活上の心配事などの相談をお受けしています。

(2) もの忘れ外来（問診・診察）

毎週月・木の午前に、もの忘れ外来の担当医が一枚毎に約1時間程度、診察を行っています。

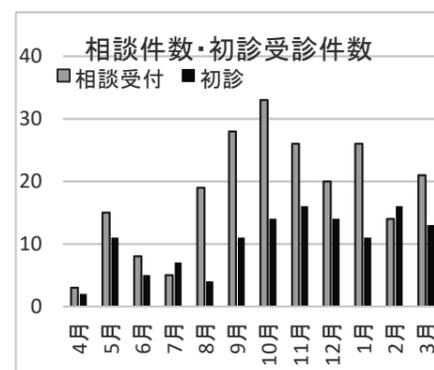
2 初回診察までの流れ

- (1) 事前に電話連絡で「もの忘れ外来」の予約を取る。なお、初診の際に紹介状がない場合は、非紹介患者初診加算料が必要となる。
- (2) 精神保健福祉士が初回診察前に患者・家族へ生活の現状や困りごとなどの聞き取りを行う。
- (3) もの忘れ外来担当医による初回診察。
- (4) 担当医による必要に応じた検査予約の実施。
- (5) 診察後、公認心理士・臨床心理士が2～3種類の検査を、数回に分けて実施。
(同日に複数の心理検査は実施できません。)
- (6) 再診

3 令和3年度の実績

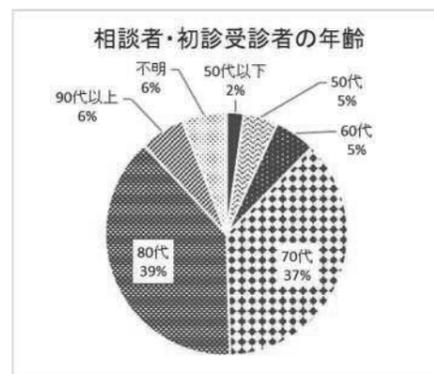
相談件数・初診受診件数

	相談受付	初診
4月	3	2
5月	15	11
6月	8	5
7月	5	7
8月	19	4
9月	28	11
10月	33	14
11月	26	16
12月	20	14
1月	26	11
2月	14	16
3月	21	13
計	218	124



相談者・初診受診者の年齢

50代以下	5
50代	10
60代	12
70代	81
80代	84
90代以上	13
不明	13
計	218



10 医療情報システム管理室

室長 檜 林 敦

当院では2009年1月から電子カルテを中心とした総合医療情報システムを導入しています。稼働後10年以上が経過していますが、これまで医療情報を一括で管理する部署が存在しておらず、その結果、院内の様々な医療情報システムの統括管理や各システムで蓄積されたデータの分析が組織横断的に行えていませんでした。

また、近年、他の医療機関との診療情報連携や大学をはじめとする研究機関との診療情報を使った連携研究が増えています。案件毎に個別の対応を行っており、効率的に進めることができていませんでした。

これらの問題を解決し、医療情報・情報機器の一括管理による診療・運営支援を進める組織として、2022年1月に医療情報システム管理室を設立しました。

(1) 人員構成

室長 1名(医師・上級医療情報技師):「医療情報システム安全管理責任者」

室員 8名(看護師1名、薬剤師1名、看護師1名、診療放射線技師1名、医事課職員2名、庶務課職員1名、患者総合サポートセンター職員1名)

※ 専従職員はおらず、全構成員が兼務

(2) 業務内容

- ・医療情報・情報機器の一括管理体制の構築・拡充
- ・医療情報集約による診療の質・患者サービスの向上
- ・医療情報集約による業務改善・経営分析支援
- ・医療情報を扱う人材育成、病院職員に対する医療情報ならびに情報セキュリティの教育

(3) 令和4年度の取組(予定も含む)

- ・院内の各種システムの更新支援
- ・全職員向け e-learning システムの導入支援
- ・病棟への電子お薬手帳端末の展開
- ・病院機能再編に向けてのシステム関連の課題整理・調整
- ・外部とのオンラインカンファレンスの構築支援
- ・全職員向けの情報セキュリティ教育講習
- ・院外カルテ閲覧システムの整備・運用設計
- ・ICTに関連した大学との連携プログラムの支援
- ・厚生労働省のガイドラインならびに医療DXへの対応準備
- ・川崎病院経営戦略会議における診療支援データ作成
- ・システム障害時のマニュアル整備

IV チーム医療概要

1 緩和ケアチーム

(1) 人員構成

緩和ケア内科医 2名

精神科医 1名

薬剤師 2名

管理栄養士 1名

リハビリテーション療法士 5名

看護師 16名

チーム専従看護師 1名

リンクナース 15名

(有資格者等)

緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 2名

緩和ケア認定看護師 2名

がんリハビリテーション研修修了 8名



(2) 業務内容

- ・院内の緩和ケアに関する標準化を図ること
- ・痛みやその他の身体的な症状の軽減と精神的、社会的、スピリチュアルな問題への支援を行い、安全かつエビデンスに基づく質の高いケアを提供すること
 - －毎週1回、多職種によるラウンドとカンファレンスを実施
 - －平日はチームメンバーの回診・直接診療を実施
- ・鎮静（セデーション）や輸液療法の適応を始め、DNR（Do Not Resuscitate）などについて、倫理的な側面からの助言を行うこと
- ・患者療養の全経過を通して、家族に対して適切なケアを行えるようスタッフを支援すること
- ・オープンな話し合いやチームカンファレンスを通して医療従事者の支援を行うこと
- ・在宅緩和ケアの支援（患者総合サポートセンターとの連携）を行うこと
- ・院内及び地域の医療従事者に対し緩和ケアの知識と技術の普及に努めること
- ・緩和ケア実施に関する教育と啓発を行うこと

(3) 令和3（2021）年度 総括

・実績

令和3年7月より緩和ケア診療加算の算定開始

緩和ケアチームへの新規依頼 155名（対前年比 令和2年は116名）

緩和ケア外来における診療 のべ4名（対前年比 令和2年は3名）

・専門資格

両立支援コーディネーター研修修了 2名

・施設認定へ向けた取り組み

地域がん診療連携拠点病院認定に向け、院内緩和ケアクリニカルパスの作成及び総合
がんセンターボードへの参加体制整備に取り組んだ。

・教育活動

緩和ケア研修会（令和3年12月）

・研究活動

院内研究交流会での演題発表

2 褥瘡対策チーム

(1) 人員構成

皮膚科医（専任医師）、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟専任看護師、
薬剤師、管理栄養士、理学療法士

(2) 業務内容

褥瘡保有者並びに褥瘡ハイリスク患者を対象に、褥瘡発生予防・早期発見・早期治癒
である総合的な褥瘡対策を目的に、週に1度病棟回診を行っている。多職種メンバー
と連携を図りながら多角的な視点で予防・治療・評価・実践指導を行っている。
また、院内における褥瘡発生予防の体制・整備を行っている。

(3) 令和3年度の取り組み

・病棟回診によるカンファレンスの実施

全病棟を対象に、褥瘡保有者への早期治癒に向け、毎週月曜日チーム回診を実施し病
棟スタッフや主治医と共にカンファレンスを実施している。カンファレンスの内容
は、褥瘡治療や看護ケア方法、患者の栄養管理や薬剤による影響、リハビリ状況等
についての実践、評価、調整を行っている。また、褥瘡ハイリスク患者の予防方法に
ついてのカンファレンスを実施している。

・褥瘡対策委員会開催

月に1度委員会を開催。参加メンバーは、各診療科の専任医師、病棟師長、病棟専任
看護師、褥瘡管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士
である。褥瘡発生率及び現状報告や最新の褥瘡対策に関する情報共有を行っている。

・褥瘡対策に係る職員研修

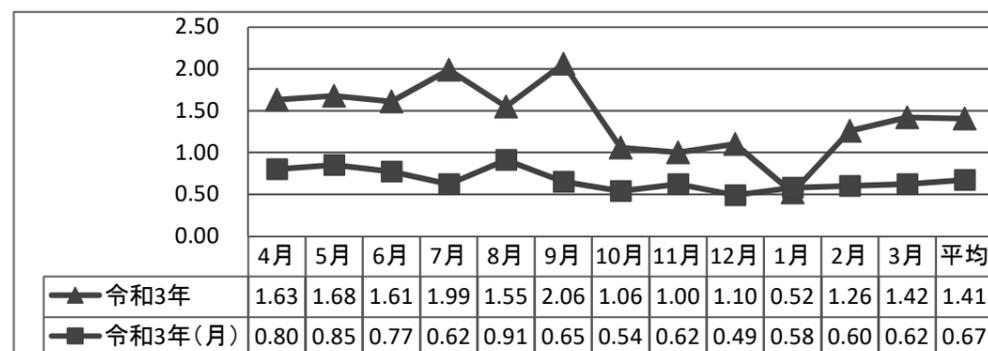
褥瘡対策委員に対し、褥瘡対策に関する学習会を6回/年実施（令和3年度）

全職員対象の褥瘡対策学習会「褥瘡の基礎から褥瘡ハイリスクまで」を1回/年ハイ
ブリット方式で開催し80名の参加となった。

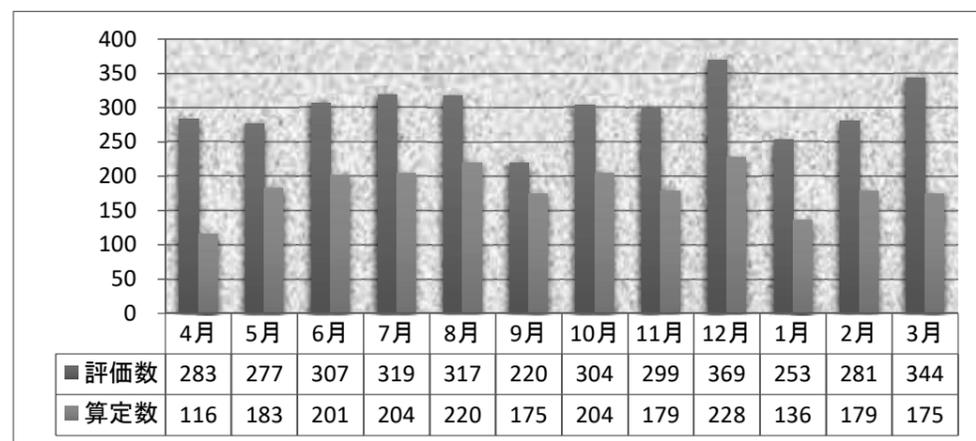
・体圧分散マットレス等に関する体制の整備

(4) 実績

1) 褥瘡推定発生・月毎発生率



2) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算実績



3 認知症ケアチーム

(1) 人員構成

脳神経内科医(認知症学会専門医の資格を有する)、認知症看護認定看護師、老年看護専門看護師、リンクナース、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健社会福祉士

(2) 業務内容

認知症患者を対象とし、認知症の症状悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられ、地域につなぐことを目的に、多職種によるメンバーで連携を図りながら毎週、病棟回診を行っている。

(3) 令和3年度の取組

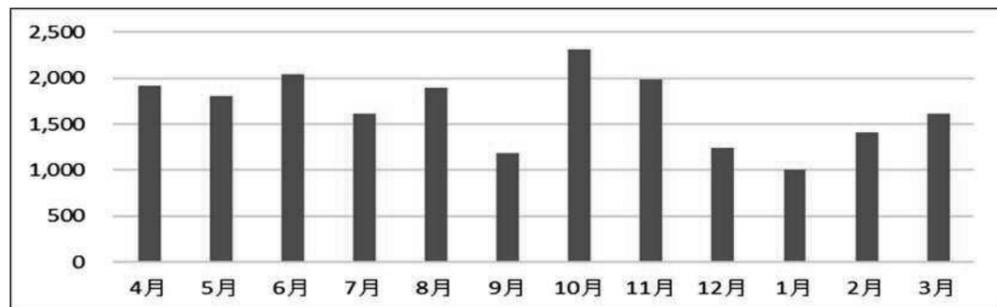
- ・病棟回診によるカンファレンスの実施
認知症患者への対応やケアの質を上げるため、週1回チーム回診を行い各部署の対象患者の対応やケアについて病棟スタッフと共にカンファレンスを実施している。令和2年度までは10階から14階までの病棟を対象としていたが、令和3年度は9階南病棟やICU病棟の患者においても必要に応じて対応した。
- ・身体抑制の解除に向けた症例検討会
身体抑制は、認知症の周辺症状の増悪やせん妄の誘発につながり、ADL低下や退院遅延に至る可能性もあるため、身体抑制解除に向けた症例検討会を令和3年度より新たに実施し、ケアの質の向上につなげた。
- ・患者、市民向けの講演会1回/年の開催(「今だからこそ知っておくべき認知症」「ありのままのあなたを受入れ支えるために」)。
- ・職員向け教育講演会
全職員向けの教育研修会を3回/年開催し、370人の参加。
また、リンクナースによる各部署の学習会の実施。
- ・地域の医療機関向けの講演会を7回/年開催した(「認知症の診断とこれからの考える」「認知症600万人時代の疾患治療について」「認知症患者に対する漢方薬の使用経験」「認知症とてんかんの鑑別と治療」「DLBのパーキンソン病に対する治療対応」「認知症ケアチームの取り組み」「進行期パーキンソン病について」)。

(4) 実績

1) カンファレンス開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
59	46	54	52	57	50	52	56	36	26	41	64	593

2) 認知症ケア加算算定数（延患者数）



4 栄養サポートチーム（NST）・摂食嚥下支援チーム

（1）回診件数

栄養サポートチーム（NST: Nutrition Support Team）では、食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士など、多職種が連携して活動を行っています。当院は、平成 23 年 3 月から栄養サポートチーム加算（200 点／週／人）の算定を行っています。

令和 2 年度の診療報酬改定にて、摂食嚥下支援加算（200 点／週／人）が新設されたことを受け、令和 2 年 10 月より、NST と摂食嚥下支援チームに分けて活動を行っています。チームを分けることで、効率良く専門的な介入を行うことができています。

また、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で入院患者が減少したこともあり年間件数が減少しましたが、令和 3 年度は令和元年度並の件数に戻りました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間(人)
令和元年度	137	150	152	173	161	150	142	126	129	154	146	160	1,780
令和2年度	115	97	138	123	141	165	135	133	141	162	143	168	1,661
令和3年度	132	153	203	119	151	132	161	151	154	151	125	152	1,784
(内訳)													
摂食嚥下	44	58	92	51	87	57	73	93	102	90	79	93	919
NST	88	95	111	68	64	75	88	58	52	61	46	59	865

※回診回数：NST 週 1 回、摂食嚥下支援チーム週 1 回

（2）介入状況

平成 22 年 3 月の栄養サポートチーム加算算定開始後は、嚥下障害や食種・補助食の相談を中心に介入患者数を増やしてきました。令和 2 年 10 月に NST と摂食嚥下支援チームの二つに分けた以降は、摂食嚥下障害による介入依頼は摂食嚥下支援チームが中心に、また食種・補助食や経管栄養・輸液等の依頼は NST が担うことで、より専門的な介入が可能となっています。また、CONUT 変法スコアを用いた栄養評価による依頼も徐々に増加しています。

	経管栄養 (下痢含む)	褥瘡 /CONUT	嚥下障害	食種・ 補助食	輸液	栄養判定 ・栄養経路	その他	合計 (人)
令和元年度	45 (8.9%)	1/12 (2.6%)	303 (60.0%)	87 (17.2%)	36 (7.1%)	20 (4.0%)	1 (0.2%)	505
令和2年度	45 (7.9%)	1/19 (3.5%)	376 (66.0%)	83 (14.5%)	32 (5.6%)	9 (1.6%)	5 (0.9%)	570
令和3年度 NST	40 (14.7%)	2/21 (8.4%)	73 (26.8%)	91 (33.5%)	31 (11.4%)	10 (3.7%)	4 (1.5%)	272
摂食嚥下			356 (100%)					356

介入終了理由については退院や転院の割合が増加し、改善の割合はやや減少しました。

	退院	転院	改善	不変	死亡	悪化 (ターミナルなど)	合計 (人)
令和元年度	174 (34.3%)	72 (14.2%)	171 (33.7%)	21 (4.1%)	33 (6.5%)	37 (7.3%)	508
令和2年度	139 (24.6%)	75 (13.3%)	207 (36.6%)	72 (12.7%)	41 (7.2%)	32 (5.6%)	566
令和3年度	161 (25.9%)	99 (15.9%)	187 (30.0%)	109 (17.5%)	30 (4.8%)	37 (5.9%)	623

(3) 今後について

令和4年度は、NST と摂食嚥下支援チームの目標件数をそれぞれ設定し、引き続き活動を行う予定です。適切な栄養管理と介入を継続できるよう、多職種連携を一層強化していきます。

5 排尿ケアチーム

(1) 人員構成

泌尿器科専門の医師、排尿障害患者を3年以上看護した経験を有する看護師、排尿障害患者のリハビリに従事した経験を有する理学療法士・作業療法士

(2) 業務内容

尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の症状を有する患者さんや尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれる患者さんを対象に、入院中から退院後も継続して、排尿の自立に向けて多職種が連携して活動しています。

(3) 令和3年度の取組

・排尿ケアラウンド

排尿障害を有する患者さんや排尿障害が見込まれる患者さんに対して早い段階で介入を行うために、週一回排尿ケアラウンドを行います。病棟と連携してあらかじめ患者さんの排尿状態を把握することにより効率的な診療が可能になります。いままで12N、12S病棟が対象病棟でしたが、令和3年度より13S病棟も対象になりました。主科は主に脳神経外科であり、他に内科、皮膚科などが対象になっています。

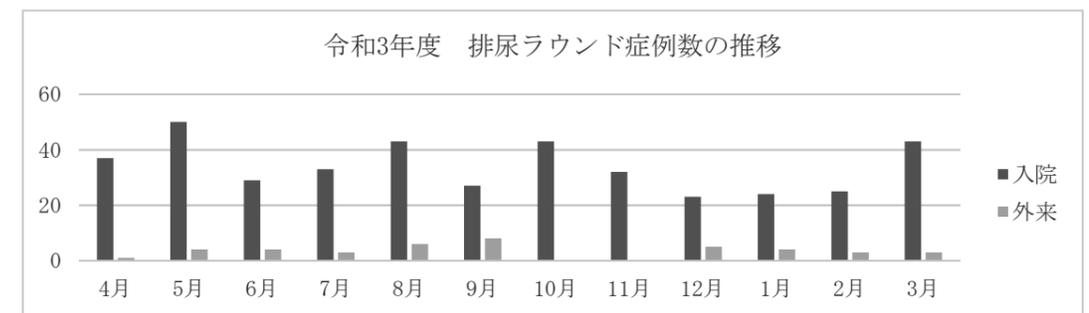
・外来におけるフォローの継続

入院中に排尿ケアラウンド介入対象となった患者さんのうち、必要な患者さんに対して外来でのフォローの継続を行います。入院から自宅へと環境が変化することによってさまざまな不便を感じる患者さんは一定数存在し、排泄というデリケートな問題を周囲に相談することができずに独りで抱えてしまうことがあります。入院中だけでなく外来でも介入を継続することによってこのような問題の解決を図っています。

・病棟勉強会の開催

年二回を目安に病棟勉強会を開催しています。患者さんの排尿状態の把握や記録の方法、注意すべきポイントや排尿ケアラウンドへのコンサルテーションのタイミングなどの情報を共有します。

(4) 実績



V 事務部門概要

1 医事課

医事課長 酒井 俊明

2021年度の診療稼働状況につきましては、決算上、入院診療稼働額は12,436,828千円で前年度比14.8%、外来診療稼働額は5,250,556千円で前年度比21.3%となりました。

また、患者数につきましても、入院患者が161,715人で前年度比4.2%、外来患者288,859人で前年度比8.5%となりました。

まず、入院診療稼働額ですが、コロナ禍でも、手術を可能な限り実施してきたことや、コロナ患者の増減に合わせ機動的な病床運用を実施したことにより、増加しました。また、外来診療稼働額は、外来化学療法室のスペースを拡大し、積極的に外来化学療法を実施したことなどにより、増加しました。

2 診療統計

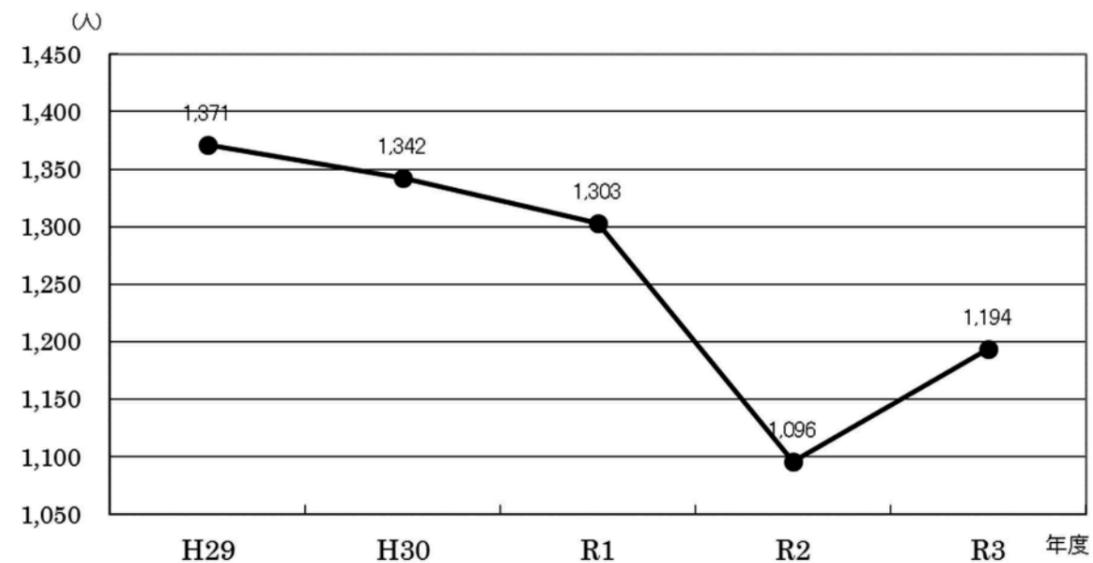
(1) 令和3年度外来患者状況

(R3.4~R4.3)

科 別	新 患	一日平均	再 来	一日平均	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均通院日数
内 科	8,260	34.1	95,980	396.6	104,240	430.7	36.1	12.6
精神・神経科	368	1.5	14,442	59.7	14,810	61.2	5.1	40.2
小 児 科	5,543	22.9	14,535	60.1	20,078	83.0	7.0	3.6
外 科	930	3.8	23,227	96.0	24,157	99.8	8.4	26.0
脳神経外科	335	1.4	3,558	14.7	3,893	16.1	1.3	11.6
整形外科	2,439	10.1	25,005	103.3	27,444	113.4	9.5	11.3
形成外科	440	1.8	2,421	10.0	2,861	11.8	1.0	6.5
心臓血管外科	10	0.0	1,661	6.9	1,671	6.9	0.6	167.1
皮 膚 科	1,129	4.7	10,991	45.4	12,120	50.1	4.2	10.7
泌 尿 器 科	689	2.8	17,494	72.3	18,183	75.1	6.3	26.4
産 婦 人 科	1,484	6.1	14,930	61.7	16,414	67.8	5.7	11.1
眼 科	324	1.3	7,545	31.2	7,869	32.5	2.7	24.3
耳鼻咽喉科	794	3.3	9,794	40.5	10,588	43.8	3.7	13.3
リハビリテーション科	8	0.0	4,325	17.9	4,333	17.9	1.5	541.6
放 射 線 科	701	2.9	1,980	8.2	2,681	11.1	0.9	3.8
歯科口腔外科	2,422	10.0	10,895	45.0	13,317	55.0	4.6	5.5
救命救急センター	2,496	10.3	1,704	7.0	4,200	17.4	1.5	1.7
小 計	28,372	117.0	260,487	1,076.5	288,859	1,193.6	100.0	10.2

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

$$\text{外来患者数（1日平均）} = \frac{\text{診療日数 242 日} \times \text{平均通院日数} \times \text{患者延数}}{\text{新患者数}}$$



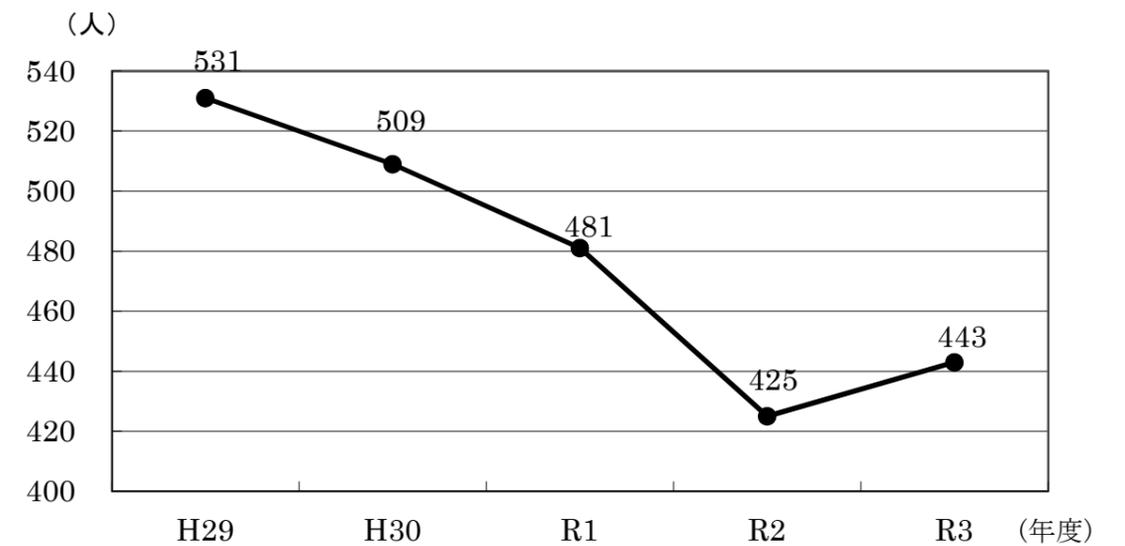
(2) 令和3年度入院患者状況

(R3.4~R4.3)

科 別	前年度繰越	入 院	退 院	死亡 (再掲)	次年度繰越	患者延数	一日平均
内 科	186	4879	4837	242	179	75,524	206.9
小 児 科	16	1162	1160	0	18	9,519	26.1
外 科	45	1565	1603	17	43	18,227	49.9
脳神経外科	8	273	276	16	14	5,529	15.1
整形外科	50	1140	1206	4	40	16,917	46.3
形成外科	0	97	99	0	1	902	2.5
心臓血管外科	1	40	41	1	2	419	1.1
皮 膚 科	8	137	136	1	8	2,044	5.6
泌 尿 器 科	12	871	875	9	14	6,284	17.2
産 婦 人 科	19	1544	1533	3	27	12,171	33.3
眼 科	2	175	175	0	1	701	1.9
耳鼻咽喉科	8	330	326	3	9	3,738	10.2
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0.0
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	0	87	86	0	2	653	1.8
救命救急センター	7	671	589	314	7	3,192	8.7
小 計	362	12971	12942	610	365	155,820	426.9
感 染 症		0	0	0		0	0.0
感染小児科		0	0	0		0	0.0
精 神 科	15	194	219	0	13	5,895	16.2
合 計	377	13165	13161	610	378	161,715	443.1

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

入院患者数（1日平均）



(3) 病棟の利用状況

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
1 4 階 北	52	36	18,980	13,140	12,677	33	693	147
1 4 階 南	51	35	18,615	12,681	12,155	32	504	124
1 3 階 北	51	44	18,615	16,074	13,853	42	1,094	361
1 3 階 南	53	40	19,345	14,649	12,730	32	622	249
1 2 階 北	51	46	18,615	16,790	13,945	27	1,537	94
1 2 階 南	53	46	19,345	16,656	14,758	32	725	286
1 1 階 北	53	42	19,345	15,350	13,403	26	1,064	301
1 1 階 南	53	26	19,345	9,536	7,451	31	597	250
1 0 階 北	53	47	19,345	17,170	14,350	30	1,039	148
1 0 階 南	52	47	18,980	17,155	14,641	29	1,278	61
精神	38	36	13,870	13,140	5,895	15	194	28
9 階 南	20	20	7,300	7,300	3,405	3	962	191
9 階 西 感染	12	12	4,380	4,380	1,836	5	251	124
8 階 北	44	42	16,060	15,330	9,028	13	1,143	6
8 階 南	41	41	14,965	14,965	6,155	18	1,056	5
G C U	18	12	6,570	4,380	2,016	1	85	138
N I C U	6	6	2,190	2,190	1,868	2	152	0
I C U・C C U	12	8	4,380	2,898	1,549	6	169	658
合計	713	586	260,245	213,784	161,715	377	13,165	3,171
新生児	0	0	0	0	4,830	9	829	0

(稼働日数 365 日)

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延数	前月 繰越患者	入院	転入
	公称	稼働	公称	稼働				
一般	663	538	241,995	196,264	153,984	357	12,720	3,019
感染症	12	12	4,380	4,380	1,836	5	251	124
精神	38	36	13,870	13,140	5,895	15	194	28
合計	713	586	260,245	213,784	161,715	377	13,165	3,171
新生児	0	0	0	0	4,830	9	829	0

(稼働日数 365 日)

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合がある。

稼働病床数については、稼働延病床数を稼働日数で除した数とする。

(R3.4. 1~R4.3.31)

退院	転出	期末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公称	稼働			
798	44	31	34.7	66.8	96.5	17.0	46	15.9
599	28	33	33.3	65.3	95.9	22.0	26	21.0
1,132	329	36	38.0	74.4	86.2	12.4	47	11.4
758	114	31	34.9	65.8	86.9	18.4	45	17.4
1,534	94	30	38.2	74.9	83.1	9.1	14	8.1
881	131	31	40.4	76.3	88.6	18.4	28	17.3
1,095	267	29	36.7	69.3	87.3	12.4	15	11.4
678	172	28	20.4	38.5	78.1	11.7	11	10.6
1,122	60	33	39.3	74.2	83.6	13.3	19	12.2
1,296	42	30	40.1	77.1	85.3	11.4	11	10.4
219	5	13	16.2	42.5	44.9	28.5	0	27.5
444	704	8	9.3	46.6	46.6	4.8	320	4.2
140	236	4	5	41.9	41.9	9.4	6	8.7
1,140	1	21	24.7	56.2	58.9	7.9	0	6.9
1,069	2	8	16.9	41.1	41.1	5.8	0	4.8
218	1	5	5.5	30.7	46.0	13.3	0	11.9
12	138	4	5.1	85.3	85.3	22.8	0	22.6
26	803	3	4.2	35.4	53.5	15.9	22	15.6
13,161	3,171	378	443.1	62.1	75.6	12.3	610	11.3
826	0	12	13.2			5.8	0	4.8

退院	転出	期末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公称	稼働			
12,802	2,930	361	421.9	63.6	78.5	12.1	604	11.1
140	236	4	5.0	41.9	41.9	9.4	6	0.0
219	5	13	16.2	42.5	44.9	28.5	0	27.5
13,161	3,171	378	443.1	62.1	75.6	12.3	610	11.3
826	0	12	13.2			5.8	0	4.8

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{患者延数}}{\text{入院+退院}}$$

2

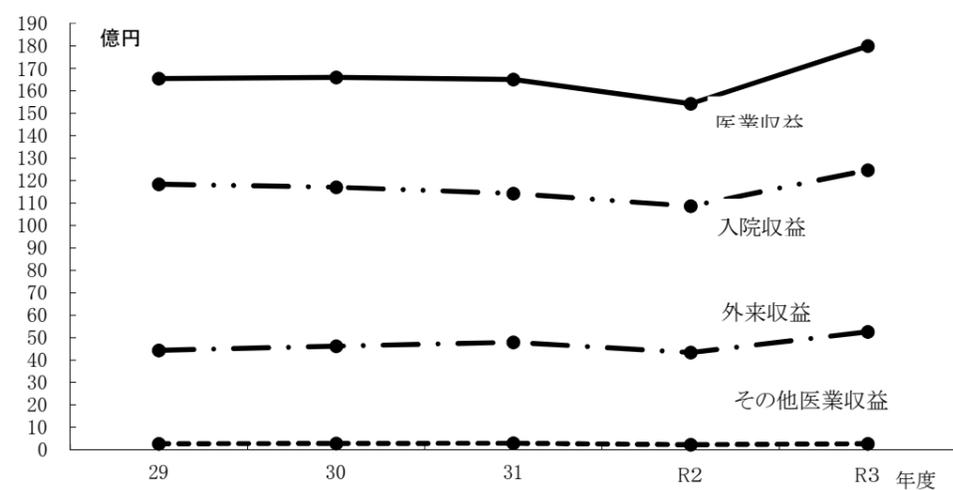
(4) 科別収益状況

科別の収益状況は、令和2年度の医業収益に対し、令和3年度の医業収益は、外来収益が21.3%の増収、入院収益は14.8%の増収で、その他医業収益は16.9%の減収となりました。医業収益全体では、率で16.7%、額で約25億7千万円の増収となりました。

(R3.4~R4.3) (単位：千円)

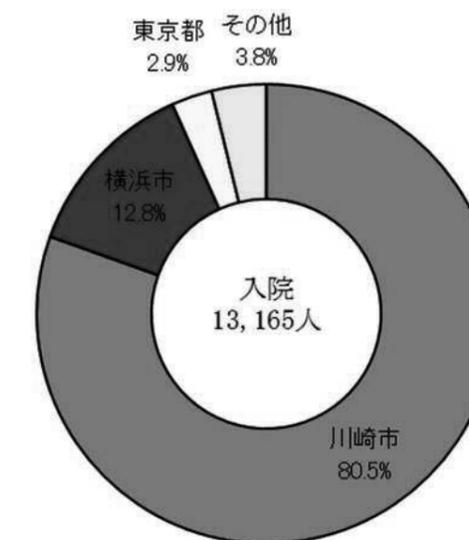
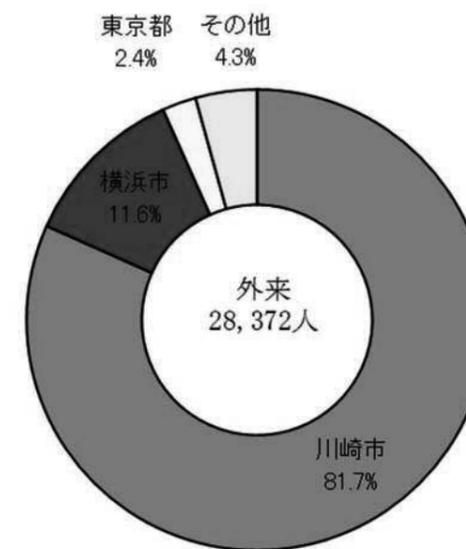
科 別	外 来		入 院		そ の 他 医業収益額	合 計	
	収益額	構成比率 (%)	収益額	構成比率 (%)		収益額	構成比率 (%)
内 科	2,834,972	53.9	5,210,490	41.8		8,045,462	44.7
精 神 科	110,453	2.1	174,514	1.4		284,967	1.6
小 児 科	284,023	5.4	710,521	5.7		994,544	5.5
外 科	426,035	8.1	1,732,675	13.9		2,158,710	12.0
脳 神 経 外 科	84,155	1.6	623,264	5.0		707,419	3.9
整 形 外 科	205,128	3.9	1,620,487	13.0		1,825,615	10.1
形 成 外 科	21,039	0.4	62,327	0.5		83,366	0.5
心 臓 血 管 外 科	10,519	0.2	49,861	0.4		60,380	0.3
皮 膚 科	157,791	3.0	112,188	0.9		269,979	1.5
泌 尿 器 科	320,841	6.1	548,473	4.4		869,314	4.8
産 婦 人 科	220,907	4.2	909,966	7.3		1,130,873	6.3
眼 科	126,232	2.4	87,257	0.7		213,489	1.2
耳 鼻 咽 喉 科	168,310	3.2	274,236	2.2		442,546	2.5
リハビリテーション科	31,558	0.6	0	0.0		31,558	0.2
放 射 線 科	105,194	2.0	0	0.0		105,194	0.6
歯 科 ・ 口 腔 外 科	84,155	1.6	49,861	0.4		134,016	0.7
救命救急センター	68,376	1.3	299,167	2.4		367,543	2.0
感 染 症	-	-	-	-		-	-
その他医業収益	-	-	-	-	269,389	269,389	1.6
合 計	5,259,688	100.0	12,465,287	100.0	269,389	17,994,364	100.0

年度別収益グラフ



(5) 地区別新患外来・入院患者数

区名	患者総数 (人)		構成比率 (%)		患者数及び比率		
	外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院	
川 崎 市	川崎区	15,723	7,123	55.4%	54.1%	23,176	10,593
	幸区	5,462	2,553	19.3%	19.4%		
	中原区	1,218	502	4.3%	3.8%		
	高津区	402	212	1.4%	1.6%		
	宮前区	191	118	0.7%	0.9%		
	多摩区	134	65	0.5%	0.5%		
麻生区	46	20	0.2%	0.2%	81.7%	80.5%	
市 外	横浜市	3,300	1,689	11.6%	12.8%	5,196	2,572
	東京都	675	379	2.4%	2.9%	18.3%	19.5%
	その他	1,221	504	4.3%	3.8%		
合計	28,372	13,165	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	



3 手術統計

ア 外科

(6) 救急患者取扱状況

ア 月別取扱状況

(R3.4~R4.3) (単位：人又は台)

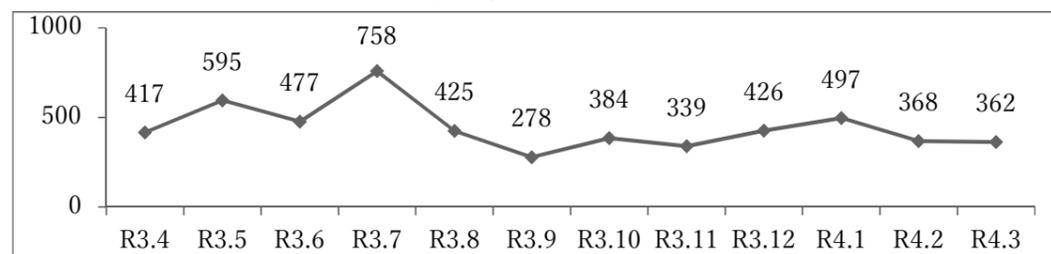
区分	交通事故	一般負傷	自損行為	急病	分娩	その他	合計	来院方法別患者数			計 合
								救急車	パトカー	その他	
4月	14	109	3	1057	25	49	1257	365	1	891	1257
5月	10	154	0	1320	16	79	1579	342	3	1234	1579
6月	8	107	5	1046	21	54	1241	302	3	936	1241
7月	20	116	2	1531	23	58	1750	402	3	1345	1750
8月	10	111	3	1121	31	99	1375	356	4	1015	1375
9月	16	128	5	826	32	54	1061	272	3	786	1061
10月	19	142	2	979	19	45	1206	360	1	845	1206
11月	18	94	2	932	27	36	1109	336	1	772	1109
12月	19	120	1	1188	26	82	1436	432	0	1004	1436
1月	12	152	3	1290	33	54	1544	413	0	1131	1544
2月	11	65	4	988	20	40	1128	345	1	782	1128
3月	15	124	4	986	25	16	1170	366	0	804	1170
計	172	1422	34	13264	298	666	15856	4291	20	11545	15856
構成比率(%)	1.1	9.0	0.2	83.7	1.9	4.2	100	27.1	0.1	72.8	100

イ 科別取扱状況

(R3.4~R4.3) (単位：人)

区分	科別	内科	神経	小児	外科	脳外	整形	形成	心外	皮膚	泌尿	産婦人科	眼科	耳鼻	リハビリ	放射	口外	救命救急	計
外来	患者数	3554	12	5005	67	844	114	0	76	170	130	76	33	178	0	33	333	2569	13194
	構成比率(%)	26.9	0.1	37.9	0.5	6.4	0.9	0	0.6	1.3	1	0.6	0.3	1.3	0	0.3	2.5	19.4	100
入院	患者数	1168	25	267	202	61	0	0	39	7	17	433	0	11	0	0	0	432	2662
	構成比率(%)	43.9	0.9	10	7.6	2.3	0	0	1.5	0.3	0.6	16.3	0	0.4	0	0	0	16.2	100
計	患者数	4722	37	5272	269	905	114	0	115	177	147	509	33	189	0	33	333	3001	15856
	構成比率(%)	29.8	0.2	33.3	1.7	5.7	0.7	0	0.7	1.1	0.9	3.2	0.2	1.2	0	0.2	2.1	19	100

ウ 令和3年度小児急病センター患者受入状況



術式	件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
食道癌手術	3	5	5
食道裂孔ヘルニア手術	1	2	2
特発性食道破裂手術	0	0	0
胃全摘術	10	12	5
幽門側胃切除術	22	24	24
局所切除術	5	4	5
バイパス術	5	1	3
広範囲胃切除術	1	0	0
グラハム術	5	6	6
胃単純縫合術	0	1	0
合計	52	55	50
右側結腸手術	41	45	44
左側結腸手術	32	35	42
直腸手術	32	35	23
ハルトマン術	5	8	9
人工肛門造設術	20	17	21
人工肛門閉鎖術	0	9	16
肛門手術(痔核その他)	11	18	34
合計	149	167	189
肝切除術	27	31	28
胆嚢摘出術	134	111	128
膵頭十二指腸切除術	20	15	13
尾側膵切除術	3	8	7
その他	8	10	10
合計	192	175	186
乳癌手術	57	52	65
Bt	24	36	55
Bp	32	15	10
乳房温存率	57%	29	15
SN生検施行率	75%	82	77
良性疾患	11	4	10
合計	68	56	75
動脈瘤	38	37	40
末梢性動脈疾患	96	100	107
急性動脈閉塞症	30	32	35
下肢静脈瘤	52	49	27
内シャント関連	142	179	167
その他	20	16	131
合計	378	413	507

平成28年度より、術式の項目を変更。

イ 呼吸器外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
肺 癌	肺全摘出	0	1	0	
	肺葉切除	11	4	6	
	肺区域・部分切除	6	4	2	
	胸腔鏡下肺葉切除	54	44	39	
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	19	14	19	
	気管支形成術を伴う肺葉切除・肺全摘	2	1	1	
	試験開胸術	0	0	1	
	転 移 性 肺 腫 瘍	肺全摘出	0	0	0
		肺葉切除	0	2	3
		肺区域・部分切除	7	1	1
胸腔鏡下肺葉切除		0	0	1	
肺（その他悪性）	胸腔鏡下葉切除・肺区域・部分切除	10	9	7	
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	3	5	2	
肺（良 性）	肺全摘出	0	0	0	
	肺葉切除	3	3	2	
	肺区域・部分切除	0	0	0	
	胸腔鏡下肺葉切除	0	0	0	
気胸・嚢胞性肺疾患	胸腔鏡下肺区域・部分切除	1	6	4	
	肺部分切除・肺縫縮術等	4	2	1	
縦 隔 腫 瘍	胸腔鏡下肺部分切除・肺縫縮術等	28	9	18	
	胸腺摘出術	6	4	6	
重 症 筋 無 力 症	腫瘍摘出術	4	1	5	
	拡大胸腺摘出術	0	0	0	
縦 隔（その他）	腫瘍・リンパ節生検	1	3	2	
	リンパ節摘出	0	0	0	
	交感神経節切除	0	0	0	
胸 膜（悪 性）	胸膜肺全摘	1	0	0	
	生検	0	0	3	
胸 膜（良 性）	腫瘍摘出術	0	0	0	
	生検	2	5	6	
	開窓術	0	0	0	
	脳胸腔搔把・筋弁充填・剥皮術	0	0	2	
胸 外	腫瘍摘出術等	2	2	1	
	肺葉切除等	1	0	1	
そ の 他		1	7	15	
計		166	127	148	

ウ 内視鏡センター利用状況

分 類	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
上部消化管内視鏡	5,255	4,590	4342
超音波内視鏡	12	5	9
食道・胃粘膜切除術	46	36	32
（食道粘膜切除術）	17 (ESD16)	10 (ESD 10)	7 (ESD 7)
（胃粘膜切除術）	28 (ESD26)	26 (ESD 26)	24 (ESD 24)
中・下咽頭粘膜切除術	0	0	0
上部消化管静脈瘤治療	26	35	23
（EVL）	(26)	(35)	(22)
（EIS）	(0)	(0)	(1)
胃静脈瘤硬化療法（SOS）	1	0	0
狭窄拡張術	57	54	35
止血術	96	98	85
人工食道挿入	0	0	0
胃ろう造設（PTEG）	57	48	35
イレウス管挿入	3	2	1
異物除去	17	18	21
下部消化管内視鏡	2,231	1,846	1,911
大腸粘膜切除術	339 (ESD8)	250 (ESD7)	260 (ESD 7)
大腸ポリペクトミー	200	161	181
吻合部拡張術	4	8	7
止血術	24	25	19
カプセル内視鏡	21	13	19
気管支鏡	208	198	278
経気管支肺生検	0	0	0
膵・胆道内視鏡	419	310	339
逆行性膵・胆管造影	238	191	206
超音波内視鏡	181	119	133
EUS-FNA	(22)	(25)	22
乳頭括約筋切開術	78	73	75
乳頭バルーン拡張術	10	24	16
胆管結石採石・砕石術	74	74	71
経鼻胆道ドレナージ術	87	64	73
胆管ステント挿入術	51	44	54
膵管ステント挿入術	17	13	9
乳頭切除術	0	0	2
細胞診	0	0	0
組織診	0	0	0
計	8,137	6,957	6,898

エ 脳神経外科

分類	病名及び術式	件数		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
腫瘍	メニンジオーマ	8	7	12
	グリオーマ	7	9	5
	転移性脳腫瘍	9	18	10
	頭蓋咽頭腫	0	0	0
	下垂体腫瘍	6	2	5
	その他の腫瘍	6	1	1
血管疾患	脳動脈瘤（直達手術のみ）	5	8	13
	高血圧性脳出血	5	13	17
	脳動静脈奇形（直達手術のみ）	0	1	2
	血管内手術・出血性疾患（脳動脈瘤・動静脈奇形）	8	9	15
	血管内手術・閉塞性疾患（ステント・血栓除去など）	10	6	29
	その他（水頭症など）	13	12	38
外傷	慢性硬膜下血腫（水腫）	34	30	27
	急性硬膜下血腫	5	6	1
	急性硬膜外血腫	4	2	1
	陥没骨折	0	0	0
	骨弁形成術・減圧開頭術	2	0	1
	その他（水頭症など）	0	0	11
水頭症 奇形	癌性髄膜炎・正常圧水頭症など	23	21	32
	髄膜瘤など	0	0	0
その他	その他	33	28	70
計		179	173	258

オ 整形外科

術式	件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
脊柱、脊髄、頸椎、前方 "、後方 胸椎、前方 "、後方 腰椎、前方 "、後方	19	13	16
	58	53	36
	1	0	2
	25	14	11
	17	15	24
	166	167	161
腱、神経	35	57	33
骨折	336	365	317
骨折以外の外傷	29	14	54
抜釘	81	93	65
手の手術	134	72	108
先天性奇形	2	4	3
骨軟部腫瘍	16	20	16
関節鏡 手 肘 肩 膝 股	30	16	16
	3	1	4
	63	51	82
	26	15	55
	1	2	1
人工股関節	70	58	74
人工膝関節	89	64	56
人工肩関節	13	15	23
その他の人工関節（肘、指、足）	4	3	2
上肢切断術（指含む）	0	3	4
下肢切断術（踵含む）	20	20	18
その他	27	24	24
計	1,265	1,156	1,205

カ 形成外科

分 類	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
I. 外傷	327	93	85
II. 先天異常	11	14	17
III. 腫瘍	219	185	148
IV. 瘻痕・瘻痕拘縮・ケロイド	29	15	17
V. 難治性潰瘍	22	14	19
VI. 炎症・変性疾患	12	11	26
VII. 美容（レーザー）	28	12	12
VIII. その他	28	14	18
計	676	358	342

キ 心臓血管外科

分 類	病 名	術 式	件 数		
			令和元年度	令和2年度	令和3年度
心大血管	大動脈	●胸部、胸腹部 人工血管置換術 他 開心術	1	3	2
			先天性心疾患		
	後天性心疾患				
	●弁 膜 症	人工弁置換術、弁形成術	4	2	2
	●冠動脈疾患	冠動脈バイパス術 他	2	1	
	●心房細動	メイズ手術（単独）			
	●そ の 他		1		
	心外傷				
	その他	ペースメーカー移植 心カテアングジオ検査 その他	} 40	} 20	} 19
	計		48	26	23

ク 皮膚科

術 式	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
皮膚生検	96	156	206
皮膚良性腫瘍摘出	199	161	172
皮膚悪性腫瘍摘出	10	47	54
計	305	364	432

ケ 泌尿器科

術 式	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
後腹膜腫瘍摘出	0	0	1
腹腔鏡下副腎摘除術（部分切除を含む）	3	3	3
副腎全摘除術	0	1	0
腎摘除術（良性）	0	0	0
根治的腎摘除術（悪性）	2	0	0
腎部分切除術	1	0	0
腹腔鏡下腎摘除術	11	11	17
腹腔鏡下腎部分切除術	1	0	0
ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	9	16	17
腎尿管全摘除術	0	0	0
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	19	13	14
腎盂形成術	0	0	0
腹腔鏡下腎盂形成術	0	0	2
ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術			1
腎瘻造設術	18	17	10
PNL	3	7	7
腎盂切石	0	0	0
膀胱切石術	1	0	0
膀胱全摘除術（骨盤内蔵全摘を含む）	0	1	1
腹腔鏡下膀胱全摘除術	12	7	12
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴うもの）	12	7	12
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴わないもの）	1	0	1
代用膀胱造設術	0	1	0
尿管皮膚瘻造設術	0	0	1
経尿道的手術			
a) 膀胱結石、異物	14	17	13
b) TURBT	131	93	118
c) TURP (TUEB, HoLEPを含む)	54	25	51
d) TUL	62	63	101
e) 経尿道的尿管狭窄拡張術	2	4	3
f) 内尿道切開切開術	11	8	8
g) 尿道狭窄拡張術	3	2	6
膀胱尿管新吻合	0	2	2
尿管尿管吻合	0	0	1
膀胱修復術	3	2	1
包茎手術（環状切開）	4	3	3
精巣摘出術	11	4	6
高位精巣摘除術	2	5	3

術式	件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
精巣固定術（停留精巣）	0	0	0
精巣（睾丸）捻転手術	2	2	3
陰嚢水腫根治手術	4	4	9
精索静脈瘤切除術	0	0	1
尿膜管嚢胞切除術	0	1	0
前立腺摘除術	0	0	0
腹腔鏡鏡下前立腺摘除術	0	0	0
ロボット支援腹腔鏡鏡下前立腺摘除術	57	65	43
前立腺針生検術	175	141	151
陰茎全摘除術	0	0	0
陰茎部分切除術	0	0	1
陰茎癌鼠径リンパ節廓清術	0	0	0
陰茎折症	0	1	0
E SWL	15	24	18
腎生検	7	4	3
尿管ステント留置	92	106	110
経皮的腎嚢胞縮小術	0	0	0
CVポート	8	11	6
膀胱瘻造設術	3	1	6
R P	41	31	27
膀胱部分切除術（腹腔鏡含む）	2	0	4
腹腔鏡下尿膜管切除術	2	2	3
腹腔鏡下腎嚢胞開窓術	1	0	0
フルニエ手術	3	1	1
膀胱瘻閉鎖術	1	0	0
カルンクラ切除術	2	0	2
小腸利用代用尿管手術（腹腔鏡含む）	2	0	0
経尿道的電気凝固止血術	17	3	12
人口尿道括約筋埋込術			3
計	824	709	818

コ 産科・婦人科

術式	件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内視鏡手術 合計	411	287	365
腹腔鏡手術 合計	214	161	187
腔式子宮全摘術	51	54	71
子宮筋腫核出術	44	27	31
付属器切除術	39	13	23
卵巣腫瘍摘出術	60	52	54
卵管開口術		0	0
子宮外妊娠手術	13	9	5
その他	7	3	3
子宮鏡手術 合計	197	126	178
粘膜下筋腫摘出術	171	97	108
その他	26	29	70
婦人科開腹手術 合計	155	141	112
良性腫瘍手術 合計	92	102	56
腹式単純子宮全摘術	49	80	38
腔上部切断術	0	0	0
子宮筋腫核出術	28	16	8
付属器切除術	7	5	6
卵巣腫瘍摘出術	5	1	3
子宮外妊娠手術（開腹）	0	0	1
その他良性腫瘍手術	3	0	0
悪性腫瘍手術 合計	63	42	56
子宮悪性腫瘍手術	-	20	14
子宮悪性腫瘍手術（腹腔鏡）	-	3	4
拡大子宮全摘術	1	0	1
広汎子宮全摘術	0	0	1
子宮付属器悪性腫瘍手術	12	16	12
試験開腹	2	3	1
その他悪性腫瘍手術	48	0	23
産科手術 合計	325	251	284
帝王切開術	310	241	272
妊娠子宮摘出術	0	0	1
頸管縫縮術	4	3	3
卵管結紮術	11	7	7
その他産科手術	0	0	1
腔式手術 合計	81	77	67
子宮全摘+腔壁形成	2	1	0
腔壁形成術	2	1	1
腔閉鎖術	1	0	0
子宮腔部円錐切除術	53	53	53
バルトリン腺手術	2	0	1
その他腔式手術	21	22	12
子宮内容除去手術 合計	58	43	37
流産手術	22	22	17
胞状奇胎除去術	12	3	1
人工妊娠中絶術	1	1	3
全面搔爬術	23	17	16
計	1,030	799	865

サ 眼科

術式	件数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
白内障	388	334	311
硝子体手術	47	81	98
緑内障	0	0	0
網膜剥離（強膜バックリング）	0	2	0
斜視	2	2	2
眼瞼腫瘍	2	1	1
眼瞼内反、眼瞼外反	0	2	2
眼球破裂	0	0	1
眼内異物	2	1	3
翼状片	2	2	1
霞粒腫	0	1	1
黄斑下血腫移動術	0	1	2
眼内レンズ整復	1	0	0
結膜弛緩症	1	0	1
眼内レンズ縫着術・強膜内固定術	5	13	7
眼窩脂肪ヘルニア	0	0	1
眼瞼下垂	0	2	2
その他	0	0	0
硝子体注射	246	280	252
光凝固術			
網膜	76	61	75
緑内障	2	0	2
後発白内障	64	40	46
光線力学療法	18	11	28
計	839	816	836

シ 耳鼻咽喉科

分類	病名	術式	件数			
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	
耳	慢性中耳炎	鼓室形成	8側	8側	8側	
		乳突削開術	3側	8側	6側	
		鼓膜形成	2側	0側	0	
	滲出性中耳炎	鼓室内チューブ留置	29側	10側	21側	
		先天性耳瘦孔	1側	0側	3側	
		外耳道その他	1	0	2	
		良性腫瘍	腫瘍摘出	0	0	0
	鼻	慢性副鼻腔炎	内視鏡下副鼻腔手術	32側	16側	39側
			頬部嚢腫	上顎洞根本術	0	0
		鼻中隔彎曲症	鼻中隔矯正術	17	6	6
肥厚性鼻炎		下甲介切除術	8側	2側	6側	
上顎骨鼻骨骨折		整復	0	0	0	
鼻茸その他			0	2	2	
鼻副鼻腔悪性腫瘍		アデノイド増殖	アデ切除	1	3	2
		慢性扁桃炎	扁桃摘出	23	4	5
		咽頭良性腫瘍	摘出・切除	88側	24側	27側
		咽頭悪性腫瘍	摘出・切除	6	0	1
喉頭	声帯ポリープ、他	ラリngoマイクロ	6側	9側	14側	
	悪性腫瘍	ラリngoマイクロ	20	11	12	
舌・口腔	良性腫瘍・チステ他	摘出・切除	4	0	1	
顎頸部	唾液腺手術	良性手術摘出	15	23	14	
		悪性手術摘出	4	0	3	
	甲状腺手術	良性手術摘出	11	10	13	
		悪性手術摘出	15	10	6	
	頸部のう胞他	リンパ節	摘出	7	0	3
		リンパ節	摘出	17	23	39
		気管切開		17	28	38
	頭頸部悪性	舌・口腔	悪性手術摘出	15	14	13
			咽頭	悪性手術摘出	22	10
		喉頭	悪性手術摘出	3	6	7
頸部郭清			皮弁形成	39	38	23
その他			2	7	0	
			23	8		
計			439	280	356	

術 式	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
〈入院手術症例〉			
上下顎骨形成術	2	5	12
顎顔面多発骨折観血的整復固定術	3		1
下顎骨骨折観血的整復固定術	5	3	5
頬骨骨折観血的整復固定術			
固定金属板除去術	5	4	4
唇顎口蓋裂手術			
顎骨嚢胞摘出術	27	32	35
顎骨骨髓炎手術	3		3
上顎洞根本術			
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1	1	
唾石摘出術	1		
腫瘍摘出術	18	13	2
顎骨腫瘍摘出術	4	3	
口腔・顎・悪性腫瘍切除術	3	4	2
顎骨・顔面再建術	1	3	2
下顎・口蓋隆起形成術		7	5
埋伏歯抜歯術	36	13	17
顎関節脱臼観血手術			
顎関節授動術（開放）		1	
歯根端切除術	25	13	12
インプラント関連手術	2		
心身障害児歯科治療	2	1	1
その他			
〈外来手術症例〉			
埋伏歯抜歯術	993	760	1,127
抜歯術	1,146	848	1,079
嚢胞摘出術	133	72	97
歯根端切除術	69	40	58
縫合術	13	5	19
腫瘍摘出術	53	35	29
矯正用インプラント埋入術	30	11	37
インプラント埋入術	13	7	13
インプラント骨移植術	5	2	5
インプラント関連手術		13	16
その他	279	192	215
計	2,872	2,088	2,796

4 分娩統計

術 式	件 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
単胎分娩	871	701	745
双胎分娩	22	14	21
経膈分娩	594	484	496
帝王切開分娩	299	231	271
帝王切開率	33.4%	32.3%	35.3%
早産分娩	110	67	89
正期産分娩	883	661	678
過期産分娩	0	0	0
早産率	12.0%	9.2%	12.0%
吸引分娩	50	67	73
鉗子分娩	0	0	0
骨盤位分娩	0	1	0
V B A C	0	0	0
予定帝王切開	147	133	134
緊急帝王切開	152	98	138
緊急帝王切開率	17.0%	13.7%	18.0%
母体搬送依頼（出）	2	8	5
母体搬送応需（入）	27	20	37
院外分娩	0	1	0
分娩時平均年齢	31.4歳	31.4歳	31.6歳
初産	453	368	401
経産	456	347	366
男児	481	374	422
女児	434	350	367
川崎市	513	376	421
幸区	181	183	166
中原区	24	28	23
川崎市	740	604	631
鶴見区	58	54	62
横浜市	85	67	81
大田区	17	17	25
東京都	38	27	38
川崎市民の割合	82.9%	84.5%	82.3%
分 娩 件 数	893	715	767
分 娩 総 数	915	729	789

5 クリニカルパス使用件数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14N	5	6	14	6	9	3	11	4	13	4	4	9	88
14S	1	4	3	1	0	3	2	3	2	2	3	6	30
13N	57	40	50	39	51	36	31	47	41	38	27	37	494
13S	5	8	10	9	10	3	8	11	5	11	39	10	129
12N	97	88	84	74	87	78	80	76	70	80	68	68	950
12S	12	9	12	13	13	18	16	16	21	13	15	15	173
11N	48	50	61	39	49	43	47	40	32	38	36	40	523
11S	41	0	1	31	22	11	3	33	34	37	30	38	281
10N	58	61	72	44	65	30	68	55	51	77	37	55	673
10S	96	62	72	61	82	51	75	69	68	68	47	67	818
9N	2	4	3	3	4	5	3	4	3	2	4	6	43
9S	3	5	2	3	4	2	2	7	10	4	5	7	54
9W	1	7	11	16	7	3	0	0	1	1	1	0	48
8N	93	84	74	90	104	85	76	98	89	89	78	86	1,046
8S	16	19	19	23	21	24	22	14	16	17	20	13	224
8W	7	6	2	4	7	9	5	1	6	9	8	3	67
ICU	0	0	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	6
OPE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	542	453	492	456	535	405	451	479	462	490	422	460	5,647

6 外来治療センター利用状況

令和3年度治療患者数

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸	46	39	47	42	46	52	49	60	57	56	62	66	622
胃・食道	16	13	25	15	19	15	17	10	11	16	18	19	194
肝胆膵	29	30	29	33	26	40	41	34	31	26	24	27	370
乳腺	31	28	33	4	6	8	8	6	5	6	6	4	145
呼吸器	67	64	68	58	67	67	71	72	88	85	74	106	887
造血器	108	105	130	89	85	98	117	113	86	126	120	183	1360
婦人科	10	7	7	7	6	6	9	7	8	11	9	19	106
脳神経	9	10	8	8	10	6	8	11	12	11	12	7	112
泌尿器	16	14	13	13	15	12	13	16	25	19	16	23	195
頭頸部	19	14	21	17	23	24	27	24	30	33	21	28	281
その他	6	14	14	33	29	29	38	43	49	37	43	42	377
膠原病	37	33	36	37	35	43	44	47	46	46	39	55	498
炎症性腸疾患	6	7	5	8	5	9	5	8	5	10	6	9	83
施行数	400	378	436	364	372	409	447	451	453	482	450	588	5230
診療日数	21	18	22	20	21	20	21	20	18	19	18	22	240
1日平均	19.0	21.0	19.8	18.2	17.7	20.5	21.3	22.6	25.2	25.4	25.0	26.7	21.8

7 主要医療器械・備品

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	弁手術用開胸器システム	St. Jude Medical KS-7002 他	1式	
〃	婦人科用腹腔鏡システム	オリンパス UHI-3 他	1式	
〃	膝関節鏡システム	0988-010-000-S2 他	1式	
〃	脳神経外科内視鏡セット	オリンパス工業 光学視管 (A7500A) 他	1式	
〃	尿管鏡	原田産業 M3 テレスコープ 他	1式	
〃	頭部固定装置 (バデーハローリトラクター)		1	
〃	電気手術装置システム	エルベ VI0300D	1	
〃	電気手術装置	アムコ VI0300D	1式	
〃	4Kカメラシステム	日本ストライカー 1688 AIM	1式	
〃	Cアーム	シーメンス	1式	
〃	創外固定器システム		1	
〃	セントラルモニタ	日本光電 PU-621R	1式	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-191R	1式	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-172R	9式	
〃	自己血回収システム	セルセーバー 5 CS-2005	1式	
〃	耳鼻科用内視鏡手術装置	ストライカー MV-882TE 他	1	
〃	耳鼻科用ドリルシステム	ジンマー オステオンドリルシステム 5038-001	1式	
〃	耳鼻科内視鏡システム	カールストルツ IMAGE1	1式	
〃	子宮鏡セット	オリンパスヒステロスコープHYF-XP他	1式	
〃	結石破碎装置	コントロールユニット840-100 他	1	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS	1式	
〃	手術用無菌水手洗装置	MRE-SR-3型, 2型	1	
〃	関節鏡システム	オリンパス	1式	
〃	患者監視装置	日本コーリン BP-508N	2	
〃	外科用X線テレビ装置	日立メディコ Sirius Floating/C	1式	
〃	マイダレックスモーターシステム	ムラナカ	1式	
〃	下肢静脈瘤治療用ダイオードレーザー	インテグラル ELVeSL-ザ-1470	1式	
〃	ナビゲーターGPSシステム	タイコヘルスケア 097010 他	1式	
〃	手術用顕微鏡	カールツァイス TIVAT0700	1式	
〃	ドリルシステム	日本メドトロニック マイダスレックス・ハイスピードドリル・レジェンド・システム	1式	
〃	鏡視下脊椎手術セット	メドトロニック METRxシステム	1式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	イリゲーション付バイポーラセット	J & J CMC-3	1式	
〃	CT定位脳手術装置	駒井式	1	
〃	腹腔鏡用カメラシステム	オリンパス VISERAProシステム	1	
〃	電気手術装置	バリーラブ ForceTriad	3	
〃	超音波血流計	Medi-Stim社 トランジットタイム血流計VQ4122	1	
〃	耳鼻科用シェーバー/ドリルシステム	メドトロ・ソファモアダネック XPS3000	1	
〃	喉頭観察鏡システム	オリンパス PortaView-LF	1	
〃	マイクロサージェリー手術台	瑞穂医科 最低位41cm以下	1	
〃	皮膚灌流圧測定器	カネカメディックス PAD3000	1	
〃	周術期患者情報システム	オムロンコーリン	1式	
〃	外科用手術顕微鏡システム	ライカ他M525-MS3/MKC-507	1式	
〃	電動マイクロドリル	ストライカーコアシステム	1	
〃	ラジオフリークエンシーシステム	スミスアンドネフュー他ValcanEASSystem他	1式	
〃	外科用X線TV装置	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	生体情報モニタ	オムロンコーリンソーラー8000i	1式	
〃	処置用ビデオスコープ	オリンパス ENF-VT2	1	
〃	腎盂/上下尿路観察鏡セット	オリンパス URF-V他	1式	
〃	整形外科用ドリルシステム	ストライカー コードレスドライバー3	1	
〃	関節鏡カメラシステム	スミス・アンド・ネフュー 560シリーズ	1式	
〃	電気メス	東機貿 ベサリウスMCM	1	
〃	電気メス	アムコ VI03 5ソケットモデルC E12-5006 10160-000	3	
〃	内視鏡手術カメラシステム	カールストルツ IMAGE1他	1	
〃	腹腔・胸腔用TVシステム	オリンパス OTV-S7PRO	1式	
〃	電解質TUR+内尿道切開システム	オリンパス WA22367A 他	1式	
〃	手術顕微鏡システム	ライカ OH4	1式	
〃	脊椎内視鏡 SPINAL ENDOSCOPES セット	カールストルツ spinal endoscopes セット	1式	
〃	腹腔鏡・胸腔鏡 TV システム	オリンパス VISERA ELITE 他	1式	
〃	腹腔・胸腔鏡用内視鏡システム一式	オリンパス VISERA ELITE II OTV-S300	1式	
〃	デュアルイメージングカラー モジュール	ライカ DIC500FL	1式	
〃	開胸器 (一般)	日本ストライカー システム7 胸骨鋸ハンドピース他	1式	
〃	眼科用冷凍手術システム	キラー・アント・ワイパー クライオマック M-4100	1式	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン VIVIDi	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	バッテリーハンドピース	日本ストライカー システム7 シングルトリガーローターハンドピース他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療用超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQe Expert	1	
〃	内視鏡下手術用TVシステム	オリンパス VISERA ELITE OTV-S190 他	1式	
〃	眼底観察システム	カールツァイス Resight 他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療器	インテグラル ELVeS レーザー	1	
〃	移動型外科用X線撮影装置	GEヘルスケア・ジャパン OEC9900 Elite Standard-C 12Inch	1	
〃	Force Triad	コウテイエン エネルギープラットフォーム	1	
〃	手術用治療機器	オリンパス Surgical Tissue Management System	1	
〃	白内障・硝子体手術装置	日本アルコン コンステレーションビジョンシステム LXT	1	
〃	内視鏡システム	日本ストライカー 内視鏡 1488 カメラシステム 他	1	
〃	軟性尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V 他	1	
〃	手術用無影灯 STERIS LED 2灯式	アムコ S27-0724 他	1	
〃	頭蓋固定器	欧和通商 メイフィールド・XR-2 スカルクランプ A2114, ベースユニット S A2079S	1式	
〃	電動手術台	マッケジャパン	1	
〃	ハイスピードドリル	日本メドトロニック EM200 他	1	
〃	手術用カメラ・Iテレスコープ	カールストルツ	1	
〃	超音波画像診断装置	LOGIQ S8	1	
〃	無影灯	STERIS LED 2灯式	2	
〃	無影灯	STERIS LED 2灯式 (カメラ非対応) S 27-5953	1	
〃	高周波電源焼灼装置	ESG-400	1	
〃	無影灯	アムコ STERIS LED 2灯式	2	
〃	無影灯	アムコ STERIS vLED 2灯式 (カメラ非対応)	1	
〃	da Vinci Si	インテュイティブサージカル	1	
〃	エアシールインテリジェント フローシステム	センチュリー AS-iFS1	1	
〃	耳鼻科手術用ナビゲーション システム	日本メドトロニック 9733560	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンス CS2Pro	1	
〃	婦人科手術用HDカメラシステム	カールストルツ	1	
〃	ヘッドレストシステム	ユフ精器 LUNA スタンダードリトラクターシステムセット	1	
〃	腹腔・胸腔鏡用TVシステム	オリンパス OTV-S190	1	
〃	Q-SWルビーレーザー	エムエムアンドニーク MODEL IB101	1	
〃	バーサパルスセレクト 30W	ボストンサイエンティフィックジャパン	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	無影灯	アムコ STERIS vLED	1	
〃	モバイルCアームシステム	PHILIPS BV Vectra	1	
〃	無影灯	アムコ STERIS LED	1	
〃	手術麻酔記録支援システムハードウェア	フクダコーリン CIS-OR	1	
〃	腹腔・胸腔鏡用 TV システム関連	オリンパス VISERA ELITE システム	1	
〃	外科ラパロ鉗子セット	オリンパス/GEISTER/カールツルツ 一式	1	
〃	超音波診断装置 (消化器外科)	日立製作所 F37	1	
〃	オシレーター (手術用ドリル)	ジンマーバイオメット パワーブローア PR-6175-000-00	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン エイス CS2ProEtC	1	
〃	モルセレーターシステムセット	カールツルツ・エンテスコピ・ジャパン 一式	1	
〃	血液ガス分析装置	ノバ・バイオメディカル	1	
〃	超音波手術器	日本ストライカー ソパットUST-2001	1	
〃	電動手術台 MERRA	ゲティンゲ 720001B0	6	
〃	ヒステロビデオスコープ	オリンパス VISERA HYF-V	1	
〃	手術台	ゲティンゲグループ・ジャパン MERRA 720001B0	2	
〃	手術用気動ドリル	ジョンソンエンドジョンソン	1式	
〃	手術用電動ドリル	ジョンソンエンドジョンソン	1式	
〃	内視鏡用能動切除器具	ホストン・サイエンティフィックジャパン ハーサカットシステム 840-890	1	
〃	アルゴンプラズマ凝固装置	アムコ VI0200S スタンダードモデル E12-1159	1	
〃	硬性気管支鏡	原田産業 テューモンブロンコスコープ	1	
〃	鋼製小物手術器機械 (整形外科用)	日本ストライカー システム8コートレストライバーハンドピース 4505-000-000 他	1式	
〃	◎3D先端湾曲ビデオスコープ	オリンパス LTF-S300-10-3D	1	
〃	◎血管内視鏡	インターテックメディカルズ 3COMS HD カメラFC-304, 3LED光源装置FC-304	1	
〃	◎胸腔鏡	オリンパス WA50042A	1	
〃	◎耳鼻咽喉科手術用マイクロデブリッター	メドトロニック IPCコンサルENT	1	
〃	◎31型3D対応4K液晶モニター	オリンパス LMD-X310ST	1	
〃	◎ハイビジョン画像記録装置	オリンパス IMH-200	1	
〃	◎HDカメラヘッド	オリンパス CH-S190-08-LB	3	
〃	◎腎盂尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V3	2	
〃	◎VISERA ELITE II システム	オリンパス OTV-S300 他	1	
〃	◎電気誘発反応刺激装置	メドトロニック リードポイント・Star ドライブ 9033A0811AA	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
手術室	◎脳神経外科手術用機械ナビゲーションシステム一式	ブレインラボ	1	
器材室	中央器材室セット5	ムラナカ 113-002-03 他	1式	
〃	システム乾燥機	サクラ精機 SNK-1152E	1	
〃	インテリジェントトレイシステム	自治体病院共済会	1式	
〃	スリッパ洗浄器	オカダ医材	1	
〃	酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機他 SHE-G15W型	1式	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	シャープ MU5100	2	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	サクラ精機 WUS-3100	1	
〃	高圧蒸気滅菌装置	HS6613TDR2-SR-UL	1	
〃	超音波洗浄装置	モレーンコーポレーション MDE11132-5S	1	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケアソリューションズ ES-700i	1	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケアソリューションズ ES-1400S	1	
〃	コアマイクロドリル	日本ストライカー コア2マイクロドリル	1式	
〃	過酸化水素ガス滅菌器	キャノンライフケア ES-1400S	1	
〃	開創器	Boss Instruments LTD. ロボスター開創器血管セット+プロティアンフレーム	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-1TQ290, BF-P290	1式	
〃	下垂体手術用鋼製小物セット	フジタ医科器械	1式	
〃	ハンドピースキット	ストライカー 25MS エバーナル 5450-845-000	1式	
〃	手術用器具	J&J 他 ハンドピース HP054 他	1式	
〃	滅菌コンテナ		1	
麻酔科	人工呼吸器解析装置システム	大正医科 VT-PLUS	1式	
〃	血液ガス分析装置	ノバ・メディカル スタットプロファイルCCX1	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア アバンスケアステーションPro	2	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS他	1式	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンスケアステーションPro	2	
〃	超音波診断装置	富士フイルム S-Nerve	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア・ジャパン アバンス CS2 Pro	2	
〃	動脈圧心拍出量計	エドワーズライフサイエンス EV1000 クリティカルケアモニター	1式	
外来手術室	高周波ラジオ波メス	エルマン サージマックス	1	
〃	眼科用手術顕微鏡	カールツァイス OPMI Lumera T	1	
〃	眼科用ヤグレーザー手術装置	エレックス ウルトラQオフサルミックヤグレーザー	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
外来手術室	ミニCアームX線診断装置	ホロジック	1	
〃	鋼製小物手術機械（外科他用）	高砂医科工業他 TKZ-F10328-OBS他	1式	
〃	電動手術台	ゲティンゲ アルファラシックPRO 111806K0	2	
M E センター	体外循環用血液パラメーターモニターシステム	テルモ CDI500	1式	
〃	人工呼吸器	日本光電 Savina5380008 他	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	7	
〃	人工呼吸器	東機質 E-100M	6	
〃	人工呼吸器	ニューポートベンチレーター	12	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター980	2	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター840	6	
〃	人工呼吸器	日本光電 HAMILTON-C2	1	
〃	人工呼吸器	レスピロニクス Trilogy02Plus	1	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベネットベンチレーター980TypeU	1	
〃	ライフスコープ11	日本光電	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-7105, 7106	1	
〃	ニューポートレスピレーター	東機質 E-100A	5	
〃	経皮的心肺補助システム	テルモ ME-SP200C	1式	
〃	成人用人工呼吸器	フィリップス・レスピロ トリロジー-02 Plus 1040004TP	1	
〃	血液成分分離装置	スペクトラVer6	1	
〃	自動赤血球沈降速度測定器	TMR-6000	1	
〃	心拍出量測定装置	エトワースライフサイエンス Vigilance II	2	
〃	非侵襲的人工呼吸器	フィリップス・レスピロニクス V60	1	
〃	輸液ポンプテスター	フルーク・ハイトメディカル IDA-4Plus/4ch, データ解析用パソコン 東芝Dynabook T453/33JW	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ, データ解析用パソコン 富士通LIFEBOOK P772/G 富士通LIFEBOOK P772/G	1	
〃	ビジュランスヘモグロビンモニター（心拍出量測定装置）1/2	エトワースライフサイエンス VIG2	1	
〃	大動脈バルーンパンピング装置	ゲティンゲグループ・ジャパン CARDIOSAVE	1式	
〃	バイタルサインシュミレーター	大正医科 Prosim8SP	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ	1	
〃	バイタル連携対応機器	テルモ	1	
〃	閉鎖・開放両用保育器	アトムメディカル Dual Incu	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
M E センター	多用途血液浄化装置	旭化成メディカル ACHΣ	1	
〃	バイタル連携対応機器	テルモ	1	
〃	通信機能付バイタルサイン測定機器	テルモ 電子体温計C215 ET-C215S	1	
〃	◎人工呼吸器	COVIDIEN ベンチレーター980	2	
〃	◎ネーザルハイフローシステム	F & P FP-0A2060P	1式	
〃	◎パルス波治療器	光電メディカル サイマトン	1	
〃	◎非目視下非鏡視下処置用電気手術器	日本ライフライン REP-100A	1	
放射線科	乳房用X線撮影装置 一式	G Eヘルスケア Senographe Pristina	1	
〃	全身用C T装置 一式	キャノンメディカルシステムズ Aquilion PRIME SP I Edition	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	富士フイルムメディカル CALNEO Smart C77 (パネル)	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	富士フイルムメディカル FUJIFILM DR CALNEO Go PLUS (回診車)	1	
〃	乳房用X線撮影装置	インストルメンタリウムイメージング社 (diamond)	1	
〃	大容量冷却遠心機		1	
〃	体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエメドテックシステムズ Delta II	1	
〃	救急外来用一般X線撮影装置	島津製作所 UD150B-40 他	1式	
〃	救急室X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion CX	1式	
〃	移動型X線撮影装置	日立メディコ シリウス130HP	1	
〃	移動型X線撮影装置	島津製作所 モバイルアートルミナ	1	
〃	放射線監視システム		1式	
〃	ピクチャーテルメドリンクS	ピクチャーテル CP-1746	1	
〃	ハンドフットクロスモニター	アロカ MBR-201	1	
〃	X線骨塩定量装置	QDR-4500A	1	
〃	RI遮蔽用鉛貯蔵庫	TH-J1331	1	
〃	RIフード	TH-F1602	1	
〃	MR造影剤自動注入装置	根本杏林堂 ソニックショット50 他	1	
〃	超電導磁気共鳴画像診断装置	フィリップス Achiva 1.5T NovaDual	1式	
〃	CRシステム	FCR5000, FCR9501-HQ 他	1式	
〃	遠隔式X線透視撮影装置	島津製作所 Cvision Safire 17	1	
〃	X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1	
〃	ガンマカメラ	シーメンスジャパンSymbia E	1	
〃	医用画像作成装置及び外部データ取込み装置	コドニクス他 画像取込/書き込み一式	1式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
放射線科	アブレーションシステム	セントジュード CoolPathシステム一式		
"	心血管用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD10	1式	
"	汎用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD20	1	
"	インバータ式回診用X線撮影装置	島津製作所 MobileArt Evolution	1	
"	放射線読影レポート用音声入力システム	アドバンスト・メディア	1	
"	デジタル画像処理システム	富士フィルムメディカル CALNEO-C 他	1式	
"	多目的デジタルX線TVシステム	島津製作所 SONIALVISION G4	1式	
"	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/2G	1	
"	X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/BH	4	
"	回診用X線撮影装置	FUJIFILM DR CALNEO Go	2	
"	一般X線撮影間接変換FPD装置	コニカミノルタ	1	
"	PET-CT装置	シーメンスヘルスケア Biograph Horizon 一式	1	
"	1.5磁気共鳴断層撮影装置一式	シーメンス MAGNETOM Altea	1	
"	MRインジェクター	根本杏林堂 ソニックショットGX7	1式	
"	放射線治療システム	バリアン社 TrueBeam	1式	
"	放射線治療計画用CT装置	キャノンメディカルシステムズ Aquilion LB	1	
"	◎リニアック	バリアン TrueBeamシステム一式	1	
"	◎CDパブリッシャ	コドニクス VirtuaXR	1	
検査科	誘発電位筋電図検査装置	日本光電 MEB-2306	1	
"	採血準備トータルシステム		1	
"	内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
"	汎用超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン Vivid E95	1式	
"	超音波診断装置（循環器）	GE横河メディカル Vivid7 Dimension 4D	1	
"	超音波画像診断装置	Core Vision SSA-350A, 340A	2	
"	超音波画像診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQ7	1	
"	実験台4（解剖室）		1	
"	実験台3（標本切出室）		1	
"	実験台2（病理検査室）		1	
"	実験台1（細菌検査室）		1	
"	自動封入装置	サクラ精機 SGC-400-D	1	
"	自動染色装置	サクラ精機 DRS-2000B	2	
"	嫌気性インキュベーター	ヒラサワ ANX-3 (a)	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
検査科	蛍光顕微鏡	本体 ニコン E8-RFL-2 他	1	
"	解剖台	サクラ精機 KBH-LA	1	
"	密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン ETP-5-F	1	
"	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQ7	1	
"	凍結組織切片作製装置	サクラファインテック ティッシュテッククライオ	1	
"	血液照射装置	IBL-437C	1	
"	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQ7	1	
"	生理検査システム	日本光電 PrimeVita他	1式	
"	呼気ガス分析装置	ミナト医科 AE-310SRC他	1式	
"	血圧脈派検査装置	オムロン HFA-203RPEIII	1	
"	全自動免疫染色装置	ライカ Bond-max	1式	
"	超音波診断装置（乳腺精細用）	日立アロカメディカル Preirus	1式	
"	総合肺機能検査システム	チェスト CHESTAC-8900N	1	
"	脳波計	日本光電 EEG-1218	1	
"	血液培養装置	シスメックス・ビオメリュー バクテアアト3D 360型	1	
"	全自動同定・感受性検査装置／感染制御システム	シーメンスヘルスケア マイクロスキャン WalkAway96Plus	1	
"	脳波計	日本光電 EEG-1214	1	
"	筋電図・誘発電位検査装置	日本光電 MEB-2312	1	
"	システム生物顕微鏡	オリンパス BX-53	1	
"	加算心電図ソフトウェア付心電計	日本光電 ECG-2550	1	
"	長時間心電図解析装置	日本光電 DSC-5500	1	
"	超音波診断装置	Philips EPIQ7	1	
"	全自動輸血検査装置	オーソ VISION	1	
"	運動負荷心電図測定装置	日本光電 ECG-2450	1	
"	凍結切片作成装置	サクラファインテックジャパン ティッシュ・テック ポーラDM POLAR-DM	1	
"	病理検査業務支援システム	正晃テック WebPath	1	
"	◎遺伝子解析装置	ニチレイバイオサイエンス CFX96 Dxシステム他	1	
内視鏡センター	内視鏡用超音波観測装置	オリンパス EU-ME2 PREMIER PLUS	1	
"	気管支超音波穿刺システム	オリンパス スコープ BF-UC260F-0L8/観測装置 EU-C2000	1	
"	内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
"	電子内視鏡システム	フジノン東芝 ES システム EL2-TF410	1式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
内視鏡センター	電子内視鏡システム	オリンパス CV-260SL 他	1 式	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス EVIS LUSER PCF240 i	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q260A	2	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス CF-Q240ZI	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q260	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	3	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260Z	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	十二指腸用電子スコープ	オリンパス JF-240	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-240	1	
〃	下部消化管ビデオスコープ	オリンパス PCF-240L/ i	1	
〃	ベットサイドモニター	日本光電 BSM-83D1	1	
〃	内視鏡管理システム	オリンパス SolemioENDO	1 式	
〃	高周波手術装置	エルベ VIO-300D	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス EVISLUCERA BF-6C260	1	
〃	アルゴンプラズマシステム	アムコ アルゴンプラズマ APC300 他	1 式	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	2 式	
〃	消化器内視鏡システム	オリンパス EVIS LUCERA SPECTRUM	2 式	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q26AI	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q2660AZI	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	超音波内視鏡システム	オリンパス EU-ME1 他	1 式	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-XP260NS	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-260	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	内視鏡室マネージメントシス	Solemio ENDO Ver. 4	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
内視鏡センター	電子内視鏡システム	LUCERA ELITE CV-290	1	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス	1	
〃	気管支鏡システム	オリンパス CV-290 他一式	1	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス CV-290 他一式	1	
〃	◎十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-Q290V	1	
内 科	携帯型超音波診断装置	ソノサイトジャパン iLook25	1	
〃	血管内超音波診断装置	テルモ TU-C200	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQP5	1	
〃	個人用多用途透析装置	日機装 DBG-03	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-5208	1	
〃	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium	1	
産 婦 人 科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカル ソノピスタ C3000	1	
〃	超音波診断装置	東芝 SSA-340A 他	3	
〃	婦人科内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	超音波診断装置	日立アロカメディカル Prosound α6	1 式	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン VOLUSON P8	4	
〃	ヒステロ内視鏡システム	オリンパス OTV-S190	1	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケアジャパン Voluson S8	1	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン Voluson P6	1 式	
〃	婦人科ラパロ鉗子セット	三立医科工業他 924-0501 他	2	
〃	◎超音波画像診断装置	GEヘルスケア Voluson P8	1	
外 科	超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ Xario200	1	
〃	超音波画像診断装置	日本メディカルネクスト BK5000 システム	1	
〃	ラジオ波焼灼装置	ボストンサイエンティフィックジャパン RF3000	1	
呼 吸 器 外 科	気管支ビデオスコープ	BF-P290	1	
耳 鼻 咽 喉 科	耳鼻科ユニット	永島医科 SNニューピアレスF (片面)	3	
〃	聴力検査装置	リオン AA-75	1	
〃	吸入器	SNネブライザー装置ルミエール	1	
〃	鼻咽内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	インピーダンスオージオメーター	リオン RS-22	1	
〃	重心動揺計	アニマ グラビコグ GP-5000	1	
〃	眼振図解析システム	第一医科 ニスチグラフ FNG-1004 他	1 式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
耳鼻咽喉科	神経刺激モニター	日本メドトロニック N I Mレスポンス 3.0	1式	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス ENF-VQ	1式	
〃	オージオメーター	リオン AA-H1	1	
〃	内視鏡ビデオシステム	オリンパス VISERA ELITE	1式	
泌尿器科	泌尿器内視鏡システム	オリンパス VISERAPro システム	1	
〃	超音波診断装置	東芝 NEMIO XG	1	
〃	フラッシュディスプレイインフェクター	ゲティンググループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	検診台	武井医科光器製作所 TU-1900AR	1	
〃	尿流量測定装置	TOTO CES446PA1P #NW1	1	
整形外科	埋込型シャウカステン	森山X線 ISH-02U (36台) 他	1式	
〃	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium Pro	1	
皮膚科	診断用顕微鏡	ニコン エクリプス 80i MTH5-31	1	
〃	◎全身型紫外線治療器	シネロン・キャンデラ NeoLux 861PH0048X5	1	
形成外科	超音波画像診断装置	GE LOGIQ e Premium	1	
〃	C02 レーザー手術装置	日本ルミナス	1	
眼科	自動視野計	カールツァイス HFA II 740	1	
〃	スペキュラーマイクロスコープ	コーナンメディカル CellChek X8	1	
〃	眼科検査訓練機器	クレメントクラーク社 シノプトフォア 2001 他	1	
〃	画像ファイリング機能付スリットランプ	カールツァイス SL130	1	
〃	角膜形状測定装置	トーマー TNS-4	1	
〃	眼底カメラ	コーワ VX-10 i	1	
〃	マルチカラーレーザー光凝固装置	ツァイス	1	
〃	ピズラスPDTシステム	スリットランプ SL130 付システム 690 S	1	
〃	眼科診療支援システム	ニデック NAVIS-HP 他	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレート 900BQ LED	1	
〃	細隙灯顕微鏡	カールツァイス	1	
〃	オートレフケラトトノメーター	キャノン TX-20P 他	1	
〃	眼圧・角膜厚測定装置	キヤンライフアソリューションズ TX-20P	1	
〃	眼軸長測定機器	カールツァイス iOL マスター (モデル 700)	1	
〃	眼科ファイリングシステム	ニデック NAVIS-AZU	1	
〃	超広角走査レーザー検眼鏡	オプトス パラニックスオプティクス California モデ	1	
〃	3次元眼底像撮影装置	トプコンメディカルジャパン DRI OCT	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
眼科	超音波計測・診断システム	トーマーコーポレーション UD-8000AB	1式	
〃	網膜電位図刺激装置	トーマーコーポレーション LE-4000	1式	
〃	投影式精査型視野計	タカギセイコー プロジェクションペリメーターMT-325UD	1	
〃	◎自動視野計	カールツァイス HFA840	1	
腎センター	多人数透析液供給装置	日機装 DAB-05B	1	
〃	多人数用透析液供給装置	日機装 DAB-10NX	1	
〃	逆浸透法精製水製造装置	ダイセック・メンブレン・システムズ FC-RE700FS W650×D1080×H1800	1	
救急室	搬送用人工呼吸器	ドレーゲルメディカル オキシログ 3000	1	
〃	経皮の心肺補助装置	テルモ キャピオックス EBS 他	1式	
〃	超音波診断装置	富士フィルムメディカル	1	
〃	患者シミュレーター (SimManALS)	レールダルメディカルジャパン 235-20001	1	
〃	患者シミュレーター (レサシアンシミュレーター PLUS)	レールダルメディカルジャパン 150-21001	1	
〃	体温管理システム	I M I アークティックサン 5000	1式	
〃	◎紫外線 (UV)照射ロボット	テルモ 014LS013B	1式	
〃	◎ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-152R	7式	
救命救急センター	高機能患者シミュレーター	METI (アイエムアイ) ECS 成人モデル	1	
〃	高機能 ICU ベッド	ヒルロム トータルスポーツケア	1	
〃	救急用ストレッチャー	日本ストライカー SM204	1	
〃	ポータブル超音波診断装置	ソノサイトジャパン マイクロマックス	1	
〃	ヘモダイナミックモニター	エドワーズライフサイエンス VIG2	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1式	
〃	病棟モニタリングシステム	日本光電 CNS-9701	1式	
救命救急センター	心電図受信装置	日本光電 CNS-9701	1式	
〃	救急用受信システム	日本光電 WEC-4100	1式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
救命救急センター	陽・陰圧体外式人工呼吸器	メディベント社 RTX	1	
〃	超音波診断装置	ソノサイト L04326 他	1式	
〃	救急・搬送用人工呼吸器	ドレーゲル	1	
〃	超音波診断装置（救急用）	富士フイルムメディカル FAZONE M	1	
歯科	歯科用ユニット	FGMD2-163L	2	
〃	歯科用キャビネット	ウエダ キャビネットABC他	1	
〃	歯科用インスツルメント	長田電気	1	
〃	感染対策歯科セット	OFJ-MZLタービンセット 他	1式	
〃	デンタルユニット	GM/ML-223LL	1	
〃	セントラルシステム	フレクシークリーンエアバキューム 他	1式	
〃	ボーンサージェリーシステム	ナカニシ インプランター NeoPlus LED,バリ材等 3他	1式	
小児科	超音波画像診断装置	GE Vivid S60N	1	
心臓血管外科	大動脈内バルーンポンプ	エドワーズライフサイエンス CS-100	1	
リハビリ	磁気刺激装置	ミュキ技研 マグスティムラピッドシステム	1	
〃	耳鼻咽喉ファイバースコープ	町田製作所 FLT-SIII 他	1式	
〃	チルトテーブル水平位サポート台	酒井医療 SPR-7000D	1	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス OTV-S190 他	1	
〃	トレッドミル		1	
透析室	個人用透析装置	日機装 DBB-27	1	
〃	多用途透析監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	HDF 監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
8階北病棟	分娩台	アトム マミージョイ LDR 14320	1	
〃	分娩台	タカラベルモント DG-880 G1	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	顕微受精システム	オリンパス ON2-ICSI-II	1式	
〃	分娩監視装置・単胎用	アトムメディカル FM-20A/E-20 他	1式	
〃	分娩監視装置・双胎用	アトムメディカル FM-20B/E-20 他	1式	
〃	超音波画像診断装置 SONOVISTA FX	シーメンス SONOVISTA FX premium edition	1	
〃	胎児集中監視システム	アトムメディカル FSV セントラルモニター式	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
8階北病棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	超音波診断装置(産婦人科)	GEヘルスケア・ジャパン Voluson P6	1	
8階南病棟	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
8階西病棟	インファントウォーマー	アトム V-505HL	1	
9階北病棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
9階南病棟	医用テレメータ	日本光電 WEP-1400-Z06 (12人用)	1	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-171R	2式	
〃	紫外線 (UV)照射ロボット	テルモ 014LS013B	1	
〃	生体情報モニタリングシステム	日本光電 PU-621R	1	
〃	ICUベッド	パラマウントベッド KA-8950A	1	
〃	肺理学療法システム	ヒルロム (パラマウント) トータルケアスポーツ	6	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
〃	◎セントラルモニタ	日本光電 PU-611R	1	
10階北病棟	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	病棟用医用テレメータシステム	HXC-1150	1	
10階南病棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
11階北病棟	超音波画像診断装置	腹部検査用	2	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
11階南病棟	血管アクセス用超音波診断装置	メディコン サテライト5	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	◎セントラルモニタ	日本光電 PU-611R	1	
12階北病棟	超音波診断装置	日立製作所 ARIETTA60	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲグループ・ジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	耳鼻科ユニット	永島医科 S I Vニューピアレス	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレイト 900BQV 他	2	
〃	ネブライザーユニット	永島医科 SN-P型3人用	1	
12階南病棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	8人用医用テレメータ	日本光電 WEP-5218	1式	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
13階北病棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンガ GETINGE607	1	
〃	セントラルモニター	オムロンコーリン HXC-1190 他	1	
13階南病棟	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンガ GETINGE607	1	
〃	超音波診断装置	コニカミノルタ SONIMAGE HS1-4	1	
〃	医用テレメータシステム	日本光電 WEP-5268	1	
〃	医用テレメータシステム (13階南病棟用)	日本光電 WEP-5218	1	
〃	◎セントラルモニタ	日本光電 PU-621R	2	
〃	◎ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-152R	4	
14階南病棟	医用テレメーター	オムロンコーリン HXC-1100 他	1式	
N I C U	新生児用聴覚検査装置	日本光電 MAAS	1	
〃	新生児用人工呼吸器	ドレーゲル Babylog 8000plus	4	
〃	光凝固装置	エレックス ソリティア	1	
〃	血液ガス分析装置	ラジオメーター ABL835FLEX	1	
〃	CR システム	コダック CR ELITE-19	1	
〃	ポータブルX線撮影装置	シーメンス MOBILETT XP	1	
〃	カウンターユニット・シーリングモジュール	セントラルユニ カウンターユニット+シーリングモジュール	1	
〃	脳機能モニタ	アイエムアイ 16ch 124 01 20	1	
〃	呼吸機能測定装置	アイビジョンアーフェルⅢ	1	
〃	閉鎖式保育器	アトムメディカル	9	
〃	生体情報モニター	フィリップス MP50	5	
〃	体温管理システム	アイ・エム・アイ アークティックサン	1	
〃	搬送用保育器	アトムメディカル V-808 Sp02	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル インファウーマーI	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル インキュI	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル インキュI	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル インファウーマーi 蘇生装置I	1	
〃	赤ちゃん連れ去り警報システム	マトリックス	1式	
〃	閉鎖・開放両用保育器	アトム デュアルインキュ i Sp02 マシモ/体重モニタ付	1	
I C U / C C U	人工呼吸器	ドレーゲル エビタXL	1	
〃	在室患者監視システム	オムロンコーリン ベッドサイドモニタ Solar8000i	1	
〃	ICU天井懸垂システム	インケアポート MODEL-277	1式	
〃	血液浄化システム	旭化成クラレ プラソート I Q21	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
I C U / C C U	高機能ICUベッド	パラマウントベッド KH-151	1	
〃	フラッシュャーディスインフエクター	ゲティンガジャパン GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル・メディカル Evita Infinity V500	2	
〃	人工呼吸器	COVIDIEN ベンフレタ 840	1	
〃	ICU部門システムのハードウェア更新	フクダコーリン PrescientICU,OR	1	
〃	セントラルモニタ	日本光電 PU-621R	2	
〃	ベッドサイドモニタ	日本光電 CU-172R	9	
〃	◎ICUベッド	パラマウント KA-8950A	1	
感染対策室	採痰ブース	日本医科器械製作所 VCM-1500N2	1	
〃	空気感染隔離ユニット	モレーン Mintie ECU4バンドレット ECU4B1000	1式	
薬剤部	薬剤保管用縦型回転柵	クラヤ薬品 92C3-315-42	1	
〃	薬剤トレイ回収システム	セントラルユニ	1式	
〃	電動式移動柵	クラヤ薬品 RAM-5240 K-TE 他	1	
〃	蒸留水製造装置	清水理化学機器 TKS-30	1	
〃	IVH機器システム	日科ミクロン	1式	
〃	調剤支援システム	ユヤマー式	1式	
〃	抗がん剤調製支援システム	トーショー 調製用PC 4台 監査用PC 2台	1式	
〃	薬液・薬ビン用蒸気滅菌器	サクラ精機 Σ IIIYR-B09SLPC	1	
〃	注射薬自動払出システム	トーショー UNIPUL-4000-V4	1	
〃	バイオハザード対策用キャビネット	日科ミクロン BCG401	2	
〃	全自動PTPシート払出装置	ユヤマ YS-PTP II-130	1	
〃	◎調剤支援システム	トーショー 一式	1式	
食養科	温冷配膳車	エレクター MOG48SER-SY	1	
〃	食器洗浄機	日本調理機 DWF2-6RPE-01	1	
〃	哺乳瓶用乾熱滅菌装置	三田理化学工業 MB-20E	1	
〃	スチームコンベクションオープン	ニチワ SCOS-2020RH-L 他	1式	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG48RER-SY	4	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG40SER-SY	2	
〃	電気スチームコンベクションオープン	ニチワ電機 SCOS-2010RH-R	1	
〃	温冷配膳車	エレクター MOG40SER-SY	1	
〃	単槽型ウォッシャーディスインフエクター	村中医療器 ミーレジェットウォッシャーPG8536	1	
〃	ユニット式調乳水製造装置	三田理化学工業 CMIFS-301E-WA-150V 型	1	

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所属別	品名	規格	数量	備考
食養科 看護部 医事課 "	◎カートイン温蔵庫	仲産業 RH-2SP	1	
	看護管理支援システム	インフォコム	1	
	ムーブラック	イトーキ	1	
	自動精算機	グローリー IHV-PCS	2	
	◎総合医療情報システム	富士通 サーバ, 端末, ソフトウェア等	1式	
	◎総合医療情報システム端末類	端末, プリンタ等	1式	
	救命処置トレーニングシステム	レイダ社ハートシステムACLSトレーニング	2式	
	システムオートラック	マルタン	1	
	物品器材管理システム	セントラルユニ	1式	
	物品管理システム	セントラルユニ	1式	
ピアノセット	ヤマハ C3L	1式		
防災対策用カメラシステム	ヤマハ C3LTOA C-CV160S-3 他	1式		
川崎病院	急性期患者情報システム	オムロン ICUシステム・ERシステム・ORシステム	1式	
	デジタルサイネージ機器	シャープ	1	
	患者向けサービス機能機器システム	富士通 ゲートウェイサーバ・パッケージ導入	1式	
	3次元画像解析システム一式	富士フィルムメディカル VINCENT	1	
	周産期電子カルテシステム	ミトラ ハローベ化プログラム Smart-K	1	
◎空気感染隔離ユニット	モレーン ミンティ ECU4			

◎印は令和3年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

8 主な委託業務

病院業務の効率的な運営を期して、業務の一部を次のとおり委託しています。

平成10年度から委託業務の一部を整理統合しました。

委託業務名	委託内容	開始年度
清掃	院内（病棟区域・外来区域）、構内清掃	昭和32年度
リネンセンター運営管理業務	診療衣・看護衣・診察用布等の洗濯、折りたたみ 新生児・乳幼児用肌着等の提供と洗濯 入院患者寝具・洗濯・病棟配布 宿直職員及び夜勤看護師用寝具の提供と補修・洗濯 ベッドセンター運営管理・補修室縫製等	昭和35年度 昭和41年度 昭和41年度 昭和48年度 平成10年度
施設管理業務	空調機・自家発電機・医療ガス設備・昇降機点検 機械設備管理・運転監視・空調設備保守等	昭和45年度 平成10年度
消防設備関係	外観・機能点検、総合点検	昭和45年度
検査業務	一般・血液・生化学・血清・細菌検査	昭和45年度
医事業務	診察データの入力・診療報酬請求書・行為別集計等の作成 臨床クラーク（病棟及び外来の医療業務上の事務補助） 初診受付・再診受付・外来会計受付・電算入力 事務当直業務（時間外患者受付） 医事業務（全面委託）	昭和52年度 平成1年度 平成1年度 平成2年度 平成5年度
給食業務	調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄等 給食材料の発注及び検収等	平成7年度 平成23年度
情報システム運用業務	総合医療情報システム管理運用業務	平成10年度
物流管理業務	SPD（物流管理）・滅菌業務	平成10年度
院内保安警備	院内の保安警備、駐車場管理業務 防災センター監視業務ほか	昭和43年度 平成10年度
放射性物質濃度法定測定	作業環境法に基づく測定業務	平成1年度
電話交換業務	電話交換・院内放送業務	平成10年度
感染性産業廃棄物処理	廃棄物処理法による感染性産業廃棄物の処理	平成4年度
その他	歯科技工、カーテン賃貸借、院内保育室調理業務等、 医療機器保守、福祉用具保守（平成28年）	

9 図 書 室

令和3年度(2021年度)は、図書館システムを十分に活用しようと、今までの利用を再確認しました。当室の図書館システムは、病院図書室向けに、データベースソフトMicrosoft-Accessを使って作成された“司書アシスト”です。当室では1999年から蔵書登録に利用しています。このシステムは図書室業務全般に利用できるのですが、当室では長年、図書・雑誌登録のみの利用でした。どちらも登録すると連番で固有番号が振られるのですが、従来はこの番号の他に独自の図書番号を用いて図書カードを作成し、図書に装備していました。令和2年度からこのシステムが発番する連番を市販のタックシールを使い、バーコードラベルとして図書・雑誌に貼付することにしました。バーコードラベル貼付により、貸出をカードではなく司書アシストで管理することができます。延滞者には自動的に督促状を発行することが可能となり、毎月督促状を発行し、返却忘れを少なくすることが可能となりました。令和3年度には図書のバーコードラベル遡及貼付が終了し、蔵書点検を今までの目視ではなく、バーコードリーダーを使って実施しました。バーコードリーダーは医事課で不要となったものを利用しましたが、いずれは安価なワイヤレスデータコレクタを導入したいと考えています。このシステムでできることは、図書については、購入管理やバーコードラベルのほかに3段ラベルの印刷、雑誌登録では、特集記事を記載することで新着雑誌特集記事のお知らせ印刷、雑誌目録も作成できます。年間保守契約をすると図書室ホームページを持つことができ、ホームページは各図書室にカスタマイズされ、契約コンテンツをアップすることができます。蔵書検索・雑誌検索・特集記事検索もできます。他にも、文献相互貸借の申込・受付の管理もできます。このシステムを活用することで、いろいろな利用統計も取れるようになりました。利用者サービスとして、ホームページにブログを開設し、冊子体で購入している雑誌と医書.jp 収載誌の新着、メディカルオンライン・イーブックスライブラリーの買切で購入した書籍を毎週更新しています。また、毎月数十冊増えるメディカルオンライン・イーブックスライブラリーの中で、おすすめの本の書影と、アクセス先URLをQRコードにした一覧を配布しています。

(1) 図書室利用状況

資料貸出数

図書 736 件

雑誌 387 件

オンラインジャーナル・パッケージ

医書.jp 8,315 件

メディカルオンライン 7,756 件

メディカルオンライン・イーブックスライブラリー 559 件

Clinical Key 876 件

JAMA Network Complete Package 808 件

Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection 302 件

Oxford Medicine Collection 840 件

Springer Hospital Edition 1,069 件

Wiley core collection 2275 件

データベース

医中誌 Web 10,861 件

UpToDate 5,510 件

(2) 文献相互貸借

依頼 81 件

受付 38 件

(3) 図書室設備・機器

利用者用パソコン 6 台 (インターネット)

利用者用パソコン 2 台 (川崎市イントラネット)

業務用パソコン 2 台 (インターネット)

カラープリンター 2 台

モノクロプリンター 3 台

キャレル席 6 席

閲覧席 10 席

(4) 現行購読タイトル・契約ツール

購読和雑誌 (冊子体 34 誌)

1	病院安全教育	19	厚生 の 指 標
2	地域連携入退院と在宅支援	20	救急医学
3	電気と工事	21	救急・集中治療
4	栄養関係法規類集 (追録)	22	Monthly Book Derma デルマ
5	栄養と料理	23	日本病院会雑誌
6	エキスパートナース	24	クインテッセンス・デンタル・イン
7	月刊保険診療	25	プラントロジー
8	月刊ナースマネージャー	26	レジデント
9	月刊ナーシング	27	臨床精神薬理
10	ほすびたるらいぶらりあん	28	精神治療学
11	ICNR	29	設備と管理
12	医学図書館	30	社会保険旬報
13	重症集中ケア	31	小児看護
14	看護技術		
15	看護実践の科学	32	The Quintessence
16	看護展望	33	ヴィジュアル・ダーマトロジー
17	緩和ケア	34	全国自治体病院協議会雑
18	継続看護を担う体質強化 外来看護		

購読和雑誌 別冊・増刊のみ (冊子体 3 誌)

- 1 医学のあゆみ
- 2 レジデントノート
- 3 日本臨牀 増刊

購読洋雑誌 (オンラインジャーナル 12 誌)

- 1 Blood
- 2 BMJ: British Medical Journal (International)
- 3 Cancer (inc. Cancer Cytopathology)
- 4 Hepatology (inc. Liver Transplantation)
- 5 Journal of Neurosurgery
- 6 Laryngoscope
- 7 New England Journal of Medicine
- 8 Pediatrics

オンラインリソース パッケージ

- 1 医書.jp
- 2 メディカルオンライン
- 3 メディカルオンライン・イーブックスライブラリー
- 4 Clinical Key
- 5 JAMA Network Complete Package
- 6 Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection
- 7 ProQuest Medical Database

オンライン EBM ツール

UpToDate

オンライン検索データベース

- 1 医中誌 Web
- 2 最新看護索引 Web

リンクリゾルバ

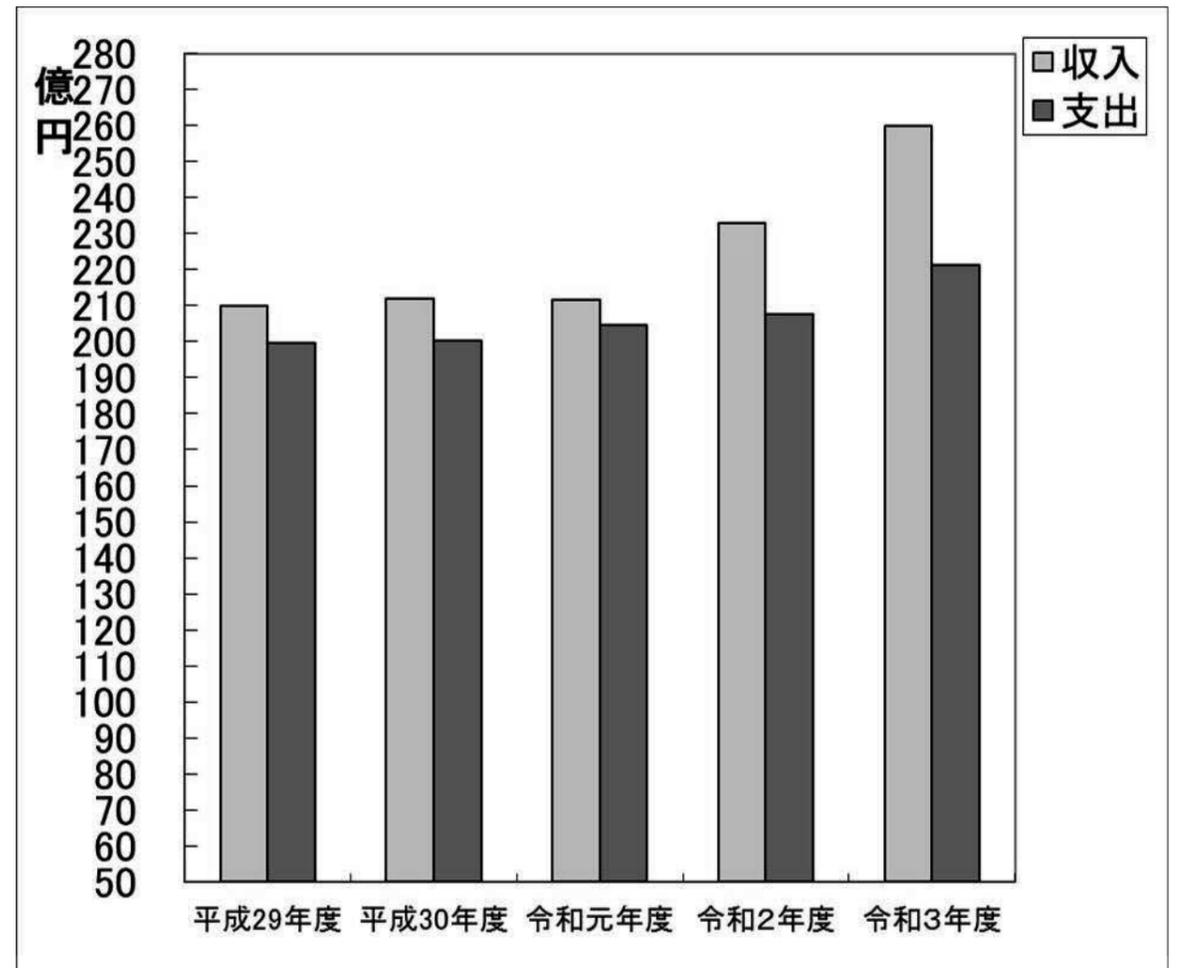
360LINK

VI 経 理 概 要

1 年度別経営収支状況

(単位：千円)

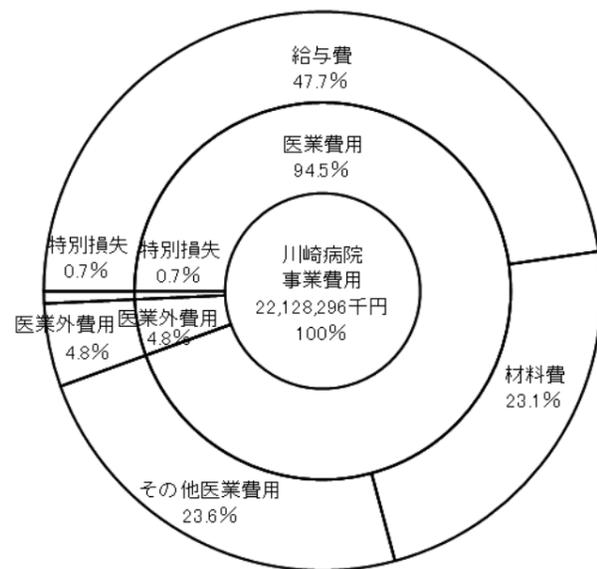
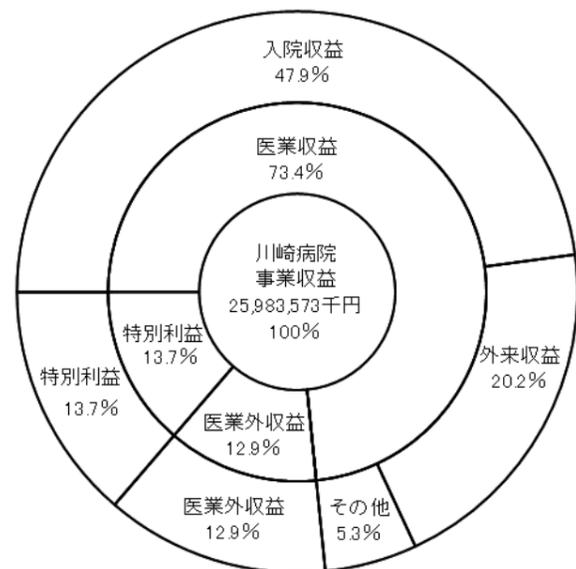
年 度	収 入		支 出		損 益
	決 算 額	指 数	決 算 額	指 数	
平成29年度	21,009,247	100	19,958,891	100	1,050,356
平成30年度	21,209,206	101	20,019,365	100	1,189,841
令和元年度	21,160,084	101	20,452,367	102	707,717
令和2年度	23,277,321	111	20,771,768	104	2,505,553
令和3年度	25,983,573	124	22,128,296	111	3,855,277



2 収入・支出状況

(1) 収益の収入及び支出

収入 (単位：千円)				
科 目	令和2年度		令和3年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業収益	23,277,321	100.0	25,983,573	100.0
医業収益	16,567,662	71.2	19,071,790	73.4
入院収益	10,832,966	46.5	12,436,828	47.9
外来収益	4,328,068	18.6	5,250,556	20.2
その他	1,406,628	6.0	1,384,406	5.3
医業外収益	3,388,307	14.6	3,351,293	12.9
受取利息配当金	15	0.0	25	0.0
補助金	490,937	2.1	409,468	1.6
負担金交付金	2,133,343	9.2	2,170,451	8.4
患者外給食収益	92	0.0	0	0.0
長期前受金戻入	360,959	1.6	390,483	1.5
資本費繰入収益	227,341	1.0	193,192	0.7
その他	175,620	0.8	187,674	0.7
特別利益	3,321,352	14.3	3,560,490	13.7
支出 (単位：千円)				
科 目	令和2年度		令和3年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業費用	20,771,768	100.0	22,128,296	100.0
医業費用	19,603,090	94.4	20,903,346	94.5
給与費	10,367,016	49.9	10,560,330	47.7
材料費	4,204,150	20.2	5,111,683	23.1
経費	3,838,699	18.5	3,982,626	18.0
減価償却費	1,099,626	5.3	1,096,412	5.0
資産減耗費	36,467	0.2	101,349	0.5
研究研修費	57,132	0.3	50,946	0.2
医業外費用	992,844	4.8	1,067,347	4.8
特別損失	175,834	0.8	157,603	0.7



(2) 資本的収入及び支出

収 入

(単位：千円)

科 目	令和2年度		令和3年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本的収入	2,093,923	100.0	3,213,798	100.0
企業債	906,290	43.3	2,098,300	65.3
出資金	0	0.0	0	0.0
固定資産売却代金	0	0.0	0	0.0
補助金	149,671	7.1	52,125	1.6
負担金	1,037,962	49.6	1,063,373	33.1

支 出

(単位：千円)

科 目	令和2年度		令和3年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本的支出	3,198,843	100.0	4,259,120	100.0
建設改良費	1,174,732	36.7	2,265,806	53.2
企業債償還金	2,024,111	63.3	1,993,314	46.8
長期借入金償還金	0	0.0	0	0.0

3 年度別一般会計繰入金及び出資金

(単位：千円)

種 別	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収 益 的 収 入 他会計負担金、他会計補助金、 負担金交付金、資本費繰入収益		3,327,124	3,326,202	3,554,076	3,497,727
資 本 的 収 入 (出 資 金)		0	0	0	0

4 比較貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和2年度 決算額	令和3年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					令 和 2 年 度	令 和 3 年 度
固定資産	15,341,795	16,520,549	1,178,754	107.7	66.5	58.6
有形固定資産	15,341,795	16,520,549	1,178,754	107.7	66.5	58.6
土地	426,224	426,224	0	100.0	1.8	1.5
建物	12,407,244	12,105,449	△ 301,795	97.6	53.7	42.9
構築物	47,737	47,560	△ 177	99.6	0.2	0.2
器械備品	2,012,688	3,323,826	1,311,138	165.1	8.7	11.8
車両	1,301	776	△ 525	59.6	0.0	0.0
リース資産	119,883	169,745	49,862	141.6	0.5	0.6
その他	25,789	24,381	△ 1,408	94.5	0.1	0.1
建設仮勘定	300,929	422,588	121,659	140.4	1.3	1.5
無形固定資産	—	—	—	—	—	—
施設利用権	—	—	—	—	—	—
流動資産	7,745,094	11,684,384	3,939,290	150.9	33.5	41.4
現金預金	4,532,594	7,135,384	2,602,790	157.4	19.6	25.3
未収金	3,069,538	4,397,742	1,328,204	143.3	13.3	15.6
貯蔵品	140,701	151,258	10,557	107.5	0.6	0.5
前払金	2,261	0	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
資産合計	23,086,889	28,204,933	5,118,044	122.2	100.0	100.0

(単位：千円)

科 目	令和2年度 決算額	令和3年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					令 和 2 年 度	令 和 3 年 度
固定負債	16,585,394	16,709,717	124,323	100.7	53.6	47.5
企業債	12,915,048	12,942,011	26,963	100.2	41.7	36.8
リース債務	80,679	113,514	32,835	140.7	0.3	0.3
引当金	3,589,667	3,654,192	64,525	101.8	11.6	10.4
流動負債	5,869,623	6,074,876	205,253	103.5	19.0	17.3
企業債	1,993,314	2,071,337	78,023	103.9	6.4	5.9
リース債務	32,311	50,465	18,154	156.2	0.1	0.1
未払金	2,956,579	3,051,788	95,209	103.2	9.5	8.7
未払費用	191,003	183,444	△ 7,559	96.0	0.6	0.5
引当金	616,829	629,956	13,127	102.1	2.0	1.8
その他	79,587	87,886	8,299	110.4	0.3	0.3
繰延収益	627,786	620,215	△ 7,571	98.8	2.0	1.8
負債合計	23,082,803	23,404,808	322,005	101.4	74.5	66.6
資本金	8,750,047	8,750,047	0	100.0	28.3	24.9
自己資本	—	—	—	—	—	—
借入資本	—	—	—	—	—	—
企業債	—	—	—	—	—	—
剰余金	△ 866,289	2,995,974	3,862,263	△ 345.8	△ 2.8	8.5
資本剰余金	91,977	98,963	6,986	107.6	0.3	0.3
受贈財産評価額	30,092	30,092	0	100.0	0.1	0.1
補助金	22,897	22,897	0	100.0	0.1	0.1
負担金	38,988	45,974	6,986	117.9	0.1	0.1
欠損金	958,266	△ 2,897,011	△ 3,855,277	△ 302.3	△ 3.1	8.2
当年度未処理決	958,266	△ 2,897,011	△ 3,855,277	△ 302.3	△ 3.1	8.2
資本合計	7,883,757	11,746,021	3,862,264	149.0	25.5	33.4
負債資本合計	30,966,561	35,150,830	4,184,269	113.5	100.0	100.0

※ 各表の数値については、端数処理の関係から合計値が一致しない場合があります。

5 主な経営分析

項 目	令和2年度	令和3年度	
(1) 病床利用率 (%)			
一般 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	60.5	63.2	
精神 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	44.3	42.5	
感染 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	一般に含む	一般に含む	
(2) 一日平均患者数 (人)			
入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	425.2	443.1	
外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	1,095.6	1,193.6	
(3) 外来入院患者比率 (%) $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	171.6	178.6	
(4) 職員1人当たり患者数 (人)			
医師	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$	3.3	3.3
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$	8.4	9.0
看護部門	入院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	0.7	0.7
	外来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	1.8	1.9
(5) 患者1人1日当たり診療収入 (円)			
入院 = $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	69,805	76,906	
外来 = $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	16,256	18,177	
(6) 患者1人1日当たり薬品費 (円) = $\frac{\text{薬品費 (投薬・注射)}}{\text{年延患者総数}}$	4,954	6,134	
(7) 入院患者1人1日当たり給食材料費 (円)			
= $\frac{\text{給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$	687	699	

項 目	令和2年度	令和3年度
(8) 薬品使用効率 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{薬品費}} \times 100$	83.8	85.4
(9) 診療収入に対する割合 (%)		
投薬注射収入 $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	13.8	15.6
検査収入 $\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.2	8.5
放射線収入 $\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	4.4	4.1
(10) 医業収益に対する割合 (%)		
薬品費 $\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	15.0	17.0
診療材料費 $\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.6	9.1
給与費 $\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	62.6	55.4

VII 研究・研修及び実習・講師派遣

1 診療関係研究

各診療科カンファレンス状況

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
内 科	週1回	週1回	月1回	内科（週2回）総合内科（週1回）循環器（週1回）内視鏡（週1回） リウマチ（週1回）腎臓（週1回）神経（週1回）呼吸器（週1回） 総診（週1回）消化器（週1回）血液（週1回）
精 神 科	週1回			病棟カンファレンス（週1回）医局カンファレンス（週1回） 病棟回診（週1回）
小 児 科 新生児内科	週1回	週1回		神奈川県下10病院合同症例検討会（年1回） 川崎市小児科医学会症例検討会（年2回）病棟回診（週2回） カルテ回診（週1回）慶大小児科高橋教授回診（月2回） X線画像カンファレンス（週1回）症例検討会（月2回）
外 科	週1回	月1回		部長回診（週1回）術前・術後カンファレンス（各週1回） 消化器カンファレンス（隔週）救急外科カンファレンス（不定期） 合併症カンファレンス（不定期）
脳神経外科	週4回	適宜		脳神経カンファレンス（週1回）カルテ回診（週1回） 術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回）
整 形 外 科	週1回	適宜	年2回	X線画像カンファレンス（週5回）入院患者カンファレンス（週1回） 全体カンファレンス（月1回）
形 成 外 科	週1回	月1回	年2回	術前カンファレンス（週1回）抄読会（月1回）同門会（年2回）
心臓血管外科	週1回			循環器合同（週1回） 術前カンファレンス（週1回）
皮 膚 科	週1回	適宜		皮膚病理（週1回）市皮膚科医学会症例検討（年2回） 県7病院症例検討会（年3回）臨床画像カンファレンス（週1回）
泌 尿 器 科	週2回			術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回）
産科・婦人科	週1回		年2回	ハイリスク症例検討（週1回）手術症例検討会（週1回） 勉強会（月2回）カルテ回診（週1回） 放射線カンファレンス（年4回）
眼 科	週1回	月2回	年1回	症例検討カンファレンス（週1回）
耳鼻咽喉科	週4回	月2回		術前カンファレンス（週1回）病棟カンファレンス（週1回） 癌治療カンファレンス（週1回） 耳鼻科・放射線合同カンファレンス（週1回） 耳鼻科・リハ科合同嚥下カンファレンス（月1回）

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
放射線診断科	週4回	適宜		放射線科画像カンファレンス（週1回）消化器画像カンファレンス（月2回） 小児科画像カンファレンス（週1回）産婦人科画像カンファレンス（年4回） 呼吸器画像カンファレンス（週1回）脳神経カンファレンス（週1回）
放射線治療科	週1回			耳鼻科・放射線治療科合同カンファレンス（週1回） 呼吸器合同カンファレンス（週1回）
麻 酔 科	毎日	月2回		術前カンファレンス（週5回）
リハビリテーション科		月1回		耳鼻科・リハビリテーション科合同嚥下カンファレンス（月1回） 摂食嚥下ランチ回診、カンファレンス（月2回） 脳神経外科病棟カンファレンス（週1回） 整形外科カンファレンス（医師：週1回、療法士：週2回） SCU部会（月2回）NSTカンファレンス（週1回） NST部会（月1回）NST回診（週2回） 神経内科カンファレンス（週1回）
歯科・口腔外科	週1回	適宜	年3回	カンファレンス（週1回）川崎病院症例検討会（年3回）
救 急 科	週14回	月4回		総合カンファレンス（月4回）、症例検討会（週14回） 救急科・外科合同カンファレンス（適時）
病理診断科	毎日			症例検討会（毎日）、消化器カンファレンス（月1回）

2 研究交流会 令和4年2月21日(月)・22日(火) 両日 17:30~19:30

Web配信・デジタルポスター

演 題	演 者	所 属
脳外科手術術中モニタリング検査における臨床検査技師の取り組み	小畑千恵 廣瀬麻未 工藤絵理 金家明美 安部さやか 田村亮太 蔵成勇紀 片山真	検査科・生理検査室 脳神経外科
パーキンソン病に対する当院初のDBS導入例について	浅田健吾 鈴木麻耶 垂石七星 野崎博之 北菌久雄 布施彰久 相馬裕樹 片山真	初期研修医2年 神経内科 脳神経外科
脳深部刺激療法（DBS）が繋いだ医療の協働	矢萩宏樹 高畑良子 小田桐航太 中村優太 森亜沙美 山口さと美 森本夕子 大川順子 布施彰久 北菌久雄 片山真	看護部（2階南病棟） 看護部（認知症看護 認定看護師） リハビリテーション 科 神経内科 脳神経外科
病棟療養環境整備に向けた早期離床推進部会の取り組み	中村優太 薮正樹 梶吉彦 小田桐航太 野田剛 大川順子 原田直子 阿部玲音	リハビリテーション 科 看護部
早期離床リハビリテーションへの取り組み ～早期リハビリテーション加算取得の開始による ICU・CCU病棟看護とリハビリ科の実態調査～	長田さやか 小島巖 澤田かおり 青木達也 藤原拓郎 林奎二郎 堀内晋馬 元永皓太	看護部（ICU・CCU病 棟） リハビリテーション 科
認知症ケアリンクナースの状況と支援上の課題	西森春江 鳥海幸恵 高畑良子 大川順子	看護部

	甲斐瑞恵 古山美佐	
活動報告 認知症ケア委員会 急性期治療の場における身体拘束を考 える	鳥海幸恵 北田夢乃 高畑良子 大川順子 甲斐瑞恵 古山美佐 北菌久雄	看護部 神経内科
活動報告：排尿ケアチームの取り組み① ～多職種による排尿障害への介入の重要性～	福本桂資郎 森亜沙美	泌尿器科 看護部
活動報告：排尿ケアチームの取り組み② ～問診から見えた外来患者の現状と課題～	森亜沙美 福本桂資郎 古山美佐	看護部 泌尿器科
活動報告 臨床倫理コンサルテーションチーム 現状と課題	鳥海幸恵 井上健太郎	看護部 内科
直腸癌再発後転移による対麻痺患者の多職種連携で社会復 帰に至った症例	林奎二郎 野田剛 梶本かさね 阿部玲音 塩津未季 田中菜々美 岡村志のぶ	リハビリテーション 科 看護部 看護部(11階北病棟) 患者総合サポートセ ンター入退院支援係
食札が変わりました！	清水谷弘美 食養科一同 日清医療食品 一同	食養科 株式会社日清医療食 品
病理検査室における 体腔液細胞診検査の診断精度向上を目指す共同研究	宮下卓矢 湯澤栄子 井上智佐子 上岡咲耶 屋代ふみ 川村樹璃 杉山由美子 布山悦子 鏑木友子 谷口早絵 安部さやか 折笠英紀 杉浦仁 津村和大	検査科 病理診断科
小児領域の安全な末梢点滴管理に向けた取り組み	岩見信恵 鳴海栞 足立夏海 片野麻由 井口絹江	看護部（8階南病棟・ 小児外来）
患者の日々の変化を伝えるために ～日常生活動作情報共有ツールの導入とアンケート調査～	小田桐航太 中村優太 薮正樹 鴨志田理子 金子祐也	リハビリテーション 科 看護部(12階南病棟)

	野田剛 阿部玲音 森亜沙美 大川順子	
DPC II期退院率を指標とした経営視点の病棟カンファレンス	酒井俊明 大野昭一 一定平健 岡山幹夫 古山美佐 森田南美恵 武見綾子 大山美和子 舘山奈緒子 菅智子	医事課 血液内科 看護部 患者サポートセンター
救急領域における薬剤師配置による活動報告と医療経済効果の推算	畑山英 成宮貴宏 森谷慶史 橋本春乃 坂井義則 小林加寿夫	薬剤部
外来化学療法前採血におけるタスクシフトとその効果	安部さやか 網野久美子 浅井万紀子 植田尚子 雨宮香 守谷ちひろ 渡邊恭子 大谷綾子 佐々木千賀 磯靖子 伊藤佳代子 志水亜弥 舘山奈緒子 津村和大	検査科 看護部
ナースコールシステムから見えた13階南病棟の現状と課題	佐久間祐樹 金井恵美子 中村静枝 新野一世	看護部 (13階南病棟)
手指消毒剤適正使用に向けた取り組み	三津田舞 井原正人 小平優子 坂本光男	感染対策室
当院入院患者に処方される睡眠薬の推移	橋本春乃 小林加寿夫	薬剤部

骨粗鬆症による橈骨遠位端骨折後の骨折連鎖予防への取り組み	歌島淳 西脇正夫 田邊優 石倉佳代子 谷英明 寺坂幸倫 美馬雄一郎 西村空也 山口健二 小宮浩一郎 中道憲明 上田誠司 堀内行雄	整形外科
腎臓病進行予防のための当院での取り組み ～腎生検を中心に～	川口隆久 安藤孝 湯澤栄子 折笠英紀 杉浦仁 有馬功一郎	内科・総合内科 検査科 病理診断科
運動習慣の観点から考察した川崎病院で働く医療者の健康意識調査	槌野由香里 三浦 優花	臨床研修医1年次
当院における新型コロナウイルス感染症のスクリーニング検査	内田理絵 杉田光男 辻永友美 金子誠 横屋瀬里香 工藤美樹 畠山みり 安部さやか 津村和大	検査科
COVID-19患者に対する手術の実際	秋田啓介 渦川真優子 大石真希 大橋千恵 石垣順子 大谷利光 金善恵 染谷健一 林保良 中田さくら	産婦人科
COVID-19パスを導入して～約5か月間のまとめ～	清水麻紀	看護部 (9階南病棟)
周産期における新型コロナウイルス感染症の取り組み	長澤聖子 福井優子 酒井友美	看護部 (8階北病棟)
面会禁止による患者家族の不安軽減への取り組み	田中莉菜 飯塚愛里	看護部 (9階南病棟)

新型コロナウイルス感染症に対する緩和ケアの有用性の検討	塩津未季 布施あゆみ 菅野久乃 三島牧 安藤孝 三浦孝政 森谷慶史 小笠原美穂 柁吉彦	緩和ケアチーム 看護部(救命救急センター・緩和ケアチームリンクナース)
COVID-19 患者の呼吸器症状に対する緩和的介入の取り組み	布施あゆみ 菅野久乃	看護部 (9 階南病棟)

3 看護研究発表会

第 24 回事例研究発表会 (1 日目) 令和 4 年 1 月 22 日 (土) 9:00~16:00

講師 川崎市立看護短期大学 准教授 松田 有子 先生

新型コロナ感染症患者でケア拒否のある患者との関わりを振り返る	9 階南病棟 西川 結唯
失語症を呈する患者との関わり ～マズローの基本的欲求とコミュニケーションの関連性～	9 階南病棟 川上 春花
喉頭全摘出術後の患者の思いに寄り添った看護	12 階北病棟 津島 瑞穂
ウロストミーのセルフケアが必要な高齢患者に対する自己効力感を高める関わり	12 階北病棟 高野 彩織
喉頭摘出後の認知症患者の家族への指導	12 階北病棟 田中 就

講師 川崎市立看護短期大学 准教授 嵐 弘美 先生

新人看護師が受け持ち患者の死に初めて直面した時の感情	14 階北病棟 金原 愛
せん妄を発症した高齢者との関わり	14 階北病棟 柳田 真悠
糖尿病の初回教育入院における看護師の関わりと患者の心情の変化	13 階南病棟 島津 旭
苦痛を訴えたまま最期を迎えた A 氏との関わり ～初めて担当患者の死に直面して～	13 階南病棟 小宮山 美沙
認知症を有する患者の身体行動制限最小化に向けた関わり	13 階南病棟 繁昌 莉子

講師 川崎市立看護短期大学 講師 木村 紀子 先生

内服に抵抗を示す幼児後期の子どもとその家族への看護	8 階南病棟 古屋 結衣
幼児期の内服拒否の強い児に対する内服介助について	8 階南病棟 川辺 さくら
離床センサーを拒否する患者への関わり	11 階南病棟 深町 将吉
認知症患者との関わりを通して学んだこと ～混乱が最小限で療養生活を送るための看護ケアについて～	10 階南病棟 力 優紀
乳房切除後の患者のボディイメージについて患者と関わり学んだこと ～患者の受け止めの状況に応じた創処置の指導について～	10 階南病棟 武田 優子

講師 川崎市立看護短期大学 講師 五味 麻美 先生

授乳に対する意思決定支援	8 階北病棟 富山 小梅
大腿骨骨幹部骨折により長期入院した 1 歳児への関り	8 階南病棟 片野 麻由

治療やケアに対して不安や不信感を抱えている家族への関わり ～親の受容過程を踏まえた看護について～	8階南病棟 佐藤 理紗
高齢者の睡眠障害について学んだこと	13階南病棟 山田 月乃
終末期の特発性肺線維症患者への看護 ～呼吸困難感を訴える患者との関わり～	13階南病棟 藤枝 穂乃実
間質性肺炎患者の苦痛に対する看護 ～死にたいと訴える患者との関わり～	13階南病棟 皆川 愛実

夜間せん妄の患者と関わり体験したこと 認知症のある脳血管疾患との関わりから自身の看護について振り返る	12階南病棟 古賀 詩乃
間質性肺炎・肺癌が憎悪した終末期患者の心理変化について ～キューブラ・ロスの死の受容を用いて振り返る～	11階北病棟 橋迫 茜
縫合不全による緊急手術でストーマを造設した患者への関わり ～受容に合わせた退院指導～	11階北病棟 高野 さとみ

講師 川崎市立看護短期大学 講師 青木 恵美子 先生

日本語でのコミュニケーションが困難なインド人妊婦の帝王切開 分娩での非言語的コミュニケーションの有用性について	手術室 漆山 日菜
術後訪問時に求められる手術室看護師のかかわりとコミュニケーションについて	手術室 森山 りか
意思表示が少ない癌性疼痛を抱える患者との関わり	14階南病棟 大澤 舞子
肝性脳症を伴う患者の意思決定支援についての学び	13階北病棟 武藤 理子
入退院を繰り返す心不全患者の薬剤指導について	13階北病棟 内山 綸子

講師 川崎市立看護短期大学 講師 笠井 由美子 先生

家族の個別性に合わせた退院支援の必要性 ～高齢初産婦に対する退院支援の振り返り～	NICU・GCU病棟 中村 黛華
早産児・低出生体重児の授乳場面における母親とその児への効果的な関わり	NICU・GCU病棟 三上 瑠奈
肺癌術後で疼痛の強い患者に対する看護	11階南病棟 岩月 南菜
認知症患者の安全と尊厳を両立した看護のあり方	11階南病棟 日野原 菜央
術後せん妄の看護師の関わり方について	11階南病棟 横山 佳奈

第76回看護研究発表会 令和4年1月25日(火) 17:30～19:35

講師 武蔵野大学看護学部長 看護学研究科長 教授 香春 知永 先生

1. コロナ禍の主任・副主任の役割を病棟管理の視点から考える ～病院看護管理者のマネジメントラダーを用いて～	9階南病棟 ○櫻井麻美 小澤康子 渡邊嘉如 後藤麻紀子 竹内由香
2. ICU・CCU病棟における早期離床への取り組み ～早期離床カンファレンスシートを用いた看護の実態調査～	ICU・CCU病棟 ○青木達也 長田さやか 藤原拓郎 澤田かおり

第24回事例研究発表会(2日目) 令和4年1月29日(土) 8:30～17:00

講師 神奈川県立保健福祉大学 准教授 小林 珠美 先生

意識下で画像下治療を受ける患者に対する関わり ～治療に対する不安や期待と自分が行ったケアを振り返る～	手術室 常松 杏奈
患者の不安を軽減するために手術室看護師として出来ること ～帝王切開を受けた患者との関わりを振り返る～	手術室 横塚 大輔
術後せん妄を生じた高齢患者との関わりを通して ～せん妄の予防と対策に向けての取り組み～	11階北病棟 菊池 彩香
ストーマ造設患者のセルフケア確立のためのアプローチ —マズロー理論のニードに合わせたか関わり方—	11階北病棟 武藤 那菜
終末期患者の感情変化に対する関わり	13階北病棟 田村 遥華
食事制限を守れない高齢心不全患者への栄養指導について	13階北病棟 石川 達也

講師 神奈川県立保健福祉大学 准教授 吉田 安子 先生

治療を拒否する患者との関わりを通して学んだこと	14階南病棟 下田 史奈
せん妄のある患者への身体抑制	14階南病棟 丹野 朋哉
骨折にて体動困難となった認知症患者との関わりで学んだ事	10階北病棟 浅野 風香
同一内容によるナースコールが頻回な患者との関わり ～術後ADLが低下した患者への看護を振り返る～	10階北病棟 伊藤 菜々
股関節術後の可動域障害を見据えての看護介入の重要性 ～高齢者の自宅退院に向けての指導・関わりを振り返って～	10階北病棟 野崎 美雪
急性期のくも膜下出血の患者の安静とケアのジレンマについて	ICU・CCU病棟 森山 侑香

講師 川崎市立看護短期大学 教授 洲崎 好香 先生

術後の高齢者患者の自己効力感を高める看護介入	12階南病棟 南本 梨緒
------------------------	--------------

3. 看護師が認識する家族看護の困難さの実態	10 階南病棟 ○三鬼静穂 山下純子
4. コロナ禍で両親面会を継続した NICU・GCU 看護師の思い	8 階西病棟 ○三津田舞 吉川紀子
5. VE・VF が実施困難な病棟における看護師による 嚔下評価の取り組み	9 階南病棟 ○藤島諒 関口愛実 森居久恵 寺澤優希 田中麻実子
6. 抑制待機フローの実態	ICU・CCU 病棟 ○澤田かおり 塙佐智子 佐藤美希
7. 術前訪問ファイルの効果 ～術前術後訪問のアンケート結果から～	手術室 ○佐久間仁美 大和田恵美 酒井智穂 天田朋代 今野紗希 高橋貴子
8. COVID-19 腹臥位管理患者の MDRPU 発生要因	9 階南病棟 ○吉田優作 加賀美遥 河野美友紀 庄司圭佑 藤田陽菜

4 研修

No.	研修名	研修内容	実施年月日	参加者人数	会場	講師
1	新人看護職員入職 ガイダンス	病院長あいさつ 副院長兼看護部長講話 看護部概要・看護部組織活動 電子カルテ基本操作 三役紹介 事務連絡 自治会活動 防災、勤務管理、職員衛生 職員ファイル、BLS	4/1 (1日) 4/6 (1日) 4/7 (1日)	4月採用者 64名	7階講堂	金井院長 千島副院長 兼看護部長 小海副看護部長 庶務課、 管理係 院内救急対策部 会 教育委員会
2	新採用者看護技術演習	採血・血糖測定・インスリン 皮下注射・静脈注射・点滴管 理・輸液ポンプ・シリンジポ ンプ操作・清潔操作・酸素吸 入・ネブライザー・吸引・オ ムツ交換・体位変換ポジショ ニング・食事介助・経腸栄養・ 移動解除（移送移譲）BLS	4/12、4/19 4/26、5/7 5/14、5/4	4月新規採 用者64名	7階講堂	教育委員会 認定看護師 副主任会 院内救急対策部 会
3	新人看護職員研修 安全な看護を提供する ために①	薬剤管理の基礎知識 安全な与薬方法 インシデント教訓事例からの 学び 安全な看護を提供するという こと（グループワーク）	5/24 (1日)	4月新採者 64名	7階講堂	薬剤部係長 担当係長 副主任 教育委員会
4	急変時の対応～ACLS Sを学ぼう・上級編～	患者急変時のマネジメントに ついて講義、演習	6/28(半日)	ラダーⅣ・ Ⅴ 18名	7階講堂	教育委員会 認定看護師
5	新人看護職員研修 院内感染を防止するた めに	感染防止における看護師の役 割 安全防止の実際	6/7 (1日)	4月新採者 名	7階講堂	感染対策室 教育委員会
6	意思決定支援研修	意思決定支援の基本を学ぶ	6/11～6/30	35名	ナーシングス キル動画視聴	教育委員会 認定看護師
7	意思決定支援研修 (実践編)	意思決定支援が実践できるよ うになるための研修	7/17、1/14	32名	講堂	教育委員会 認定看護師
8	急変時の対応～ACLS Sを実践しよう・中級 編～	救急時のリーダーシップがと れるよう知識、演習	7/16(半日)	ラダーⅡ～ Ⅲ 28名	7階講堂	教育委員会 認定看護師
9	新人看護職員研修 安全な看護を提供する ために②	危険予知に関する視点を持つ ことの重要性について理解で きる。 KYT（グループワーク）	7/27(半日)	4月新採者 64名	7階講堂	教育委員会
10	看護補助者研修	介護技術； 改良された紙おむつ ～正しい紙おむつの選択と装 着方法について～	8月～配信	看護助手 55名	ナーシングス キル動画視聴	皮膚排泄ケア認定 看護師
11	新人看護職員研修	コミュニケーションスキル研 修	8/27(半日)	4月新採者 60名	7階講堂	教育委員会 認定看護師
12	看護補助者研修	感染対策；正しい手洗い 方法とガウンテクニック (実践)	9月14日(火) 16時30分～ 17時	看護助手 64名	7階講堂	主任会
13	ACLS 初級編	急変時に対する一連の流れを 理解する。（特に気管内挿管 の介助）	9/30(半日)	4月新採者 44名	7階講堂	教育委員会 認定看護師

14	看護補助者研修	認知機能低下のある患者さんへの関わり	10/20	36名	7階講堂	主任会 認知症看護認定看護師：高畑 良子
15	重症度、医療・看護必要度研修	重症度、医療・看護必要度の基礎（必要度の意義、評価項目の構成、評価方法） 重症度、医療・看護必要度の評価と記録	11/16～2/14	602名	ナーシングスキル動画視聴	記録委員会
16	看護補助者研修	患者見守り時の留意点 ＊安全と倫理的視点	11/29	63名	7階講堂	主任会
17	急変時の対応～ACLSを实践しよう・フォローアップ～	様々な急変事例を用いて演習	11/29	ACLS中級・上級研修に参加した46名	7階講堂	教育委員会 認定看護師
18	看護補助者研修	医療接遇	12/23	57名	7階講堂	主任会
19	看護補助者研修①②	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解他	1月11日(火)～ 1月31日	257名	ナーシングスキル動画視聴	教育委員会
20	キャリアアップニュース	研修報告・最新の知識	3/18	40名	7階講堂	教育委員会

川崎市病院局看護職員研修

研修名		日時	講師	受講者数
新人研修	新規採用看護職員研修	4/2(金) 4/5(月)	病院局 事業管理者、局長他	64人
	新人のための夜勤準備研修	5月/7月	各病院担当者	64人
	専門職として学ぶということ	10/28(木)	神奈川県立保健福祉大学実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	58人
	新人のための看護実践強化研修	10～11月	各病院担当者	61人
	2年目に向けたステップアップ研修	4/3月	神奈川県立保健福祉大学実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	54人
2・3年目研修	受持ち看護師役割研修	6/13(日)	各病院担当者	48人
	受け持ち看護師のためのフィジカルアセスメント研修	11月	各病院担当者	48人
リーダー育成研修	リーダー役割準備研修①(概論編)	12/1(水)	東京医療保健大学 教授 末永由里	40人
	リーダー役割準備研修②(実践編)	12/9(木)	井田病院 小倉主任	40人
	チームにおけるリーダー役割研修	4/1月/3月	国立看護大学校 講師 藤澤雄太	17人

	看護単位におけるリーダー役割研修①	4/3/10(木)	東京医療保健大学 教授末永由里	24人
	看護単位におけるリーダー役割研修②	6/14(月)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	21人
	看護単位におけるリーダー役割研修③	12/17(金)	両院看護部 ファシリテーター	20人
指導者育成教育	新人実地指導者研修①	3/3/4(火)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	26人
	新人実地指導者研修②	10/22(金)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	25人
	新人実地指導者研修③	令4/2/28(月)	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センターほか 非常勤講師 植垣一彦	25人
	臨地実習指導者研修①	4/23(金)	川崎市立看護短期大学 准教授 牛尾 陽子	14人
	看護記録監査研修	7/4(日)	駒沢女子大学 教授 滝島 紀子	21人
看護記録研修	看護過程研修(基礎編)	7/17(土)	川崎市立看護短期大学 教授 野村 明美 教授 佐藤 文	62人
	看護過程研修(応用編)	10/16(土)	川崎市立看護短期大学 教授 野村 明美 教授 佐藤 文	32人
	看護過程研修(臨床推論)	11/20(土)	川崎市立看護短期大学 教授 野村 明美 教授 佐藤 文	25人

5 各科別実習状況報告

科・部	学校・病院名	人数
内科	愛媛大学	1名
	大阪医科薬科大学	1名
	岡山大学	1名
	香川大学	2名
	金沢大学	2名
	岐阜大学	1名
	熊本大学	1名
	群馬大学	1名
	慶應義塾大学	10名
	国際医療福祉大学	1名
	埼玉医科大学	1名
	滋賀医科大学	1名
	順天堂大学	2名
	昭和大学	8名
	信州大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	1名
	千葉大学	2名
	筑波大学	2名
	帝京大学	1名
	東海大学	3名
	東京大学	2名
	東京医科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	1名
	東京女子医科大学	5名
	東邦大学	2名
	東北大学	1名
	富山大学	1名
	長崎大学	1名
	名古屋市立大学	1名
	新潟大学	2名
	日本大学	1名
	日本医科大学	2名
浜松医科大学	2名	
弘前大学	1名	
広島大学	1名	
福井大学	1名	
福島県立医科大学	1名	
藤田医科大学	1名	
北海道大学	4名	
三重大学	1名	
山形大学	1名	

科・部	学校・病院名	人数
内科	横浜市立大学	3名
外科	大分大学	1名
	大阪大学	1名
	九州大学	1名
	熊本大学	1名
	慶應義塾大学	1名
	国際医療福祉大学	1名
	順天堂大学	1名
	昭和大学	1名
	東京女子医科大学	1名
	東邦大学	3名
	東北大学	1名
	東北医科薬科大学	1名
新潟大学	1名	
弘前大学	1名	
広島大学	1名	
呼吸器外科	富山大学	1名
整形外科	秋田大学	1名
	愛媛大学	1名
	慶應義塾大学	2名
	神戸大学	1名
	国際医療福祉大学	1名
	順天堂大学	1名
	昭和大学	1名
	筑波大学	1名
	東京慈恵会医科大学	3名
	東北医科薬科大学	1名
山梨大学	1名	
精神科	大阪大学	1名
	慶應義塾大学	1名
	日本医科大学	1名
	浜松医科大学	1名
小児科	愛媛大学	2名
	北里大学	1名
	九州大学	1名
	慶應義塾大学	3名
	順天堂大学	1名
	昭和大学	3名
	筑波大学	1名
	東京医科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	1名

科・部	学校・病院名	人数
小児科	東京女子医科大学	2名
	新潟大学	1名
	浜松医科大学	1名
	北海道大学	1名
産婦人科	香川大学	1名
	北里大学	1名
	産業医科大学	1名
	滋賀医科大学	1名
	東海大学	1名
	東京医科歯科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	2名
	東京女子医科大学	1名
	東邦大学	1名
	東北大学	1名
	日本医科大学	1名
	浜松医科大学	1名
	弘前大学	1名
三重大学	1名	
眼科	東京慈恵会医科大学	1名
耳鼻咽喉科	昭和大学	1名
麻酔科	横浜市立大学	2名
救急科	秋田大学	1名
	旭川医科大学	1名
	愛媛大学	1名
	岡山大学	1名
	北里大学	1名
	熊本大学	1名
	慶應義塾大学	9名
	神戸大学	1名
	島根大学	1名
	昭和大学	3名
	信州大学	2名
	東海大学	2名
	東京慈恵会医科大学	8名
	東京女子医科大学	2名
	東邦大学	2名
	東北大学	2名
	新潟大学	2名
日本医科大学	2名	
浜松医科大学	1名	
広島大学	2名	
北海道大学	1名	

科・部	学校・病院名	人数
救急科	山形大学	2名
	横浜市立大学	7名

※ 平成28年度から、現役研修医の見学は数値から除外している。

6 講師派遣

(1) 看護師

氏名	派遣場所	担当科目	日程
武見 綾子	日本緩和医療学会	緩和的化学療法は存在するのか？その定義と応用を探る	4月22日
内海 聡	川崎市看護協会	考えてみよう 自施設の災害想定と災害対策Ⅰ	5月28日
澤田 かおり	川崎市看護協会	フィジカルアセスメントの基礎	6月8日
三津田 舞	藤崎保育園	保育園施設の感染対策感染対策	6月18日
久野 昭子	日本手術看護学会	日本手術看護学会関東甲信越地区都県活動報告会	6月26日～7月25日 (オンデマンド)
小澤 康子	日本クリティカルケア 看護学会	日本クリティカルケア学術集会	7月18日 (Web)
高畑 良子	川崎南部の認知症を考える 会	川崎南部認知症ケアチームの取り組み	7月21日
吉田 優作	川崎市看護協会	災害時の看護Ⅰ研修会	7月27日
中村 静枝	東京工科大学	基礎看護学実習Ⅰ	8月17日
高畑 良子	神奈川県健康財団	認知症対応能力研修	9月29日
友寄 ゆかり	東京工科大学	母性看護学	9月10日
土屋 千恵子	日本糖尿病教育・看護学会	日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月18日
高畑 良子	川崎病院地域連携部会 認知症ケア懇談会	ありのままのあなたを受け入れ支えるために	9月17日
吉川 紀子	川崎市立看護短期大学	家族看護	9月16日
近藤 志津	川崎高校	医療従事者の責任の重さややりがいなど	10月4日
内海 聡	川崎市看護協会	考えてみよう 自施設の災害想定と災害対策Ⅱ	10月29日
高畑 良子	川崎南部認知症講演会	急性期病院における認知症ケア～在宅につなげるために～	11月5日
松下 貴代子	川崎高校	医療的ケア基本研修演習	12月6日
小山内 愛海	川崎市立川崎病院	川崎市立病院緩和ケア研修会	11月7日
白田 美奈子	公益財団法人かながわ健康財団	神奈川県院内コーディネーター研修会	12月10日
武見 綾子	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	11月30日
塩津 未季	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	11月30日
大河 寿子	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	11月30日
武見 綾子	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	12月7日
塩津 未季	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	12月7日
大河 寿子	川崎市看護協会	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム	12月7日
吉川 紀子	川崎市立看護短期大学	家族看護	1月19日

VIII 臨床研修概要

臨床研修概要

1 経緯

(1) 病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中核を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

(2) 初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に54年が経過しています。最初の10年間は研修期間3年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。

これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として井田病院の臨床研修医（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。以後、平成24年、平成30年に更新認定を受けています。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

ア 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和44	5	3		
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	3年制→2年制度へ移行
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
26	51	10	10	
27	73	9	10	
28	88	10	9	
29	74	10	10	
30	74	10	10	
令和元	53	10	10	
2	73	10	10	
3	136	10	10	
計	2020名	419名	355名	

イ 専攻医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
26	40	40	
27	46	45	
28	38	37	
29	37	37	
30	39	39	
令和元	42	42	
令和2	37	35	
令和3	32	32	

ウ 臨床研修医出身校別採用者数
国・公立大学

私立大学等 (3年4月1日現在)

出身校	年度							出身校	年度						
	昭和42～平成27	29	30	31	令和2	3	計		昭和42～平成26	29	30	31	令和2	3	計
北海道大	5					1	6	岩手医大	2						2
札幌医科大	1						1	自治医大	7						7
旭川医科大	1						1	埼玉医大	3						3
弘前大	5						5	日本大	4						4
秋田大	7						7	日本医大	3						3
山形大	2			1			3	順天堂大	3						3
東北大	3	1					4	慶應義塾大	94	4	8	5	5	2	118
福島医大	1				1		2	東京医科大	8					1	9
群馬大	4					1	5	東京女子医大	8				1	1	10
筑波大	4	1		1			6	慈恵医科大	28			1	3	2	34
千葉大	14	1				1	16	昭和大大	8			1			9
東京大	4	1				1	6	東邦大大	15		1				16
東京医科歯科大	4		1				5	杏林大	7						7
横浜市立大	3						3	聖マリアンナ大	14	1					15
山梨大	1						1	北里大	7						7
新潟大	4						4	東海大	13						13
富山大	2						2	帝京大	1	1					2
福井大	3						3	藤田医科大	10						10
浜松医科大	4						4	愛知医科大	2						2
岐阜大	2						2	関西医科大	3						3
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2
名古屋市	3						3	兵庫医科大	1						1
三重大	3						3	川崎医科大	2						2
奈良大	1						1	産業医科大	5						5
京都府大	1						1	久留米大	2						2
神戸大	3						3	金沢大	2						2
岡山大	2						2	九州大	0			1			1
島根大	1						1	その他(海外等)	2						2
山口大	2						2								0
徳島大	2						2								0
香川大	1						1								0
長崎大	5						5								0
佐賀大	1						1								0
熊本大	2						2								0
鹿児島大	1						1								0
琉球大	2						2								0
高知大	1						1								0
滋賀大	2						2								0
滋賀医科大	1						1								0
計	110	4	1	2	1	4	122	計	256	6	9	8	9	6	294

エ 初期臨床研修修了者(令和2年度生)

修了年月日	氏名	出身校
令和4年3月31日	浅田 健吾	東京慈恵会医科大学
令和4年3月31日	内川 理紗	東京慈恵会医科大学
令和4年3月31日	笠原 美沙	慶應義塾大学
令和4年3月31日	嶋貫 佳奈子	福島県立医科大学
令和4年3月31日	鈴木 麻耶	東京女子医科大学
令和4年3月31日	田中 祥子	慶應義塾大学
令和4年3月31日	垂石 七星	東京慈恵会医科大学
令和4年3月31日	出澤 舞乙	慶應義塾大学
令和4年3月31日	原田 優香	慶應義塾大学
令和4年3月31日	古川 貴子	慶應義塾大学

<2年以上研修を受けた専攻医>(※ 1年6か月以上2年未満の者を含む。)

- ・酒井 志穂 ・安部 恭嗣 ・伊藤 守 ・永江 真也 ・石野 すみれ ・遠藤 洵之介
- ・遠藤 洵之助 ・原田 修平 ・船曳 隼大 ・美馬 佳代子 ・小林 寛太郎 ・佐藤 和佳奈
- ・諸川 明洋 ・大崎 侑佳 ・新川 紗由香 ・安里 輝 ・鶴澤 侑子 ・安達 薫
- ・藤田 夏樹 ・長嶺 宏樹 ・藤田 野々香 ・島谷 直孝 ・天笠 愛子 ・杉 真恵

<1年間研修を受けた専攻医>(※ 6か月以上1年未満及び1年6か月未満の者を含む。)

- ・下手 公介 ・小野里 隆太 ・川井 雅敏 ・塩澤 優花 ・寺山 千夏 ・林 浩一
- ・林 泰儀 ・横塚 慧 ・鳴瀬 祥 ・海ヶ倉 紀文 ・中間 麻矢子 ・田邊 優
- ・福島 啓太 ・片山 陸 ・格谷 雅徳 ・米澤 賢吾 ・嶋 晃歩 ・竹内 玲衣
- ・秋田 啓介 ・渦川 真優子 ・高原 美希 ・宮澤 森太郎 ・伊藤 孝哉 ・大倉 早紀子
- ・堀越 雄一郎

オ 在籍する臨床研修医(令和4年4月1日現在)

2年次生(令和3年度生)		1年次生(令和4年度生)	
氏名	出身校	氏名	出身校
秋山 倫人	千葉大学	石井 達也	慶應義塾大学
加藤 亜美	慶應義塾大学	高野 すみれ	東京慈恵会医科大学
鈴木 涼太	東京慈恵会医科大学	坂野 彰哉	神戸大学
槌野 由香里	北海道大学	佐藤 佑樹	慶應義塾大学
豊原 雅人	群馬大学	施賀 皓内	台北医学大学
中原 日菜	東京女子医科大学	仲尾 捷	慶應義塾大学
畑崎 祐志	東京大学	長竹 茉奈	筑波大学
松山 千紘	東京医科大学	林 祐美子	山形大学
眞鍋 佳世	慶應義塾大学	三谷 貴大	慶應義塾大学
三浦 優花	東京慈恵会医科大学	山内 遥	聖マリアンナ医科大学

カ 在籍する専攻医(令和4年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内科	安部 恭嗣	信州大学	内科	大曾根 史織	名古屋市立大学
内科	朝倉 啓友	北里大学	内科	熊谷 聡佑	慶應義塾大学
内科	原田 修平	自治医科大学	内科	古田島 太希	慶應義塾大学
内科	船曳 隼大	東京医科大学	内科	嶋貫 佳奈子	福島県立医科大学
内科	竹林 康幸	東京医科大学	内科	桃原 理子	東邦大学
内科	中安 美沙	東京慈恵会医科大学	内科	永岡 茉莉奈	慶應義塾大学
外科	安藤 拓	慶應義塾大学	内科	溝部 政仁	順天堂大学
心臓血管外科	中間 麻矢子	東京女子医科大学	整形外科	金子 弘樹	聖マリアンナ医科大学
整形外科	竹之下 真一	東京医科歯科大学	小児科	高橋 美歩	山梨大学
整形外科	今本 多計臣	聖マリアンナ医科大学	耳鼻咽喉科	田中 祥子	慶應義塾大学
脳神経外科	佐柳 太一	慶應義塾大学	麻酔科	古川 貴子	慶應義塾大学
形成外科	永塚 大樹	琉球大学	歯科口腔外科	田中 健太	東北大学
精神科	太田 真右	慶應義塾大学			
精神科	格谷 雅徳	琉球大学			
精神科	鈴木 美里	秋田大学			
小児科	可児 圭丞	順天堂大学			
小児科	古澤 恭平	琉球大学			
皮膚科	宮川 明大	埼玉医科大学			
皮膚科	新川 紗由香	千葉大学			
泌尿器科	竹内 玲衣	千葉大学			
産婦人科	蒔 美彩	慶應義塾大学			
眼科	宮下 翔平	兵庫医科大学			
耳鼻咽喉科	高原 美希	慶應義塾大学			
リハビリテーション科	速見 優希	山形大学			
放射線診断科	藤井 茜	山形大学			
麻酔科	藤田 夏樹	秋田大学			
麻酔科	杓水 千尋	東京医科歯科大学			
救急科	堀越 雄一郎	日本大学			
救急科	天笠 愛子	東海大学			
救急科	杉 真恵	東邦大学			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出してきました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い、医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気を診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

研修管理委員会委員長 小宮 浩一郎

イ 研修施設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト〔医師免許取得後7年以上〕（令和4年6月1日現在）

内科	野崎 博之	有馬 功一郎	佐山 宏一	末吉 浩一郎
	坂本 光男	西澤 健也	玉井 博修	安藤 孝
	伯野 大彦	高木 英恵	吉川 賢忠	津村 和大
	李 慧崇	田口 博章	滝口 俊一	有泉 健
	定平 健	大森 奈緒	井上 健太郎	深江 智明
	細田 智弘	北薊 久雄	大塚 健悟	川口 隆久
	布施 彰久	岡山 幹夫	山根 剛	大嶋 洋佑
	渡辺 雄祐	鈴木 健	明神 聡介	相馬 裕樹
	杉原 快	花田 亮太	梶尾 暢彦	李 昊
	精神科	齋藤 寿昭	三浦 孝政	倉持 信
小児科	土橋 隆俊	有安 大典	檜林 敦	松尾 基視

	柴田 浩憲 山田 剛	外山 陽子	吉田 祐	案納 あつこ
新生児内科	森 和広 長田 朝美	古川 律子	佐々木 歩	宮武 瑛里
外科	市東 昌也 中村 哲也 雨宮 隆介	相浦 浩一 小倉 正治 鈴木 佳透	萬谷 京子 三原 規奨 細川 恭佑	和多田 晋 近藤 崇之 木戸 美織
呼吸器外科	澤藤 誠	岩丸 有史	井澤 菜緒子	奥井 将之
脳神経外科	小野塚 聡	片山 真	三島 牧	蔵成 勇紀
整形外科	上田 誠司 山口 健治 谷 英明	中道 憲明 西村 空也 歌島 淳	小宮 浩一郎 寺坂 幸倫	西脇 正夫 美馬 雄一郎
形成外科	繼 渉			
心臓血管外科	灰田 周史			
皮膚科	西本 周平			
泌尿器科	原 智 梅田 浩太	福本 桂資郎	勝井 政博	茂田 啓介
産婦人科	中田 さくら 石垣 順子	染谷 健一 大橋 千恵	金 善恵 大石 真希	大谷 利光
眼科	園部 秀樹	三田村 浩人	小澤 紘子	安里 輝
耳鼻咽喉科	重富 征爾	猪狩 雄一	中山 梨絵	
放射線診断科	倉田 忠宜	長谷川 市郎	緒方 雄史	
放射線治療科	栗林 徹	元村 祐介		
麻酔科	森田 慶久 出野 智史	菅 規久子 石渡 博昭	細井 卓司 岡部 久美子	奥田 淳
救急科	田熊 清継 石田 正高 金子 翔太郎	齋藤 豊 三吉 貴大	進藤 健 鳥海 聡	金尾 邦生 土屋 光正
リハビリテーション科	阿部 玲音	須田 万豊		
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純		
病理診断科	折笠 英紀	杉浦 仁	堀井 千裕	

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本内科学会認定医教育病院	日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本整形外科学会専門医制度研修施設	日本認知症学会認定教育施設

日本形成外科学会認定教育関連施設	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本病理学会研修認定施設 B
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本リウマチ学会認定教育施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設	日本神経学会専門医制度教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設
日本腎臓学会認定教育施設	日本血液学会認定研修施設
日本核医学会専門医教育病院	日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本 IVR 学会専門医修練施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設	日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本感染症学会認定研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本口腔外科学会関連研修施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本胆道学会認定指導施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本手外科学会認定研修施設	日本頭頸部外科学会準認定施設
日本脈管学会認定研修指定施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設	日本肝臓学会認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本糖尿病学会教育関連施設	神奈川県医師会母体保護法指定医師指定研修機関
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	日本透析医学会教育関連施設
日本高血圧学会認定研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター	胸部外科教育施設協議会修練施設
腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設	日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医研修施設
日本超音波医学会超音波専門医研修施設	日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べる事ができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるように配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の4週は、全員が内科で研修を行います。厚生労働省の定める内科24週、救急科12週、地域医療4週、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週を必修科目として計56

週研修します。選択は15科（緩和ケア科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、口腔外科、検査科（病理））の中から選択し、48週の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低4週とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組み、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員	: 1年次10名、2年次10名
募 集 及 び 採 用 方 法	: 公募、小論文、個別面接にて選考、マッチングに参加
資 格	: 令和4年度に日本で有効な医師免許を取得見込みの者
処 遇	: 川崎市会計年度任用職員 地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。
待 遇	: 給与月額 302,889円 健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり レジデントハウス（単身者用）あり 病院個室なし、個人の机及びロッカー有り 定期健康診断年2回 医師賠償責任保険は病院として加入 学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし。
勤 務 時 間	: 1週5日（月～金曜日） 月～金曜日：8時30分～17時まで 研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による） 当直は配属科により変わるが、内科の場合、平日当直2日、休日当直1日が目安である。
年 次 有 給 暇 等	: 1年目10日、2年目11日付与 夏期休暇5日（6月1日～10月31日までの間に取得）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

Ⅸ 業 績 目 録

科 別 業

科目	年度	科 別											
		内科・総合内科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科
学位取得	29 30 1 2 3							1				1	
賞	29 30 1 2 3	1 1 2	1	1				1					1 1
研究助成 共同研究	29 30 1 2 3		1	3				1 1 1					
書籍	29 30 1 2 3	1 3 1		1 3 4		1 1		1 1 2				1 4	1
論文	29 30 1 2 3	14 12 14 21 5		1 5 2 2	1		3 7 1	14 22 17 16 11	2 2 1	2 1 3	3 3 1	8 5 8 7	7 15 9 3 2
学会 研究会	29 30 1 2 3	17 39 32 21 16		18 8 8 6 8	5 4 4	15 15	2 8 3 2 4	1 1 3 2 13 13	1 2		1 3 4 7	6 13 13 3 1	25 32 18 9 9
その他	29 30 1 2 3	2 1 21 5	1 5 1	6 4 3 5	2	5 2 1		2 6 3 2 2	1			4 4 3 1	1

※ 「書籍」は「著書」と「書籍の章」の合算。「その他」には「講演会等」を含む。

績 統 計

眼科	耳鼻咽喉科	放射線治療科	放射線診断科	麻酔科	救急科	リハビリテーション科	歯科口腔外科	検査科	薬剤部	看護部	医療安全管理室	患者総合サポートセンター	感染対策室	食養科	合計
			1	1						1					2
	2 1									4 3 1 3					4 6 3 3 7
4 1	1 1		1				1 1 1 1								7 3 3 7 2
	1 1	1		1 1	1 1		1			2 1 1					7 6 4 6 21
3 2 3	7 8 11 10 3		3 2	8 7 6 7	5 6 19 13 12		2 3 4 1	3 4	1 4	5					86 100 101 102 71
6 2	22 27 22 8		6 5 7	15 5 7	15 23 20		2 3 1	6 1 1	5 1	10 9 13					196 241 179
4	7	1	3	5	8	6	2	10	2						93 116
5 1 2	3		10 10 9 11 3	7 7 1 1	1 8 2	17 19 8 6	2 1 2	9 8 10	30			4 5	66		143 108 46 87 70

1 当院における学位取得者

(1) 看護部

高橋貴子. 看護システム管理学専攻修士課程. 令和4年3月31日. 公立病院新設入院センターにおける周術期術前看護の創出

2 賞

(1) 内科

原田優香. 第673回関東地方会 奨励賞. 令和3年11月14日. 食道癌術後再発に対するNivolumab治療中にirAE胆管炎・肝障害を発症した1例

鈴木健 . 第673回関東地方会 指導医賞. 令和3年11月14日. 食道癌術後再発に対するNivolumab治療中にirAE胆管炎・肝障害を発症した1例

(2) 小児科

外山陽子. Best oral award. 最優秀演題. 令和3年5月22日. “Characteristics of patients with food protein-induced enterocolitis syndrome provoked by hen’s egg”

外山陽子. 日本小児アレルギー学会トラベルグラント. 最優秀演題. 令和3年5月22日. “Characteristics of patients with food protein-induced enterocolitis syndrome provoked by hen’s egg”

(3) 産科・婦人科

渦川真優子. 関東連合産科婦人科学会 若手優秀演題賞. 令和3年11月21日

(4) 看護部

千島美奈子. 神奈川県自治体病院開設者協議会表彰. 令和2年6月

福井 優子. 川崎市病院協会優良職員表彰. 令和2年6月

島田 佳代. 川崎市病院協会優良職員表彰. 令和2年6月

3 研究助成及び共同研究

(1) 精神科

久保馨彦 「当事者視点での治療のイメージと困った時の対処法について：アンケート調査」

(2) 歯科口腔外科

安居孝純 (研究代表者), 中川種昭, 森川暁, 馬渕洋. 令和2年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金. 基盤研究 C) 歯髄幹細胞由来オルガノイドによる顎骨壊死予防法の開発 補助事業期間：令和2年度～令和5年度

4 書籍

該当者なし

5 書籍の章

(1) 内科

野崎博之. 結核性髄膜炎. 最新ガイドラインに基づく神経疾患・診療指針2021-'22. 総合医学社. 東京. 2021. 432～437

(2) 精神科

久保馨彦. Taylor, David M etal. 未出版のため不明. The Maudsley Prescribing Guidelines in Psychiatry. 14th

(3) 小児科

有安大典. 原発性復甲状腺機能亢進症. 小児疾患診療のための病態生理2.6版. 『小児内科』『小児外科』編集委員会共著. 東京都. 東京医学社. 2022年1月. 415～419

土橋隆俊. 促進心室固有調律. 小児心電図の見かた、考えかた. 初版. 三浦大、山岸敬幸. 東京. 中外医学社. 2022年2月. 132～133

土橋隆俊. 特発性心室頻拍. 小児心電図の見かた、考えかた. 初版. 三浦大、山岸敬幸. 東京. 中外医学社. 2022年2月. 168～172

吉田祐. 長時間心電図. 小児心電図の見かた、考えかた. 初版. 三浦大、山岸敬幸. 東京. 中外医学社. 2022年2月. 252～256

(4) 整形外科

西脇正夫. 疾患別治療各論. 成人 橈骨遠位端骨折. 疾患別治療各論. 成人 橈骨遠位端骨折. 高平尚伸, 和田卓郎. 東京. 南江堂. 2021. 133～138

西脇正夫. スポーツによる手関節・手の外傷・障害 手指の脱臼・脱臼骨折. 上肢のスポーツ外傷・障害. 池上博奏. 東京. 中山書店. 2022. 279～284

(5) リハビリテーション科

門脇優. 新型コロナウイルス感染症患者への介入に際してのリハビリテーション科の取り組み. 作業療法ジャーナル 56巻1号. 2022年1月

(6) 皮膚科

西本周平. 多中心性細網組織球症. 今日の皮膚疾患治療指針. 第5版. 佐藤伸一, 藤本学, 門野岳史, 梶島健治. 東京. 医学書院. 2022. 818～819

(7) 産科・婦人科

林保良, 椎名美季, 中田さくら. 粘膜下筋腫、ポリープ (子宮鏡下手術). OGS NOW basic No.6 不妊治療の外科的アプローチ、妊娠を目指して. 竹田省. 東京. メジカルビュー社. 2021. 64～69

(8) 麻酔科

菅規久子. 赤血球輸血のヘモグロビン閾値. 麻酔科診療方針標準化のすすめ. 小林佳郎、杉浦孝広、(監修：武田純三). 東京. “真興交易株式会社医書出版部”2021. 41～43

菅規久子. 肝硬変患者の麻酔. 麻酔科診療方針標準化のすすめ. 小林佳郎、杉浦孝広、(監修：武田純三). 東京. “真興交易株式会社医書出版部”2021. 100～101

藤田夏樹, 梶谷美砂. 冠動脈疾患と抗血小板薬. 麻酔科診療方針標準化のすすめ. 小林佳郎、杉浦孝広、(監修：武田純三). 東京. “真興交易株式会社医書出版部”2021. 45～46

梶谷美砂, 森田慶久. 非心臓手術患者における術前経胸壁心臓超音波検査の適応. 麻酔科診療方針標準化のすすめ. 小林佳郎、杉浦孝広、(監修：武田純三). 東京. “真興交易株式会社医書出版部”2021. 64～66

(9) 救急科

田熊清継. 【治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療】皮膚軟部組織感染症 日本医事新報. 5062号. 猿田享男, 北村惣一郎. 東京. 日本医事新報社. 2021. 66～68

(10) 看護部

青木達也. “キャリアの棚卸し～私はこうしてキャリアを身につけた～”. 看護のチカラ.No568.

6 論文

(1) 内科

Hazue R, Ueno T, Nozaki H, Kinowaki K, Ohashi K, Hoshino J, Sawa N, Ubara Y. Syphilis-associated membranous nephropathy successfully treated with amoxicillin. Clin Nephrol. 2021. 96(5). 297～301

野崎博之. Argyll Robertson 症候群. CLINICAL NEUROSCIENCE. 2021. 39(5). 585～585

Muto Y, Hagiwara E, Baba T, Sato Y, Sakayori M, Tabata E, Sekine A, Komatsu S, Okudela K, Sayama K, Ogura T. Unilateral Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis with Polymyositis-related Interstitial Lung Disease. Intern Med. 2022. 2-Apr. doi:10.2169/internalmedicine.9015-21.

栗原 夕子(川崎市立井田病院 内科), 高松 正視, 安西 秀美, 定平 健, 鈴木 貴博. メサラジンによる薬剤誘発性血管炎の合併が疑われた潰瘍性大腸炎の1例. 日本病院総合診療医学会雑誌 (2185-8136)18巻1号 Page8-14(2022.01)

Yasuda I, Hasegawa K, Sakamaki Y, Muraoka H, Kawaguchi T, Kusahana E, Ono T, Kanda T, Tokuyama H, Wakino S, Itoh H. Pre-emptive Short-term Nicotinamide Mononucleotide Treatment in a Mouse Model of Diabetic Nephropathy. J Am Soc Nephrol. 2021 Jun 1;32(6):1355-1370. doi:10.1681/ASN.2020081188. Epub 2021 Apr 1.

(2) 小児科

有安大典. 【内分泌疾患の移行期医療】複合型下垂体機能低下症の移行期医療. Medical science digest. 2021 47巻6号. 290～293

古山和佳奈. 母体からのビタミンD供給不足は新生児・乳児のビタミンD欠乏症発症に關与する当院での経験した9症例の検討. 小児科臨床. 2021. 75巻1号. 83～89

(3) 精神科

Yonezawa K, Tani H, Nakajima S, Nagai N, Koizumi T, Miyazaki T, Mimura M, Takahashi T, Uchida H. AMPA receptors in schizophrenia: A systematic review of postmortem studies on receptor subunit expression and binding. Schizophr Research. 2022. 243. 98～109

Sakurai H**, Yonezawa K**, Tani H, Mimura M, Bauer M, Uchida H. Novel Antidepressants in the Pipeline (Phase II and III): A Systematic Review of the US Clinical Trials Registry. Pharmacopsychiatry. 2022. 55(4). 193～202

(4) 外科

和多田晋, 掛札敏裕, 倉田忠宜. 2期的に治療した慢性腸管虚血の1例. 血管外科. 2021. 40. 76～81

(5) 整形外科

Nishiwaki M, Terasaka Y, Kiyota Y, Inaba N, Koyanagi T, Horiuchi Y. A prospective randomized comparison of variable-angle and fixed-angle volar locking plating for intra-articular distal radius fractures. J Hand Surg Am. 2021. 46. 584～593

西脇正夫, 寺坂幸倫, 岡崎真人, 田崎憲一, 堀内行雄. 掌側亜脱臼を伴う陳旧性骨性槌指に対するflexion blockを用いた経皮的鋼線刺入固定術. 日本手外科学会雑誌. 2021. 37. 557～560

西脇正夫, 【橈骨遠位端骨折-最近の治療と課題-】術後抜釘の現状 掌側ロッキングプレート抜釘の現況と課題. Monthly Book Orthopaedics. 2021. 34. 80～83

西脇正夫, 岡崎真人, 岩本卓士, 鈴木拓, 川崎恵吉, 市原理司. 橈骨遠位端骨折に対する掌側ロッキングプレート固定術後の抜釘の検討. 骨折. 2021. 43. 494～497

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 寺坂幸倫, 清田康弘, 久島雄宇, 稲葉尚人, 堀内行雄. 上腕骨遠位端 coronal shear fracture の治療成績. 日本肘関節学会雑誌. 2021. 28. 26～31

西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 堀内行雄. 橈骨遠位端骨折における背尺側骨片の固定に角度可変型掌側ロッキングプレートは有用か. 日本手外科学会雑誌. 2022. 38. 416～420

西脇正夫, 寺坂幸倫, 久島雄宇, 清田康弘, 稲葉尚人, 別所祐貴. 掌側ロッキングプレートによる橈骨遠位端骨折の背尺側骨片の固定性が術後成績に与える影響. 骨折. 2022. 44. 188～192

Kiyota Y, Suzuki T, Inaba N, Nishiwaki M, Kimura H, Matsumura N, Sato K, Nakamura M, Matsumoto M, Iwamoto T. Normal values and ranges of the lateral capitello-humeral angle in healthy children. J Pediatr Orthop B. 2021. 30. 381～384

Kato T, Suzuki T, Kameyama M, Okazaki M, Morisawa Y, Nishiwaki M, Nakamura T, Sato K, Iwamoto T. Range of motion after the Sauvé-Kapandji and Darrach procedures without extensor tendon rupture. J Wrist Surg. 2021. 10. 190～195

加藤修三, 西脇正夫, 石倉佳代子, 歌島淳, 豆状三角骨関節症により小指深指屈筋腱皮下断裂を生じた1例, 関東整形災害外科学会雑誌. 2021. 52. 87～91

Ninomiya K, Okuyama K, Aoyama R, Nori S, Yamane J, Suzuki S, Kitamura K, Anazawa U, Furukawa M, Shiraishi T, Ueda S, Kato M. Surgical Outcomes of Selective Laminectomy for Patients With Cervical Kyphosis: A Retrospective Study of 379 Cases. Global Spine J. 2021. 0. 1～10

(6) リハビリテーション科

Yamada Y, Kawakami M, Tashiro S, Omori M, Matsuura D, Abe R, Osada M, Tashima H, Shimomura T, Mori N, Wada A, Ishikawa A, Tsuji T. Rehabilitation in acute COVID-19 patients: A Japanese retrospective, observational, multi-institutional survey. Arch Phys Med Rehabil. 2021. 103. 929～936

(7) 皮膚科

Watanabe S, Iozumi K, Abe M, Ito Y, Uesugi T, Onoduka T, Kato I, Kato F, Kodama K, Takahashi H, Takeda O, Tomizawa K, Tateishi Y, Fujii M, Mayama J, Muramoto F, Yasuda H, Yamanaka K, Oh-I T, Kasai H, Tsuboi R, Hattori N, Maruyama R, Omi T, Shimoyama H, Nakasu I, Watanabe-Okada E, Nishimoto S, Mochizuki T, Fukuzawa M, Seishima M, Sugiura K, Yamamoto O, Shindo M, Kiryu H, Kusuhara M, Takenaka M. Clinical effectiveness of efinaconazole 10% solution for treatment of onychomycosis with longitudinal spikes. J Dermatol. 2021. 48. 1474～1481

(8) 心臓血管外科

Mori A, Inoue S, Orikasa H, Yoshimoto T, Konishi H. Coronary Artery Fistula Aneurysm: Pathological Analysis After Surgery. Cureus. 2021. 5. e14903～e14903

Inoue S, Mori A, Iida Y, Oka H. Isolated congenital absence of a single pulmonary valve cusp. JTCVS Tech. 2021. 10. 433～436

Masuda S, Mori A, Mizonishi S, Tashiro R. Creation of an Analytical Model of Spinal Cord Cooling

by Epidural Catheter for Preventing Paraplegia. *Cureus*. 2021. 12. e20430~e20430

(9) 産科・婦人科
 渦川真優子, 大谷利光, 平野翔大, 秋田啓介, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 鈴木毅, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 当院で経験した COVID-19 合併妊婦 9 症例. *神奈川産科婦人科学会誌*. 2022. 58. 144~147
 磯崎太一, 沼崎玲子, 新井努, ルイズ横田南朋, 大原樹, 高田共臣, 佐々木康, 林康子, 松島隆, 平澤猛, 八代藍子, 土谷聡, 中田さくら, 盛岡幹, 松永竜也, 三上幹男, 加藤久盛, 中野眞佐男, 宮城悦子, 高橋恒夫. 令和 2 年度神奈川産科婦人科学会. 婦人科悪性腫瘍登録報告. *神奈川産科婦人科学会誌*. 2022. 58. 153~161

(10) 泌尿器科
 Kaneko G, Hattori S, Shirotake S, Kanao K, Hara S, Oyama M. Laparoendoscopic single-site simple nephrectomy and reduced port procedure for inflammatory nonfunctioning kidney. *IJU case reports*. 2021. 17;4(3). 184~187
 Kayama E, Shigeta K, Kikuchi E, Ogihara K, Hakozaki K, Iwasawa T, Kamisawa K, Kanai K, Ide H, Hara S, Mizuno R, Oya M. Guideline adherence for radical cystectomy significantly affects survival outcomes in non-muscle-invasive bladder cancer patients. *Japanese journal of clinical oncology*. 2021. 51(8). 1303~1312
 Katsui M, Shishido T, Iwasawa T, Orikasa H, Hattori S, Hara S. Renal preservation by pure laparoscopic partial ureterectomy for contralateral ureteral metastasis 7 years after nephrectomy for renal cell carcinoma: A case report *Urology case reports*. 2021. 22;39
 Shigeta K, Matsumoto K, Ogihara K, Murakami T, Anno T, Umeda K, Izawa M, Baba Y, Sanjo T, Shojo K, Tanaka N, Takeda T, Morita S, Kosaka T, Mizuno R, Arita Y, Akita H, Jinzaki M, Kikuchi E, Oya M. Does neoadjuvant chemotherapy have therapeutic benefit for node-positive upper tract urothelial carcinoma? Results of a multi-center cohort study *Urologic oncology* 2022. 40(3)

(11) 眼科
 Yoshiko Ofuji, Yusaku Katada, Yohei Tomita, Norihiro Nagai, Hideki Sonobe, Kazuhiro Watanabe, Hajime Shinoda, Yoko Ozawa, Kazuno Negishi, Kazuo Tsubota and Toshihide Kurihar
 Non-Perfusion Area Index for Prognostic Prediction in Diabetic Retinopathy. *Life2022* 12
 Hiroko Ozawa, et al. Ocular findings in Japanese patients with hydroxychloroquine retinopathy developing within 3 years of treatment. *Japanese Journal of Ophthalmology*. 2021. 20
 Hiroko Ozawa, et al. Iris metastasis as the initial presentation of metastatic esophageal cancer diagnosed by fine needle aspiration biopsy. *Medicine*. 2021. 100

(12) 耳鼻咽喉科
 松居 祐樹, 西山 崇経, 今西 順久, 重富 征爾, 佐藤 陽一郎, 猪狩 雄一, 五島 可奈子, 笠原 健, 小澤 宏之. 術後咽頭皮膚瘻に対するパウチ法を用いた管理の有用性. *日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報*. 2021. 125. 271~278
 笠原 健, 大久保 啓介, 菅野 雄紀. 下咽頭梨状陥凹瘻に対して経口的瘻管摘出術を施行した 1 例. *日本気管食道科学会会報*. 2021. 73. 14~20
 Kasahara K, Nishiyama T, Shigetomi S, Ikari Y, Matsui Y, Ozawa H. Cricotracheostomy in a patient

with severe kyphosis: A case report. *Ear Nose Throat J*. 2022. Online ahead of print.

(13) 歯科口腔外科
 Nagamine H, Yasui T, Kimura M, Karube T, Sato H, Miyashita H, Asoda S, Kogai H, Kawana H, Onizawa K. Large pyogenic granuloma associated with a dental implant: A case report *Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology*. 2022. 34. 315~321

(14) 放射線診断科・放射線治療科
 三宅博之. 第 3 章日本放射線技術学会における技術科学研究の変遷 3.5.6 その他検査 (消化管・透視診断・トモシンセシス, 超音波検査, 骨密度測定装置など). *日本放射線技術史*. 2021 年. 日本放射線技術学会. *日本放射線技術史第三巻* 172~182

(15) 病理診断科
 Mori A, Inoue S, Orikasa H, Yoshimoto T, Konishi H. Coronary Artery Fistula Aneurysm: Pathological Analysis After Surgery *Cureus*. 2021. 13
 Katsui M, Shishido T, Iwasawa T, Orikasa H, Hattori S, Hara S. Renal preservation by pure laparoscopic partial ureterectomy for contralateral ureteral metastasis 7 years after nephrectomy for renal cell carcinoma: A case report *Urol Case Rep*. 2021. 39
 Kawai T, Seki R, Miyajima K, Nakashima H, Takeda T, Murakami T, Aoe K, Okabe K, Homma K, Tsukamoto Y, Sunada K, Terasaki Y, Iida M, Orikasa H, Hiroshima K. Malignant pleural mesothelioma with heterologous elements. *J Clin Pathol*. 2021
 Harada Y, Mihara K, Amemiya R, Nakagawa M, Hanada R, Inoue K, Shito M, Orikasa H, Aiura K. Isolated IgG4-related cholecystitis with localized gallbladder wall thickening mimicking gallbladder cancer: a case report and literature review. *BMC Gastroenterol*. 2021. 22

(16) 麻酔科
 関 博志, 蔵谷 紀文, 志賀 俊哉, 三浦 倫一, 近藤 一郎, 木下 真央, 仙頭 佳起, 増田 裕也, 出野 智史, 池田 浩平, 高野 光司, 桑原 雄希, 衣笠 梨絵, 天谷 史昌, 佐和 貞治, 祖父江 和哉, 森崎 浩. 婦人科腹腔鏡手術におけるオランザピンの術後悪心嘔吐予防効果: 多施設共同無作為化比較対照試験. *麻酔*. 2021. in press
 Mana Matsuzawa, Satoshi Ideno, Kikuko Suga, Yoshimune Osaka, Yoshihisa Morita. Platypnea-orthodeoxia syndrome due to undiagnosed patent foramen ovale: A case report *Journal of Clinical Anesthesia*. 2021. 71. 110237
 Hiroyuki Seki, Toshiya Shiga, Takahiro Mihara, Hiroshi Hoshijima, Yuki Hosokawa, Shunsuke Hyuga, Yomoe Fujita, Kyotaro Koshika, Reira Okada, Hitomi Kurose, Satoshi Ideno, Takashi Ouchi. Effects of intrathecal opioids on cesarean section: a systematic review and Bayesian network meta-analysis of randomized controlled trials. *Journal of Anesthesia* 2021. 35 911~927
 逢坂 佳宗, 藤岡 頌子, 青木 優祐, 松尾 佳代子, 水谷 光. 症例カンファレンス COVID-19 陽性患者の帝王切開. *LiSA* 2021. 29. 109~124
 北嶋 宏輝, 逢坂 佳宗, 森田 慶久. 人工股関節全置換術後 3 日目の心不全で初めて重症大動脈弁狭窄症が判明した 1 症例. *麻酔*. 2021. 71. 302~305
 北嶋 宏輝, 逢坂 佳宗, 森田 慶久. プローブホルダーは初心者の超音波ガイド下穿刺の時間を短縮させる. *麻酔*. 2021. 70. 666~668
 Koyama Y, Morimoto Y, Osaka Y, Aoi Y, Tsuzaki K. Perioperative Management During the COVID-19 Pandemic: Strategies at Three General Hospitals in Japan and a Narrative Review

(17) 救急科

井上聡, 金尾邦生, 田熊清継. カフリーステストが陰性であったが危機的な喉頭浮腫をきたした1例. 日本臨床麻酔学会誌. 2021. 41. 232~234

藤田野々香, 金尾邦生, 進藤健, 齋藤豊, 田熊清継. アルコール多飲を契機にメトホルミン関連乳酸アシドーシスとアルコール性ケトアシドーシスを合併し循環不全をきたした1例. 日本臨床救急医学会雑誌. 2021. 24. 743~746

佐々木淳一, 松嶋麻子, 池田弘人, 井上貴昭, 片平次郎, 岸邊美幸, 木村中, 佐藤幸男, 田熊清継, 田中克己, 林稔, 松村一, 安田浩, 吉村有矢, 青木弘道, 石崎力久, 磯野伸雄, 上田敬博, 梅澤和也, 大須賀章倫, 小倉崇以, 海田賢彦, 河合勝也, 川本恭子, 木村雅彦, 久保貴嗣, 栗原智宏, 黒川正人, 小林主献, 齋藤大蔵, 七戸龍司, 渋谷崇行, 鈴木裕也, 副島一孝, 橋本一郎, 藤原修, 松浦裕司, 見井田和正, 宮崎道輝, 村尾尚規, 森川亘, 山田祥子, 熱傷診療ガイドライン [改訂第3版] 作成委員会, 熱傷診療ガイドライン [改訂第3版] 作成ワーキンググループ, 一般社団法人日本熱傷学会学術委員会. 熱傷診療ガイドライン [改訂第3版]. 熱傷. 2021. 47Suppl. S1~S108

田熊清継. 知っておくべき熱傷診療のスタンダード. 熱傷患者における受傷直後からの感染対策のポイント. 日本集中治療医学会雑誌. 2021. 28Suppl. 2~178

和田剛志, 山川一馬, 丸藤哲, 加葉田大志朗, 新谷歩, 小倉裕司, 梅村譲, 白石淳, 齋藤大蔵, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 久志本成樹, 阿部智一, 椎野泰和, 中田孝明, 樽井武彦, 一二三亭, 岡本好司, 小谷譲治, 坂本雄一郎, 佐々木淳一, 白石振一郎, 田熊清継, 鶴田良介, 萩原章嘉, 増野智彦, 武山直志, 山下典雄, 池田弘人, 上山昌史, 藤見聡, 大友康裕, 日本救急医学会多施設共同研究. 敗血症性DIC~我々はこう考えよう治療している~ JAAM 基準をベースにした抗凝固療法が有効性を示す患者集団の検討. 日本集中治療医学会雑誌. 2021. 28Suppl. 2~208

佐々木淳一, 池田弘人, 井上貴昭, 片平次郎, 岸邊美幸, 木村中, 佐藤幸男, 田熊清継, 田中克己, 林稔, 松嶋麻子, 松村一, 安田浩, 吉村有矢, 日本熱傷学会学術委員会. 日本熱傷学会レジストリー10年、熱傷レジストリーで分かったこと、今後はどうするのか? 熱傷入院患者レジストリーの現状と今後の展望. 熱傷. 2022. 47. 168~169

Fujishima S, Gando S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Shiraishi A, Mayumi T, Sasaki J, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Yamashita N, Shiraishi SI, Ikeda H, Shiino Y, Tarui T, Nakada TA, Hifumi T, Otomo Y, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Masuno T, Ueyama M, Fujimi S, Yamakawa K, Umemura Y, JAAM Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute respiratory distress syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Group. Incidence and Impact of Dysglycemia in Patients with Sepsis Under Moderate Glycemic Control shock. 2021. 56. 507~513

Wada T, Shiraishi A, Gando S, Yamakawa K, Fujishima S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Mayumi T, Sasaki J, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Yamashita N, Shiraishi SI, Ikeda H, Shiino Y, Tarui T, Nakada TA, Hifumi T, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Masuno T, Ueyama M, Fujimi S, Umemura Y, Otomo Y. Disseminated intravascular coagulation immediately after trauma predicts a poor prognosis in severely injured patients. Sci Rep. 2021. 11~11031

Ishikawa S, Miyagawa I, Kusanaga M, Abe T, Shiraishi A, Fujishima S, Ogura H, Saitoh D, Kushimoto S, Shiino Y, Hifumi T, Otomo Y, Okamoto K, Kotani J, Sakamoto Y, Sasaki J, Shiraishi SI, Takuma K, Hagiwara A, Yamakawa K, Takeyama N, Gando S, Mayumi T. Association of frailty on treatment outcomes among patients with suspected infection treated at emergency departments. Eur J Emerg Med 2021. 28. 285~291

Wada T, Shiraishi A, Gando S, Yamakawa K, Fujishima S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Mayumi T, Sasaki J, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Shiraishi SI, Shiino Y, Nakada TA, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Fujimi S, Umemura Y, Otomo Y. Pathophysiology of Coagulopathy Induced

by Traumatic Brain Injury Is Identical to That of Disseminated Intravascular Coagulation With Hyperfibrinolysis. Front Med (Lausanne). 2021. 8~767637

Yamamoto R, Fujishima S, Sasaki J, Gando S, Saitoh D, Shiraishi A, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Mayumi T, Kotani J, Nakada TA, Shiino Y, Tarui T, Okamoto K, Sakamoto Y, Shiraishi SI, Takuma K, Tsuruta R, Masuno T, Takeyama N, Yamashita N, Ikeda H, Ueyama M, Hifumi T, Yamakawa K, Hagiwara A, Otomo Y, Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) Focused Outcomes Research in Emergency Care in Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Study Group. Hyperoxemia during resuscitation of trauma patients and increased intensive care unit length of stay: inverse probability of treatment weighting analysis. World J Emerg Surg. 2021. 16~19

Umemura Y, Abe T, Ogura H, Fujishima S, Kushimoto S, Shiraishi A, Saitoh D, Mayumi T, Otomo Y, Hifumi T, Hagiwara A, Takuma K, Yamakawa K, Shiino Y, Nakada TA, Tarui T, Okamoto K, Kotani J, Sakamoto Y, Sasaki J, Shiraishi SI, Tsuruta R, Masuno T, Takeyama N, Yamashita N, Ikeda H, Ueyama M, Gando S. Hour-1 bundle adherence was associated with reduction of in-hospital mortality among patients with sepsis in Japan PLoS One. 2022. 17~e0263936

(18) 検査科

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第4回) 同じ薬だから大丈夫!? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻6号. 27

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第5回) 薬を飲んでいるのに血糖値が下がらない!? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻7号. 23

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第6回) 1日1回だけの薬がいいです! さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻9号. 23

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第7回) 心不全であるならばこの薬です!? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻10号. 25

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第8回) インスリン注射の回数は少ない方がよい!? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻11号. 25

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第9回) 血糖自己測定は必要なのですか? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻12号. 27

津村和大. デマや誤解に要注意! 糖尿病治療薬の正しい理解(第10回) インスリンポンプ療法は万能ツール!? さかえ:月刊糖尿病ライフ 61巻13号. 25

津村和大. 医療者によるスティグマ. Medical View Point. 2021. Vol142.No.12.3

津村和大. スティグマのない社会をめざして. メディカル・ジャーナル. 2021. 124号.9

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病治療の新しい潮流. medicina. 2022. 59巻1号.10-11

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病の薬, どう選ぶ? medicina. 2022. 59巻1号.18-25

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病の指導と治療. medicina. 2022. 59巻1号.26-28

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 健康な人と変わらない人生. medicina. 2022. 59巻1号.29-31

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病治療の設計図とタイムライン. medicina. 2022. 59巻1号.32-33

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病の指導と治療の支援ツール. medicina. 2022. 59 巻 1 号. 35-37

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 配合薬を使ううえで注意すべき点は? medicina. 2022. 59 巻 1 号. 114-115

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 介護施設入所中の糖尿病患者における注意点とは? medicina. 2022. 59 巻 1 号. 134-135

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 糖尿病診療の地域連携を進展させるコツとは? medicina. 2022. 59 巻 1 号. 144-145

津村和大. クリニカルクエスチョンで学ぶ糖尿病治療薬. 管理栄養士がいない局面での栄養指導の工夫とは? medicina. 2022. 59 巻 1 号. 154-155

7 学会・研究会

(1) 内科

原田修平, 深江智明, 滝口俊一, 李慧崇, 伯野大彦, 西澤健也, 末吉浩一郎, 高木英恵, 野崎博之. 急性心筋梗塞による post-cardiac injury syndrome の一例. 口述. 第 670 回 日本内科学会関東地方会 2021/7/11. 東京

滝澤 亜矢, 大津 陽, 長谷川 梨咲, 扇野 圭子, 田中 希宇人, 大森 奈緒, 佐山 宏一. 5 次治療ペンブロリズマブが奏功したが多関節痛で休薬に至った PD-L1 TPS 低発現かつ de novo EGFR T790M+L858R 陽性肺腺癌の 1 例. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会. 2021 年 4 月. 東京

長谷川 梨咲, 大津 陽, 滝澤 亜矢, 扇野 圭子, 田中 希宇人, 大森 奈緒, 折笠 英行, 杉浦 仁, 佐山 宏一. EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌が治療 13 年目に大細胞神経内分泌癌に形質転化した 1 例. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会. 2021 年 4 月. 東京

大津 陽, 滝澤 亜矢, 長谷川 梨咲, 扇野 圭子, 田中 希宇人, 大森 奈緒, 田口 博章, 佐山宏一. 肺梗塞を契機に診断に至った高安静脈炎に対して, tocilizumab にて寛解を得ている 1 例. 第 61 回日本呼吸器学会学術講演会. 2021 年 4 月. 東京

扇野 圭子, 田中 希宇人, 大森 奈緒, 佐山 宏一. 咯血を繰り返す気管支拡張症患者に対し, 気管支鏡で気管支結石症が診断された 1 例. 第 44 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 2021 年 6 月. 名古屋

扇野 圭子, 田中 希宇人, 大森 奈緒, 津村 和大, 佐山 宏一. PD-L1 高発現肺腺癌に対して pembrolizumab 投与し休薬 4 ヶ月後に 1 型糖尿病を発症した 1 例. 第 62 回日本肺癌学会学術集会. 2021 年 11 月. 横浜

塩澤 優花(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 定平 健, 小林 研太, 折笠 英紀, 林 泰儀, 岡山幹夫, 外山 高朗, 岡本 真一郎, 中村 直哉. 多発皮下腫瘍を契機に診断された EBV 陽性形質細胞腫の 1 例. 臨床血液(0485-1439)63 巻 5 号 Page504(2022. 05). 東京

中嶋 慧悟(川崎市立川崎病院), 岡山 幹夫, 定平 健, 折笠 英紀, 塩澤 優花, 林 泰儀, 岡本 真一郎, 中村 直哉. 形質細胞のクローナルな増加を伴う EBV 陽性細胞傷害性分子陽性末梢 T 細胞リンパ腫, 非特定型. 臨床血液(0485-1439)63 巻 5 号 Page502(2022. 05). 東京

祖田 真奈(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 定平 健, 岡山 幹夫, 塩澤 優花, 林 泰儀, 中村直哉, 高木 英恵, 安藤 孝. 反応性濾胞過形成と鑑別を要した interfollicular diffuse large B-cell lymphoma の 1 例. 日本内科学会関東地方会 675 回 Page56(2022. 02). WEB

伊藤 守(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 遠藤 洵之介, 岡山 幹夫, 外山 高朗, 定平 健, 伯

野 大彦, 好本 達司, 高木 英恵, 野崎 博之. 完全房室ブロックを契機に診断した心臓への晩期再発びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の 1 例. 日本内科学会関東地方会 672 回 Page38(2021. 10). 東京

河本 ひかり(川崎市立井田病院 腎臓内科), 穂本 昌寛, 金子 賢司, 金 夏倫, 新家 葉子, 前田 麻実, 外山 高朗, 坂東 和香, 定平 健, 滝本 千恵. 化学療法中に血液透析へ一時的に移行し, 終了後に腹膜透析を再開したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 日本透析医学会雑誌(1340-3451)54 巻 Suppl. 1 Page527(2021. 05).

寺山 千夏(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 大嶋 洋佑, 新川 紗由香, 渡辺 雄祐, 野崎 博之. 経過中に色素性痒疹を併発した糖尿病ケトアシドーシスの 1 例. 口述. 第 670 回日本内科学会関東地方会令和 3 年 7 月 1 1 日. 東京

原田 優香(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 鈴木 健, 花田 亮太, 山根 剛, 井上 健太郎, 有泉 健, 高木 英恵, 杉浦 仁, 玉井 博修, 野崎 博之. 食道癌術後再発に対する Nivolumab 治療中に irAE 胆管炎・肝障害を発症した 1 例. 口述. 第 673 回日本内科学会関東地方会. 令和 3 年 1 1 月 1 4 日. 東京

川井 雅敏(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 梶尾 暢彦, 吉川 賢忠, 田口 博章, 高木 英恵, 安藤 孝, 新川 紗由香, 萬谷 京子, 折笠 英紀, 野崎 博之. ステロイド, 免疫抑制薬の先行治療で良好な経過を辿った, 乳癌を合併した抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎の 1 例. 口述. 第 676 回日本内科学会関東地方会. 令和 4 年 3 月 1 9 日. 東京

安藤 孝(川崎市立川崎病院 腎臓内科), 井上 健太郎, 高橋 賢至, 北菌 久雄. よりよい意思決定の実現に向けて 倫理コンサルテーションチームによる支援. ポスター. 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会. 令和 3 年 6 月 6 日. 横浜

野口 遼(川崎市立川崎病院 内科・総合内科), 安藤 孝, 中村 彰良, 有馬 功一郎. HIV 脳症で意思決定能力が消失した患者の AKI に, 複数の医療従事者で話し合い CHDF を行った 1 例. ポスター. 第 66 回日本透析医学会学術集会・総会. 令和 3 年 6 月 6 日. 横浜

(2) 小児科

諸川明洋. 難治性の肺炎に続発した脳膿瘍でノカルジアが分離された生来健康な 11 歳女児. ポスター. 第 124 回日本小児科学会学術集会. 2021/4/17. 京都市 (Web)

檜林敦. 地域内のすべての医療機関で予防接種情報を共有する取り組み. ポスター. 第 124 回日本小児科学会学術集会. 2021/4/17. 京都市 (Web)

小林寛太郎. 卒乳をきっかけに習慣性多飲となり, 水中毒による痙攣重積を来した 1 例. 口演. 第 366 回日本小児科学会神奈川県地方会. 2021/9/18. 横浜市 (Web)

梅垣侑佳. 卵黄による食物蛋白誘発胃腸炎 (FPIES) の一例. 口演. 第 36 回神奈川県小児肝・消化器疾患研究会 2021/9/25. 横浜市 (Web)

有安大典. DUOX2 遺伝子および TSHR 遺伝子に機能喪失性バリエーションを有する 1 家系例. ポスター. 第 54 回日本小児内分泌学会学術集会. 2021/10/28-30. Web 開催

檜林敦. 予防接種管理システムを用いた地域の医療従事者向け新型コロナワクチン接種管理. ポスター. 第 59 回全国自治体学会. 2021/11/5. 奈良市

土橋隆俊. 生下時にチアノーゼを認めた動脈管早期閉鎖疑いの一例. 口演. 第 13 回 KSI 小児循環器カンファレンス. 2021/11/25. 川崎市 (Web)

外山陽子. 乳児の消化管アレルギー～離乳食開始後の FPIES を中心に～. 口演. 令和 3 年度東京都ア

レルギー疾患治療専門研修（医師向け）「1歳までのアレルギー～予防と新たな課題～」. 2021/12/2
府中市（Web）

(3) 精神科

久保馨彦. 急性期統合失調症治療における貼付剤の役割の考察. 研究会. 統合失調症フォーラム.

2021. 6. 11. 川崎市

久保馨彦. 週から月単位で臨床像が変化した Dementia with Lewy Bodies (DLB) の一例. 学会. 総合病院精神医学会. 2021. 11. 19. オンライン

垂石七星、久保馨彦、齋藤寿昭. リチウム中断後も意識障害が長期間遷延した慢性リチウム中毒の一例. 学会. 総合病院精神医学会. 2021. 11. 19. オンライン

Yonezawa K, Tani H, Uchida H. AMPA Receptors in Schizophrenia: A Systematic Review of Postmortem Studies on Receptor Subunit Expression and Binding. 一般演題（ポスター発表）. Society of Biological Psychiatry 2021. 2021年5月. Virtual Meeting

米澤賢吾, 谷英明, 中島振一郎, 長井信弘, 小泉輝樹, 宮崎智之, 三村将, 高橋琢哉, 内田裕之. 統合失調症死後脳研究における AMPA 受容体: 系統的レビュー. 一般演題（口演）. 第 31 回日本臨床精神神経薬理学会. 2021年10月. 東京

(4) 外科

和多田晋. 市中病院における血管外科医の役割. シンポジウム. 日本血管外科学会. 2021年5月. 名古屋

細川恭佑、和多田晋 etc. 内臓動脈疾患に対する治療戦略. 術前に腸管壊死が疑われ開腹手術を施行した急性上腸間膜動脈閉塞症 42 例の臨床的検討. シンポジウム. 日本血管外科学会. 2021年5月
名古屋

海ヶ倉紀文、和多田晋、細川恭佑. 右総腸骨-回結腸動脈吻合術により腸管血流の改善を得た孤立性上腸間膜動脈解離の 1 例. 口演. 日本脈管学会. 2021年10月. 札幌

細川恭佑、和多田晋、海ヶ倉紀文. ディスクグラインダによる外傷性大腿動脈断裂に対して緊急手術を施行し救肢し得た 1 例. 口演. 日本脈管学会. 2021年10月. 札幌

細川恭佑、和多田晋、海ヶ倉紀文. 外傷性大腿動脈断裂からみる当院の外傷診療体制. 口演. 日本臨床外科学会. 2021年10月. 東京

(5) 呼吸器外科

澤藤誠、井澤菜緒子、奥井将之. 85歳以上超高齢者肺癌手術例の検討. 口演. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会. 令和 3 年 5 月. 長崎 (WEB)

岩丸有史、山本達也、中西邦昭. 術前診断が困難であったリンパ節転移を伴う硬化性肺胞上皮腫の 1 切除例. 口演. 第 38 回日本呼吸器外科学会学術集会. 令和 3 年 5 月. 長崎 (WEB)

岩丸有史、山本達也、黄英文、舩津洋平、福井崇大、真鍋維志、伊藤史磨、中西邦昭.

EBUS-TBNA で診断し得た、歯科治療による孤立性左主気管支前リンパ節腫大の 1 例. 示説. 第 43 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 令和 3 年 6 月. 名古屋 (WEB)

岩丸有史、井澤菜緒子、奥井将之、山本達也、中西邦昭、澤藤誠. 腎癌気管支転移に対して、分子標的治療を先行後に右上葉楔状スリーブ切除を実施した 1 例. 示説. 第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会. 令和 3 年 10 月. 東京 (WEB)

(6) 整形外科

西脇正夫、石倉佳代子、歌島淳、辻阪亮介、寺坂幸倫、久島雄宇、清田康弘、稲葉尚人、別所祐貴、堀内行雄. 橈骨遠位端骨折における背尺側骨片の固定に角度可変型掌側ロッキングプレートは有用か?. 口演. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 2021年4月. web 開催

西脇正夫、辻阪亮介、寺坂幸倫、久島雄宇、清田康弘、稲葉尚人、別所祐貴. 掌側ロッキングプレートによる橈骨遠位端骨折の背尺側骨片の固定性が術後成績に与える影響. 口演. 第 47 回日本骨折治療学会学術集会. 2021年7月. 神戸

西脇正夫、石倉佳代子、歌島淳、寺坂幸倫、堀内行雄. 角度可変型掌側ロッキングプレートは橈骨遠位端骨折の背尺側骨片固定に有用か?. 口演. 第 13 回日本手関節外科ワークショップ
2021年9月. web 開催

西脇正夫、石倉佳代子、歌島淳、寺坂幸倫、清田康弘、久島雄宇、稲葉尚人、堀内行雄. 高齢者上腕骨遠位端 coronal shear fracture の手術治療. 口演. 第 34 回日本肘関節学会学術集会
2022年2月. web 開催

西脇正夫. 橈骨遠位端骨折の基礎から学ぶ 橈骨遠位端骨折の変形が遠位橈尺関節に与える影響. シンポジウム. 第 62 回関東整形災害外科学会. 2022年3月. web 開催

寺坂幸倫、西脇正夫、石倉佳代子、歌島淳、清田康弘、久島雄宇、稲葉尚人、堀内行雄. 橈骨遠位端骨折の転位方向に影響する因子の検討. 口演. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 2021年4月 web 開催

萩原健、鈴木拓、松村昇、西脇正夫、増田秀輔、加藤知行、木村洋朗、岩本卓士、佐藤和毅.

“橈骨遠位端骨折術後の抜釘術の自覚症状の検討”. 口演. 第 64 回日本手外科学会学術集会
2021年4月. web 開催

加藤知行、岡崎真人、西脇正夫、寺坂幸倫、中村匠、田崎憲一. 橈骨遠位端骨折に対して掌側ロッキングプレート内固定後長母指屈筋腱断裂をきたす因子の検討. 口演. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 2021年4月. web 開催

鈴木拓、早川克彦、中根高志、稲葉尚人、加藤知行、西脇正夫、木村洋朗、松村昇、佐藤和毅、岩本卓士. 健常者 CT を用いた手関節掌背屈運動における遠位橈尺関節の動きの検討. 口演. 第 64 回日本手外科学会学術集会. 2021年4月. web 開催

難波二郎、今田英明、佐竹寛史、西脇正夫. “上腕骨外側上顆炎診療ガイドラインの新規改訂（第 3 版）に向けて 手術療法の適応と有用性について”. シンポジウム. 第 34 回日本肘関節学会学術集会
2022年2月. web 開催

建部将広、西脇正夫、田鹿毅、尼子雅敏. “上腕骨外側上顆炎診療ガイドラインの新規改訂（第 3 版）に向けて 予後について”. シンポジウム. 第 34 回日本肘関節学会学術集会. 2022年2月. web 開催

二宮 研、奥山 邦昌、青山 龍馬、山根 淳一、海苔 聡、鈴木 悟士、古川 満、穴澤 卯圭、北村 和也、上田 誠司、白石 建. 後彎を伴う頸椎症性脊髄症に対する選択的椎弓切除術の成績についての検討. 口演. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会. 2021. 04. 京都

白石 建、青山 龍馬、上田 誠司、谷戸 祥之、福田 健太郎、加藤 匡裕、山根 淳一、二宮 研、高橋 勇一朗、北村 和也、海苔 聡、鈴木 悟士. 私の仕事と若手に伝えたいこと（治療編） 筋温存型頸椎後方手術の開発から実践まで. 口演. 第 50 回日本脊椎脊髄病学会. 2021. 04. 京都

(7) リハビリテーション科

中村 優太. 看護部との連携向上に向けたリハビリテーション科の取り組み～看護師への早期離床講習会を通じて～. ポスター. 第 59 回全国自治体病院学会. 2021 年 11 月. 奈良

梶 吉彦. 新型コロナウイルス感染症病棟でのリハビリテーション科と病棟との連携～早期離床への取り組み～. ポスター. 第 59 回全国自治体病院学会. 2021 年 11 月. 奈良

野田剛. 管理的立場に転職した事例報告. 口述. コメディカル組織運営研究会. 2021 年 11 月. オンライン

岡野 将也. 肺腺癌を併発する間質性肺炎急性増悪患者に対し運動療法介入により歩行能力の改善を認めた一症例～症状に合わせた段階的な下肢レジスタンストレーニングと下肢持久力トレーニングの併用～. 口述. 神奈川県理学療法士学会. 2021 年 2 月. オンライン

元永 皓太. 左被殻出血を呈し重症片麻痺となった一症例. 口述. 神奈川県理学療法士学会. 2021 年 2 月. オンライン

門脇 優. 新型コロナウイルス (COVID-19) に対する当院でのリハビリテーション科の関わりについて. 口述. 日本作業療法士学会. 2021 年 9 月. オンライン

(8) 産科・婦人科

大谷利光, 林保良, 渦川真優子, 秋田啓介, 大石真希, 大橋千絵, 石垣順子, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 10 年以上留置された子宮内避妊器具の有効な抜去法. 第 60 回. 日本産婦人科学会.

9. 11-13. 神奈川県横浜市

渦川真優子, 石垣順子, 秋田啓介, 大石真希, 大橋千絵, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら.

2 段ベッドのはしごの金具による会陰部直腸損傷後 15 年目に自然妊娠し分娩に至った 1 例.

第 434 回 神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 10. 9-10-15. 川崎市. WEB 開催

大橋千絵, 渦川真優子, 大石真希, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら. 双胎妊娠の管理入院中に発症した正常大卵巣捻転の 1 例. 第 434 回 神奈川県産科婦人科学会学術講演会.

10. 9-10-15. 川崎市. WEB 開催

磯崎太一, 沼崎玲子, 新井努, ルイズ横田南朋, 大原樹, 高田共臣, 佐々木康, 林康子, 松島隆, 平澤猛, 八代藍子, 土谷聡, 中田さくら, 盛岡幹, 松永竜也, 三上幹男, 加藤久盛, 中野眞佐男, 宮城悦子, 高橋恒夫. 令和 2 年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 第 433 回 神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 7. 3-7. 9. 横浜市 WEB 開催

渦川真優子, 金善恵, 石垣順子, 秋田啓介, 大石真希, 大橋千絵, 大谷利光, 染谷健一, 中田さくら. 子宮体部に原発した神経内分泌腫瘍の一例. 第 142 回関東連合産科婦人科学会学術集会. 11. 20-21 横浜市

秋田啓介, 大石真希, 大橋千絵, 渦川真優子, 石垣順子, 大谷利光, 金善恵, 染谷健一, 中田さくら

妊娠中に発症した SLE の急性増悪との鑑別を要したリステリア菌血症の一例. 第 142 回関東連合産科婦人科学会学術集会. 11. 20-21. 横浜市

Lin BL. How to remove lost intrauterine devices in place for more than 10 years in an office setting?. 21th Asia-Pacific Gynecological Endoscopy and Minimally Invasive Therapy Annual Congress (APAGE 2021). 9. 11-13. Yokohama

Lin BL. Conbenital Uterine Anomalies. シンポジウム. 10th Asia Pacific Initiative Reproduction Virtual congress (ASPIRE 2021). 4. 30-5. 2. 高雄, 台湾 (WEB)

Lin BL. Hysteroscopic management of Septa uteri. ワークショップ. 台湾産婦人科内視鏡学

11. 23. 高雄, 台湾 (WEB)

(9) 泌尿器科

竹内玲衣, 勝井政博, 北岡壮太郎, 茂田啓介, 福本桂資郎, 原智, 堂本英治. 振子部尿道に生じた乳頭状腫瘍の一例. 学会. 第 98 回神奈川県泌尿器科医会. 2021 年 11 月 27 日. 神奈川県

(10) 皮膚科

新川紗由香, 小林研太, 西本周平. びらんを呈した外陰部乳頭状汗腺腫の 1 例. 一般演題. 第 896 回東京地方会神奈川. 2021 年 5 月. 神奈川

小林研太, 新川紗由香, 西本周平. セザリ一症候群に対してモガリズマブ投与中にループス様皮疹を生じた 1 例. 一般演題. 第 85 回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2021 年 9 月. 札幌

西本周平. 乾癬治療におけるプロダルマブの立ち位置と導入のポイント. イブニングセミナー. 第 85 回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 2021 年 9 月. 札幌

新川紗由香, 宮川明大, 金子寛, 中南秀将, 西本周平. 若年健常人に生じた PVL 産生市中獲得型 MRSA による壊死性筋膜炎の 1 例. 一般演題. 第 898 回東京地方会神奈川. 2021 年 10 月. 神奈川

内川理紗, 新川紗由香, 宮川明大, 小林研太, 西本周平. HPV 感染が示唆された背部多中心発症 Bowen 病の 1 例. 一般演題. 第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2021 年 11 月. 奈良

新川紗由香, 宮川明大, 西本周平. ジアフェニルスルホンが奏功した eosinophilic annular erythema の 1 例. 一般演題. 第 899 回東京地方会神奈川. 2021 年 12 月. 神奈川

新川紗由香, 宮川明大, 西本周平. ペメトレキセドナトリウム水和物により左下肢に繰り返して生じた偽蜂窩織炎の 1 例. 一般演題. 第 900 回東京地方会神奈川. 2021 年 2 月. 神奈川

(11) 耳鼻咽喉科

松居祐樹. 術後咽頭皮膚瘻に対するパウチを用いた管理の有用性. 一般口演. 0 第 122 回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会. 2021/5. 京都

高原美希. 視力低下を主訴とした膀胱癌の蝶形骨洞転移の一例. 一般口演. 第 195 回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会. 2021/6. 横浜

重富征爾. 下顎骨離断や切除時の皮膚切開. 一般口演. 第 3 回慶應耳鼻咽喉科手術手技研究会. 2021/7. 東京

高原美希. 上顎洞血腫の一例. 一般口演. 第 196 回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会. 2021/9. 横浜

中山梨絵. 耳鼻咽喉科における Type2 炎症～慢性副鼻腔炎の診療と他科連携～. 講演. 領域を超えたアレルギー疾患へのアプローチ. 2021/10. 川崎

猪狩雄一. 当院でのオプジーボ処方経験. 講演. 第 4 回頭頸部がん免疫治療セミナー. 2021/12. 東京

笠原 健. 導入化学療法に伴う発熱性好中球減少症において頸部骨格筋量が及ぼす影響について. 一般口演. 第 198 回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会. 2022/3. 横浜

(12) 眼科

安里輝, 藤岡俊平, 小澤紘子, 園部秀樹. IgG4 関連肥厚性硬膜炎に伴う Pseudo Foster Kennedy 症候群の一例. 第 73 回臨床眼科学会. 2021 年 10 月 31 日. 福岡県

岸本ゆりえ, 安里輝, 小澤紘子, 藤岡俊平, 園部秀樹. 両眼の閉塞性網膜血管炎を契機に診断され急速な転機を辿った悪性リンパ腫の 1 例. 第 73 回臨床眼科学会. 2021 年 10 月 31 日. 福岡県

小澤紘子, 上野真治, 近藤峰生, 篠田啓. ヒドロキシクロロキン内服開始から 3 年以内に網膜症を

発症した日本人3例の検討. 第73回臨床眼科学会. 2021年10月31日. 福岡県
上野真治, 小澤紘子. ヒドロキシクロロキン網膜症における投薬中止後の網膜形態および機能の変化. 第73回臨床眼科学会. 2021年10月31日. 福岡県

(13) 歯科口腔外科

長嶺宏樹, 安居孝純, 木村萌美, 矢島祥助, 軽部健史, 佐藤 仁, 小高利絵, 岩崎良太郎, 蒔生田整治, 鬼澤勝弘. シェーグレン症候群に併発した頬粘膜AAアミロイドーシスの1例. 口演. 第66回(公社)日本口腔外科学会総会. 2021年11月. 千葉市
山田有佳, 安居孝純, 田中健太, 金子 健, 竹内照美, 木村萌美, 鬼澤勝弘, 河奈裕正, 中川種昭, 蒔生田整治. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死のリスク因子の探索. eポスター. 第59回 日本癌治療学会学術集会. 2021年10月. 横浜市

(14) 検査科

津村和夫. 糖尿病療養指導の未来を切り開く「心」と「技術」. 第8回日本糖尿病療養指導学術集会. 2021年7月. 京都
津村和夫. 臨床研究入門 ～療養指導と臨床研究の橋渡し～. 第8回日本糖尿病療養指導学術集会. 2021年7月. 京都
津村和夫. 糖尿病を知ろう①「病態を理解する意義を知る」. 第26回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2021年9月. 川崎
津村和夫. 糖尿病を知ろう②「教育と看護の魅力を知る」. 第26回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2021年9月. 川崎
津村和夫. 糖尿病を知ろう③「仲間創りの歩みを知る」. 第26回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2021年9月. 川崎
津村和夫. ステイグマのない社会をめざして ～医療者が留意したいこと～. 第24・25回日本病態栄養学会年次学術集会. 2022年1月. 京都
津村和夫. 病態栄養領域の公的研究に対する期待「わが国における医療分野の研究開発と病態栄養学」. 第24・25回日本病態栄養学会年次学術集会. 2022年1月. 京都
津村和夫. 糖尿病医療におけるSDGsとCDEに対する期待. 岐阜県CDEネットワーク. 2022年3月. 岐阜
杉田光男. 新型コロナウイルス感染症禍での当院検査科の取り組みについて. 第59回全国自治体病院学会. 11月4日. 奈良県
三津田太郎. 赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂3版). シンポジウム. 第70回神奈川県医学検査学会. 12月28日. オンライン

(15) 放射線診断科・放射線治療科

山本洋輔, 田村 全, 井上政則, 長谷 学, 鳥飼秀幸, 伊東伸剛, 曾我茂義, 中塚誠之, 陣崎雅弘.
2つの脾動脈瘤に対する同時コイル塞栓後に生じた急性膵炎の一例. 第50回日本IVR学会総会
2021年5月. 神戸
Yamamoto Y, Tamura M, Inoue M, Hase M, Torikai H, Ito N, Soga S, Nakatsuka S, Jinzaki M.
A complication after embolization of double splenic artery aneurysms. Joint Case Conference with SIR. 2022年3月1日. Web
栗林徹, 深田淳一, 公田龍一, 片山真. 脳転移に対する定位照射直前のMRI再撮像の有用性.
第30回日本定位放射線治療学会. 2021年6月. Web

宮崎恭助, 小野欽也, 川島美幸, 鈴木淳. Dynamic CBM収集を用いた寝台連続移動収集における実測評価方法の検討. 第41回日本核医学技術学会総会学術大会. 2021年11月. 名古屋

(16) 麻酔科

出野智史, 松井英則, 丸山弘子, 遠藤真理, 森崎浩, 清原寛章. 蒼朮配合の補中益気湯は、抗菌タンパク質の産生を促進することでシクロフォスファミド処置マウスに生じる肺炎球菌性呼吸器感染症を予防する. 口演. 日本麻酔科学会 第68回学術集会. 2021年6月. WEB開催
出野智史, 関博志, 山谷直大, 黒瀬瞳, 岡本泰治, 森崎浩. 術前患者の漢方薬の使用実態調査-単施設後向き研究-. ポスター発表. 関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会. 2021年9-10月. WEB開催
安達薫, 出野智史, 逢坂佳宗, 細井卓司, 北嶋宏輝, 森田慶久. 高度肥満患者に超音波ガイド下腰方形筋ブロックを施行した一例. ポスター発表. 関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会. 2021年9-10月. WEB開催
藤田夏樹, 逢坂佳宗, 梶谷美砂, 出野智史, 奥田淳, 森田慶久. コントロール不良の本態性血小板血症を合併したS状結腸がん局所再発による腸閉塞患者の麻酔経験. ポスター発表. 関東甲信越・東京支部第61回合同学術集会. 2021年9-10月. WEB開催
関博志(筆頭演者)、出野智史ほか. Effects of intrathecal opioids on cesarean section: a systematic review and Bayesian network meta-analysis of randomized controlled trials. (筆頭演者: 関先生、指定演題). 指定演題日本周産期麻酔科学会第1回学術集会. 2022年3月12-13日. 大阪

(17) 救急科

天笠愛子, 進藤健, 齋藤豊, 金尾邦生, 石田正高, 三吉貴大, 白川和宏, 土屋光正, 鳥海聡, 金子翔太郎, 井上聡. シアナミド-エタノール反応でショックを呈した1例. 会議録/症例報告. 第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2021年6月. オンライン
杉真恵, 三吉貴大, 白川和宏, 金子翔太郎, 土屋光正, 石田正高, 金尾邦生, 進藤健, 齋藤豊, 田熊清継. 集学的治療により救命し得た重症塩素ガス中毒の一例. 会議録/症例報告. 第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2021年6月. オンライン
田熊清継. 熱傷死 preventable burn deathを防ぐ. 会議録. 第47回日本熱傷学会総会・学術集会. 2021年10月. オンライン
土井賢治, 田熊清継. 多数熱傷患者発生の際の歴史と対応についての考察 よりよい熱傷患者トリアージ法の模索. 会議録. 第47回日本熱傷学会総会・学術集会. 2021年10月. オンライン
田熊清継. 感染制御のための治療環境-特に初療時からの対応- 生命予後における熱傷患者の感染対策の重要性. 会議録. 第47回日本熱傷学会総会・学術集会. 2021年10月. オンライン
三吉貴大, 齋藤豊, 藤田野々香, 金子翔太郎, 鳥海聡, 土屋光正, 金尾邦生, 進藤健, 田熊清継. 脳卒中の鑑別に関して Siriraj Score の有用性とその時間経過についての検討. 会議録. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 2021年11月. 東京
郷内志朗, 三吉貴大, 田熊清継. 肩関節前方脱臼に対する徒手整復のネットワークメタアナリシス. 会議録. 第49回日本救急医学会総会・学術集会. 2021年11月. 東京
田熊清継. 重症熱傷患者における感染症対策. 会議録. 第34回日本外科感染症学会総会・学術集会. 2021年12月. オンライン

(18) 薬剤部

吉富 加奈子. 薬剤部における抗がん剤調整方式の変更による調製エラー件数の推移. ポスター発表. 第59回全国自治体病院学会. 令和3年11月. 奈良市

小林 綾. バンコマイシンの AUC 評価に関する検証. ;口演. 第68回日本化学療法学会東日本支部総会. 令和3年10月. 東京都

(19) 看護部

千島 美奈子. COVID-19 と一般診療を両立するための取り組み. 看護師. 全国自治体病院学会.

2021/11/4. 5. 奈良

土屋 千恵子. 糖尿病教育入院患者の療養指導での看護師の関わり. 看護師. 全国自治体病院学会

2021/11/4. 5. 奈良

古瀬 美穂. 新型コロナウイルス肺炎患者対応病棟からの報告. 看護師. 全国自治体病院学会.

2021/11/4. 5. 奈良

鳥海 幸恵. 人生の最終段階における医療・ケアの意思決定支援について当院看護師がもつ認識.

看護師. 日本エンドオブライフケア学会. 2021/9/1. Web

佐藤 江利子. "令和時代のチーム医療～特定看護師と外科医の創傷処置管理システム～". 看護師.

日本病院学会. 2021/6/25～7/30. オンデマンド

西森 春江. 精神科病棟に入院している隔離・身体拘束中の患者の行動制限最小化に対する看護師

の認識. 看護師. 日本精神科学科学会. 2021/6/1. Web

車田 恵. "認知症患者への関わりを通して学んだこと～BPSD 出現時の患者への対応と看護師の心

について振り返る～". 看護師. "川崎市看護協会看護研究・事例報告会". 2022/2/25. 川崎市ナ

ーシングセンター

石井 希都. "癌告知後の患者に対して必要な支援とは～言動が変化していく患者との関わりを振

り返って～". 看護師. "川崎市看護協会看護研究・事例報告会". 2022/2/25. 川崎市ナ

ーシングセ

ンター

8 講演会等

(1) 内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年11月 26日	2021年度 KORE研究会	田口博章	当院での関節リウマチ診 療への取り組み	川崎病院
令和4年3月 31日	SLEカンファレン ス2022	田口博章	当院におけるSLE診療につ いて	川崎病院

(2) 小児科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年7月 26日	川崎市小児科医会 第408回川崎市小児 科医会症例検討会	古山、山田、土橋	3演題	Web開催
令和3年11月 25日	KSI (川崎-相模原- 伊勢原) 循環器カン ファレンス		当番幹事として開催 2演題発表	Web開催
令和4年2月 25日	川崎市小児科医会 第412回川崎市小児 科医会症例検討会	梅垣、山田、檜林	3演題	Web開催
令和4年3月 10日	GS1ヘルスケアジャ パン協議会	檜林 敦	GS1を使った小児ワクチン 接種の安全対策	Web開催

(3) 精神科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年6月 24日	川崎市立 看護短期大学	三浦孝政	精神科薬物療法について	川崎市立 看護短期大学

(4) 整形外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年9月	日本骨折治療学 会	西脇正夫	骨折保存的治療と外固定 法	Web開催
令和4年4月 19日	旭化成ファーマ 株式会社	西脇正夫	骨粗鬆症を有する高齢者 橈骨遠位端骨折の手術適 応	Web開催

(5) リハビリテーション科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年4月 12日	教育指導部	阿部玲音	リハビリテーション医学と当 院のリハビリテーション科	院内
令和3年6月	10階看護部	芳賀	移乗のポイント	院内
令和3年7月	11階看護部	芳賀	人工股関節置換術 日常生 活動作の注意点	院内
令和3年7月5 日	メディカルアシ スタント管理室	阿部玲音	リハビリテーション科の業 務概要	院内
令和3年9月	緩和ケア委員会	荒木・鴨志田 理学療法士	ポジショニングについて	院内
令和3年10月	認知症ケア委員 会	荒木理学療法士	急性期病院での認知症につ いて	院内
令和3年11月	コメディカル勉 強会	田中言語聴覚士、 小田桐航太理学療法士 門脇・中村作業療法士	COVID-19について	院内
令和4年1月 19日	NST・摂食嚥下部 会	阿部玲音	嚥下障害とその評価法	院内

(6) 泌尿器科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年6月 11日	泌尿器科	原智 福本桂資郎	第8回川崎泌尿器科病診連 携会	院内

(7) 放射線診断科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年10月 ～令和4年2 月	医療放射線管理委 員会	倉田忠宜	診療用放射線の利用に係 る安全管理のための研修	電子カルテ 配信
令和3年10月 ～令和4年2月	医療放射線管理委 員会	堀口将生	診療用放射線の利用に係 る安全管理のための研修	
令和3年11月 26日	メディカルスタッ フ交流勉強会	角田優衣	新型コロナウイルス感染症 に対する放射線科での取り 組み	Web 開催

(8) 眼科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年5月25 日	川崎市眼科医会・ 大塚製薬	園部秀樹	ドライアイ患者涙液の新規 検査法	院外
令和3年9月14 日	かわさき神経内 科・眼科視神経脊 髄炎 web セミナー	安里輝	眼科から見た視神経脊髄炎	院外

(9) 歯科口腔外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年12月 17日	川崎市歯科医師会	鬼澤勝弘	第32回川崎病院症例検討会 「手際のいい智歯の抜歯」	川崎市歯科医 師会館
令和4年3月31 日	川崎市歯科医師会	鬼澤勝弘	歯科診療における 院内感 染防止対策 新たな感染症 を踏まえて	川崎市歯科医 師会館

(10) 検査科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年5月 18日	検査科	庄内彩香	臨床検査技師も知ってお きたい精神医学	院内
令和3年6月8 日	検査科	内田理絵	グラム染色について	院内
令和3年7月 12日	医薬連携セミナー	津村和大	「糖尿病治療の考え方 ～ 治療薬選択のプロセスを知 る～」 (第1回)	Web (県内配信)
令和3年7月 13日	検査科	谷口早絵	病理検査に関わる診療報 酬について	院内
令和3年7月 14日	医薬連携セミナー	津村和大	「糖尿病治療の考え方 ～ 治療薬選択のプロセスを知 る～」 (第2回)	Web (県内配信)
令和3年11月 9日	検査科	小畑千恵	術中モニタリング	院内
令和3年11月 26日	メディカルスタッ フ交流勉強会	辻永友美	新型コロナウイルスに対 する検査科の取り組み	院内

令和3年11月27日	糖尿病フォーラム西部	津村和大	第6回糖尿病フォーラム西部「糖尿病診療の“これから”を学ぶ～新たな連携プラットフォームを目指す未来～」	福岡市 (Web配信併用)
令和3年12月7日	川崎区役所地域みまもり支援センター	津村和大	生活習慣病予防講座「健診結果のココに注目！」	川崎区役所
令和3年12月14日	検査科	三津田太郎	日当直帯で安全に輸血を実施するために	院内
令和4年2月15日	DiaMond Live Seminar	津村和大	「糖尿病医療におけるSDGsと早期診断・早期治療強化の重要性」	Web (全国配信)
令和4年3月8日	検査科	湯澤栄子	LBC法について	院内

(11) 食養科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年7月21日	NST・摂食嚥下支援チーム部会	鎌田郁子 (リハビリテーション科)	‘とろみ’のおさらい	院内
令和3年8月16日	褥瘡委員会	小野田美千代	栄養からの褥瘡予防(食事)	院内
令和3年10月20日	NST・摂食嚥下支援チーム部会	宮澤森太郎 (リハビリテーション科)	COVID19と栄養	院内
令和3年11月22日	食養科	井原正人 (感染対策室)	衛生研修会	院内
令和3年12月15日	NST・摂食嚥下支援チーム部会	古瀬美穂 (看護部)	症例検討会	院内
令和4年1月19日	NST・摂食嚥下支援チーム部会	阿部玲音 (リハビリテーション科)	嚥下障害とその評価法	院内
令和4年1月19日	NST・摂食嚥下支援チーム部会	井上彰大(薬剤部)	嚥下障害と薬	院内
令和4年3月14日	褥瘡委員会	小野田美千代	栄養からの褥瘡予防(補助栄養)	院内

(12) 救急科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年6月23日	川崎市立看護短期大学	田熊清継	救急医療と外科治療の理解 心肺蘇生とAED、ショック、 死の三徴と脳死トリアージ と災害看護	川崎市立 看護短期大学

(13) 教育指導部

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
令和3年4月2日	川崎病院教育指導部	津村和大	臨床研修医セミナー「臨床医の心構えとキャリアパス」	川崎病院
令和3年4月8日	川崎病院教育指導部	津村和大	臨床研修医セミナー「保険診療とは」	川崎病院
令和3年4月8日	川崎病院教育指導部	津村和大	臨床研修医セミナー「EBM総論」	川崎病院
令和3年5月31日	株式会社メディカル・プリンシプル社	津村和大	レジナビフェアオンライン 2021夏 関東・甲信越 Week 「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和3年6月5日	慶應義塾大学医学部・慶應義塾大学関連病院会	津村和大	Keio Medical Alliance Fellowship Program「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和3年7月30日	エムスリー株式会社	津村和大	MEGA レジ「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和3年11月20日	株式会社マイナビ	津村和大	マイナビ RESIDENT「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和3年11月25日	株式会社メディカル・プリンシプル社	津村和大	レジナビフェアオンライン 2021 3次救急指定市中病院 特集「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和3年12月6日	株式会社メディカル・プリンシプル社	津村和大	レジナビフェアオンライン 2021 東京フェア Week 「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)
令和4年2月11日	神奈川県医師会・エムスリー株式会社	津村和大	神奈川県オンライン合同説明会「川崎市立川崎病院の魅力」	Web(全国配信)

令和4年2月 17日	株式会社メディカ ル・プリンシプル 社	津村和大	レジナビフェアオンライン 2021 東日本 Week 「川崎 市立川崎病院の魅力」	Web（全国配 信）
---------------	---------------------------	------	---	---------------

(14) 看護部
204ページ参照

9 市民対象イベント（当院主催）

(1) 市民公開講座

実施日	講師	演題	開催場所
令和3年12月6日 から配信	中村 哲也	「胃がんの治療について～胃がん治療 の実態～」	Web 開催
令和4年1月17日 から配信	西澤 健也	「3月9日 脈の日を知っています か？－不整脈と脳梗塞の深い関係－」	Web 開催
令和4年2月18日 から配信	安藤 孝	アンチエイジングとは	Web 開催
令和4年3月5日	北薊 久雄 片山 真	いきいきと生きるために ～知っておきたいパーキンソン病～	川崎商工 会議所

10 その他

(1) 小児科

檜林敦、フジテレビ、「日曜報道 THE PRIME」医師らへの接種 遅れる意外なワケ 令和3年5月2日

川崎市立川崎病院年報 第57号（令和3年度版） 令和5年2月28日発行
編集・発行 川崎市立川崎病院 〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号 電話 044 (233) 5521(代) FAX 044 (245) 9600
川崎病院ホームページ (http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/index.)
印刷所 株式会社 共栄堂

